mov %box,150

mov %btn,160

\*L\_kk\_op\_01

sw

;\*L\_Main

sw

sw

lsph 30,":c;image/1\_19栘楻傟擔.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_19栘楻傟擔.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫02.jpg",,325,255

csp2 6

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫02.jpg",,325,255

print 10,50

bgm "music/nbgm13.ogg"

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_徫婄02.jpg",,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0006.ogg"

「いらっしゃいませ。遠いところをようこそおいでくださいました。お疲れになりましたでしょう？」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「いや……空気もきれいでリフレッシュできました」

\

lsph 30,":c;image/0\_03椃娰擖傝岥拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_03椃娰擖傝岥拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫02.jpg",,325,255

lsp2 6,":a;image/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_,桴偒.jpg",-20,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0007.ogg"

「そうですか～。それは何よりです」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕がこの信州の山間の温泉宿を訪れたのは、執筆のためだった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 6

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕の仕事は、小説家……と言えば聞こえはいいが……まだたいした作品も残していない、駆け出しのホラー作家である。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

１年前に過度川ホラー大賞という賞を頂き、文壇にデビュー。その後は文芸雑誌やホラー雑誌などにちょこちょこと短編を書かせてもらっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一流の売れっ子作家には程遠いけれども、贅沢を言わなければどうにか食っていけるだけの仕事はある。というのが、偽らざる僕の現状だった。

\

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫02.jpg",-20,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0008.ogg"

「お鞄、お預かりいたします。さあ、中へどうぞ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「ありがとうございます」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_02椃娰楲壓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_02椃娰楲壓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は、柔和な笑顔の仲居さんに鞄を預け、奥へと進む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こちらも一流……とまではいかないが、中々雰囲気のある旅館のようだった。

\

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫01.jpg",-20,325,255

lsp2 6,":a;image/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0009.ogg"

「辺鄙なところで、驚かれたでしょう？」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「いえいえ……僕は山歩きが趣味なんです。東京のごみごみとした都会と比べると、非現実的というか……ファンタジーの世界に来たようで、楽しいんです」

\

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_徫婄03.jpg",-20,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0010.ogg"

「ふふっ……東京の方は、そんな風にお思いになるんでしょうか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕の大袈裟な口ぶりを聞いて、仲居さんは頬を緩ませる。

\

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫01.jpg",-20,325,255

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「この辺は、名物なんかはありますか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少し無難な質問をしてみた。

\

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_峫偊傞01.jpg",-20,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0011.ogg"

「そうですねぇ……食べ物だったら、鮎が美味しいですがね。あとは……温泉入ってゆっくりするぐらいしか、能がないんですよ、このへんは」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「そうですか……まぁ、僕は温泉さえあれば、ご満悦なんですが」

\

vh:lsp 2,":a;face/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_徫婄02.jpg",-20,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0012.ogg"

「ふふっ、温泉は幾らでも湧いてますんでね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当は……こうして旅をしているのには、もうひとつの目的があるのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

折を見て尋ねる方がいいだろうと判断し、今はまだ黙っていることにした。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 6

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0013.ogg"

「では、ごゆっくりおくつろぎください。後でお茶をお運びしますんで……。では、私はこれで失礼いたします」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「はい」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僪傾暵傔04墻.ogg"

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

仲居さんが立ち去った後……部屋を見回す。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_01椃娰晹壆拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_01椃娰晹壆拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「噂には聞いていたけれど……すごいなぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここは予約してやっと取れた部屋。通称「人形の間」。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一部の人間の間では、かなり話題になっている部屋だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その理由は、ずらりと飾られた人形を見れば一目瞭然だろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

壁一面にびっしりと並ぶ、日本人形の顔、顔、顔……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どれも皆、美しい少女の人形なのだが、これだけ集まると、やはり尋常ではない雰囲気を醸し出している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

聞けば、最初は創業者の趣味で集められていたらしいのだが、いつしかお客さんなどが持ち寄るようになって、この膨大なコレクションとなったらしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただ数が多いというだけではない。この部屋の人形には、髪が伸びるだの、夜になると歩き出すだのという怪談話が付随している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は今回、この人形の間の取材に来たのだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

とある雑誌で、初めての連載を任されることになった僕は、ここは正念場とばかりに、取材旅行に飛び出した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

小説は連作短編として、色々な土地を旅する作家が、旅行先で怪異にあうという物語にしようと考えているのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まさに、今の僕、そのままである。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「さて……何が起こるか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は、舌なめずりでもしたいような気分で、どっしりと畳に座り込んだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……実は、僕はこの手の怪しい話が大好きなのである。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ホラー作家になったのも、趣味と実益を兼ねてのことだった。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「（ドキドキ……）」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0011.ogg"

「……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「うわっ！！」

\

bgm "music/nbgm01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきなり、僕の目の前に女の子が立っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0012.ogg"

「……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「え……あ、あの、君……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0013.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

突然現れた少女は、瞬きすらせずに、じっと突っ立っている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その端正な顔立ちと、時代錯誤な着物姿……そして、どことなく冷たい雰囲気が、人形を思わせた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「ま、まさか本当に、人形じゃないよな……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0014.ogg"

「私を人形と間違えるなんて、貴方、相当目が悪いようね……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「うわっ！！　しゃべった！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人形がしゃべりだしたので……いや、本当は人形ではないのだが……腰を抜かすほど驚いてしまった。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0015.ogg"

「当たり前よ……私だって、しゃべりもすれば、息も吸うわ……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「い、いや……確かにそうだよね、すまない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女の厳かなオーラに圧倒されて、つい謝ってしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

明らかに僕より年下の少女なのだが……三流作家の僕なんかより、よっぽどしっかりして見えるのは気のせいだろうか……。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_峫偊傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0016.ogg"

「食事もするし、睡眠もとるし、恋だって……きっとできるわ……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_僕僩栚04.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女はそこで妖艶な笑みを見せた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「は、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何だか調子の狂う子だな……僕から見ればまだ子供だというのに、やけに色っぽいし……。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0017.ogg"

「でも、排泄だけはしないわ。そこは間違えないで」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕の戸惑いなんて物ともせず、彼女はピシリと言った。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「え、えぇ？　……まさか、幾ら美少女だからって、トイレには行くだろう……？」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0018.ogg"

「夢のない人ね。私は人に夢を与えるのが仕事なの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるでアイドルみたいなことを、平然と言っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……アイドルにしてもおかしくないくらいの、美貌の持ち主であることは確かだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一体この子は何なんだろう……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……あの～、ここは僕の部屋なんですが……君も泊り客？　部屋をお間違えではないですか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は彼女の機嫌を伺うように控え目に尋ねた。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_峫偊傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0019.ogg"

「結論を急がないで。せっかちな人は嫌いよ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「はあ、すいません……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

また謝ってしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何故かは分からないが……彼女が登場してからというもの、場の空気は完全に彼女が支配していた。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0020.ogg"

「……この部屋は私の部屋よ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「え……いやぁ、おかしいな。予約の時に『人形の間』を、と何度も確認しましたし、仲居さんにも案内して頂いたので、間違いはないはずですが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0021.ogg"

「貴方は一夜の宿を借りただけでしょう。私はこの部屋の持ち主なのよ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……あ、君、ここの旅館の娘さんですか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ようやく納得がいった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やけに高価そうな着物を着ていると思ったが……この旅館のご令嬢だとすれば、分からなくもない。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_暁偟栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0022.ogg"

「……そう、言えなくもないわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思わせぶりな返答だったが、要するにＹＥＳということだろう。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「あぁ……では、この人形の間について、詳しいんでしょう？　話を聞かせてもらえませんか？」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

インタビューのチャンスだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

娘さんだったら、怪談話も色々知っているはずだし、これは中々幸先がいいぞと内心喜んでいたのだが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0023.ogg"

「……人にものを尋ねるときは、まずどうするべきなのかしら？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

当然のように、少女は僕の気勢をそぐのだった。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……失礼。僕はこういう者です」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

冷ややかにたしなめられ、僕は慌てて名刺を出した。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0024.ogg"

「怪奇作家、深見夏彦……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「はは……お恥ずかしい。怪奇作家、というのは少々大袈裟なんですが、その大袈裟な感じが気に入っていまして……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0025.ogg"

「で？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は僕の名刺をさっさとテーブルに置いてしまう。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「で、とは？」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_僕僩栚01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0026.ogg"

「貴方の愚にもつかない名前なんて、どうでもいいのよ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

では一体なんだというのか……。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔03\_旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0027.ogg"

「人にものを尋ねるとき……まずはコレが必要なんじゃなくて？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女は指でお金の形を作っていた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「い、いやいやいやっ、君っ！　き、金銭を要求するのですか！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

なんという少女だろう、幾ら美少女だからといって、許されることと許されないことが……。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0028.ogg"

「冗談よ……冗談の通じない人は嫌い」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一蹴されていた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……ところで、君の名前も教えてもらっていいですか？　その方が、話しやすい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は気を取り直して、再びインタビューを試みる。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF？？？",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0029.ogg"

「私は蓮華……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女は素っ気無くだが、はぐらかすことなく教えてくれた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「れんげ……素敵な名前だなぁ……君にぴったりだ」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_徠傟捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0030.ogg"

「……フン」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

意外にも、僕が名前を褒めると彼女は頬を染めていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やはりまだ少女……可愛らしいところもあるようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は次第に彼女への興味を募らせていた。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0031.ogg"

「……で？　一体、この部屋の何が聞きたいのかしら？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は質問に答えてくれる気のようだ。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「ではまず、ここの怪談話について、聞かせてもらえませんかっ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

遂に神秘のベールが開かれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は勢い込んで彼女の方に身を乗り出していた。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_嬃偒01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0032.ogg"

「な、何……急に目を輝かせないで。不気味よ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「すみません……僕は怪談や不思議な話となると、目がない性質でして……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

少し照れながら頭をかく。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_屽傝徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0033.ogg"

「……貴方ぐらいの年で、怪談話に目を輝かせるなんて、相当精神年齢が低いようね。それじゃ周りの人と話が合わないはずよ。貴方、友達いないでしょう」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「うぅ……初対面で僕の人生を見抜かないでください……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……どうして僕は、こんな少女に頭が上がらないのだ……。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0034.ogg"

「でも、嫌いではないわ。そういう人は」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0035.ogg"

「夢があるもの。私は、夢を見せるのが仕事だから」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

またしても煙に巻かれる。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

しかし、こんな年下の少女に「嫌いではない」と言われて、何となく嬉しくなってしまった僕は、やっぱり精神年齢が低いのだろうか……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「こほんこほん……それでは話を戻しますが……怪談話について、聞かせてください」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0036.ogg"

「……そうね、この部屋に泊まった人には、色々と不思議なことが起こると聞くわ……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「ふむふむっ！　一体、どんなことが！？」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0037.ogg"

「……本当に知りたいの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

蓮華は、急に真面目な顔になって、僕を覗き込んできた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「ええ勿論ですよ！　そのために来たんですから」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0038.ogg"

「……そう。知らないほうが、いいこともあるのだけれど……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「（ゴクッ……）　そ、そんなに恐ろしいことがあるのですかっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の真剣な表情から、話の続きはかなり深刻なのではないかと想像した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0039.ogg"

「人によっては……恐ろしいと思えるかもしれない」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「是非教えてくださいっ！！」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_敿\_拝暔01\_搟傝02.jpg",400,247,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0040.ogg"

「ちょっと、詰め寄らないでっ！　強引な人は嫌い」

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「す、すみません……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_敿\_拝暔01\_搟傝01.jpg",400,247,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は２，３歩下がった。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_暁偟栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0041.ogg"

「……素直な人は、嫌いではないわ……貴方は、本当に知りたいみたいだし……教えてあげてもいいのだけれど……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「ありがとうございます！」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0042.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、そういえば最初からずっと手に持っていた万華鏡を、僕の目の前にすっと差し出した。

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「これは……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0043.ogg"

「……これはとても不思議な万華鏡。見てはいけない世界が見えてしまう万華鏡。人の心を惑わす、妖しの誘い……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……はぁ……いや、僕はこの部屋の人形について聞きたいのですが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どんな怪談話が飛び出すのかと身構えていた僕は、玩具を見せられて、少々拍子抜けしてしまった。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_僕僩栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0044.ogg"

「ふん……たかが万華鏡だろうって、そう思っているのでしょう」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「まぁ……そりゃあねえ……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0045.ogg"

「そのたかが万華鏡に、心を狂わされてしまった人が、沢山いるとしたら、どうかしら……？」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「えぇ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

曰くつきの万華鏡だというのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は万華鏡をじっと見つめる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

蓮華の着物と同様、時代がかって、高価そうに見える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、特段変わったところは見受けられない。ごく普通の万華鏡のようだ。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0046.ogg"

「この万華鏡に、何が映ると思う？」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……例のキラキラとした、模様でしょう？」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_暁偟栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0047.ogg"

「それだけではないわ……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0048.ogg"

「これを覗くと、全てが見えるのよ。万華鏡のようにキラキラと移り変わっていく人生の全てが……愛と恐怖に彩られた、その虚しさが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0049.ogg"

「夢か幻か、はたまた真実か……貴方には、これを覗いてみる勇気が、本当にあるのかしら？」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……も、勿論あるとも！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実は、蓮華の口調に、少々怖気づいてしまう部分もあったのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまで挑発されたら、大人として挑戦しないわけにはいかなかった。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0050.ogg"

「では、貴方をご招待しましょう。男と女の、美しくも儚い絵巻物へと……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0051.ogg"

「もう、後戻りは、出来ないわよ……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 5

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

stop:dwavestop 0:csp -1:csp2 -1:print 10, 2000:kaleido

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

sw

\*L\_kk\_main\_01

sw

;\*L\_Main

sw

sw

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0001.ogg"

「先生さようならー」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0001.ogg"

「さようなら、斧神先生」

\

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さようなら、気をつけて帰るように」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0002.ogg"

「きゃっ　斧神先生と、会話してしまいました」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0002.ogg"

「かっこいいですよね、斧神先生。彼女はいらっしゃらないのかしら？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯擇恖憱傝.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

制服の少女達は、スカートを揺らして、私の前を駆け抜けていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は次々と私の前を通り過ぎる、下校中の女学生達を見つめる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どの娘達も、皆若く、笑いさざめき、この世の春とばかりに咲き誇り、手折られる前の一瞬の輝きを放っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その、明るく華やかな輪の中に、ひとりだけ……異質なものがいた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、正門へと歩いてくる彼女の端正な姿を、息を呑んで見つめる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0001.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私が受け持つクラスの中でも……いや、この学園の中でも、一番美しい少女だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はいつも一人だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

授業中は勿論のこと、休み時間ですら、彼女が他人と会話する光景を見たことがない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝は孤高の存在……他の誰とも違う、特別な存在だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、私にとって……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さようなら、篝ノ。気をつけて」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

門を通る瞬間、私は篝ノ霧枝に声を掛ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すれ違いざま、篝ノ霧枝の身体から、薔薇の花の何ともいえない高貴な香りが立ち昇ってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……この香りを、思う存分吸い込んでみたい……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0002.ogg"

「（キッ！）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やましい心の内を知っているかのように、篝ノ霧枝が私を睨みつけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、その視線の鋭さに、甘美な眩暈すら覚えた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゴキブリを見るような一瞥だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚柍娭怱01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0003.ogg"

「……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

担任教師の私が声を掛けたというのに、篝ノ霧枝は完璧に無視して、音もなく歩き去っていく……。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、本日の篝ノ霧枝との接触に満足し、ため息をついた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、斧神滋比古。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この格式と伝統を誇る、私立マリアンヌ女学園の音楽教師をしている。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

夜……帰宅した私は、かつてお気に入りだったアルバムを開いた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm11.ogg"

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の秘密のアルバム……秘密のコレクションだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

舐めるように、一枚一枚の写真をじっくりと眺める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

休日、愛用のカメラをぶら下げ、街を歩き、慎重にこつこつと撮り溜めた写真の数々……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

写っているのは街の景色……などでは、勿論ない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のクラスの生徒達と同じ年頃の少女達……そのあどけない美しさの記録だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は特にお気に入りの一枚に目をやる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

奇跡のショットとでも言うべきそれは、一人の見知らぬ美少女が、野良猫を見て腰を屈めた瞬間、スカートの中身が、見えそうで見えない、その瞬間だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……だめだ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……しかし、とっておきの一枚であるそれを見ても、私の心は、もう以前のようにはときめかないのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何故だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は苦悩して、自らの膝の上に突っ伏す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何年もかけて撮影した貴重な写真が、今ではただの紙くずでしかない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

毎夜の楽しみだったアルバム鑑賞も、今の私には虚しいだけだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

理由は単純。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が、本当の恋を知ってしまったからだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ霧枝……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、教え子である篝ノ霧枝のことを……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心の底から、愛してしまったのだ……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは、今年の４月……新学期が始まる教室でのことだった。

\

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

初めて篝ノ霧枝を見たとき……心臓を撃ち抜かれた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それまでの私は……自身の性癖を理解していたものの、常に厳しく己を律していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだ蕾みの開ききらない少女を愛する私にとって、教師という仕事はまさに天職だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は決して早まった真似はしない。過ちを犯して、この仕事を失うことは、私には耐え難い。一時の感情に溺れるなど、愚かしいことだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かつての私は、夜一人きりになった時に、美少女の面影を胸に思い浮かべながら、右手で自分を慰めるぐらいの自制心は持っていたのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝を見た瞬間に……今まで私が築き上げたものが、ガラガラと崩れ去るのを感じた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……キリエという少女に、抑えがたい恋情を抱いてしまったのだ……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0004.ogg"

「何か？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

始業式が終わり、ＨＲが終わり……下校しようとするキリエを、私は自分でも気づかぬうちに、じっと見つめていたらしかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口さがない女子校で変な噂が流れては困ると、特定の少女を見つめることなど、決してしなかった私が……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0005.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、この年代の少女とは、到底思えないほど、冷たい眼差しで私を見つめていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……あの時のキリエの、透き通った美しさ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今でも思い出すだけで、身体が震えるほどだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0006.ogg"

「見ないでください」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0007.ogg"

「私を、ジロジロ見ないでください」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私の視線で身体が汚れるとでも言いたげだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……別に、君を見ていたわけでは……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚暁偟栚02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0008.ogg"

「見ていました」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

弁解をしようとした私を、キリエはピシャリと制した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は二の句が告げなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

確かに私は彼女を見ていた。そしてそれを、キリエに、気取られていたのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

教師としてあるまじき行為であったが、私は後ろめたくなり目を逸らしてしまった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚惷偐側搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0009.ogg"

「……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、そんな私を置き去りにして、教室から去っていった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の横を、キリエが通り過ぎたその時……。

\

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の全身は、電流のようなときめきで痺れていた……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ほんの少しでもいいから彼女に近づきたい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のそばに行き、その細い身体に腕を回し、髪に触れ、彼女の吐息を感じたい……！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、ダメだ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女には決して触れない、それが私の信条だったはず……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

禁忌に触れない私は、未だに童貞だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、諦めきれない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は絶望的に呟き……秘密裏に持ち帰ったキリエの中間考査の答案を、エルメスのブリーフケースから取り出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

我校は有名な私立校の為、学園外への個人情報の持ち出しは原則禁止されているのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの答案だけは持ち帰り、必ず自宅で採点していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……これにあの芳しい手が触れたのだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

答案用紙を顔に近づけ、深呼吸する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの吐息がかかったのではないかと思われる部分に、念入りに唇を当て、接吻し、吸ったり吐いたりを繰り返した……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すー……はーっ……すー……はーっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何と堕落したことをやっているのかと、我ながら自己嫌悪だ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……しかし、本物に触れられないのだから、これで代用するしかない……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は答案に皺がよらないよう、そっと両手で抱きしめた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエ……美しき悪魔よ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その存在自体が、罪の塊だった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

だからといって、私にはどうすることもできない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝というイコンを、ただ崇め奉るだけの日々を、だらだらと時の過ぎ行くままに過ごしているしかなかったのだ……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm16.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……遅いな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今日は三者面談の日だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、暮れゆく教室でひとりぽつんと、かれこれ１時間も、篝ノ霧枝とその保護者を待っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝以外の生徒は、全員面談が終わっている。肝心のキリエだけが、一向に姿を見せないのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「来ないつもりか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あの美しいキリエに、どのような母（もしくは父）の遺伝子が受け継がれたのか……この目でしっかりと確認してみたかったというのに……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それにしても……三者面談を欠席するとは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな親がいるとは、思ってもみなかった。……子が子なら、親も親だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……それとも、キリエには、何か家庭の事情があるのだろうか？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……それとも……あくまでも、私を拒絶するつもりか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

三者面談の席ですら、私と顔を合わせ、会話するのが嫌だとでもいうのだろうか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、三者面談用にくっつけた、４つの机のうちのひとつに、ひたすらじっと座っている。

\

彼女が、「遅れました」と言いながら、教室に入ってくることを期待して……。

\

print 10,50

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

その日……私は夜中の１２時まで待っていた。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

翌日……私は眠い目を擦りながら登園した。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n17\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯幵撪.ogg"

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛車ジャガーＸＪが、朝の清々しい空気を切り裂きながら疾駆する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その風を浴びていたら、私の目も段々と覚めてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……キリエが来なかったからといって、私が敗北感に打ちひしがれていたかというと、そんなことはない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実を言うと私は、これでキリエに話しかける口実が出来たと、少々浮かれ気味ですらあったのだ。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僗僘儊偺柭偒惡02.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0010.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ひっそりと、他者を寄せ付けないオーラを発しながら、キリエが正門をくぐるところに出くわす。

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、いつも８時ぴったりに正門をくぐることは、当然のことながら知っていた。

\

dwavestop 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は声が上擦らないように、必死で興奮を抑え、キリエに話しかけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0011.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おはよう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0012.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私をチラリと一瞥しただけだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……昨日、三者面談に来なかったな？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0013.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「親御さんと話す必要がある……幾ら一年生とはいえ、君の素行には、問題がある」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエの刺すような視線に心の中で身悶えしつつ、表面上は厳しい担任教師を装っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0014.ogg"

「……必要、ありませんから」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「担任の私が、必要だと言っている」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0015.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、キッと私を睨んだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

火花が散るようなその目つき。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は背筋がゾクゾクして、その場にくずおれてしまいそうだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の親御さんと、話をする」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0016.ogg"

「……どうやって？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は唇を吊り上げ、私を嘲笑するように、笑った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、家庭訪問でも、何でもする……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、初めて見た彼女の笑顔？に、胸を高鳴らせ、衝動的にそんなことを口走っていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0017.ogg"

「家庭訪問……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はいぶかしむように眉を顰めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0018.ogg"

「ふーん……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が頷くと、彼女はどうでもいいと言うような顔で、呟いた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0019.ogg"

「私の家に……本当に来れますか？　……先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ドキッ！）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのその、私を試すような、誘うような表情に……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

以前にはなかった、私へのちょっとした好奇心のようなものがあるような気がして、私は胸を高鳴らせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……今日、君の家を訪問する……親御さんに、話しておいてくれ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0020.ogg"

「……」

\

csp2 4

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは僅かに微笑んで、私の前から立ち去った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

後には微かに、薔薇の香りが残っていた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04拫嬻1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04拫嬻1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

放課後……私は意気揚々と家庭訪問へと出発した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……キリエの家に辿りつくことは出来なかった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/偝傑傛偄.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/偝傑傛偄.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm16.ogg"

print 10,50

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何なんだ、ここは……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、篝ノ霧枝の自宅を記した地図と、アイフォンを何度も確認する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

車では入れない森の中の道に、徒歩で分け入ってからというもの……何故か道が分からなくなってしまっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こっちでいいはずなんだが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

アイフォンのマップ画面が何だかおかしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目的地までの道のりを検索するはずなのに、現在地を示す点があちこちへと移動して、今どこにいるのかすら分からなくなっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ＧＰＳ機能が、どうにかなってしまったとでもいうのだろうか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は方向音痴ではないのだが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……何だか、同じところを、何度もぐるぐる回らされているような気がする……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大体……本当にこのような奥深い森の中に、彼女の家があるのだろうか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呆然と、鬱蒼とした森の中に立ち尽くす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、完全に道に迷ってしまったのだった。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

辺りが暗くなって……ようやく私はキリエ宅の探索を諦めた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

とぼとぼと家に帰り着き（不思議なことに、帰りは迷わずまっすぐ帰ってくることが出来た）、私はすかさずキリエの家に電話を入れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おかしいな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の家の電話番号を確認し、１０回も電話をかける。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仠揹榖屇弌壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

トゥルルル……と、呼び出し音は聞こえるのに、一向に電話に出る気配がない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いないのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もう夜も遅い……電話をかけるのには、失礼な時間ではあるが、だからこそ誰かが家にいるはずではないのか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、ほんの少しだけ、背筋が寒くなる思いがした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝は……私のクラスの美しい少女は、本当に存在しているのか、と……。

\

dwavestop 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「バカな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は存在している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

現に今朝だって、私と口をきいたではないか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もう一度、キリエと話さなければな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……心中に芽生えた嫌な予感を打ち消すように、そう自らに言い聞かせた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

翌日……。

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

今度は放課後を狙って、キリエに話しかけた。

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

勿論彼女は存在していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は問題のある生徒ではあるが、毎日きちんと登園はしてくるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ。昨日、君の家に行ったんだが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0021.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は面白そうに私を見ていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうしても、たどり着けなかった……道に迷ってしまって……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0022.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、くすりと微笑する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目が意地悪く開かれ、『だから言ったでしょう？』と語っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あの森は、どうやったら抜け出せるんだ？　君は毎日、あそこを通っているのだろう？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0023.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

答える気はなさそうだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ、返事をしなさい！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

つい、厳しい声が出てしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の声に驚き、下校しようとしていた女生徒が何人か、こちらを振り返っていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0024.ogg"

「どうして……私に構うのですか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

当のキリエは、驚いた様子もなく淡々と、逆に私に聞き返す。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……篝ノが私の生徒だからだ。他の生徒と同じように、面談をしたいだけだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0025.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の嘘を嘲笑うかのように、キリエはまた微笑んだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚椻崜徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0026.ogg"

「……命が惜しければ、もう私に近づかないで……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の声には、私をからかうような調子があった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうはいかない、私は教師として、君を放っておくわけにはいかない……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

熱血教師のような台詞に、自分でも笑いたくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、こうなった以上は何としてでも彼女の家を突き止めたかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0027.ogg"

「……どうして？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が余りにもしつこいからか……キリエは私の真意を量りかねているようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……君を知りたい」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚嬃偒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0028.ogg"

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口を滑らせ、つい本音を語ってしまった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0029.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私の言葉に驚いたのか、およそキリエらしからぬ驚きの表情を見せていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、いや……君が……というか、君の家庭が、どうなっているのか、知りたい……というか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自分の失態にうろたえて、下手な言い訳をする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0030.ogg"

「分かりました……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな私の様子を見て、キリエは根負けしたようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……？　わ、分かってくれたのか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0031.ogg"

「はい。じゃあ、今夜来て下さい……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0032.ogg"

「先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは甘い声で『先生』と囁く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の声を聞いて、全身の骨が溶けてしまうかと思った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……では、今夜……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0033.ogg"

「今夜……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは優雅に唇を吊り上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しい少女の、美しい笑顔……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それなのに、何故か私には、獲物を狙う獰猛な猛獣の顔のように見えた……。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm16.ogg"

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエとの約束を信じて、再び森へとやってきた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

森は暗く、一応人が歩く道らしきものはついているが、懐中電灯がなければ歩くのもままならない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

辺りには人っ子一人いない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の歩く音だけが、暗闇の中に響いていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエと約束したはいいが、ここで迷ってしまっては意味がない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今回は、なんとか無事に森を通り抜けたいものだが……。

\

dwavestop 2

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仧晽02僸儏乕僁僁.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ザザザザーーーッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきなり突風が巻き起こり、葉擦れの音が響き渡る。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯晽梩嶤傟.ogg"

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドクン！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ……」

\

bgm "music/nbgm05.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

同時に、めまいに襲われた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

むっとするような濃密な木の香りで肺が満たされ、呼吸が苦しくなる。

\

dwavestop 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何だ、いきなり……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドクン、ドクン……

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒03.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

目の前が霞み、平衡感覚が覚束なくなった私は、ガクッと膝を折る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目がどうかしてしまったのか、眼前の景色が、膨らんだり、縮んだりを繰り返す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで森全体がいきもののように、胎動しているかのようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はたまらず目を閉じた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして……目を開いたとき。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な……！？」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のゆくてに、まるで城の様な洋館が立ち塞がっていた。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当にこの家だったのか……。

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

篝ノ霧枝の家は、ここが日本だということを忘れそうなほどの、本格的な洋館だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

天井の高い玄関ホール、ペントハウスのような広々とした部屋、本物のアンティークだと思われる調度品の数々……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

暖炉にグランドピアノ……部屋の隅にはまるで鳥籠を思わせるクラシックなエレベーターまでもが設えられている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

とてもじゃないが、一般庶民が住むような家とは思われない、絢爛豪華な邸宅だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……半信半疑で、この洋館の呼び鈴を押した私を、出迎えてくれたのは間違いなく篝ノ霧枝だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の親はよほどの資産家なのだろう……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今はこうしてリビング？のような部屋に通され、飲み物を持ってくると言い残し、廊下に消えた彼女を待っている……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0034.ogg"

「お待たせしました、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、二つのワイングラスが載ったトレーを持って現れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……すまない、飲み物まで用意してもらって……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0035.ogg"

「すまないと思うのなら、来なければ良かったのに……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の社交辞令を嘲笑うキリエだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……篝ノ、君は本当に意地が悪い」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0036.ogg"

「とっくにご存知かと思いました」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私のささやかな反撃にも、涼しい顔をしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「親御さんは、どこにいらっしゃるんだ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どこかにいるのだろうとは思うが……しんと静まり返ったこの広大な屋敷には、私とキリエ以外の人間の気配が全く感じられなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0037.ogg"

「……落ち着いてください、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

家の雰囲気に飲まれている私に、キリエは素っ気無く言う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は落ち着いている……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の家が城のようだからといって、何も気圧される事はないはずなのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

綺麗な建物だからこそ感じる、外国の怪奇映画にでも出てきそうなどこか不気味な雰囲気には、どうしても慣れる事が出来なかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0038.ogg"

「まず、飲み物でも、お飲みになれば？　先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の低く、それでいて透き通るような声で『先生』、と囁かれると、何故か私は骨の髄まで痺れてしまうのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、一口いただこう……」

\

lsph 30,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はやはりあがっていたのかも知れない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そのグラスに口をつけるまで、入っていたのが赤ワインだということに、気づかなかったのだから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ぶっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は思わず酒を吐き出した。

\

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0039.ogg"

「あら先生……お酒はいけませんの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を見て、くすりと微笑んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、篝ノ……！　私は家庭訪問中だ、飲酒はまずい……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0040.ogg"

「そう……随分保守的な考え方をなさるのね」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそう言うと、自分のグラスのワインを一気に煽った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！　篝ノ！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0041.ogg"

「ふふっ……何を慌てているの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目の色を変える私を見て、キリエは声を出して笑った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚壐傗偐側徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0042.ogg"

「愚かな道徳観とくだらない正義感に縛られた先生……かわいそう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何を言っているんだ……そんなことより、君の親はどこなんだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

正直に言おう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、自分が恋焦がれている少女、私が魂を捧げた、この美しく、可憐なキリエと二人っきりでいることが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ほんの少し、恐ろしくなっていたのだ……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0043.ogg"

「あら、先生の目的は、私でしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

図星を指されて、声を詰まらせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見抜かれている……？　私の、恋心を……？

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0044.ogg"

「先生って、分かりやすい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

狼狽する私を、馬鹿にしたような口調だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、篝ノ……君という生徒は……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0045.ogg"

「何ですか？　先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今日は言わせてもらうぞ……！　いつも教師を馬鹿にしたような態度を取り、三者面談も無断欠席……これは親御さんの前で、きつく注意しなければ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0046.ogg"

「親なんて、いないのよ。先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはゾッとするような冷たい声で、激昂する私を黙らせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……親が、いない……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚壐傗偐側徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0047.ogg"

「ええ。とっくの昔にね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはこともなげに言い放つ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ば、バカな……君の履歴書には、きちんとご両親の名前が書いてあったぞ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0048.ogg"

「じゃあ……なんていう名前？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「名前……君のご両親の名前は……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚搟傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0049.ogg"

「言いなさいよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思い出せなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0050.ogg"

「言えないくせに」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唐突に、頭の中が空っぽになってしまった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はポカンとして、目の前の美しい少女を見つめる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで彼女の顔に、答えが書いてあるとでもいうように……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0051.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、涼しげに微笑む彼女からは、いかなる答えも引き出せそうにはなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「親が……いないって、君は……ここに一人で住んでいるというのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はやっと、それだけを口にする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0052.ogg"

「ええ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まさか……こんなところで一人で……暮らせるわけがない……私を……からかっているのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あっさりと頷くキリエを、信じることは到底出来なかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0053.ogg"

「……貴方は、何も分かっていない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0054.ogg"

「自分の無知を、思い知るがいい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、呆然としている私に追い討ちをかけるように罵った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……わ、私は……何のためにここに来たのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

分からなくなってしまった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの親と、面談をする為……だったはずなのだが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0055.ogg"

「ふん……今更何を言う、この恥知らずが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を睨み据え、唇を吊り上げた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0056.ogg"

「私が目的なのでしょう、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

からかうように、私を嗤う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

眩暈がした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

森の中で感じたような、強烈な眩暈だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚挧敪01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0057.ogg"

「貴方が私を欲しがったのでしょう、先生……いつも私を、下卑た視線で汚していた……私の身体を、舐めるように……醜悪な目つきで……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そうなのだろうか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女に汚らわしい真似をしていたのか……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恋心だと思っていたが、それは……いやらしい情欲でしかなかったと……？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0058.ogg"

「先生……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0059.ogg"

「貴方は、私を……犯しに来たのだろうが」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、ふらふらと傍にあった長椅子に座り込む。

\

lsph 30,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ひどい侮辱を受けたせいか、眩暈が更に激しくなり、立っていられなくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は頭を抱え込む。これから、一体どうすればいいのか、分からなくなってしまった。

\

\*L\_Replay02\_03

mov %Replay02\_03, 1

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ハッと気づくと、キリエの顔が目の前にあった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0060.ogg"

「そんなに落ち込むことはないのよ、先生……」

\

bgm "music/nbgm09.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、今度は妙に優しい猫撫で声で私を慰めるように囁く。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚挧敪01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0061.ogg"

「私のように、美しい女を見たら、誰だって感じることよ……貴方だけが、変態鬼畜教師というわけではないの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の隣に座り、優しく手を取った。侮辱はまだ続いているようなのだが、物腰だけは柔らかだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚旝徫02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0062.ogg"

「先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは甘い声で先生と呼ぶ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

『先生』と口にする時だけ、まるで私を誘惑するような、粘りつく声を出した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0063.ogg"

「今夜、家に呼ばれて、どう思ったの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうとは、どういうことだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0064.ogg"

「私を、犯せると思った？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……そんなこと……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0065.ogg"

「思わなかった？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……思うわけがない……ご両親が、ご在宅だと思っていたんだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……それにしても、彼女は本当に、ここに独りで住んでいるのか……？

\

こんな、森の中の一軒家に……？

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0066.ogg"

「先生……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

次々と湧き出てきそうな疑問だったが、キリエの言葉で意識が遮られる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0067.ogg"

「私を詮索するのはやめなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0068.ogg"

「忘れるのよ……私のことは全て……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の目をじっと見る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の目は……最初からこんな色をしていただろうか……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0069.ogg"

「明日には、全て忘れているわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、嫌だ……忘れるなんて……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は逆らって首を振る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

催眠にかけられたような、ぼんやりとした頭で、この赤い目は見てはいけないと、それだけを考えていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0070.ogg"

「どうして嫌なの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の事を、忘れたくない……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はぎゅっと目を閉じた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n01\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0071.ogg"

「見なさい！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは手を伸ばし、凄い力で顎を掴むと、私の顔を彼女の顔へと向かせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は拒むことも出来ずに、まっすぐに彼女の目を見つめてしまった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0072.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……彼女は何と美しいのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

きりりとした豹のような瞳が、私を射抜く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精巧に作られた人形よりも左右対称に整ったその美貌が、私を捉えて離さない……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0073.ogg"

「馴れ馴れしく名前を呼ばないで。無礼者」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が口を開き、何かを言うたびに、薔薇の香りの呼気が、私に降りかかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0074.ogg"

「そんなに、私が好き……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

核心を突かれ、顔が赤らむ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0075.ogg"

「私を崇拝する者は、これまで何人もいた……何人も何人も……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0076.ogg"

「その中でも、貴方ほどぶしつけな視線を送ってきた者はいないわ……この私に向かって。失礼にも程があるでしょ？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0077.ogg"

「ふふ……みっともない……何よ、これは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに指摘されて、自分の股間に目をやる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の逸物がいつの間にか大きく膨らみ、美しいシルエットのアルマーニのパンツを、恥ずかしい形に押し上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こ、これは……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慌てて、手で股間を隠そうとする。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0078.ogg"

「恥ずかしがることないじゃない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、キリエに素早く手を取られてしまった。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0079.ogg"

「私を見て、興奮したの……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そんなことは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0080.ogg"

「ここをこんなに腫らして、よくそんなことが言えるものね……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、無造作に私のペニスを掴んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、恥ずかしい声を上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

服の上から……とはいえ、私の愛する少女に勃起した物を掴まれるのは、筆舌に尽くしがたい悦びであった。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0081.ogg"

「貴方、自分の生徒に欲情しているの？　そんなこと、許されると思う……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ゆ、許されないことだとは、分かっている……しかし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0082.ogg"

「しかし……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それでも、私は君を……愛している……この気持ちは、止めようがない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0083.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の告白を聞いて、しばし無言になった後……。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0084.ogg"

「あ、あはははは……！　あ、あいしているだと……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

けたたましく笑い出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そうだ……私は、君を愛している……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分の胸のうちを告白すると、すっと心が軽くなった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエを愛しているのだ！　誰が何と言おうと……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずっとひた隠しに隠してきた気持ちを打ち明けてしまった私は、もう怖いものなどないといった心境だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0085.ogg"

「愚かしいことよ……貴方は、私を理解していないから、そんな下らないことを言うのだ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の告白を聞いて、喜ぶでもなく、一層表情を険しくしただけだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「理解など……どうでもいい！　私は、一目見たときから、君を……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0086.ogg"

「ふん。この姿に懸想しただけだろうが……多くの人間が、この私の美しさに魅了される……だが、それはうわべだけのものだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は違う……！」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0087.ogg"

「何が違う！？　こんなに薄汚い欲望を丸出しにしておいて……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ギリギリ、と、キリエの細い指がペニスに食い込む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鋭い痛みと、それを上回る快感に蝕まれ、私は長椅子の上で身悶えした。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0088.ogg"

「どれ……見てやろうか。貴方のグロテスクなものを」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ニヤリ、と彼女は残忍な笑みを浮かべる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「や、やめろ……！」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/n01\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

抵抗もむなしく、キリエの手によって、私のグロテスクな勃起肉は呆気なく剥き出しにされた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0089.ogg"

「ふふ……やはり激しく勃起しているな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は屈辱を感じ、唇を噛む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、何故か彼女を払いのけることが出来ない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんなにほっそりとした、小さな少女だというのに、私は彼女の思うまま、身動きひとつ出来ないでいるのだった……。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0090.ogg"

「大きいんですね……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはからかうような表情になって、ペニスを雪のように白い指で上から下へと撫で始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、篝ノ……？」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0091.ogg"

「フフ……先生、怖いのですか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの顔が、私の顔へと近づいてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キスされるのか……と思うほどに近くまで寄せられた顔は、しかしキスをするわけではなく、私の首筋へと移動した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の肩に頭をもたれさせ、猫のように頬を摺り寄せた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0092.ogg"

「はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が息を吐くと、甘い薔薇の香りが広がる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女を抱きしめたくてたまらなくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、私に甘えているように見えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0093.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、次の瞬間、想像もしないことが起きた。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0094.ogg"

「……がぶっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛みは一瞬だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

噛み付かれた……と思った。が、すぐに痛みは消え、首筋からじんわりと快感の波が広がっていく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はだらしなく口を開き、手足を投げ出して、彼女の口付けに身を任せる。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0095.ogg"

「ちゅうっ……くちゅぅ……ちゅるるっ……んくっ……じゅちゅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぴちゃぴちゃと、キリエの薔薇の花びらのような唇から、激しく淫らなキスの音が聞こえてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……これはキス……なのか？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

よく分からなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

分かるのは、キリエの柔らかい……首筋に、頚動脈に吸い付くような唇の感触と……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キスされたところが熱くなり、ドクドクと脈打つごとに、気持ちよさが膨れ上がっていくということだけだった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0096.ogg"

「……私がここまでしてあげるのは、貴方が初めてなのよ……ちゅうぅっ！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/n01\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0097.ogg"

「貴方の想いが、余りにも強く、私の心に突き刺さってきたから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0098.ogg"

「だから、これは、ちょっとしたサービスなの……ありがたく思いなさい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うぅっ……」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが何故こんなことを……するのかは分からなかったが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

首筋に噛み付くキリエの姿から……馬鹿馬鹿しくも恐ろしいあるものを連想していた……。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0099.ogg"

「私……これを見るのは初めてです……ちゅくっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは音を立てて私の首を舐めながら、隆々と勃起したペニスに視線を向けた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0100.ogg"

「ちゅううっ……今までは、こんなもの、醜悪なだけだって、思っていたけれど……じゅるっ」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou01\_1\_01\_s

\*ndou01\_1\_01\_s\_end\_1

cspd:lsp2 99,":c;ndou01\_1\_01\_c/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0101.ogg"

「実際に見ると、少し違いますね……ビクビク脈打って、何だか、面白い……生き物みたいだわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しゅっ、しゅっ、と、キリエの手が上下に動く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスから異常なまでの快感が這い登ってきて、私はじっとしていられず、ぶるっと身震いした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……か、篝ノ……何をしている……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0102.ogg"

「さあ？　何かしら……先生のほうが、よく知ってるのではないですか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0103.ogg"

「いつも、私を想って、していることではないですか……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は否定できずに、俯く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちは教師と生徒……これは禁忌以外の何ものでもない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これまでずっと、私は真面目な教師だったというのに……。自分に課した十字架を、こんなに簡単に、手放してしまっていいのだろうか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

よくないのは、分かっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……というのに、私は……。

\

この甘く切ない行為に、身を委ねたくなってしまっている……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0104.ogg"

「フフ……先生は痩せ我慢がお好きなようね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は嘲るような笑みを浮かべながら……なのに手の動きだけは優しく、執拗に、ペニスをゆっくりと扱いていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0105.ogg"

「気持ち、いいですか、先生……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

優美な笑顔を向けられ、そう答えるしかなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0106.ogg"

「そう……恥ずかしげもなく、よく言えたものね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0107.ogg"

「こんなことをして、教師失格ですよ、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に指摘され、恥辱で顔が火照る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私を侮辱したいだけなのか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0108.ogg"

「ふふ……おちんちんが、獰猛に脈打って、私を求めている……あぁ、みっともない。恥ずかしい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは容赦なく私を断罪する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の涼しげな声を聞きながら私は、今の状況をどのように感じればいいのか、分からないでいる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……そうではない……。自分でも認めたくはないが、私は悦んでいる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に罵られ、無理やり抑えつけられ、ペニスを扱かれて……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、歓喜に震えている……！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0109.ogg"

「醜い欲望を剥き出しにして……こんなにおちんちんを大きくして……私の中に挿れたいとでもいうのかしら？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0110.ogg"

「なんて恥知らずな……鬼畜チンポ……ふふっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の指が、私のペニスの上を這いまわる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

力強く握り締められたところが焼けるように熱く、痛いぐらいの気持ちよさで、全身がとろけるように痺れる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0111.ogg"

「ふふ……浅ましい……これって、先走り……ですよね？　先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスの先端から染み出てきたカウパー氏腺液で、キリエの手のひらがぬるぬると光りだした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0112.ogg"

「嫌だわ……こんなに手が汚れて……んぅっ、匂いもするわ……動物的な、男の、淫らなフェロモンの匂いが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の手の中から突き出たペニスは、いかにもみだらがましく照り輝き、暴力的なまでに反り返っている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

小さな可愛らしい手のひらに包まれ、ビク、ビク、とはしたなく喘ぐ肉棒……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……私は、やっぱり彼女を犯したかったのだろうか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分でも気づかなかった下劣な下心の成れの果てを、まざまざと眼前に見せつけられたようで……私は恥ずかしさのあまり、男根から目を逸らすのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0113.ogg"

「ちょっと手で擦っただけで、随分感じてしまったようですね……フフ……いやらしい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

惨めな私に追い打ちをかけるように、キリエは鈴のような声で責める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0114.ogg"

「いやらしい液を出して、私を汚したいんですか？　先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、私は……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

反論を試みるが、すぐに意識が薄れてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエにキスされている首筋から……精気とでも言うべきものが、吸い取られているような気がしていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままでは気を失ってしまいそうだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスと首筋から、じわりじわりと全身に快感が押し寄せ、私は弛緩する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はだらしなく口を開き、手足の指先を痺れさせ、皮膚という皮膚がどろりと溶け出すような気持ちよさに、ただぐったりと、長椅子に身体を投げ出していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0115.ogg"

「あら、まだ意識があるの……随分しぶといこと……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0116.ogg"

「ちゅううっ！　くちゅるっ、ちゅぷっ……ちゅるるるっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは呆れたように言ってから、より強く首筋に吸い付いてきた。

\

ndou01\_1\_01\_s

\*ndou01\_1\_01\_s\_end\_2

cspd:lsp2 99,":c;ndou01\_1\_01\_c/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0117.ogg"

「ちゅるっ、ぷちゅるっ……んちゅうううっ、ちゅぅうぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目の前が霞む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

チカチカと明滅する光と、真っ赤な靄のようなもので、視界が塞がれてしまう……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0118.ogg"

「愉しかったわ、先生……でも、そろそろおしまいね……ちゅうううっ……！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou01\_1\_01\_f

\*ndou01\_1\_01\_f\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou01\_1\_01\_f/00000016.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0119.ogg"

「苦しいのでしょう？　もう、我慢できなくなっているのでしょう？　ちゅうぅうぅっ……じゅちゅぅうぅぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの手から生み出される快感が、堪えきれないくらい大きくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの手が肉棒を乱暴に扱う。引っこ抜くかのように強く扱きたて、雁の皮がめくれ上がる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドク、ドク、と膨れ上がった肉棒は、もう私の意志の力ではどうにもならないまでに興奮しきっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0120.ogg"

「ふふ……教え子に、射精……してみる？　先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの唇が、妖艶な形につり上がる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……キリエのこの、人を舐めきった、愚弄した表情……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

なんと美しいのだ……！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0121.ogg"

「薄汚いペニスから、薄汚い精液を出したいんでしょ、先生……この美しい私を、精液で汚したいとでも言うのかしら……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0122.ogg"

「フフ……見てあげてもいいわよ……男が射精する場面は、まだ見たことがないから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0123.ogg"

「特別なのよ、先生……この私が見てあげるのだから、盛大に射精しなさいよ……貴方の白く濁った液を、そこらじゅうに撒き散らすがいいわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0124.ogg"

「出来るものなら……この高貴な私に、貴方の汚辱にまみれた液を、出してみなさいよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0125.ogg"

「ちゅううううううううっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

首筋に、再び吸い付かれた時……甘美な電流が全身を駆け巡り……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n01\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぶぶっ！！　びゅるるるるっ！！　どびゅどびゅっ！！　びゅぐるるるるっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

半ば失った意識の中、私は大量の精液を発射していた……。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0126.ogg"

「ふふ……汚ならしい……これが精液……？　どろどろとして、生臭い……こんなものを吐き出すのか、男というものは……」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0127.ogg"

「全く……男とは、何と単純で、愚かな生き物か……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0128.ogg"

「このような弱々しい存在が、私に懸想するなど……身の程をわきまえるがいい……人間風情が……」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0129.ogg"

「……しかし、この私を愛しているなどと……よく言ったものだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、最後くすりと笑ったような気がした。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……彼女の声を遠くに聞き、悦楽の陶酔に飲み込まれ……今度こそ本当に意識を失っていた……。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

sw

\*L\_kk\_main\_03

sw

;\*L\_Main

sw

sw

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僗僘儊偺柭偒惡01.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鳥の声で目覚めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

既に日は昇り、室内は明るくなっている。私は上半身を起こし、辺りを見回した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……」

\

bgm "music/nbgm11.ogg"

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここは、私の部屋ではないか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエの家にいたはずだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの家で……家庭訪問をするつもりで……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昨日……あの、城のような、どこか不気味な雰囲気の洋館に招じ入れられて……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は、あそこからどうやって帰ってきたのだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何も思い出せない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

記憶を整理しようとすると、何故か頭が割れるように痛んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……昨日……あれから、何があった……」

\

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/n01\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれから……一体何が……。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女に……操られ、弄ばれた……のだろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思い出すだけでも腹立たしい記憶は、しかし甘美な疼きも伴っていた……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を天国へと導いた、あの手の動き……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唇のやわらかな感触と、首筋から広がっていった快感……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

忘れようとしても、決して忘れられるものではなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そういえば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はコンパクトミラーを取り出し、首筋へと向ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昨夜……彼女に噛み付かれた……と思ったあれは、何だったのだろうか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鏡を覗き込んだ私は絶句する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鏡に映った私の首筋には、虫刺されのような二つの赤い跡があった。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これは……よく恐怖映画で目にする場面ではないのか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ゾクッ……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不意に、背中に氷を入れられたような気がした。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……彼女に対して、ある疑惑を抱かずにはいられなかった……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm03.ogg"

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

動揺を抱えながらも、普段通りに登園した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

記憶は依然戻らないままだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不安を感じていないと言えば嘘になるが……まずはキリエに話を聞くのが先決だろう。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は授業が終わり、キリエと話す時間が来るのを、一日千秋の思いで待っていた……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_03妛墍楲壓拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_03妛墍楲壓拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

昼休み……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昼食を済ませた私は、キリエの姿を求めて校内をうろついていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが食堂などの人混みの中にいるとは思えないので、私の足は自然と、薄暗く、誰もいないような場所へと向かっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あれは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人気のない廊下に、キリエと、同じクラスの数人の生徒が立っているのが見える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そこは特別教室が並ぶ、およそ普通の生徒が昼休みに訪れるとは思えない場所だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに友達がいるとも思えないのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……一体何をやっているのだろう……。

\

私は好奇心にかられて近づいていった。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0003.ogg"

「篝ノさん、これはどういうことなの！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエを責める女子生徒の声が聞こえる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは数人の生徒に囲まれ……傍から見ると、まるでいじめを受けているかのような雰囲気だ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうしたんだ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はすわキリエの危機かと、駆け足になって間に割って入っていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0004.ogg"

「斧神先生……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきなりの私の介入に、女子生徒達は眉を曇らせる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0130.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエだけが、孤高の無表情を保っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何があったんだ？」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の問いに、女子生徒は黙って扉の開いた音楽室の中を指さす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

床の上に、一人の髪の長い生徒が倒れていた。

\

bgm "music/nbgm05.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「芦田菜々じゃないか！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

芦田菜々は、かねてから目をつけていた私のクラスの美少女だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勿論キリエに出会ってからは、他の少女に心を動かされることなどなかった私だが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

芦田菜々がそこそこの美人であることは、やはり認める他はなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「芦田、大丈夫か！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は倒れている少女に素早く駆け寄る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の制服の胸元ははだけられ、首筋があらわになっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その時……私は見つけてしまったのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気絶した彼女の首筋に、虫刺されのような、二つの跡があるのを……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0005.ogg"

「私たち、菜々ちゃんが急にいなくなったから、捜していたんです……そうしたら、篝ノさんと美術室に入るところを見たっていう人がいて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0003.ogg"

「来てみたら、丁度篝ノさんが音楽室から出てきて……菜々ちゃんは床に倒れちゃってるし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0001.ogg"

「だから、どういうことなのか、篝ノさんに事情を聞いていたんです」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0131.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは冷たい無表情の仮面を外そうとはせず、押し黙っている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0006.ogg"

「ねえ、あなたが菜々ちゃんに何かしたんじゃないの！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0004.ogg"

「大体、倒れてる子をほっぽって、さっさと行っちゃおうとするなんて、ひどすぎない！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0132.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これはまずい事態になった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の考えている通りの事情なのだとしたら……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエにとって、これは非常に危険な局面であると言えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0002.ogg"

「何とか言いなさいよ、篝ノさん！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、待ってくれ、実は……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノは、私に用事を頼まれていたから、この場を離れるしかなかったんだ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0007.ogg"

「ええ？　どういうことですか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何とかキリエの窮地を救おうと横槍を入れる私だったが、女子生徒達は益々怪訝な表情へと変わっていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……私が先程、授業に必要な教材を取ってきてくれるように、篝ノに頼んでいたんだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私の用事を済ませ、もしくは芦田が倒れていることを私に知らせるために、篝ノは音楽室から出たんだろう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0008.ogg"

「篝ノさん、何も持っていませんけど……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、ではやはり、芦田が倒れたことを先に知らせに行くところだったのだろう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0005.ogg"

「そうかしら……？　大体何で菜々ちゃんと音楽室にいたの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、それは……おしゃべりに夢中になっていたら、つい一緒にここまで来てしまった、とか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0003.ogg"

「篝ノさんとおしゃべり……ですかぁ？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0133.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まずい、完全に疑われている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

女子生徒達は、今や私にまで疑いの目を向け始めていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この状況を打開するには、どうすれば……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0134.ogg"

「はぁ……時間の無駄ね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

沈黙を保っていたキリエが、突然口を開いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0009.ogg"

「ちょっと、どういう意味なの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

当然のごとく、女子生徒達はキリエの発言に目くじらを立てる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0135.ogg"

「……うるさい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはうっとおしそうにため息をついていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0136.ogg"

「……私の目を見なさい。愚かな人間どもよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの瞳が、赤く光る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0010.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0006.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0004.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達は、魅入られたように……キリエの瞳に釘付けになった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0137.ogg"

「全て忘れなさい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの静かな声が、深く脳まで染み渡ってくる……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0011.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0007.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0005.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

女生徒達は魂を抜かれたかのように、ぼんやりと立ち尽くしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0138.ogg"

「……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは生気を失ったように立っている少女たちをその場に置いて、自分だけスタスタと歩き去っていく。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ま、待て……篝ノ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慌ててキリエの後を追った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0139.ogg"

「……」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは足を止める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、篝ノ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0140.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何かしら、反応があると思ったのに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエから返ってきたのは、以前と変わらぬ無関心だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、彼女達をどうしたんだ？　何だかみんな、おかしかったぞ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚柍娭怱01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0141.ogg"

「……貴方、どうして術にかかっていないの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……っ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0142.ogg"

「見なさい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は再び、赤く輝くキリエの二つの目を見つめる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……何も起こらなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚暁偟栚01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0143.ogg"

「……全く、何なのかしら貴方は……調子が狂うわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは溜息をつくと、また歩き出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おい、あの子達は大丈夫なのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを追いかけながら質問を浴びせる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0144.ogg"

「大丈夫よ……ちょっと忘れてもらっただけ。時間がたてば、記憶以外はもとに戻るわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

忘れてもらった……とは、まるで彼女が他人の記憶を操れるとでもいうような言い草ではないか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……昨日のことなんだが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の回答に釈然としなかったが、質問を続けた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0145.ogg"

「昨日……どうかしましたか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはこともなげに言う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうかしましたかじゃないだろう、昨日、君は……私を……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0146.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは眉ひとつ動かさない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……これを見ても、白を切るというのか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、最後の手段とばかりに、ネクタイを力任せに引っ張り、首筋をあらわにした。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0147.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚暁偟栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0148.ogg"

「忘れていないの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは無言で私を見つめた後、ポツリと呟く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呟く声には、ほのかに諦めの調子が混ざっているようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「忘れるわけがないだろう……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0149.ogg"

「……何故」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は君のことを絶対に忘れない！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女をまっすぐに見つめて、そう断言した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0150.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は呆れて声も出ないようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……君は一体……！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0151.ogg"

「もう……午後の授業が始まりますから……」

\

bgm "music/.ogg"

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは素っ気無く呟くと、羽のように軽い足取りで、階段を駆け下りていった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠巒嬈儀儖.ogg"

bgm "music/nbgm11.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

芦田菜々も、他の女子生徒も、明るく笑っているだけで、先程の件など全くなかったかのように振舞っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエを気にしている様子もなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当に……キリエの言うように、忘れてしまったのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、芦田の首筋の傷痕は……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

mov %sn,4:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,430:mov %sy1,600:mov %sy2,260:mov %so1,0:mov %so2,255:idou

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0152.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが教室から出てくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ、話がある……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0153.ogg"

「……」

\

mov %sn,4:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,430:mov %sy1,600:mov %sy2,260:mov %so1,255:mov %so2,0:idou

csp2 4

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

呼び止めても、キリエはまるで私の声が聞こえていないみたいに、目の前を通り過ぎていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、また彼女の後を追って駆け出していた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_10怷拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……待ってくれ、キリエ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を無視してどんどん歩き去っていくキリエを追いかけ、とうとうこんな森の中までやって来てしまった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0154.ogg"

「ああもう、キリエキリエとやかましい！　勝手に私の名を呼ぶな！　痴れ者め！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは癇癪を起こして、遂に立ち止まる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、昨日のことについて、話したい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の苛立ちなどものともせず、図々しくもキリエの前に立った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0155.ogg"

「何と面倒なこと……まさか記憶を失っていないとは……私の力が効かぬとでも言うのか」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いいや……あの後のことは、覚えていない……ただ、君が噛み付いた、あの時のことだけは、はっきりと覚えている」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ブツブツと愚痴を漏らすキリエに、説明を試みる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚惷偐側搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0156.ogg"

「チッ……面倒くさい奴め」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは舌打ちし、腐った物でも見るような目つきで私を見ていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「篝ノ……君は……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0157.ogg"

「……覚えているなら、私のこと、分かりますよね。先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは静かな口調の中にも、凄みを滲ませて囁く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その迫力に呑まれながらも、私はなんとか年長者の威厳を保とうとしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の正体について……何となく、想像はしているが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚挧敪01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0158.ogg"

「ええ、その通りです。先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はあっさりと微笑んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やはり……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の想像通りだったのか……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚搟傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0159.ogg"

「言ったはずですよ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは大きく唇を吊り上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その隙間からこぼれた、三日月の形をした牙が、ギラリと光った……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚搟傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0160.ogg"

「命が惜しければ、もう私に近づかないでと……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの瞳の色が、血のような赤に変化する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤い瞳の人間など、この世には存在しないはず……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、人ならぬ姿を、私の前に見せていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、彼女は……きっと……闇に生きる眷属……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人の生き血を吸う……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血鬼……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0161.ogg"

「理解したのなら、さっさと立ち去るがいい。下等生物よ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは身を翻し、暗い森の中へと消えていこうとする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「待ってくれ、キリエ……！　私は、君の傍にいたい……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに追いすがる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の声を聞いても、振り返ろうともしないキリエを、見苦しいまでに追いかけていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0162.ogg"

「いい加減にしろ！　血を吸われてもいいのか！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は、いつもああやって、クラスの生徒達の血を吸っていたのか！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

芦田菜々のことを思い出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も芦田も、キリエに血を吸われていたのだと、今はハッキリと理解していた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0164.ogg"

「ふん、少し味見をさせてもらっただけだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「命に別状はないのか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0165.ogg"

「あれぐらいで死ぬか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を蔑むように鼻を鳴らした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……君が生徒たちの血を吸うのを、見過ごす訳にはいかない」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚尵偄曻偮01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0166.ogg"

「馬鹿馬鹿しい正義感か？　私だって何もクラスメイトを殺すつもりはない……ほんの少し血を分けてもらっているだけだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのこの抗弁を聞いて私は……。

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF私のクラスの生徒を危険には晒せない",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF代わりに私の血を飲めばいい

",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_1

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_1

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route01a0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route01a1

goto \*L\_selectbtn1

\*L\_route01a0

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、私のクラスの生徒を危険に晒すことはできない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエと真っ向から対立した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0167.ogg"

「ほう……私に飢えて死ねと言うのか」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうは言っていない……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0168.ogg"

「貴方は結局、私よりも、自分のクラスの生徒のほうが大切なんですね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まさか……しかし、私は教師として……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0169.ogg"

「つまらない詭弁はよしてください、先生……私に血を飲むなというのは、死ねということではないですか」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0170.ogg"

「それとも……先生が、私に血をくれますか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

すぐには返事が出来なかった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私とて、命が惜しい……生徒達のためとはいえ、みすみす死を早めるような真似を、したいはずがない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

可是……

\

goto \*L\_route01aend

\*L\_route01a1

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「代わりに私の血を飲めばいい！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はためらいなく、そう言い切っていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0171.ogg"

「何だと！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「生徒達の代わりに、私の血を飲んでくれ！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚峫偊傞02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0172.ogg"

「何を言い出すかと思ったら……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0173.ogg"

「貴様一人で私の食欲を補完するというのか……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0174.ogg"

「馬鹿な……貴様、死ぬぞ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの恫喝が飛ぶ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし私は怯まなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

goto \*L\_route01aend

\*L\_route01aend

sw

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私の運命の恋人……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生涯をかけて愛する相手だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんな少女にめぐり合うことは、もう二度とないだろうということは、私には分かりすぎるほど分かっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は君の生贄になってもいい！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の脚に、私はこの身を投げ出してすがりつく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

血を吸われても、殺されても、構わない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女を失うことこそ、私には絶望だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0175.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

冷たい表情で、私を見下すキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の視線を一身に浴びて、私は身が縮む思いだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの脚は、細く、すべすべとして、象牙のようで……触れているだけでうっとりとしてしまう滑らかさだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_愒栚搟傝03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0176.ogg"

「下賎の者が！　私を辱めるな！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝04.ogg"

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

一瞬の隙を突かれ、革靴の踵で額を蹴られた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、痛っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

手加減なしの鋭い蹴りを受け、思わず頭を抱える。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0177.ogg"

「ふん……やっと離したか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「蹴るなんて、ひどいじゃないか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、這い蹲ったままキリエを見上げた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0178.ogg"

「この私に触れたのだから、蹴られて当然だろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ、成る程……と納得してしまいそうなくらい、彼女の立ち姿は神々しく、人間離れしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0179.ogg"

「何を見ている」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエを……私の愛する少女を……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、女神のようなキリエを、拝むような気持ちで、見上げていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0180.ogg"

「……はぁ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、心底呆れたといわんばかりのため息をつく……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0181.ogg"

「貴方、想像を絶する程愚昧ね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に罵られるのが、私には快感だった。

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0182.ogg"

「目を閉じてください、先生……じっと見られていると、出来ません」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……そうか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、長椅子の上に横たわり、両の目を閉じる。

\

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_18僉儍儞僪儖.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_18僉儍儞僪儖.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm04.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚尵偄曻偮01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0183.ogg"

「……がぶっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っっく……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

首筋にキリエの牙が食い込む。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0184.ogg"

「んっ、ちゅううっ！　ちゅるるるっ……ちゅぷっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

噛み付かれた痛みはすぐに、官能的な痺れへと変貌する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドク、ドク、と血液が首筋に集まり、身体中でそこだけが燃えているかのように熱い。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0185.ogg"

「ちゅううっ……くちゅぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの唇が生み出す、麻薬のような快感……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんなものに溺れてはいけないと思いつつも、溺れてしまっている自分がいる……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これは苦しみなのか、悦びなのか……今の私には、判断がつかなかった。

\

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚壐傗偐側徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚壐傗偐側徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0186.ogg"

「ふぅ……ご馳走様……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は立ち上がると、唇の端から零れた私の血液を、ハンカチで優雅にぬぐった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は貧血気味になった身体をようやく起こし、長椅子にもたれるように座りなおした。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0187.ogg"

「貴方の血は、中々味がいいですよ。先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ニヤリと微笑むキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

家で過ごす時は大概着用しているという、その大時代的なドレス姿も相俟って、まるで本物のお姫様のように見えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは、喜ぶべきなのかな……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0188.ogg"

「ええ……いつか吸い尽くしてあげます」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は笑うしかなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

……勿論、喜ぶべきなのだ。

彼女の『生贄』になる、と申し出たのは、誰でもない、私自身なのだから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が、私自身の血液と引き換えに、彼女の家に入り浸るようになって、そろそろ一週間になるだろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女に（死なない程度に）少しづつ血を吸われている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

はじめ私は、吸血鬼に血を吸われた人間は、己も吸血鬼になってしまうと思っていたのだが、キリエの話では、そうではないという。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……考えてくれたのかな、例の話は……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、かねてから頼んでいた件について、彼女の返答を促した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0189.ogg"

「あぁ……私の一族になりたいという話……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……吸血鬼になる為には、血を吸われるだけではなく、吸血鬼の血液を飲む必要があるのだという。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0190.ogg"

「本気だったの……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……勿論だ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血鬼になってしまえば、ずっと彼女と一緒にいられる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

同族になった私を、彼女も認めてくれることだろう……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0191.ogg"

「フフ……何と愚かな……教師の癖に、短絡思考……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかしキリエは、そんな私の考えを嘲笑うだけだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私が仲間では、嫌なのか」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0192.ogg"

「嫌に決まっている……この下等生物が」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚峫偊傞02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0193.ogg"

「貴方と私が、同族になるなどと……よくそんなに下らないことを考えつくものだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0194.ogg"

「ふふ……そんなことを心配しなくても、きっと貴方はすぐに死んでしまうわよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0195.ogg"

「そうよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエと、放課後二人きりで、こうして話をしている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それだけでも幸せなことだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かつての私には、あり得なかった幸福だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……欲望は、際限なく増えていくものだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

現在の私は、それだけでは、物足りなくなってしまっている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に侮辱されるだけの存在ではなく、もっと親しくなりたい……心の交流を図りたいと……考えてしまっているのだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0196.ogg"

「何が不満なの、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の心中を察したのか、不機嫌な顔になる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0197.ogg"

「貴方が、私の生贄になりたがったのじゃない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その通りなのだ。でも……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0198.ogg"

「人間はすぐにつけあがるから嫌い……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、薔薇の香りのため息をついた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0199.ogg"

「身の程を知りなさい……過分な要求は、身を滅ぼすわよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は……君の傍にいたいだけなんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0200.ogg"

「あぁ、うるさい……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0201.ogg"

「悩まずに済むように、今すぐ殺してあげましょうか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……遠慮しておく……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの目が、苛立ちでギラリと赤い光を放ったので、私は慌てて自分の主張を引っ込めた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0202.ogg"

「ふん……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……今夜はもう遅いし、泊まってもいいだろうか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの顔色を窺って尋ねるが、彼女はバカにしたように鼻を鳴らしただけだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0203.ogg"

「いいわけがないでしょう、帰りなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、もう夜も更けている……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0204.ogg"

「だから？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だから……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0205.ogg"

「貴方、自分の生徒の家に泊まるだなんて、恥を知りなさい！　理事長に訴えるわよ」

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は車を駐車している場所まで、街灯すらない暗い道を俯きながら歩く。

\

bgm "music/nbgm11.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままでは、本当に血を吸い尽くされ、殺されるだけではないのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実を言うと、こうして彼女の家に通っているうちに段々親密度が増し、仲間に加えてもらえるのではないかという、甘い期待があった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……今日の反応を見ても、現実はそう上手くいかないということは、火を見るよりも明らか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「一体どうすれば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も、ただの食料として死ぬ覚悟は出来ていない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……死んでもいいのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただ、彼女の心に、ほんの少しでもいいから残りたいだけなのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慎重に、彼女にどう接すればいいのかと、考える。

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

恐らく……行動を起こすべき時がきたのだ。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

翌日も……私は、自らの血を捧げる為、キリエの家を訪れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……今日はそれだけではない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私には、ひそかな心積もりがあったのだが……。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0206.ogg"

「あら、また来たのですか、先生……」

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0207.ogg"

「最近、貴方の血にも、少し飽きてきたのだけれど……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに勘付かれてはならない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女の毒舌にも、眉ひとつ動かさずに耐えた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0208.ogg"

「歯向かってはこないのか……面白みのない男だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、ツンとした形のいい鼻を上向け、つまらなそうにため息をついている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……そのうち、彼女もそう取り澄ましてもいられなくなるだろうが……。

今の私は、面白くない男として、通すしかなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0209.ogg"

「何だ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女に対して、最終試験を試みた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……もう一度、初めての時のようなことを、してもらえないか」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0210.ogg"

「何だと」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もう一度……その、君と……肉体的な繋がりを、持ちたいんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0211.ogg"

「……ハッ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はいかにも嫌そうに可愛らしい顔を顰め、憎悪の眼差しで私を見つめた。

\

lsph 30,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0212.ogg"

「この、下郎めが！！」

\

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドンッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

羆にでも押し倒されたのかと疑うほどの強い力で、彼女に長椅子に押し倒される。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「グゥッ……ゲホッ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの華奢な腕で喉を締められ、一瞬息が出来なくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私に馬乗りになって、殺す勢いで首を締めていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0213.ogg"

「私と肉体関係を持ちたいだと！？　勘違いするな、この豚が！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……あの時は君から……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はやっとのことで声を絞り出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

怒られるのはわかっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、あの夜……何故キリエはあんなことをしたのか……その真意をどうしても確かめたかったのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少しでも……少しでも私に、優しい気持ちを持っていてくれるなら……という、藁にもすがるような願いだった……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0214.ogg"

「あれはただの遊びだ。男というものが、どんな反応を示すものか、一度見てみたかっただけだ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そしてキリエは非情にも、私の純情を踏みにじったというわけだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は悔しかった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

純粋な恋心に、唾を吐きかけられ、砂をかけられたような気分だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0215.ogg"

「ねえ、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0216.ogg"

「一度の悪ふざけを真に受けるなんて、貴方は救い難い愚か者よ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

傷ついた私に向かって、キリエは少しなだめるように囁いた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚挧敪01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0217.ogg"

「あれで満足するべきなのよ、先生……あれだって、私にしてみたら、相当なサービスなのよ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0218.ogg"

「だって私は、まだ……正真正銘の、処女なのだから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仧棆02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

窓の外で稲光が閃く。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仧塉01,1.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_22栭偺塉.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_22栭偺塉.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

突如として、ザーザーと叩きつけるように降り出した雨は、これからの波乱を、私に予感させるに充分だった。

\

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0219.ogg"

「先生……貴方は私の従僕……私の食欲を満たすためだけに存在しているの……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0220.ogg"

「高望みはやめることよ……貴方が不幸になるだけだわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を説き伏せる彼女の声は甘く、見せ掛けだけの優しさに溢れていた……。

\

dwavestop 1

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0221.ogg"

「そんなに悲しそうな顔をしないで、先生……私、あなたのことは気に入っているのだから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……食料として、か」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0222.ogg"

「ふふ……分かっているじゃないの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は出来の悪い生徒を褒めるように、私の頭を撫でた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、私の試験に落第した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

合格して欲しかった、と心から思う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そうしたら、私も、非道な真似はせずに済んだのに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、彼女は不合格だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……私は、不合格者に、罰を与えなければならない。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚尵偄曻偮01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚尵偄曻偮01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0223.ogg"

「……がぶっ！！」

\

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_red.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_red.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、いつものように私の首筋に牙を立てる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

普段はアルマーニのシャツの襟で隠されて見えない、醜い吸血の痕跡に、もうふたつ、新しい傷痕が増える。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……あぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/1\_16錕錘.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_16錕錘.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

僅かな痛みと、めくるめくような快感で、気絶してしまいそうになる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0224.ogg"

「ちゅううっ！　くちゅっ、じゅちゅううっ」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

……いや、今日は、気を失ってはならない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は準備していた物を上着のポケットから取り出し、計画を実行に移した。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯儅儞僩東偡01.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

\*L\_Replay05\_02

mov %Replay05\_02, 1

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠敍傝.ogg"

csp2 4

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0225.ogg"

「……っ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の手際のよさに、流石のキリエも驚いているようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……驚いたかね……こう見えても私は、大学時代ヨットを嗜んでいてね……ロープの扱いはお手の物なのだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

貧血と重労働が、中年に差し掛かった肉体にはかなり応えていたが、私はどうにかキリエを縛り上げることに成功していた。

\

bgm "music/nbgm10.ogg"

lsph 30,":c;image/n02\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0226.ogg"

「フン……アルマーニだのジャガーだのヨットだの……鼻持ちならない嫌な男ね！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつの間に観察していたのか、キリエは私のスノッブ趣味を嘲笑う。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0227.ogg"

「たかが人間の分際で、こんなことをして、ただで済むと思っているの！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フ……幾らでも吠えるがいい……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

今この瞬間だけ……とはいえ、私とキリエの立場は逆転していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは身体の自由を奪われ、何も出来ずにただ私を罵るだけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつもなら、私の心を傷つける言葉の数々も、今は単なる快い小鳥の囀りのようなものだった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0228.ogg"

「貴様！！　早くこの紐を解け！！　噛み殺してやるぞ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは恐ろしい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女を見下しながら、薄く微笑した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

噛み付かれてはたまらないので、不用意に顔は近づけない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただ、内ポケットから私の絶対的有利を示す、ある物を取り出した。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_45.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_45.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0229.ogg"

「っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、ロザリオだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やはりこれが苦手なようだな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0230.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は太陽の光も平気なようだから、効くかどうか、不安だったが……本物のカトリック教会の物なら、もしや……と思ってね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0231.ogg"

「どこで手に入れたの、それ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは眼力で私を殺そうとでもするかのように、私をきつく睨みながら尋ねた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私の母の遺品でね……母は敬虔なクリスチャンだった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「これは……わざわざヴァチカンから取り寄せたものだ。ほら、ここに刻印があるだろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエにロザリオを見せつけるが、キリエは顔を背ける。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら……どうなる？　これを近づけると……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0232.ogg"

「やめろ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はロザリオを避けようと仰け反った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ははは……中々効果があるようだ」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_45.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_45.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0233.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を睨みつけている。\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、常日頃とは違い、彼女の目には鋭さがなく、恐怖すら滲んでいるのを、私は見逃さなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君が悪いんだ、キリエ……私はこんなことを、したくはなかった」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0234.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは答えない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精一杯の軽蔑の視線だけを、私に送ってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

内心では、私が何をするのか……不安でたまらないのだろう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その想像は、私を熱病患者のように燃え上がらせた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に抵抗できないキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に組み伏せられるキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは射精してしまいそうな興奮だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0235.ogg"

「何をするつもりなの、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは威厳を保ったまま、私に尋ねる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「罰を与える……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女のプライドをズタズタにしてやりたくなっていた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠暈傪攋偔壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n02\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0236.ogg"

「あぁっ……ひっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ゴクッ……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のドレスをはだけ、真珠のような艶やかな肉体を、私は目の当たりにする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

白い……どこまでも白い肌だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで生きているとは思えない、セルロイドの人形めいた肌……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何と美しい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

触れるのが躊躇われる……神々しいまでの輝きを放つ肌を前にして、私は指先が震えるのを感じた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

女神、というものは、実際に存在したなら、こんな姿をしているのかもしれないと思う。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0237.ogg"

「貴様……その薄汚い指で私に触れてみろ！！　決して許さんぞ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の手の動きに慄きながら、キリエは泣き声を上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふん……君はどうせ私を殺すつもりなのだろう……それが多少早まろうと、構うものか」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0238.ogg"

「何だと……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は君を、愛している……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0239.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のような冷たい女など、愛さなければよかった……だが、もう遅い……私は君を、どうしても諦めきれないのだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0240.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君に殺されたって構わない……私は、愛する君のためなら、喜んで命を投げ出そう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0241.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だが……今夜だけは、想いを遂げさせてもらう」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0242.ogg"

「なっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエにのしかかるように迫っていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

腕を伸ばし、殆ど成長の見られない青い果実のような乳房に触れた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_52.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_52.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0243.ogg"

「うくっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、ぎゅっと目を閉じ、身震いする。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0244.ogg"

「くっ……ひっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に触られるのが嫌でたまらないというように、口を歪め、眉を顰める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……何という手触りだ……まるで上等の絹だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はもう、彼女の嫌悪感など気にならなくなっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

手のひらに吸い付くような乳房の感触、きめ細かいすべすべとしたその質感に、うっとりと心を奪われていたのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「素晴らしい……素晴らしい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの胸はお世辞にも大きいとは言えない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、女として成熟する以前の、無垢な少女を愛する私にとっては、これ以上望めないほどの、完璧な乳房だった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_53.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_53.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0245.ogg"

「うぅ……汚らわしい……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は出来るだけ私に触れたくないとばかりに、身を縮める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……キリエ、君の乳首はさくらんぼのように赤いな……ぷりぷりとして、思わずほおばりたくなる……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの態度とは裏腹に、私の手の中で硬く締まってくる乳首が可愛らしく、たまらなくなって口に含んだ。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒06.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅっ……くちゅるっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女の乳首を唾液塗れにし、音を立てて啜る。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0246.ogg"

「嫌っ……やっ、やめっ……やめてぇっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅうっ！　ちゅぷるっ、くちっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の泣き声が聞こえたが、そんなことには構っていられない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

形よく突き出た、愛らしくも淫らな果実……私はそれを夢中になって舐めしゃぶった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0247.ogg"

「あぁっ……やめて、もうっ……これ以上は……っ……はぁっ……んくっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの息が、熱く弾んできた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

波打つ彼女の肉体を押さえつけるように、私は覆い被さり、執拗に乳首を責めた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0248.ogg"

「殺す……んくっ！　はぁっ……ゆ、ゆるさな、い……っ、あふっ……こ、ころ、す……きさま、はぁっ……こ、ろして、やる……んぅうっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの白い肌が、湯上りのような桜色に染まっていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それが何を意味しているのか……私は探りたくてたまらなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、何故そんなに息を切らしている……？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0249.ogg"

「き、きらして、などっ……はぁっ……んっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0250.ogg"

「そ、そうだ……んくっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私はてっきり、キリエが感じ始めているのかと思ったのだが……気のせいか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、指で硬く尖った乳首を倒したり起こしたりして弄びながら、彼女を挑発した。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0251.ogg"

「なっ……！　何を言う、この無礼者！！　誰が貴様の指などで……侮辱するにもほどが……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、確かめてみよう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は有無を言わせぬ口調で、キリエの言葉を遮る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、おもむろに、彼女のスカートをめくっていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0252.ogg"

「や、やめろっ……！！　何をするっ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「確かめると言った」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0253.ogg"

「い、いやっ……や、やめてっ……それだけは……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やめると思うかね？　キリエ……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0254.ogg"

「う、ううっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は遂に涙をこぼしてしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0255.ogg"

「やめて……もう、やめて……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

制止の声も弱々しく、これがあのキリエかと、私は驚きを隠せなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「泣いたって許すものか……君が私を誘惑したんだぞ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0256.ogg"

「ううっ……くっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頬を染め、屈辱に震える彼女。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぽろぽろと溢れる涙も痛々しく、打ちのめされた様子は、さながら嘆きの天使といったところだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「美しい……キリエ、君は、美しい……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の涙が、私の激情を更に加速させた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままでは終われない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はひんやりとした皮膚の薄い太股に、グッと手をかけた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0257.ogg"

「い、いや、いやっ……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

そのまま、薄いパンティーを引きずり下ろし、両足を開かせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

十字架の効果で弱っていたのか、彼女はさほどの抵抗を見せなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ、見せてくれ……君の身体の隅々まで……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は息を詰まらせ、キリエの秘密の花園をそっと開いた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの、まだ誰も見たことがない、穢れを知らない女性器……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それはまさに二枚の花弁のようにほころび、僅かな蜜を蓄えた、朝露に濡れて光る花、そのものだった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0258.ogg"

「あっぁっ……そんなっ……やめて、私は、処女なの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは嬉しい……君は私の為に、処女を取っておいてくれたのだな？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0259.ogg"

「ちがっ……くっ！　くひっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女の香りに誘われるように、鼻先を性器に近づける。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……芳しい、これがキリエの匂いか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

高貴な薔薇の香りと、もっと動物的な、野卑で男を惹きつける匂いが入り混じり、私の鼻腔を刺激していた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0260.ogg"

「やめろ……！　これ以上私を、辱めるな……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは、哀願、に近かった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、先刻君は、私の指では感じない、と言ったはずだ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は無情にも、彼女の秘所にずぶっと中指を埋めていた……。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0261.ogg"

「あぁっ……あぁぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

胎内に咥え込まされた異物の感触に、キリエは悲鳴を上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや、悲鳴とも言い切れない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は意地悪な気持ちで、キリエの様子を見守っていた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒06,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……君の性器は、私のもたらした刺激によって、濡れているようだな……？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0262.ogg"

「う、うぅうっ……んくっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは答えない。泣き顔で、首を横に振るばかりだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、私の指にまとわりつくこの液体は……？　何と言い訳する？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0263.ogg"

「くっ……はぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「これは、愛液、というものだろう、キリエ……君の女性器から、次々溢れてくる……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、君は……私の手によって、感じている！」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0264.ogg"

「う、うぅうぅぅぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは泣き崩れていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最高の気分だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を見下し、嘲笑し、ゴミのように扱った少女を……私が愛する少女を……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

反対に見下し、泣かせ、陵辱している……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

道義にもとる行為だということは、充分理解している……教師にあるまじき行為だということも……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、私はこれをやめる気はない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエを手に入れることが出来たら、他にはもう、何もいらない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0265.ogg"

「うううっ……ひくっ……はぁぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

泣きじゃくり、私の指の動きに身悶えるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女を眼下に見ながら、私は神の気分を味わっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「随分濡らしたものだな、キリエ……愛液が私の手首まで伝ってくる……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実際、彼女はかなり敏感な肉体を持っているようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヴァギナを弄れば弄るほど、愛液は滴るほどに落ちてきて、私の手を濡らしていた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0266.ogg"

「やめて、言わないで……っ、ひっく、うぅうっっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何を恥ずかしがる？　当然の反応ではないか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥らうキリエが益々愛らしく、いとおしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は顔を近づけてキスしたい気持ちを、必死で抑えた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キスなどしたら、そのまま噛み殺されてしまうのは、目に見えていた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0267.ogg"

「貴様のような下等生物に……好きにされるなど……私の、プライドが……許さん……！　んくっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふふ……気持ちがいいのなら、もっと声を出していいのだぞ、キリエ……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0268.ogg"

「だ、誰が、こえなどっ……くっ、ぅうぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの可愛らしい控え目な乳房が、苦しそうに上下する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの興奮が高まっているのは、もはや明白な事実だ。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0269.ogg"

「んっ、くぅっ！　はぁっっ……！　あぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、彼女は唇を噛み締め、今にも漏れ出そうな喘ぎを堪えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「頑固な娘だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の頑なさにため息をつくと、厳かにパンツのジッパーを下げ、ペニスを取り出した。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0270.ogg"

「！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君はもう存分に愉しんだだろう？　キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は痛いぐらいに膨張したペニスを、強く握り締める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これまでになく大きく、醜く怒張した私のペニス……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これを、これから、キリエの身体の中に、挿入する……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

考えただけで、ビクビクと肉棒が震え、絶頂しようと悶える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや、想像だけでは、もう満足できない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今度は私も、愉しませてくれ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、勃起肉を、彼女の膣内に刺し入れた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

lsph 30,":c;image/n02\_1\_34.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_34.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0271.ogg"

「あ゛ぐっ！！　あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛ぁぁぁ～～～～～っっ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは断末魔のような声を上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「は、はははは……やった、とうとう、やったぞ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は暗い喜びに浸っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見れば、キリエの性器は私の男根を無理やり飲み込まされて、赤い血を流している。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「本当に処女だったのだな、君は……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……そして、私の童貞も、キリエに捧げたのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一生純潔を守り抜く決心をしていたこの私に、童貞を捨てさせたキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、そのキリエを遂に征服したという、独りよがりな満足感で一杯だった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0272.ogg"

「く、くそ……貴様なぞに、自由にされて、たまるか……！　くふっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはギラリと光る目で、私を睨みつけた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

とうとう最悪の事態にまで陥ってしまったことで、逆に憎悪がたぎり、また歯向かう力が戻ってきたかのようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……負け犬の遠吠えではないか、君はもう私のものだ」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0273.ogg"

「貴様のものになど……ならない……っ、はぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「痛むのだろう？　無理をするな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0274.ogg"

「痛くなどないっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは吼えるように上体を起こし、牙を剥き出してきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……では遠慮はしないぞ」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は噛み付かれないように軽く身を引きながら、腰だけをズン！！　と突き出した。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0275.ogg"

「あぁぁぁっあぁぁぁぁっぁぁぁぁっーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛みのせいだろう、キリエは仰け反り、聞いてるこちらが悲しくなるような悲鳴を上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おや、痛いのかな？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに対する同情心を覚えながらも、私はわざと冷酷に尋ねた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0276.ogg"

「くふっ！　い、いたくなど、ないと言ったはずだ……！　あぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふふ……強がってばかりだな、君は……そんなところも可愛いのだがね……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0277.ogg"

「か、可愛い……などと言うな！　汚らわしい……！　ふぁっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅっ、ぐちゅっ、ぐちゅっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の細い腰を折れそうなぐらい強く掴み、乱暴に揺さぶりながら抽送する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの膣内は処女のきつさで、ペニスを食い千切らんばかりに締まっていたが、抽送できないほどではない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

むしろ痛いぐらいの刺激が快く、ズルッズルッと襞を引き剥がすようにピストン運動をするのが、何物にも代え難い快感だった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0278.ogg"

「んんっ！！　くぅっ、んっ！　はぁっ、くふっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは歯を食い縛り、苦しそうな鼻息を漏らす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

破瓜の痛みがどれほどのものか、男の私には分からないが……相当痛そうだということは肌で実感する。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0279.ogg"

「き、貴様、覚えていろ……！　はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それでもキリエは折れず、涙の溜まった目で、私を睨んでくる……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ、それでこそ私のキリエ……！　誇り高い私の王女……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の突き刺すような視線を浴び、快感に身を捩る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の態度が、一層私を熱狂させることに、まだキリエは気づいていないのだった……。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0280.ogg"

「うぅっ……はぁっ、早く、終われ、この……馬鹿者がっ……あぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「早く終わるなんてもったいない……君もそろそろ感じ始めてきたのではないか、キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0281.ogg"

「な、何を言っている！　こんな、お粗末な男根で、はぁっ……感じる、はずが……ない、んぅぅっ……だろうが！！　あぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0282.ogg"

「フン……この短小チンポ！　膣内に入っているかどうかも、分からぬぐらいだわ……はぁっ！　くぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0283.ogg"

「これで感じるだと……笑わせるな……はぁっ！　下等生物の下衆チンポを突っ込まれて、んんっ……！　気持ちが悪いったらないわ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは可愛らしい毒を吐く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、合間合間に漏れてしまう甘い声は、もう隠しようがない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエをからかう為に言った台詞だったのだが……まさか本当にそうなるとは、思ってもみなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが私のペニスで感じている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは私に、本当に死んでもいいくらいの喜びをもたらしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……君は気持ちが悪いときに、喘ぎ声を上げるのかね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は悦びの余り、またキリエに意地悪をしたくなってしまった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0284.ogg"

「なっ……！？　あ、喘ぎ声なんて……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

予想通り、キリエは否定するが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「喘いでいるだろう、息を荒くして、鼻にかかった声を出しているじゃないか！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ズンッッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの奥深くを狙って、肉棒を突き上げた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0285.ogg"

「あぁぁぁーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは海老反って、高い声を上げた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

間違いなく、歓喜の声だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「処女でも感じるとは……君は意外と好きものだな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は嘲笑するように言う。内実は嬉しくてたまらなかった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0286.ogg"

「か、かんじて、ないっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

さすがと言おうか、私のキリエはこれくらいでは音を上げなかった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅっ、ぐちゅっ、ぐちゅんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は速く、遅く、深く、浅く……キリエの柔肉をリズミカルに犯し続けた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

初めは硬く締まっていた膣肉がほぐれてきて、ペニスを包み込むように受け入れてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

初めの、肉竿が千切れるような快感とは違う、優しく温かい気持ちよさだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、愛液がどんどん増してくる……君のおまんこが、感じている証拠ではないか……」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0287.ogg"

「お、おまんこなどと言うな！　は、はしたないっ……はぁっはぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はしたないのは、君のオマンコだ……私のような下衆野郎のチンポで、悦んでいるのだからな」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0288.ogg"

「貴様のっ、うくっ……短小チンポなんかで、感じる……わけがないっ……あぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の唇は嘘ばかりつく。……オマンコの方が、よっぽど正直だな！」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0289.ogg"

「あぁぁぁっ、あぁぁっ、あんっ、あぁぁっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

抽送のスピードを上げると、キリエは髪を振り乱し、いやいやをするように首を振り始める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうした？　変な声が聞こえたぞ？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0290.ogg"

「あぁぁっ、いやっ、いやぁっ……！　そ、そんなに、う、うごかさないでぇっ……あぁあっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの態度が急変する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を威圧するような雰囲気は消え去り、泣きそうな顔で硬く目を閉じて、声の調子まで、いかにも弱々しくなっている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうして、動かしたらダメなのかね？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0291.ogg"

「ど、どうしてって……あっぁっ！　らめっ、らめなのっ……！　へ、へんなのっ……あ、貴方のっ……汚いチンポでっ、こすられるとっ……ふぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0292.ogg"

「な、なかがぁっ……おまんこの、なかがぁっ……ふぁぁっ、あ、あつくなってっ……むずむず、してえっ……あぁっっ……らめっ、もう、らめっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いよいよ我慢できなくなってきたのか、キリエはなりふり構わぬ様子で、ひっきりなしに熱い吐息を吐き続けている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

冷たかった肌も火照って、全身に赤みが差し、うっすらと汗までかいていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何がダメなのか、分からないな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はペースを落とさぬように、ピストンを続ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままいけば、キリエの絶頂を見られるかもしれない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は張り切って、腰を振り続けた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0293.ogg"

「い、いやぁぁぁっ！！　そ、そんなに、大きいちんぽ、こすり付けないでっ……！　お、おまんこが、どうにかなっちゃうぅっ……！！　あぁっっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さっきは短小と言ったじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0294.ogg"

「そ、そうよっ、短小、たんしょうよっ……貴方のちんぽなんて、かんじない……っ、あぁっ、感じないんだからぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「感じているんだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0295.ogg"

「う、うぅうぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは真っ赤になって黙り込んでしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……可愛い……なんて可憐なんだ……キリエ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの恥らう姿に触発され、私の勢いは止まらなくなってしまった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅっ、ぶちゅっ、ぐちゃんっ！！　ぬちゅぬちゅっ！！

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0296.ogg"

「あぁぁぁぁ～～～～っっ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの襞肉を、思うまま抉り、奥の奥まで蹂躙する。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0297.ogg"

「い、いやぁぁっ、ちんぽっ、ふかすぎっ……！　お、おまんこがっ、こわれちゃうぅうっっ！　ふあっ、ぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも感じているという事実が、私を鼓舞してやまない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

射精の衝動を感じるが、今はまだこの幸福に浸っていたかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……幸せだ……君も感じてくれて……本当に嬉しいよ、キリエ」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0298.ogg"

「あぁ、いやっ……かんじたくないっ……こんな、強姦ちんぽでなんか、かんじたくないのにぃっ……あぁぁぁ～～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が優しく語り掛けると、キリエはまだ抵抗の素振りを見せていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし感じている」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0299.ogg"

「い、言わないでぇっ……！　あなたの、変態ちんぽなんかでぇっ……かんじたくなんかないのぉっ……ぁぁぁ～～～っ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「認めてしまえば楽になるのに」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0300.ogg"

「貴方なんか、嫌い……！　大っ嫌い！！　大嫌いなあなたのちんぽでなんか、かんじないっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今の発言は、少なからず私を傷つけた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

嫌われても仕方のないことをしている。心は無理でも、肉体だけでも手に入ればいいと思っていたくせに、私は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

未練がましくもまだ……キリエに愛されたいと思っていたらしい……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……では、大嫌いな男の腕の中でイクのだな」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0301.ogg"

「ふぁっ……！？　あぁぁぁぁっぁぁっっ！？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は絶頂に導くスポットを狙って、深く強く腰を打ち付けていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0302.ogg"

「あぁぁっっ！！　お、おまんこがっ、ゆさぶられるっ！！　な、なに、これっ！？　あぁぁっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一生童貞でいるつもりだった私だが、どんなことに対してでも勉強は欠かさない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は女性の身体について、（あくまでも知識としてだが）知り尽くしているといっても過言ではなかった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0303.ogg"

「やぁぁっ、こんなのらめっ！！　おまんこがビクビクしてっ……いやぁっ、おかしいのっ……かってに、おまんこがかってにっ……ふぁぁぁーーーっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクんだ、キリエ……私ももう、限界だ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分がイク前に、なんとしてでもキリエをイカせねばならない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

既に先端から気の早い精液が漏れ出している気もしたが、死に物狂いで腰を使い、放出を堪えた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0304.ogg"

「あぁぁーーっ！　いやっ、そんなっ、わたしっ、こんな最低チンポにイカされるっ……いやなのにっ、レイプされてっ、イカされちゃうっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0305.ogg"

「先生に犯されてっ……極太チンポで、大事なところ、めちゃくちゃにされてっ、くやしいのにっ……イカされちゃうぅぅっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0306.ogg"

「そんなの、いやぁっ……！　だいきらいっ、先生なんて、大嫌いっ！！　乱暴ちんぽなんて、大嫌いっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イけ、キリエ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0307.ogg"

「いやぁぁぁあぁ～～～っ、イキたくないいっ……イキたくないのぉぉっ！！　ふぁぁぁぁぁぁぁ～～～～っっ……！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n02\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅっ！！　びゅぐるるるっ！！　びゅぶるるるるるっ！！　どくどくっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0308.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁ～～～～～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の射精とほぼ同時に、キリエの身体がビクビクと痙攣し、膣が収縮を始めた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_39.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_39.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0309.ogg"

「あぁぁぁーー……いや、こんなのぉ……人間のきたならしい精液……おまんこに注がれた……はぁぁ……いや、もう、いやぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ハァ、ハァ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は全身に汗をかきながら、えもいわれぬ達成感で満たされていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……最後まで心は手に入らなかったが、身体だけでも掌中に収めることが出来た。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

初恋の人を初体験の相手に出来たのだ……それだけで満足するべきだろう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……愛しているよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに笑いかけた。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0310.ogg"

「……」

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/n02\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0311.ogg"

「私は大嫌いよ、先生……」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは例の、甘くとろける声で、私の心臓に杭を打ち込んだ。

\

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、身だしなみを整え、未だ縛られ、犯されたままの姿のキリエを見下ろした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少なからず……私はキリエを恐れていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しい少女とはいえキリエは吸血鬼であるし、何より、片想いの相手として、私はキリエに嫌われることを、恐れていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……キリエを力で征服してしまった今……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女を怖がる気持ちは殆どなくなっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やっぱり彼女は、私の運命の恋人であると、そう確信すらしていたのだった。

\

lsph 30,":c;image/n02\_1\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n02\_1\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0312.ogg"

「うぅ……く……はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぼんやりと見つめていると、何だかキリエの様子がおかしいことに気がついた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、どうした……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0313.ogg"

「はぁ、はぁ……そ、その、ロザリオ、が……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「これか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、行為の最中ずっと手に提げていたロザリオを掲げる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0314.ogg"

「うぅっ……ロザリオの、ひかりに、さらされ、すぎ、て……はぁっ……くるし……はぁっ、ぁぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は狼狽してロザリオを内ポケットにしまいこむ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、大丈夫か、キリエ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0315.ogg"

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはぐったりとして、声も出ないようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、私は何ということをしてしまったのだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

幾ら吸血鬼だからといって、愛する少女に非道なことをしてしまった……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

十字架の効果がどれほどのものか分からぬままに、彼女をずっと脅威に晒し続けるとは、なんと不注意だったのか……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままキリエが衰弱してしまったりしたら……私はどうすればいいのだ！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、しっかりしてくれ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女を拘束していたロープを解いた。

\

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0316.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の腕の中で、目を閉じてじっと動かない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、キリエすまない！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の身体を抱きしめ、心の底から詫びた。

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚峫偊傞02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0317.ogg"

「……ね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ん！？　何か言ったか、キリエ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

微かな彼女の声が聞こえて、私がガバッと顔を上げると……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0318.ogg"

「こんなことをして、地獄への道を急いだわね！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最早理性をなくし、怒りに目を真っ赤にした、キリエの顔があった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「き、きりえ……大丈夫なのか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

既に先刻の具合の悪そうな様子は芝居だと気づいていたが、私はそう尋ねずにはいられなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚椻崜01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0319.ogg"

「処女を奪われて、大丈夫なわけがないでしょう、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……それは勿論だ……すまなかった……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0320.ogg"

「すまなかった……だと？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、ギリリと音が聞こえるような気がするほど、眉を限界まで吊り上げた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0321.ogg"

「謝って済むとでも思っているのか！！」

\

csp2 4

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝04.ogg"

bgm "music/nbgm05.ogg"

lsph 30,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

磅————！！

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒04.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

何を考える暇もなく、私の身体は宙を飛び、次の瞬間壁に叩き付けられていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ぐはっ！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

頭をしたたかに打ち、目の前が白く濁る。

\

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

頭の中が空白のまま、薄く目を開くと、キリエが仁王立ちになっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ、私はキリエに投げ飛ばされたのか、と理解するまでに大分時間がかかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0322.ogg"

「……どうやって、殺して欲しいですか、先生」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの、深紅の瞳が冷たい光を放ち、私は彼女が本気であることを知った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0323.ogg"

「先生……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、一歩一歩近づいて来る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も、死へと一歩一歩近づく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

覚悟は出来ていたはずだ……が。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うわぁぁぁぁぁぁっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

死を目前にして、私はその恐怖に打ち勝つことが出来なかった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仴憱傞02嬱偗懌01.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は頭を打った痛みも感じぬほどにアドレナリンを分泌させ、脱兎のごとく部屋から飛び出す。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0324.ogg"

「待て！！」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの怒声が背後から聞こえる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛するものに、大人しく首を差し出してやるべきだったのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、キリエの肉体の魅力を知ってしまった今、以前よりもっと死にたくなくなっていることに気がついた、浅ましい私なのだった……。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯憱傞怷.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ハァ、ハァ、ハァ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もうどれぐらい走っただろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何十時間も走ったような気がするが、ほんの２～３分かもしれない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

既に、キリエの洋館が見えないところまでは来ているが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

幾ら足を限りに走っても、森の出口には達しなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……貧血だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

眩暈と、性交の疲れと、恐怖で足がもつれる。

\

dwavestop 2

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒03.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は腐った葉と湿った土の上に転倒した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

幸い雨はもうやんでいたが、ジメッとした嫌な感触が、私の頬を冷やした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すぐに起き上がろうとして、また地面に臥せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

明らかに体力の限界だ。少し休まねば、あと一歩も歩けそうにない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが追ってくる様子はない。足音も聞こえないし、そもそもこんな夜の森へ、少女一人で来るとも思えない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このまま……少しだけこのまま……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は目を閉じ、大地に身体を預けた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

聞くともなしに、様々な夜の音が聞こえてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

風の音、木の葉のざわめき、得体の知れない虫の鳴き声、遠方から自動車の走行する音なども聞こえてくる……。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯塇偽偨偒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんなものに耳を傾けていると、バサバサッ……と、何か鳥の羽音のようなものが近づいてくるが分かった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この辺りには何の鳥がいるのだろう……。

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

呆然とそんなことを考えていると、不意に私の頭上で羽音がやんだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……ん？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0325.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見上げると、どこにも鳥は存在せず、突如として、キリエが目の前に立っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は咄嗟に身体を起こし、ロザリオを取ろうとポケットに手を入れる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0326.ogg"

「往生際が悪いぞ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僗僀儞僌壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが優雅に手をひと振りすると、突風が巻き起こり、私はロザリオを取り落とした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0327.ogg"

「先生……いい加減にしてください」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠敍傝.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは這い蹲ったような格好の私を、シャツの襟首を掴み、強引に引き上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「グッ……くるしい……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0328.ogg"

「苦しいの？　フフ……いい気味」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の首を絞めながら、ニンマリと微笑むキリエ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚挧敪01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0329.ogg"

「先生はどこまで愚かなんですか？　あんなことをしておいて、私から逃げられるとでも、思ったんですか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口調は優しいが、どす黒い怒りを滲ませている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ど、どうやって追ってきた……？　足音も、聞こえなかった……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は時間稼ぎをするために質問をぶつけてみた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0330.ogg"

「私はヴァンパイアですよ、先生……夜の闇を行くときは、蝙蝠が一番……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そうか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そういえば、昔読んだ小説の中では、吸血鬼は蝙蝠や狼に変身出来るとあった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれは本当のことだったのか……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0331.ogg"

「さあ、お望みどおり、殺してあげますよ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の肩を、爪が食い込むほどに押さえつけ……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0332.ogg"

「がぶっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

重々しく、首筋に牙を突き立てた。

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0333.ogg"

「ちゅううっ！！　じゅちゅるるるっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「く、はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……遂に私は死ぬのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

劈くような鋭い痛みの後に、快感がやってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

夢うつつの意識の中で、篝ノ霧枝との想い出が、次々と浮かび上がってきた。

\

bgm "music/nbgm06.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで、幻灯機のように。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで、走馬灯のように。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは幸せな想い出ばかりだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの美しい姿が、生まれては消え、生まれては消え……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

面影は尽きることなく、私の心を満たしてくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……キリエ……ありがとう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君に出会えて、よかった……」

\

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0334.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれほど私を支配していた彼女への恐怖心は、霧のように掻き消えていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の心の中には、彼女への愛だけがあった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最後まで、私を愛することはなかったキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それだけが心残りだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、彼女のひんやりとした腕に抱かれていると不思議と悔いはなく、私は本望であった。

\

dwavestop 2

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ハッ……！」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

思いもかけないことだったが、私は目覚めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、生きてる……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は上半身を起こし、己の身体に触れて、生きていることを確かめた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何故……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一体、あれからどうなったのかと、周りを見回す。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ここは、キリエの……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

寝室……のようだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの、天蓋付の寝台に寝かされていた。

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0335.ogg"

「気がつきましたか？　無鉄砲な先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！　キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0336.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは無表情で、じっと私を見つめている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

穴の開くほど、じっと。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……何故、私を……助けてくれたのだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はばつが悪くなって、彼女を直視することが出来なかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0337.ogg"

「さあ……自分でも分からない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は事も無げに言い放つ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0338.ogg"

「何だか急に、どっちでもいいような気がしてきたの……貴方を生かすも殺すも、どっちでも……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分でも、自分の気まぐれに戸惑っている、そんな顔をしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……私を、憎んでいるんだろう」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0339.ogg"

「ええ。憎んでる。だから、殺そうと思った……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0340.ogg"

「……けれど、３００年ばかり生きてきて……私にこういう事をした人は初めてだった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「３００年……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は唖然として聞き返す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

３００年前といったら、日本は江戸時代ではないか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは余りにも長い年月で、私には想像もつかなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は、３００年も生きているというのか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0341.ogg"

「……３００年は長いわ……気が遠くなるほど、長い……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

遠くを見るような目で、キリエは呟く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の目は何を見ているのか。過ぎ去ってしまった……最早戻ることの出来ない過去の出来事を見ているのか……。私には分からなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0342.ogg"

「私は、退屈していた……長い年月を、生き過ぎた……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0343.ogg"

「私は……変化を求めていたのかもしれない……それが、私にとって、悪いことだとしても……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚暁偟栚05.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0344.ogg"

「変わりたかったのかもしれない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0345.ogg"

「先生は、私に変化を与えた……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0346.ogg"

「だから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生かしてくれる、というのか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ありがとう……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0347.ogg"

「別に……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が頭を下げると、キリエは素っ気無く答えた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0348.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの、美しく、静謐な横顔を見て、私は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

３００年の間、彼女は寂しかったのではないか、と思った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0349.ogg"

「それに……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0350.ogg"

「さっき、私の体内に注がれた精液だけど……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきなり話題が変わり、ドキリとする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0351.ogg"

「どうやら、精液も血液と同じように、エネルギーに出来るみたい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「血液と同じように……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0352.ogg"

「ええ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、何だか嬉しそうにニッコリと笑った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「つまり……性交は君にとって、血を吸うのと同等のことだと……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0353.ogg"

「そうなるわね。精液を体内に取り込んだ場合のみ、だと思うけれど」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血鬼の小説には出てこなかったが、そんなこともあるのだろうか……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0354.ogg"

「もう少し、あなたから精液をもらうのもいいかもしれない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

では、私はこれから、キリエに血液と精液、両方を吸い取られることになるのだろうか……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……今後の生活が、楽しみでもあり、恐ろしくもあり……複雑な気分だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0355.ogg"

「……では、もう少しおやすみなさい、先生……明日も学園はあるのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0356.ogg"

「ほら、シーツをかけて」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を強引に寝台に倒し、上からシーツをかけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0357.ogg"

「何」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……と、いうことは、泊めてくれるのか……私を……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は突然降りかかった幸福に対処しきれず、あたふたと慌ててしまう。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0358.ogg"

「ええ……もう丑三つ時だし……泊まっていけばいいじゃない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……私は余りのことに、頭の中が真っ白になってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、ありがとう……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの手を握り締めようとして、身体を起こす。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗02\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0359.ogg"

「フン」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝06杍傪挘傞.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鼻息と共に、呆気なく私の手は振り払われた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、痛いな……キリエ、何をする」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0360.ogg"

「薄汚い手で私に触れるな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どうしたのだろう……先程までの幸せな気持ちが、まるで砂糖菓子のように粉々に崩れていく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……私を仲間と認めてくれたのではないのか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0361.ogg"

「下らない世迷言はやめてください、先生……貴方は食料……それ以上でも、以下でもないわ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし、泊まっていいと……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0362.ogg"

「食料だって、家で保存するでしょう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身も蓋もない……が、その通りなのだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は本当なら殺されるはずだった……それが、キリエの寝台で眠ることを許される身分にまでなったのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

例え食料にしか過ぎないとしても、食料の中では、大変な出世株であることは間違いない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今はこれで、満足するべきだろう……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0363.ogg"

「では、私は行くわ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、骨董品のような燭台を持って、部屋から出て行こうとする。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「一緒に寝てくれるのではないのか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0364.ogg"

「……やっぱり死ぬ？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……勿論私は一人で休むとしよう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は頭からシーツを被り、横たわった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0365.ogg"

「おやすみなさい、先生……」

\

mov %sn,4:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,430:mov %sy1,600:mov %sy2,260:mov %so1,255:mov %so2,0:idou

csp2 4

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僪傾暵傔03.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私をからかう口調で言い捨ててから、キリエは姿を消した。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが燭台を持っていってしまったので、部屋は暗く、私にのしかかるような威圧感を与えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一人になった私は、愛するものの名を呟く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエとの関係は……一歩前進と思っていいのだろうか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

小さな一歩ではあるかもしれない……だが、いずれは……。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、希望を胸に抱きながら、ひとまず眠ることにした。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯僝儞價僈僒僑僜01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ガサゴソ、ガサゴソ……

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ん！？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

妙な音が聞こえて、私はシーツを払いのける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は夜目がきく方ではないが、じっと目を凝らしていると、段々音の正体が見えてきた。

\

dwavestop 2

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

mov %sn,7:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,400:mov %sy1,600:mov %sy2,240:mov %so1,0:mov %so2,255:idou

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不気味な物体が、何体も、部屋をウロウロしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何だ、お前達は、一体……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ソレの外見は、映画でよく見るゾンビ……そのものなのだが、まるで英国の執事が着るような、上等のお仕着せ姿をしている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事＠ゾンビ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomv0001.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あ～とは何だ……お前達、ここで何をしている……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事＠ゾンビ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomv0002.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どうやら口をきくことが出来ないようだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

よく見ると、大勢のゾンビ共はそれぞれ箒や塵取りを持って、この部屋を掃除しているのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……キリエの命令か……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事＠ゾンビ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomv0003.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「も、もういい、私は寝る……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血鬼は夜活動する……という訳で、彼女が眠らないこの時間が、普段の掃除タイムなのか……？

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯僝儞價僈僒僑僜01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ガサゴソガサゴソ……

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うるさい……」

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、いつ終わるとも知れないゾンビ達の掃除の音をＢＧＭに、眠りの世界へと旅立ったのだった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

sw

\*L\_kk\_main\_06

sw

;\*L\_Main

sw

sw

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

\*L\_Replay06\_01

mov %Replay06\_01, 1

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すやすや……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯僔乕僣尀傝01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バサッ

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ん……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

布がはためくような音がして、目が覚めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……そうだ、ここはキリエの家だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は昨夜、キリエの寝室に泊まったのだ……と、目を閉じたまま現状を把握する。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0366.ogg"

「フフ……無用心な先生……貴方の寝首をかくのは、簡単そうね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

物騒なことを囁く声も聞こえる。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が眠い目を（ゾンビ達のせいで中々眠れなかった）やっと開いたとき……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm10.ogg"

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

股間のファスナーを下ろし、昨日性交したままの、汚れたペニスを取り出すキリエの姿があった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……何をしている！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

風呂にも入っていない、汚れた姿など、キリエに見せたくはない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は恥ずかしさで彼女を押しのけようとするが……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0367.ogg"

「何を慌てているのですか、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、私などの力では、到底押しのけられるものではない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恥ずかしがるどころか、実に堂々とした態度で、ペニスを弄くり、じっと見つめているのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……これは一体何の真似なんだ……早朝からこんな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はなんとか、居住まいを正そうする。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0368.ogg"

「落ち着きなさい……見苦しい人ね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエには、私の倫理観は伝わらないようだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0369.ogg"

「貴方の精液を、またもらおうかなと思っただけよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液を……だと！？

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0370.ogg"

「あら、何を驚いているの……精液をもらうって、昨日も話したでしょう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……しかし、こんなにすぐだとは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0371.ogg"

「嬉しいくせに、もったいぶるのはやめなさい。可愛いとでも思っているの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

朝っぱらから毒舌を浴びせられ、気持ちが萎える。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0372.ogg"

「ふふ……貴方のおちんちんに聞くのが早いわ……ほら、もうこんなに膨らんで……嬉しそうにしているじゃない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、肉棒の方は、私の心とは正反対の反応を見せていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……君は、嫌じゃないのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私のことなど嫌いだといったはずでは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それとも、思い直して、私のことを認めてくれたのだろうか……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0373.ogg"

「ふん……食べ物と思えば、気にならないわ。こんなもの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんなもの……か。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

簡潔に両断され、私は嬉しいのか悲しいのか恥ずかしいのか、自分の心のこととはいえ、混乱の極みだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……昨日あれから……風呂にも入っていないが……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0374.ogg"

「そうね。確かに匂うわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは優雅に鼻をしかめた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「せめて、風呂に入らせてくれないか」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0375.ogg"

「ふ～ん……これが男の匂いというものなの……汚らしい……鼻が曲がりそうだわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「す、すまない……だから風呂に……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0376.ogg"

「勝手なことを言わないで。ここは私の家よ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、臭いのだろう……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0377.ogg"

「ええ、臭いわ……嫌らしい男の匂いが、むんむんとして……おぞましい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だったら……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0378.ogg"

「フフ……何を赤くなっているの。バッカみたい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

からかわれていたのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、自分の頬が熱を持つのを感じる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そしてペニスも、キリエの手の中でどんどん熱を持ち、膨らみが増していくように思えるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0379.ogg"

「先生って、ウブなんですね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「からかうのはよせ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0380.ogg"

「私にあんなにひどいことをしておいて、オチンチンを見られたぐらいで恥ずかしがるのですか」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……そ、それは、すまなかったと思っている……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0381.ogg"

「では、少しの羞恥ぐらい、耐えて見せてください」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0382.ogg"

「フフ……先生って、おかしい……もしかして、童貞だったのですか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

図星を指されて、私は真っ赤になった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0383.ogg"

「え……？　まさか、本当に……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「～～～っ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は何も言えずに俯いてしまった……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0384.ogg"

「ふふ……ふふふふふ！　童貞の癖に、私を犯したというのか！　何という男……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの高笑いが耳に痛い。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君を愛するが故だ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

早朝からキリエに侮辱され、もうどうにでもなれといった心境だった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0385.ogg"

「先生……そんなに私が好きなんですか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは面白そうに私の顔を覗き込む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「好きだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はまるで猫にいたぶられる鼠だった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0386.ogg"

「そう……じゃあ、喜んで下さいよ……可愛い教え子の私が、フェラチオ……してあげるんですから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_40.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_40.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0387.ogg"

「ちゅうううううっ！　くちゅるっ、ちゅくっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、有無を言わさずパクッとペニスを咥えると、吸血する時のようにチュウチュウと音を立てて、強く吸引し始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

血を吸われる時、私はいつも陶酔のうちに気絶してしまいそうになるのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

男根を吸われるのも、同じように気が遠くなるような快感を私にもたらしてくれている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の唇も、舌も、まるでヴェルヴェットのように柔らかく、絡みつく唾液は蜂蜜みたいに粘っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っく……君の、唇はどうなっているのだ……？」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0388.ogg"

「どうなっている、とは、どういうことよ……ちゅるるっ、ぴちゃっ、くちゅるっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……私のペニスに、ぴったりと、張り付くようで……まるで、生き物みたいに、ぬめぬめと、動くから……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0389.ogg"

「れろれろっ、ちゅううっ！　生き物みたい、ですって、何だか失礼な言い方ね……くちゅっ、れるれるっ、どんな生き物だと言うの？　ちゅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0390.ogg"

「この私が、高貴な舌で、貴方の臭くて汚らわしいおちんちんを、舐めてあげてるのよ？　ちゅるっ！　もっと感謝しなさい。れろぉっ、ちゅぱっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはベロベロと舌全体で肉棒を舐め回す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤く濡れた舌は、ペニスの窪みや亀頭の先端まで縦横無尽に動き回り、私の知らない快感のポイントまで、探り当てていくようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……すごい……君は、これも、経験が、ないのだろう……？　なのに、何故、こんなにも……気持ちよく出来るのだ……はぁっ……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0391.ogg"

「経験がないですって……本当にそう思っているの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……では、経験があるのか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その時私の心に湧きあがってきたものは、嫉妬、だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

処女を奪ったことで、彼女の貞操を独り占めしたような気になっていたのだ。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0392.ogg"

「れろ～～～っ……ちゅっ！　私はこんなにフェラチオが上手いのに……未経験だと、本当に思うの……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は試すような目で私を見つめる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の嫉妬心を煽り、面白がっているのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

惚れた方が負け、という俗な言い方があるが、まさに私はそれに当てはまると実感した。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0393.ogg"

「ちゅくちゅくっ！　男の嫉妬は醜いわよ……先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君が、私に嫉妬させているんだろう……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0394.ogg"

「ちゅぅぅうっ！　くちゅくちゅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、なぁ、本当に経験があるのか……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0395.ogg"

「じゅるるっ！　ちゅぱっ、ちゅぷるっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「教えてくれ、キリエ！　気が狂いそうだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今、キリエにペニスを舐めてもらっているのは、間違いなくこの私だというのに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

同じことをしてもらった男がこの世に存在しているのかと思うと、その男を殺してやりたいような気持ちに襲われる。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0396.ogg"

「ふふ……あははは……凄い形相……本気にするなんて、バカみたいですよ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の顔を見て、突然キリエは笑い出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0397.ogg"

「いもしない男に嫉妬して、殺意を燃やすなんて……先生って、まるで子供ですね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……ということは」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0398.ogg"

「ええ。私がフェラチオした男は、先生が初めてよ……ご満足？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、ニヤッと微笑む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私をからかって、キリエも満足なのだろう。笑ったときに唇の隙間から犬歯が見えるほどだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……とても満足したよ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はほっと息をつき、目を閉じた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛するキリエは私だけのものだという実感……それが快感と共に迫ってきて、嫉妬を全て覆い尽くしてゆく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……私は何と幸せなのだろう……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0399.ogg"

「何をニヤニヤしているのよ……気持ちが悪い。さっさと精液を出したらどうなの？　ちゅうっ、くちゅるっ、ちゅぱっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0400.ogg"

「いつまで私にこの臭いおちんちんを吸わせるつもりなの？　全く、図々しいったらないわね！　ちゅううっ、ちゅるるっ！　ちゅくっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0401.ogg"

「さあ、この薄汚いおちんちんから、たっぷり臭い精液を出しなさい……濃厚な絞り汁を、沢山出しなさいよ……ちゅうちゅう、れりゅっ、くちゅるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0402.ogg"

「あぁっ、もう……早く出して……ちゅううっ、飲みたいのよ、貴方の精液が！　早くしなさい、ちゅうっ、ちゅるるるっ！　れちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_40.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_40.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……もう、出そうだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

可愛いキリエに、『精液が飲みたい』等と言われては、もうたまらない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

先程から感じている幸福感と一緒に、オーガズムが怒涛のごとく迫ってくる。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0403.ogg"

「ちゅううっ！　さあ、イキなさい、貴方の下等なオチンチンから、下等な精液を出して、私の喉を潤しなさい！　ちゅうううぅううぅうっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n03\_1\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるっっ！！　びゅるるるるっ！！　どくどくっ！！　ぶびゅるっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は呆気ないほど簡単に、絶頂に達した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口内に吐き出された私の精液を、キリエは頬をすぼめ、一滴も漏らさずに吸い取っていく……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0404.ogg"

「んくっ、んくっ……ちゅぷるっ！　んっ……はぁ、臭くて、濃いんですね、先生の精液は……ちゅるっ、ちゅうちゅうっ……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0405.ogg"

「あぁ……いやだ、ネバネバして、喉に絡みつくわ……おぞましい感触……んっ、ごくっ！　れちゅうっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それにしては、丁寧に舐めてくれているじゃないか……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0406.ogg"

「ちゅっ、まぁ、食料ですもの、仕方がないわ……れるれるっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そっけなく言うが、精液を舐め取るキリエの舌使いは、その口調とは違い、優しく丹念なものだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0407.ogg"

「ちゅくちゅくっ、ぺろっ、んちゅううっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ありがとうキリエ……もうそのくらいでいいだろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大方綺麗になったペニスを見下ろし、私はキリエに声を掛けた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0408.ogg"

「……何を言っているの？　れるれるっ、ちゅぴっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、だから、そろそろ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は肉竿をしまうような仕草をするが、キリエに押しとどめられた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0409.ogg"

「先生……これは私の朝食なんですよ。邪魔しないでください」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……まさか、まだ続けるというのか……？」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0410.ogg"

「ええ、勿論。ちゅううううっ！　ちゅじゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは改めて肉棒を咥え直すと、右手で根本を扱きながら頭を上下させ始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……、キ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0411.ogg"

「ちゅるっ、ぴちゃ、ちゅうっ……くちゅるっ！　ちゅーっ、じゅちゅうっ！　はぁっ、ぷちゅるっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの唇はペニスに吸い付き、離れない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

飲み込まれるかと思うくらい深く咥えられ、舌先でチロチロと亀頭を舐められる。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0412.ogg"

「くちゅううううううっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

強引なまでに強く吸い上げられ、口内粘膜に先端を擦り付けられた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁっ……くっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまでされては、もう成す術がない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の堪え性のないペニスが、再び復活するまでにたいして時間はかからなかった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0413.ogg"

「先生……私まだお腹がすいているんです……だから先生のまず～いオチンチン汁、また飲んであげますから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「飲んであげますからって……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0414.ogg"

「ちゅくっ、れりゅれりゅれりゅっ、んちゅうっ、くちゅるっ、ぴちゃっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頼んでなどいないのだが……キリエは私のペニスにむしゃぶりつく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

正直な話、一度してもらえばもう充分ではあるのだが……キリエは決して、私の意志を尊重するようなことはないだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが飲みたいと言うのであれば……私は従うしかないのだ。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0415.ogg"

「何ですか、先生……もしかして、嫌なのですか」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……勿論、嫌なわけがない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0416.ogg"

「そうですよね……先生は、私が大好きなんですものね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……そうだ」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0417.ogg"

「ふふっ……素直な奴隷は、私も大好きですよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが嬉しそうにしているのだ。それ以上は何も望むまい。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0418.ogg"

「ちゅうううっ！　嫌だなんて、贅沢なこと、言いませんよね……ぺろぺろぺろっ……教え子と、こんなにエッチなことしておいて……くちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0419.ogg"

「大好きな私に、ここまでしゃぶってもらえるのですから、ありがたく思ってください、先生……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0420.ogg"

「そうじゃないと、罰が当たりますよ……ちゅうっ、ちゅるるるるっ、れるっ、ちゅぷうっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は何度も頷く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今や私は、快楽に頭の中を占領されている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの舌がペニスに触れ、唾液をまぶし、しゃぶってくれること……そして、スペルマを飲み干してくれること……それだけが私の望みだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_44.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_44.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0421.ogg"

「ふふ……おひんひんが、くひのなかれ、大きくなりまひたよ、せんせい……ちゅるっ、くちっ、ちゅううっ……！　れるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0422.ogg"

「もう、イキそうなんですか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悪魔的な笑みを見せ、わざと一切のフェラチオ行為を中止する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

また私をいたぶって、面白がるつもりなのか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……も、もう少しで、イキそうだ……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0423.ogg"

「ふふ……また生徒の口の中に、不浄な精液を溢れさせるつもりなんですか？　貴方って、いけない教師だこと……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは分かっている！　だから、早く……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0424.ogg"

「ふふふふ……何を開き直っているの、貴方って本当に最低ね……生徒をレイプするぐらいですものね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0425.ogg"

「貴方って、心底変態、ですよね……先生」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、私は変態だ、それがどうしたのだ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は投げやりな気持ちで言い切った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もう侮辱などどうでもいい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絶頂に昇りつめられるのなら、どうでも。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0426.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の言葉を聞いて、しばしぽかんとし……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0427.ogg"

「あははははは……！　自ら変態と認めるとは……全くおかしな男だ……！　あははははは……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それから、例の高笑いを始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「早くイカせてくれ……頼む！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0428.ogg"

「分かった分かった、そう焦るな……くっくっくっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を哂いながらも、再び肉棒を咥えてくれた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0429.ogg"

「あむっ……ちゅううっ、ちゅぷちゅぷっ、ちゅぴっ、ぴちゃぴちゃっ、れるっ、くちゅうっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は目を閉じて、官能に身を任せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

温かく柔らかなキリエの口の中に、身体ごとたゆたってしまいたいような、底なしの官能に、飲み込まれてゆく……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0430.ogg"

「いいですよ、先生……だして、くらさいっ……ちゅっ、ちゅじゅっ、んちゅっ、貴方の不潔な、オチンチン汁……私の口の中に、出して……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0431.ogg"

「ちゅるるるるるっ、ぷちゅううううっ……れるれるっ、じゅちゅぅぅぅうっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

根本まで飲み込まれ、亀頭を引っ張られた……と思った途端、精液が先端まで吸い上げられる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、出る……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n03\_1\_56.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_56.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぐるるるっ！！　ぶびゅるるるっ！！　びゅるるっ、ぶりゅるるるるっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気がついたときには、もう放出してしまっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今頃何億もの精子が、キリエの喉に向かって、泳いでいることだろう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0432.ogg"

「んんっ、ごくっ、んくっ……ちゅうううっ……ごくんっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の精液を、エネルギーとして吸収する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実際、精液を飲むに従って、彼女の顔色は少しずつ赤みが差してきているような気がした。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0433.ogg"

「ふぅ……貴方の精液の味にも、大分慣れてきたわ……苦くて、まずいけど、飲めないことはないわね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それはどうも……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0434.ogg"

「ええ……本当はこんなもの、勿論飲みたくはないけれど……血に飽きたときは、まぁ……これで代用できなくもないわね……ちゅぴっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は分別ぶった顔で言いながらも、男根を離そうとはしない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

子供が舐め切ってしまったアイスの棒を離さないように、未練がましくペロペロと舐め続けている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……もういいだろう」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0435.ogg"

「ちゅっ！　うるさいわね……下僕の癖に、主人に逆らうつもり……？　ちゅ、くちぃっ！　貴方は、私に従っていれば、それでいいのよ……ちゅうっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは亀頭を口に含み、舌先でくすぐるように鈴口を撫でる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

チリチリと焦げるような刺激を亀頭に感じ、電気信号によって腰が跳ね上がる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……くっ！　キ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0436.ogg"

「ふふっ……ほら、もう勃起しているじゃないの……全く、呆れた不道徳オチンチンだわ……ちゅうっ、くちゅるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0437.ogg"

「逆らったって、ダメよ……ちゅくちゅくっ！　貴方のおちんちんは、私のものなんだから……ちゅっ！　黙って、精液を、出していればいいのよ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは断定的に言い切ると、より激しくペニスに吸い付いてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、もう、出そうにないのだが……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_53.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_53.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0438.ogg"

「あら、出るわよ。私が、必ず出させてあげる……ちゅぱっ、ちゅうちゅうっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自信満々に答える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

合計３回もの射精は、中年に差し掛かった私にはかなりキツイものがあるのだが……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_56.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_56.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0439.ogg"

「ちゅうううううっ！　れろれろれろっ、ちゅぱっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の舌技にかかったら、それも不可能ではない気がしてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実際、脇腹の辺りがゾワゾワとし始め、じっとしていられないような気持ちよさで、ペニスがまた更に大きくなっていた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0440.ogg"

「あら、勃起ちんぽが、びくって動いたわ……フフ……よっぽど気持ちがいいのね。恥ずかしい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに嘲笑われることにすら、快感を覚えてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……私は途轍もない畜生道に落ちてしまったのか。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0441.ogg"

「それでいいのよ、先生……さ、もっとおちんちんを大きくして、破廉恥な精液をいっぱいお出しなさい。ちゅっ、ぷちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_51.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_51.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0442.ogg"

「私が、ゴクゴク飲めるくらい、ザーメンミルクをいっぱいいっぱい、キリエのお口に流し込むのよ……ちゅるるるるっ、くちゅるっ！　ちゅうっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは唇で雁首を挟みこみ、めくるように引っ張ってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスを上に引っ張られると、精液も同じように上へ上へと昇っていくようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「も、もう、出そうだ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0443.ogg"

「そう？　フフ……いい子ね。ザーメンを零さないように、全部キリエのお口の中に出しなさい……ちゅうううううっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、仰け反るような快感で、目をぎゅっと閉じた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

閉じた目の中で、青い炎が燃えるようだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_56.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_56.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0444.ogg"

「出して出して……！　先生のいやらしいおちんちん汁、キリエにちょうだいっ……ちゅうっ！　オチンチンミルク、キリエに飲ませてっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n03\_1\_63.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_63.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅびゅびゅびゅーーーっ！！　びゅるびゅるっ！！　びゅくびゅくびゅくっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

扇情的な言葉に乗せられて、私は思い切り精液を迸らせた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_59.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_59.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0445.ogg"

「ごくっごくっごくっ……んっ、そうね……最初は、喉に詰まると思ったけど……ごくっ、れちゅっ……こつが分かってきたわ……んくっ……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0446.ogg"

「はぁ……それにしても変な匂いね、精液って……動物的って言うか……何だか頭がクラクラする匂いだわ……ちゅっ、れろれろ～っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはブツブツと呟きながらペニス全体に舌を這わせ、残った精液を舐め取っていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0447.ogg"

「ん……んちゅっ……あら？　もうおしまいなの？　ちゅうっ、じゅるるっ！　もっとあるはずよ、奥にはもっと……ちゅううううっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ、うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、ペニスの奥……鈴口をこじ開け舌を差し込み、残っている精液を掻き出そうとし始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……それはっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0448.ogg"

「この中に、まだあるわ……ちゅうっ！　味がするもの……れろれろれろぉっ、ちゅっ！　もったいぶらずに、全部出しなさい……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だ、だめだ、また……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しつこく、鈴口を刺激され続けていると……私の肉棒は性懲りもなく、またドクドクと膨張を始めるのだった……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0449.ogg"

「きゃっ……お、おちんちんが、また大きく……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきなり膨れ上がったペニスを見て、キリエも流石に驚きを隠せないようだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0450.ogg"

「へえ……まだ、出来るんですね、先生……見直しました」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そうか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが目を丸くし、素直に見直したと言ってくれたことが嬉しい私だった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや、こんなことで見直されるというのも、複雑な気分なのだが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0451.ogg"

「勃起した……ということは、またフェラチオして欲しい、ということなのですよね？　先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは妖しく目を光らせ、挑むように尋ねてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……君が、嫌じゃなければ……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0452.ogg"

「嫌ですよ……また貴方の精液を飲むなんて、吐き気がするわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはいかにも嫌そうに顔を歪めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な……では、今更どうしろというのだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今まで散々舐めてきたというのに、急に嫌だなんて、そんなことがあるのだろうか。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0453.ogg"

「ふ……御自分の手でシコシコと扱かれたらどうですか？　見ていてあげても、いいですけど」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そんな……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何と陰険な……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これまで強引に勃起させていたくせに、私が自主的に勃起した途端、オナニーをしろなどと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の性格の悪さに、今更ながらに驚いてしまった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0454.ogg"

「くっ……くっ、くっ、くっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが私を見て笑い出した……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何だ……？」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0455.ogg"

「あ、あはははは……先生……先生をからかうと、本当に面白いですね……くくくくっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、からかった……のか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

またしても、私はキリエに遊ばれていたらしい……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0456.ogg"

「心配しなくても、またイカせてあげますよ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少々腹立たしさを感じないでもなかったが、キリエに甘い声で『先生』と呼ばれると、何もかもどうでもよくなってしまった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それどころか、またキリエの唇で絶頂を迎えられると思うと……それだけで私の心は幸福で満たされた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0457.ogg"

「先生の、精液が飲めると思うと、私も嬉しいですよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはねっとりとした口調で言う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの流し目が、私を射抜く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、こんなにも幼く見えるというのに、この凄まじいまでの色気は、一体どうしたことなのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままではキリエに、骨抜きにされてしまう……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0458.ogg"

「ふふ……また本気にしたのね……単純……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0459.ogg"

「でも、半分は本気なのですよ、先生……貴方の精液の味、嫌いではなくなってきたわ……ちゅっ、ちゅぱちゅぱっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは妖艶な笑みを浮かべると、舌を大きく動かし、私の肉棒を唾液でどろどろに濡らしてゆく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何度も出した精液と、キリエの唾液で、肉棒はどっぷり油にでも浸かったように照り輝いている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤黒く変色したペニスが放つその光は、とても自分の一物とは思えないほどグロテスクで……エロティックだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_60.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_60.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0460.ogg"

「フフ……貴方のオチンポ、またビクビクしているわね……まるで化け物だわ……貴方のおちんちんこそ、別の生き物みたいよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエがこんな感想を漏らすのも、至極当然に思えてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口の中で温められ、ふやけたペニスが、どんどん熱膨張をしているようだった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0461.ogg"

「こうなったら、どれだけ射精できるか、試してみたいわね……ちゅくっ、くちゅくちゅ、ちゅーっ、んちゅうっ、れちゅれちゅっ、ちゅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0462.ogg"

「貴方の能力が、どれほどのものか……れるっ！　私の為に、どこまで出来るのか……ちゅくっ！　じゅるるーっ、ちゅぴっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0463.ogg"

「私を愛しているのなら……まだ頑張れるはずね……？　私の食欲を……満たしてくれるんでしょう……？　ちゅうっ、くちゅるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁっ……！　頑張って、みる……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛しているのなら……頑張らねばならないだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの要求に応える事こそが、私に出来る唯一の愛の証明だった。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0464.ogg"

「ふふふ……貴方を生かしておいて、やっぱりよかったみたい……ちゅうううっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_60.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_60.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0465.ogg"

「おかしいわ……貴方の精液、飲めば飲むほど、もっと欲しくなる……ちゅううっ！　んちゅーっ、くちゅるっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに、私の精液を飲みたいのか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の精液への執着が、そのまま私への執着になってくれればいいのだが……。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0466.ogg"

「ええ……ちゅくるっ、ぴちゃっ！　分かったら、早く射精しなさい……！　私は別に、下僕のオチンチンを舐めることが、好きなわけじゃないのよ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の望みは即座に打ち砕かれた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0467.ogg"

「私が、好きでフェラチオしてるなんて、思ったら、大間違いよ……んちゅうっ！　誰が好き好んで、人間の卑しいオチンチンなんて、舐めるもんですか！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0468.ogg"

「これはあくまで食事なのよ……ちゅぷるっ！　身の程をわきまえないのなら……むちゅっ……もう、してあげないわ……じゅるるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや、分かっている……分かっているから、続けてくれ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

今フェラチオをやめられるのだけは勘弁して欲しい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅぐちゅと音が鳴るような粘っこいフェラチオのおかげで、私の射精欲は再度高まって、もう止められないところまで到達していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イ、イキそうだ……キリエ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0469.ogg"

「いいわ……イキなさい、じゅるっ、ちゅううううっ！　先生の臭くて濃厚なオチンポ汁、キリエのお口で、全部受け止めるからっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_59.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_59.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0470.ogg"

「ちゅじゅるるるるぅぅっ！！　ぷちゅっ、くちゅううううっ！　ちゅぅぅうぅぅぅぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n03\_1\_70.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_70.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドクッ！！　ドクドクドクドクーーーッ！！　ビュルルルルルッッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最後に猛烈な吸引を受け、尿道口から精液が吸い上げられ、そのままキリエの喉へと流れ込む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0471.ogg"

「んくっ！！　ごくごくっ！！　じゅるるっ、ちゅううっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは喉を鳴らして精液を飲み続けた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一回目のように咽る仕草も見せずに、まるで清涼飲料水を飲むかのごとく、ゴクゴクと飲み下していく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何という気持ちよさなのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの温かい口内で、ぐちゅぐちゅと溢れた精液……それがぽたりと零れることもなく、全てキリエの口の中へ消えてゆく。

了。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスすら、精液と一緒にドロドロに溶けて、キリエに飲み込まれてゆくような……そんな気がしていた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_69.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_69.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0472.ogg"

「ちゅううううううっ！！　はぁっ……何なの？　この味と匂い……病み付きになる……ちゅううっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_68.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_68.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0473.ogg"

「はぁっ……いい加減に、私だって、こんなこと、やめたいのに……！　ちゅくっ、んちゅうっ！　精液が、欲しくて、たまらないっ……！　れちゅうっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

はっと気がつくと、キリエが必死の形相で、萎えた肉棒を右手で扱き、亀頭を吸っていた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_70.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_70.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0474.ogg"

「まだ出るわ……！　ちゅぷちゅぷっ、ぴちゃっ！　出るはずよ……！　んっ、んくっ、じゅちゅっ！　先生の変態オチンチンなら、まだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

レロレロとはしたないまでに舌を動かし、鈴口をほじり、上から下まで竿を舐め回し、雁をめくりあげる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……もう、無理だろう……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

無理だろうと言いつつも、強制的にペニスは勃起させられていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

乱暴にしゃぶりつくされた肉棒は、仄かな痛みすら感じるが、キリエは離す気がないらしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……もう、痛くなってきた……くっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_65.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_65.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0475.ogg"

「まだだめよ……！　ちゅうううっ！　貴方は四の五の言わずに、ペニスを勃起させていればいいのよっ……ちゅっ、んちゅぅぅぅっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0476.ogg"

「あぁ……あの臭くて、苦くて、不味い、薄汚い人間の下等な、下劣で下品な、淫らがましいあの、精液が、もう一度、飲みたいっ……！　じゅるるるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0477.ogg"

「貴方は、下僕なんだからっ……ちゅうっ！　私が望んだ時は、いつでも、その薄気味の悪いおちんちんから、濃厚な精液を、出しなさいっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_70.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_70.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0478.ogg"

「ちゅうううううううぅうぅぅうっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_64.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_64.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0479.ogg"

「うるさいっ！　とにかく、射精しなさいっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n03\_1\_71.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_71.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぐるるるるるーーーーっっ！！　どくどくどくどくっ！！　びゅぶるるるるっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

完全にキリエの勢いに押された形で、私は精液を噴出させた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0480.ogg"

「んっ！？　んぶっ……で、でたっ……ごくごくっ……んくっ！」

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_72.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_72.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0481.ogg"

「す、すごい量……のみ切れな……んぶっ！　げほげほっ、じゅるるっ、ちゅうっ！　んくんくっ！　ごくっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

５度目の射精はこれまでで一番量が多く、どくどくといつ果てるとも知れずに湧き出し、キリエの口の中から溢れていた。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_73.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_73.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0482.ogg"

「んっ、んうっ……さ、さすがにもう、飲めないわっ……ぐっ！　げほげほっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは咳と共に、飲みきれなかった精液を吐き出した。

\

lsph 30,":c;image/n03\_1\_71.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n03\_1\_71.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0483.ogg"

「はぁっ……げほっ、全く、どれだけ出せば気が済むのよ……本当にいやらしいったらないわ……貴方はとんでもない変態教師だわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0484.ogg"

「私を貴方のザーメンで窒息させるつもりなの！？　けほけほっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分が飲みたいと言ったくせに……と思ったが、賢明な私は、口には出さなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0485.ogg"

「はぁ……まぁ味はともかく、お腹いっぱいにはなったわね。ご馳走様……」

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは最後に何気なく言うと、振り返りもせずに部屋を出て行った。

\

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯幵撪.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n17\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まずい、遅刻だ……！」

\

bgm "music/nbgm03.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は愛車ＸＪを駆って、急ぎ家に戻り、シャワーと着替えを済ませてから学園へ向かった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昨日と同じスーツでは登園できない。生徒達は皆一様に目ざといから、同じ服で登園すれば必ず気づかれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

変な疑いをもたれては困るし……何より私の美意識に係わる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……キリエと交わった後の、独特の匂いが消えてしまうのは、いささか残念ではあったが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まぁ……彼女が精液を欲しがるうちは、また機会があるだろう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すぐにキリエへと向かってしまう思考を、何とか教師モードへと戻しつつ、私は学園への道を急いだ。

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠巒嬈儀儖.ogg"

間一髪のところで遅刻を免れた私は、教頭に「斧神先生にしては珍しい」等と嫌味を言われたが、別段気にもならなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の心中は、キリエのことでいっぱいだったからだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ドキドキ……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ、今日はキリエと肉体関係を持ってから……初めて教室で会うことになる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは教壇に立った私を見て、一体どんな顔をするだろう……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それでは出席を取るぞ。……芦田」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【芦田】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_asid0001.ogg"

「はい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「岡崎」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【岡崎】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_okaz0001.ogg"

「はい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

次だ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの反応が見たくて、我知らず顔を彼女の方へ向けていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「か、篝ノ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0486.ogg"

「はい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思わず声が上擦ってしまった私とは対照的に、キリエは無表情のまま、私を見ようともせずに俯いていた。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……勿論、ニッコリ微笑んでくれる……などとは思ってもいなかったが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

無反応だとも、思っていなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_joss0001.ogg"

「先生？　どうかしましたか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、いや……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は鉄面皮を取り繕い、朝のＨＲを辛うじて終わらせた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昼休み……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを捜して、校舎から抜け出した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

友達のいない彼女は、決して教室で昼食を摂る事はない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そもそも、食事という行為すらしないのだろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の姿を求めて、あてどもなく学園中を歩き回った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0487.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人気のない裏庭で、遂に彼女を見つけた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の横顔は、遠目に見ても思索に耽る乙女といった風情で美しく、私の心の琴線を痛いくらいに震わせるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は嬉しさのあまり彼女に駆け寄っていく。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚柍娭怱01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0488.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかしキリエは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を見た途端眉を顰め、身を翻して立ち去ろうとした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

mov %sn,4:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,430:mov %sy1,600:mov %sy2,260:mov %so1,255:mov %so2,0:idou

csp2 4

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

呼びかけても、止まることはなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

振り返りもせずに歩いていく彼女の後姿は、どんどん小さくなっていく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

残されたのは、惨めに打ちひしがれた中年男だけだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女にとっては私など……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

未だ取るに足らない下等生物にすぎないのだと、はっきりと思い知らされていた……。

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0489.ogg"

「全く、何なのですかあの態度は……！　うっとうしいにも程があるわ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その夜……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm04.ogg"

print 10,50

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの家で、私は厳しい叱責を受けていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もしかしたら、入れてもらえないのではないか……そんな不安を抱えながらの訪問だったのだが、ゾンビ執事が案外すんなりと中へ通してくれた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは苛立ちを隠さずに私を迎え、それから延々とお説教が続いていたのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0490.ogg"

「意味ありげに私をじっと見つめたり、昼休みに追いかけてきたり……貴方は教師なのでしょう？　一体何を考えているのですか！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは声を荒げ、軽蔑の眼差しで私を見た。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0491.ogg"

「私は不必要に目立つことはしたくないのです、先生！　……貴方が私に注目すると、私が目立ってしまうではないですか！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「人目につかないよう、注意はしている」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0492.ogg"

「あれで注意しているつもりか……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

呆れた様子で吐き捨てるキリエだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「一体、私にどうしろと言うのだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0493.ogg"

「学園では、私に近づかないで欲しいのです」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0494.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を睨んでいる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血鬼という体質上、キリエが学園で目立ちたくないという理由は理解できる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……私もそれほど馬鹿ではない。キリエと噂になったりしたら、私の首も危ないのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目立つような真似はしないつもりなのだが……。

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFFそれでもキリエに近づきたい",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF分かった、もう近づかない",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_2

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_2

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route06a0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route06a1

goto \*L\_selectbtn2

\*L\_route06a0

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……私はやっぱり、君に近づきたい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、正直な気持ちを漏らしていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0495.ogg"

「……教師の癖に学習しない人ね！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの怒りには、火に油を注ぐ結果になってしまった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君に迷惑をかけるようなことはしない」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚尵偄曻偮01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0496.ogg"

「充分迷惑なんですけど！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私の気持ちもわかって欲しい……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0497.ogg"

「どんな気持ちを分かれって言うのよ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君が、好きなんだ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚嬃偒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0498.ogg"

「！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ただ……それだけだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0499.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、怒りで絶句し……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0500.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0501.ogg"

「……先生、貴方という人は……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……ているのではなさそうだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

先程までの険のある怒り方とは少々違う……私に対する諦め……と言うか、許容のようなものが感じられた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0502.ogg"

「好きだったら、何をしてもいいとでも言うのですか？　それが迷惑だってことが、分からないのかしら……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

言葉はきついのだが、何となく、キリエはもう怒ってはいないような気がした。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟暁偟栚01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すまない……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚徠傟偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0503.ogg"

「ふん……もういいわ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぷいと形のいい鼻を背ける。そんな仕草までもがとても愛らしかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0504.ogg"

「私、お風呂に入るわ……ついてきなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

とりあえず、嵐は収まったようだった。

\

goto \*L\_route06aend

\*L\_route06a1

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、分かった……もう近づかない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

結局私は、キリエには逆らえなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何か不味いことを言って、無駄な怒りを買いたくない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本意ではないが……私は承知するしかなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0505.ogg"

「……本当に分かったのですか、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「分かった……学園では近づかなければいいのだろう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「その代わり、ここでは自由に会えるのだな……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0506.ogg"

「まぁ……好きにしたらいいでしょう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは諦めたように呟いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ありがとう、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は卑屈にもキリエに礼を言っていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0507.ogg"

「フン……骨のない男だ……つまらん」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はそんな私から、冷たく目をそらすのみだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0508.ogg"

「私は入浴する……ついて来い」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私と彼女との距離は、中々縮まらないままだった……。

\

goto \*L\_route06aend

\*L\_route06aend

sw

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の身体に自分の身体を預けるようにして、浴槽の中で足を伸ばす。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n16\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠擖梺01.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0509.ogg"

「さあ、洗ってください。先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

一緒に入浴……などと少し浮かれてしまった自分が恥ずかしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私を、三助としてしか見てはいなかったのだ。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0510.ogg"

「何をしているの、早くしなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、分かった」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は絹のタオルでキリエの肌を洗う。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0511.ogg"

「強くこすらないで、撫でるだけでいいわ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の身体には垢など発生しないのだろう。私はきらきらと輝くお湯を塗し、柔らかなタオルを、彼女の肌の上で撫でるように滑らせた。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0512.ogg"

「ふぅ……お風呂は気持ちがいいわね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは本当に気持ちよさそうに目を閉じる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「確かにな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここはまるで、浴室というよりは寝室のようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

天蓋つきの浴槽など、初めて見た。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

薔薇の香りに包まれた、この居心地のいい秘密の部屋は、彼女が心からリラックスできる場所のようだった。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0513.ogg"

「さあ、貴方も飲みなさい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはサイドテーブルにあったワインをグラスに注いで、私に差し出した。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠堸傒崬傓壒02.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は腰抜けと思われるのが嫌で、グラスを一気にあおり、空にした。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0514.ogg"

「フフ……飲めるじゃないの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0515.ogg"

「もう一杯、いいわよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自分もすぐにグラスを空にし、二杯目を空ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私にも、なみなみと注いできた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実は、私はたいして酒が強くない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかも、入浴中だ。酔いが回るのも早い。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0516.ogg"

「ワインは大好きだわ……血の他には、ワインと紅茶ぐらいしか、飲めるものがないわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは次々にグラスを干していく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで水のように、ごくごくと喉を潤す。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は二杯目で止まってしまった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かてて加えて、既にかなり酔っていた。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0517.ogg"

「あら……先生、顔が真っ赤ですけれど……大丈夫？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はもう声も出なかった。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0518.ogg"

「先生……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すーっと意識が遠くなる。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠悈偐偗.ogg"

lsph 30,":c;image/n16\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0519.ogg"

「せ、先生……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ぶくぶくぶく……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の顔面がお湯の中に半ば沈んで、はっとして身体を起こす。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0520.ogg"

「おい！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、もう意識を保っていられない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は目を閉じて、ぐったりと浴槽にもたれかかり……夢と現実の狭間をさ迷っていた……。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0521.ogg"

「先生、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0522.ogg"

「……何だ……？　酔いつぶれたのか？　たった二杯で……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0523.ogg"

「……一体、何なんだ、この男は……？　見かけと中身が、随分違うな……もっと、強面の部類かと思ったのに……」

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0524.ogg"

「そうかと思えば、私を力づくで自分の物にしたり……」

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0525.ogg"

「訳の分からない奴だ……」

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0526.ogg"

「おかしな、奴だ……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

薄く開いた私の目に、少し微笑んだキリエが映ったような気がしたが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

多分、私の気のせいなのだろう……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仧僇僢僐僂.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/1\_10怷拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

早朝……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やれやれ、ひどい目にあったな……」

\

bgm "music/nbgm16.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

昨夜風呂の中で倒れた私は、今朝になるまで意識が戻らなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそんな私を心配してくれるどころか、目覚めるとすぐに屋敷から追い出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエも全く薄情だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、私は非道な仕打ちにもめげることはなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……キリエが使用した、紙ナプキンを頂いたのだからな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は上着の内ポケットから紙ナプキンを取り出し、満面の笑みを浮かべて眺めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

晩餐の際にキリエが使用し屑籠に捨てた物を、こっそり拾ってポケットに忍ばせておいたのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「素晴らしい……これはすごい価値があるぞ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの唇の形に凹凸がついた、生々しくも神々しい紙ナプキン……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだ、キリエのぬくもりや、あの薔薇の香りまで残っているかのようだ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……早速、私のキリエコレクションに加えねば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はこれまでに、キリエの落とした髪の毛や、セックス後に使用したティッシュなどを採集していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

泥棒……などと思わないで欲しい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これは純粋なる愛情の発露なのだから……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

さすがにパンティーなどの大物には、未だ手を出せずにいる私だったが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そこまでやったら、犯罪だからな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……今まででも充分犯罪か……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まぁ、いい。

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯幵敪恑壒.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は愛車に戻り、キリエの紙ナプキンに唇を押し付け、残り香を思う存分堪能してから、家路についたのだった。

\

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

\*L\_Replay07\_01

mov %Replay07\_01, 1

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな風にして、彼女との毎日が過ぎていった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは決して私に心を許すことはなく、私たちの間には絶えず見えない壁が立ちはだかっていたが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少なくとも、彼女の傍にいられるということは、私にとって幸福だったのだ。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

授業中も、私は彼女と同じ教室内にいられる幸せに浸っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その日は、現代の若者に多少なりとも本物の芸術に触れてもらいたいと、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第１４番をレコード鑑賞していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ベートーヴェンは、一番好きな音楽家だ。力強く、厳かで、実に美しい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエも同じように音楽に浸ってくれているだろうかと、彼女の席に目を向ける。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の視線の先に、キリエは存在しなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの席は無人で、主をなくした椅子だけが、ぽつんと所在なさげに置かれていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはどこに行ったのだ……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

授業が始まるときは、確かに席に座っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつの間に、誰にも気づかれることなく、消えたというのか……？

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0527.ogg"

「先生……私はここよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの声がして、ハッと下を向く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が腰掛けていた教卓の中に、キリエが蹲っていた……。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_62.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_62.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

amsp2 4,400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0528.ogg"

「私を捜していたのでしょう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の膝の上に上体を乗り出すような格好で、キリエが迫ってくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……一体どうしたんだ、学園では、接近禁止ではなかったのか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかも今は授業中だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの方からこうして来てくれるのは、率直に言うと嬉しいのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

他の生徒達に見られると、まずいことこの上ないように思われた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_63.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_63.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0529.ogg"

「フフ……私がいいと言えばいいのよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

出来る限り声を潜めて話す。今はベートーヴェンの優美な音楽が、私たちの声を掻き消してくれているが、終わってしまった時が恐ろしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0530.ogg"

「それに、貴方を困らせてやるのも、面白いかなと思って……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、キリエはというと……周囲には全く頓着せずに、ニヤリと微笑んでいた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何だと……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_62.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_62.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0531.ogg"

「だって……こうしているところを、もし見つかったとしても、私は転校すればいいだけの話……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0532.ogg"

「でも貴方の場合は……淫行教師という噂が広まって、再就職もままならないでしょうね……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_63.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_63.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0533.ogg"

「ふふっ……そういうスリルに苛まれる、先生の姿が、見てみたくなったのよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは実に楽しそうにクスクスと笑う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は本当に悪魔だな……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_62.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_62.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0534.ogg"

「私はヴァンパイアよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの顔が更に近づいてくる。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_64.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_64.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0535.ogg"

「だから、先生の精液が飲みたいの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そうくるのではないかとは思ったが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや、流石に授業中は……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は音を立てないように、キリエを押しのけようとするが……。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_62.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_62.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0536.ogg"

「……もう、先生って、本当に融通がきかないのね。原始人みたいな石頭なんだから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは静かにため息をつくと、胸のボタンを一つ一つ外し始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_63.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_63.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0537.ogg"

「先生……見て」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ゴクリ……）」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0538.ogg"

「これでも、嫌だって言うつもり……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の目は、キリエのあらわになった胸元に引き寄せられる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

白い……白百合の花弁のような儚さを湛えた白い肌。少女らしい薄い胸に、紅を落としたような可愛らしい二つの乳首が浮かぶ。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_64.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_64.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0539.ogg"

「……私の胸で、してあげますよ、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の美しい、乳房とも呼べないような胸に魅入られて……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はぎこちなく頷くのだった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

lsph 30,":c;image/n04\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

むにゅっ、ふにゅんっ……

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

声が漏れないように、私は手のひらで口を押さえた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それほどまでに……キリエの乳房の感触は、当初考えていた以上に、甘美なものだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「や、柔らかい……乳房とは、これほどまでに柔らかいものだったのか……！」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0540.ogg"

「シィッ……！　先生……大きな声を出すと、いけないんじゃありませんか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

感激のあまり声が大きくなってしまった私を、キリエが嗜める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……そうだった……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、念の為に教科書を立てて顔を隠し、教室内を見回すが、異変に気づいた者はいないようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私としたことが、取り乱してしまったな……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0541.ogg"

「ふふ……そんなに気持ちがいいんですか？　私の胸……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、そんな私の反応を見て、面白がっている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちがいいなんてもんじゃない……まさに吸い付くようなとは、このことだな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの乳肌は柔らかいだけではなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すべすべとして捉えどころがないくせに、それでいてペニスにまとわりつき、しっかりと包み込むようなぬくもりを与えてくれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

根本から撫でるようにおっぱいを動かされると、それだけでもう、天にも昇る心地だった。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0542.ogg"

「私の胸……小さいから、こんなに気持ちいいとは思わなかったんでしょう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはからかうように言う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

確かに彼女の胸は小さいが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……私は胸の大きさになど拘泥しない」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0543.ogg"

「そう？　知っているわよ……貴方が小さい胸の方がお好みだっていうことは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見抜かれていたのか……！

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0544.ogg"

「先生みたいな人のこと……ロリコンって言うのでしょう……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私を苛めて愉しんでいるようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、それは違うぞ、キリエ……私をロリコン等と一括りにしないでくれ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は、君の胸だから……愛着を感じるのだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0545.ogg"

「まぁ……そういうことにしておいてあげてもいいわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の言い訳を聞いて、満更でもなさそうに頷いていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0546.ogg"

「私の身体は、本当に美しいものね……どこを捜しても、醜いところがないの。貴方が愛着を感じるのも、当然の結果だわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、その通りだ」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0547.ogg"

「貴方の醜いペニスを、こんなに美しい胸で挟んであげているのよ……どう？　嬉しいでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、嬉しくてたまらない」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0548.ogg"

「そう……では、私のことも喜ばせてくださらない？」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0549.ogg"

「早く貴方のそのみっともないオチンチンから、恥ずかしいオチンチン汁を放出して、私に飲ませて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぞっとするような淫靡な笑みを浮かべて、キリエは舌なめずりをする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの望みは私の精液を飲むこと……。そのためならば、ここまで淫らになれるのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の欲望をひしひしと感じ、肉棒が痺れるように疼く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに感化され、私の心も、どうしようもなく淫らになっていく……。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0550.ogg"

「その為には、もっと先生に、気持ちよくなってもらわないといけないわね……」

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仭僋僠儏壒05.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは膝の屈伸を使って、身体を上下に弾ませ始めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずる、ずる、とペニスを上から下まで胸骨と乳房で擦られ、益々快感が強くなる。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0551.ogg"

「んっ、んっ……先生……感じますか？　私のおっぱいの、ふくらみ……おっぱいが、おちんちんを、擦ってるの……感じますか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0552.ogg"

「はぁっ……私も、感じます……先生の硬いおちんちん、おっぱいで、感じます……おっぱいを、跳ね返すぐらい、ガチガチになって……はぁっ……」

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/n04\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0553.ogg"

「すごいわ……貴方のおちんちん、どんどん大きくなるみたい……んっ……あぁ、この中から、精液が出てくるのね……待ち遠しいわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悩ましく身体をくねらせ、熱い息を吐き、肉棒に胸を押し付け、上半身ごとねっとりと絡み付いてくるようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その迫力と快感を間近に感じ、私の射精感はどんどん高まってゆく。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0554.ogg"

「あぁ……おちんぽがビクビクしているわ……先生も、私のおっぱいが気持ちよすぎて、早く出したくて仕方がないんでしょう……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0555\_Retake.ogg"

「私の可愛らしいおっぱいに、貴方の欲望のエキスを、ぶちまけたいのでしょう？　白く汚らしい液で、私を汚したいのね？」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0556.ogg"

「先生……私も貴方のオチンポ汁を、早くかけてもらいたいの……私のおっぱいに、お口に……沢山ミルクちょうだい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0557.ogg"

「先生、先生のおちんぽミルク、早く飲ませてください……！　喉が渇いて、たまらないわ……貴方の濃厚なザーメン、全部飲んであげますから……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒06,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n04\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

むにゅん、むにむにっ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは一気に精液を押し出そうと、胸の動きを速める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

男根は乳房で圧迫され、扱かれ、もう耐えられないと悲鳴を上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……イク！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n04\_1\_38.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_38.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぐるるるるっ！！　ぶりゅりゅっ！！　びゅくびゅくびゅくっ！！　どびゅるるるるっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスはキリエの胸の中で弾けた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0558.ogg"

「んっ……いっぱい出たわね、ちゅっ……ぺろっ……今日のザーメンは何だか、熱いわ……ちゅくっ……でも、この不味さは変わらないのね……ちゅるっ」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0559.ogg"

「はぁ……でも、嫌いじゃないわ。れちゅっ、癖になる味よ……れろれろぉっ……ちゅっ、くちゅっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに肉竿をベロベロと舐め回されながら、私は教科書の影から教室全体を見渡す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不思議なことに、生徒達は誰一人気づいていないらしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大人しい私の子羊たちは、皆俯いて、音楽に聴き惚れているようだった。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0560.ogg"

「れろぉっ、ちゅっ……はぁ、もうお終い？　何だか物足りないわ……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0561.ogg"

「ねえ……もう一回、いいでしょう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の肉棒は、むにゅっとした膨らみに押し潰されながらも、未だに硬度を保っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これならもう一回ぐらいイケそうかもしれない……などと心の中で計算している自分が恐ろしい。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0562.ogg"

「ふふ……答えないっていうことは……いいってことよね……？　んっ、んっ……」

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仭僋僠儏壒06.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはささやかな胸を押し上げるように、両脇から持ち上げ、上下にペニスを扱いてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一度射精したことによって、おっぱいがぬるぬるとして滑りが良くなり、一回目よりももっと、気持ちよくなってしまいそうだ……。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0563.ogg"

「それにしても……幾ら私が可愛いからといって、教室で射精してしまうなんて……先生は本当に変態ですね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはニヤニヤとして私を見上げている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の目には、私の顔はさぞ間抜け面に映っていることだろう……。

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/n04\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0564.ogg"

「教師にとって、教室はいわば神聖な場所ではありませんか……？　それを、精液なんかで、汚していいのかしら……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……い、いいわけがないだろう……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0565.ogg"

「あら、自覚しているのね……自覚しているくせに、悪いことだと分かっているくせに、射精してしまったのね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0566.ogg"

「先生は、本当にいやらしいんですね……ドロドロした臭い精液を射精できさえすれば、授業なんて、どうでもいいのですね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私をからかって遊んでいるだけだと、頭では分かってはいるのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

仕掛けてきたのはキリエではないのかと、つい悔しくて、唇を噛み締めてしまう。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0567.ogg"

「怒ったのですか？　先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……キリエは間違ったことは言っていないのだから、怒っても仕方がない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そもそも私が、キリエを愛しさえしなければ……こんなことにはならなかったのだから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の言う通りかもしれない……君とこうしていられるのなら、私は、授業など……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0568.ogg"

「クスクス……開き直るのですか、先生……相変わらず、ムチャクチャな人ね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが私を嘲笑う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その嘲笑っている唇で、さっき私の精液を舐めたのだと……あれほど執拗に、ペニスの隅々まで舐め回したのだと、そう思うと……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それだけで、興奮が脳髄にまで浸透し、肉棒が暴発しそうなほど膨れ上がる。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0569.ogg"

「まぁ、おちんちんがおっぱいの上でぴょんぴょん跳ねているわ……ふふ……罵られて感じるなんて、やっぱり貴方は変態教師ね……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0570.ogg"

「ねえ、感じるのでしょう？　変態、とか、薄汚いおちんぽ、とか、臭い精液、とか……そういう言葉に反応するのでしょう、貴方は……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そんなことは……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_56.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_56.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0571.ogg"

「正直に言いなさい……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が否定しようとすると、キリエは眉を吊り上げ、おっぱいで痛いくらいに肉幹を挟み、絞り上げる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぐっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0572.ogg"

「変態、変態、変態チンポ……ロリコンチンポ……私みたいな美少女を見て涎をダラダラ流す、異常性欲おちんぽ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口から、ビックリするような淫らな言葉が次々に飛び出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは小さなおっぱいをぺちゃんこにして、肉棒をグイグイと乱暴に押し潰し、私を侮辱する言葉を並べ立てる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ、そんなキリエを見て、私は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

熱く滾る激情を、抑えられなくなるくらい……確かに興奮していたのだ……。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0573.ogg"

「ほら見なさい……オチンチンが恥ずかしいくらいビクビク反応しているじゃないの。もう精液漏らしちゃうくらいパンパンに膨れているわ……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0574.ogg"

「こんな風に蔑まれて、痛くされるのがお好きなのでしょう、ロリコン淫行教師さん……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……私は……こんな風にされるのが、好きだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だから、もっとやって欲しい……射精、させて欲しい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの殆どまっ平らとも言えるほのかな胸を、ギュウギュウと擦り付けられ、変態だなんだと罵られながら、イッてしまいたくてたまらない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな私は、やっぱり変態なのだろうと、頭の片隅で認めていた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0575.ogg"

「全く、どうしようもない堕落オチンチンね、なんというろくでもないペニスかしら……呆れてものも言えないわ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分から焚きつけたことは棚にあげ、キリエはわざとらしくため息をついた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、頼むから……！」

\

l\_v:lsph2 13,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/n04\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0576.ogg"

「ふん……いいわよ、射精させてあげるわよ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし私が低姿勢で頼むと、キリエはすぐに気持ちを切り替えて、おっぱいをむにゅむにゅと揺すり始めた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0577.ogg"

「先生のガチガチおちんちんから、またドロドロした精液を、いっぱい出してあげるわ……この私に、またぶっかけさせてあげるのだから、悦びなさい！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも、また精液が飲めると思うと嬉しいのか、目がキラキラと輝き始めていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0578.ogg"

「さあ、出していいわよ……私のおっぱいに、思う存分、貴方の汚らしい性欲の結晶をぶっかけて……私が、お口で、受け止めてあげるから……！」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_44.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_44.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0579.ogg"

「出しなさい、人間の、子種汁を……虚しい繁栄の胤を……この私が、全て飲み干してあげる……！」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_44.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_44.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「出る……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n04\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅっ！！　どぶどぶどぶっ！！　びゅるぶぶっ！！　ぶびゅるるるる～～っ！！　どくどくどくっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一気に噴き出した精液は、キリエの胸や顔に直撃した。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0580.ogg"

「あぁっ……出たわ、オチンチンの先から、ザーメンが溢れてくる……ちゅぅっ、くちゅぅ……二回目なのに、こんなに沢山……れろっ……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0581.ogg"

「ちゅっ……あぁ、零れちゃう、もったいない……ぺろぺろ……全部、先生の精液は、全部私が舐めるわ……くちゅっ、れろっ、ぴちゃっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0582.ogg"

「はぁ……精液の匂い……れちゅっ……臭いけど、何だか、変な気持ちになる……ちゅうっ……何なのかしら、これは……何だか、むずむずしてくる……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_45.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_45.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0583.ogg"

「れろれろっ……身体が、熱いわ……ちゅっ、先生の、おちんちんを舐めていると、れちゅうっ……何だか、身体が、熱くなって……変、だわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

夢中になって肉棒に舌を這わせ、独り言を呟き続けるキリエ……そのひたむきな顔が、恍惚の表情にも見えてしまう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそんなキリエを見て、自分の内側が燃え上がるように奮い立つのを感じた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勃起肉は二回の射精にも衰えることがなく、益々いきり立って、キリエを求めていた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_1\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_1\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0584.ogg"

「あぁ……先生のおちんちん、まだこんなに大きい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はうっとりと？　ペニスを見上げる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……私は君が欲しい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自分でも分からぬままに、そう口走っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0585.ogg"

「……先生……」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、何を考えているのか分からない、無機質な目をして、すっと立ち上がる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、教卓の上に無造作に身を投げ出した。

\

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は思わず声を上げてしまった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だって、そうだろう？　今まで必死で隠れていたというのに、キリエは堂々と姿を現し、胸をはだけたままの姿で、教卓に仰向けになっているのだから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、こ、これは……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自分のクラスを見回し、頭をフル回転させ、この状況を何とか言い繕おうと試みるが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……え……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、自分の目が見ているものを疑った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のクラスの女子生徒達の、誰一人として、教壇に注目している者はいなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

教科書に隠して漫画を読んだり、こっそりと隣の席の少女と内緒話をしている生徒がちらほらと見受けられる……ごく当たり前の、授業中の風景……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の目に映ったものは、それだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

教壇に呆然として立ち尽くす、社会の窓からペニスを露出した男の姿など存在しないかのような、生徒達の反応だった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、一体、どういうことなんだ、これは……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0586.ogg"

「クスクスクス……先生はやっぱり小心者ですね。焦っちゃって……おかしいったらないわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは教卓の上で私を嘲笑っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「彼女達には、見えていない……のか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0587.ogg"

「ええ、そうよ……理解が遅いこと……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはあっさりと頷いていた。

\

bgm "music/nbgm09.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0588.ogg"

「ちょっとした催眠術のようなものよ……この教室内にだけ、術をかけたの。彼女達の目には、ごく当たり前の授業風景だけが映るようにって」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0589.ogg"

「常識的なもの以外は、絶対に見えないようになっているの……授業中にセックスする教師なんて、常識的に考えて、あり得ないでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0590.ogg"

「だから、ここで私たちが何をしようと……誰にも知られることはないのよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0591.ogg"

「それでも……腰抜けの貴方には、その勇気がないのかしら……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは試すように問いかける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……幾ら見えないからといって、こんなに大勢の生徒の前で……というのは、さすがに怖気づいてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

が……。

\

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……私は、腰抜けではない」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女に掴みかかり、スカートを捲くり上げた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0592.ogg"

「ふふ……今度は、クラス全員の前で、私をレイプしたいという訳……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは睨むように私を見ながら、不敵な笑みを漏らした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……私は、君を犯したい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0593.ogg"

「鬼畜教師……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女のパンティーを引き摺り下ろし、両脚を大きく広げさせた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0594.ogg"

「あっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の慎ましやかな小さな性器は、およそ似つかわしくない愛の露に濡れて花開き、私を待ち構えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君こそ……私に犯されたがっているようだ」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0595.ogg"

「……どうかしら？　確かめてみたら……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは素っ気無く言う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あくまでも、精液を補充するため、という態度を崩したくないのだろう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、私のペニスで確かめてみよう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のぺニスは、キリエのヴァギナの感触を切望していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生徒達の視線がどうであれ、彼女の態度がどうであれ、もう一秒だって、待てそうにはなかった。

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

にゅぷぷっ、にゅちにゅちにゅちっ！

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou04\_2\_01\_s6

\*ndou04\_2\_01\_s6\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou04\_2\_01\_s6/00000052.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0596.ogg"

「あっ……あぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉棒を挿入された途端、キリエは細い悲鳴を上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0597.ogg"

「んぁぁっ……はぁっ、はぁっ……な、何よ、これぇ……お、おまんこが……むずむずして……あぁぁ……はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

初めは痛むのかと思ったが……どうもそうではないらしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「大丈夫か、キリエ……変な声を出しているな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0598.ogg"

「し、失礼ね……変な声とは何よ……はぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは先程までのような素っ気無い態度を取ろうとするが、うまくいかない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は頬を染め、息を荒げ、瞳を潤ませ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その整った顔に、明らかに快感の色を浮かべていた……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふぅん……変な声ではないとしたら……それは喘ぎ声ではないのか……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0599.ogg"

「なっ……！　喘ぎ声など、出していない……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そういえば……初めての時も、君は感じていたな……君のオマンコは、余程敏感なのだな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0600.ogg"

「くっ……うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悔しそうに唇を噛み締める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あのキリエが反論しない……ということは、やはり感じているのだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はすっかり気をよくして、大きく腰を振りたてた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

抽动！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

濡れそぼった蜜壺が、派手な水音を立てて私を鼓舞する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の身体の一部が、キリエを興奮させているという事実が、私に勇気を与えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ、誰にも聞こえないのだから、大きな喘ぎ声を上げたまえ！　私だけは聞いているが、何、恥ずかしがることはない！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「聞かせてくれたまえ、君の甘く切ない声を……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の声は、歌でも歌うような調子で、教室中に高らかに響き渡った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の可愛い教え子達の前で、こんな行為をすることに、若干の罪の意識はあったものの……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……いや、むしろ私は、嬉しかったのかもしれない。大勢の少女達の前で、その中でも一等美しいキリエを抱くことが出来て……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は嬉しかったのかもしれなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0601.ogg"

「くぅ……！　貴様、調子に乗るな！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは牙を剥き出して怒っているが、私は何ら気にせずに、深くキリエの体内を貫く。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou04\_2\_01\_s4

\*ndou04\_2\_01\_s4\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou04\_2\_01\_s4/00000120.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0602.ogg"

「あぁっ！　……そ、そんなに、おまんこの奥までっ……ふぁぁっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅぐちゅとオマンコの肉を捏ねるように、ペニスで何回も掻き回すと、キリエは思ったとおりのかわいらしい声を出してくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0603.ogg"

「い、いやっ……そ、そんなに、いやらしい動き方、しないでっ……お、おまんこが、勝手に、ビクビクしちゃう……ふぁっ……あぁっっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、動かなければ射精できないが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の目的は……精液なのだろう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0604.ogg"

「う、うぅっ……し、仕方ないわねっ……で、でも、あんまり、深く突き刺すのはだめよっ……あぁっ……お、おまんこの、奥は……だめっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「深く突き刺す……とは、こういうことかな？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はわざとキリエの命令を無視し、勢いをつけて最奥まで肉棒をねじ込んだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅっ、ぐちゅんっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0605.ogg"

「あぁぁぁ～～～っ！！　……いやっ、だ、だめって、言ったじゃないっ……こんなのっ、おまんこがっ、変になっちゃうぅぅっ……あぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

奥を抉られるのが気に入ったのか、キリエのオマンコは痙攣のような反応を示し、愛液が更に溢れ出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、気持ちがいいのだろう……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0606.ogg"

「やめてっ……そ、そんなこと……な、ないんだからぁっ……先生の鬼畜ちんぽでなんかっ、感じないっ……あぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0607.ogg"

「せ、先生って、教師の癖に、バカじゃないですか……私が、人間の、下等なチンポでなんか、感じるはずがないって、分からないんですかっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「前回もそんなことを言っていたが、結局君はイッたじゃないか」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0608.ogg"

「うぅうっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今だって……オマンコがヒクヒクしっぱなしだ。もうイキたくて、我慢できなくなっているんじゃないのか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0609.ogg"

「んぅぅっっ……くぅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは何も言い返すことが出来ずに、私にしがみ付くだけだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつもキリエにはやり込められてばかりの私だが、セックスの時は立場が逆転できるらしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0610.ogg"

「く、くやしいっ……んっ、はぁっ！　こ、こんなのって、あぁっ……わ、わたしが、せんせい、なんかにぃっ……あぁぁぁんっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは快感で頭が働かないのか、毒舌を吐く暇もなく、ただただ荒い呼吸を繰り返している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそんなキリエが可愛くてたまらず、早くも絶頂を迎えそうになっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……私はイクよ……私の精液を、君のオマンコで受け止めてくれ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最後の仕上げとばかりに、震える柔肉を思い切り突き刺していく。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou04\_2\_01\_s5

\*ndou04\_2\_01\_s5\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou04\_2\_01\_s5/00000069.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0611.ogg"

「あぁぁっっ！！　そ、そんなに、はげしくっ……あぁぁ～～っ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0612.ogg"

「あぁぁっ！！　す、すごいっ、おちんちんがっ、おまんこに、擦れてっ……き、きもちいいっ……きもちいいところに、こすれてるぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0613.ogg"

「あぁぁっ……こんな風になるなんて、思わなかった……！　セックスが、こんなに、気持ちがいいなんてっ……ふぁぁぁーーっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イク……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は絶頂へのステップを登りきった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あとは、溜まったものを放出するだけだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0614.ogg"

「イッて、先生！！　オマンコに出してっ！！　たっぷりおまんこに中出ししてぇぇぇっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n04\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュルルルルルルルーーーーーーッッ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、蜜が溢れるキリエの中で果てた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どぷっ、どくどくっ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの体内で愛液と私の精液が混じりあい、愛を交わしたのだと、男根で実感する。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0615.ogg"

「あ、あぁぁぁ……出てるぅ……先生の、精液……オマンコの中に、熱いの、いっぱい出てる……はぁぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0616.ogg"

「あぁ……すごいわ……おまんこで精液を吸収すると……力が漲ってくる……はぁ、はぁ……すごい、なんて気持ちがいいのかしら……はぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最中は反発していたキリエだったが、今は満足そうに微笑みを浮かべていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……最高だった、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに感謝して、身体を退こうとする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの術がかかっているとはいえ、そろそろ授業時間が終わりそうで、気になっていたのだ。

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0617.ogg"

「待ちなさいよ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、彼女は教卓の上に寝そべったまま、グイッと私のネクタイを引っ張ってきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何だ……？」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0618.ogg"

「このまま、終わるつもりじゃないでしょうね……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

じろっと睨まれる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……そろそろ授業も終わる時間だが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0619.ogg"

「それが何……？　私の身体を、こんな風にしておいて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こんな風に……？」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0620.ogg"

「もう一度……射精してくださいよ、先生……私のおまんこが、もう一度、先生の精液を欲しがっているんです……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは少し恥ずかしそうに……それでも何とかしかめっ面を保ったまま、私を見上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0621.ogg"

「先生……時間ならまだ、大丈夫ですよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0622.ogg"

「それに、先生のオチンチンだって、まだ、元気じゃないですか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そうなのだ……先程のキリエの表情、恥ずかしそうに私の肉棒を求める顔を見てしまったら……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

またしても欲情の炎がメラメラとペニスを灼き、再びキリエを貫きたいと、強く漲り始めていたのだ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0623.ogg"

「先生の精液が欲しい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、分かった！　もう一度、君の為に……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はいそいそと彼女の上に屈み込み、再度肉棒をおまんこの中に深く差し込んだ。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

にゅるるる～～っ……

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0624.ogg"

「あぁぁぁ～～～～～っっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、今度は隠すことなく甘い声を上げて、私を迎え入れてくれた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou04\_2\_01\_s3

\*ndou04\_2\_01\_s3\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou04\_2\_01\_s3/00000052.jpg",400,220,100,100,0,255

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0625.ogg"

「んぁぁっ……あぁっ、ま、また深いのきたぁっ……おちんぽが、おまんこの奥に……はぁぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0626.ogg"

「あぁ……なんて大きいおちんちんなの……おまんこが、すごく、ひろげられて……おちんちんで、いっぱいになってる……あぁ……はぁぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0627.ogg"

「すごいわ、きもちいいっ……おまんこを、おちんちんでこすることが、こんなにも、きもちがいいなんて……あぁぁ……っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「下等生物のペニスで悪いがね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの反応が余りにも可愛かったため、私はわざと意地悪をしたくなっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0628.ogg"

「そ、そうね……あぁっ！　あ、貴方は、確かに、下等生物ではあるけれど……お、おちんちんは、役に立つわ……ふぁんっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0629.ogg"

「あ、貴方の、おちんちんはっ……嫌いじゃないわ……はぁっ……き、きもちいいから……あんっ、き、きらいじゃない……っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは嬉しいことを言ってくれるね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0630.ogg"

「ふ、ふん……で、でも、貴方のことは、大嫌いよ、先生……おちんちんは、嫌いじゃないけど……あなたのことは、だいきらい……はぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

有頂天だった気持ちを、どん底まで突き落とされた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「本当に君は、意地が悪いな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0631.ogg"

「な、何を言っているの？　貴方のような下衆野郎を、私が好きになるとでも思った？　はぁっ……自惚れるのもいい加減に……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女に最後まで言わせず、Gスポットを狙って怒張を突き上げた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou04\_2\_01\_s2

\*ndou04\_2\_01\_s2\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou04\_2\_01\_s2/00000069.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0632.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁ～～～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

狙いは正確だったようで、キリエはガクガクと身体を震わせ、唇の端から一筋の唾液を垂らしていた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0633.ogg"

「あ、あ、あ……あぁぁぁ……っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は性格が悪すぎる。だからお仕置きだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0634.ogg"

「や、やぁぁ……やめ、やめて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のような問題児を指導するのが、私の仕事だからね……言うことを聞かない悪い子には、たっぷりお仕置きが必要だ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0635.ogg"

「あぁぁぁぁっ、あぁんっあんっ、あぁぁぁ～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は息が続く限り、休むことなくピストン運動を続けた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou04\_2\_01\_l

\*ndou04\_2\_01\_l\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou04\_2\_01\_l/00000015.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0636.ogg"

「そ、そんなっ、はげしすぎっ……あぁぁっ！　お、おまんこが、こ、こわれちゃうぅっっ……あぁ～～～っっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「優しくやってたら、お仕置きにならないだろう……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0637.ogg"

「あぁぁっ……ひ、ひどいわっ……あぁっ、おちんぽズンズンしすぎっ……おまんこ、いじめすぎぃぃっ……！！　んぁぁ～～っっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0638.ogg"

「やぁっ、す、すごい、おくまでっ、おまんこの奥までっ……おちんぽきてるぅぅっ……！！　お、おまんこが、やぶれそ……あぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が一突きするごとに、キリエのオマンコは生き物のようにうねり、ねっとりと絡みつき、締め付けてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきいきと蠢きだす襞に誘われて、いつしか私はお仕置きのことなど忘れ、ひたすら快感だけを求めて、腰を叩きつけていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……最高だ、君のおまんこは……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0639.ogg"

「くぅぅんっ……！　先生の、馬鹿ぁっ……も、もうっ……それなら、早く射精しちゃいなさいよっ……ふぁぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0640.ogg"

「も、もう、私っ……がまん、できないかもぉっ……はぁぁっ！　も、もうっ、イッちゃいそう、なんだからぁっ……！！　あぁぁ～～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは襞肉をぎゅっと締め付けるのと同じように、私にしがみ付き、交差させた脚で腰を引き寄せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かりそめの関係であることは理解していたが、キリエに求められることは、やはり嬉しかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクよ……キリエ！　キリエも一緒に……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0641.ogg"

「イクッ……いくいくっ……きりえもいくぅっっ、きりえもいくぅうっっ……おまんこいっちゃうぅぅぅ～～～っっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n04\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるるるるる～～～～～～っっっ！！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は最後に深く肉棒を突き入れ、彼女の子宮底に精液を叩き付けた。

\

lsph 30,":c;image/n04\_2\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n04\_2\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0642.ogg"

「あぁぁぁ～～～～～～……っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは教卓の上で大きく仰け反り、射精の快感に打ち震えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も全身を震わせながら、狂おしくイッた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大勢の少女達の前で……見られてはいないとはいえ、その眼前で……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

神聖な教職者であるはずの私が……恥ずかしげもなく、絶頂した己の姿を晒していたのだった……。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠巒嬈儀儖.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、きょうはここまで……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は身だしなみを整え、何事もなかったかのように授業を終えた。

\

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

休み時間となり、次々に教室を出て行く少女達の中に、キリエの姿もあった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそれとなく、キリエに視線を送る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0643.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……彼女は。

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

今度は自分が術にかかってしまったかのように、私を軽やかに無視していくのだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

lsph 30,":c;image/1\_20奨梉從偗.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_20奨梉從偗.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

仕事が終わった後キリエの家を訪ねるのが、最近の私の日課になっていた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/nbgm04.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0644.ogg"

「あら、また来たの……？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

必ずしも、歓迎されるわけではない。というより、全くされない。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0645.ogg"

「じゃあ……ゾンビたちと一緒に掃除でもしてもらおうかしら」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

運が悪いと、雑用を言いつけられる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……幾らなんでも、担任教師に掃除をさせるというのは……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0646.ogg"

「先生……幾らなんでも、担任教師が生徒をレイプするというのは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「分かった、やろう」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

一応歯向かってはみるものの、下僕である以上、結局はキリエの言うことを聞くしかない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それに本音を言うと……段々こういうキリエとのやり取りに、楽しさを感じ始めていた私なのだった。

\

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

amsp2 7,212,240,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0001.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それにしても、よくこんな気味の悪いものを飼っているな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はゾンビ執事とは少し距離を置き、小声でキリエに話しかける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビは人語を解さない（何しろ半分腐っているような代物だ）らしいのだが、私の意志が伝わり、襲い掛かってこないとも限らない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0647.ogg"

「これで案外役に立つのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0002.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一人暮らしのキリエは、家事全般をこのゾンビたちにやらせているのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……死体なんだろう？　あまりいい趣味とはいえないな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0648.ogg"

「あんまり馬鹿にしないほうがいいわ。貴方もいずれこうなるんだし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何……！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0649.ogg"

「だってそうでしょう？　いずれ血がなくなったら、貴方は死ぬんだし……下僕の死体をどうしようと、私の自由でしょう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

衝撃のニュースを、キリエは眉ひとつ動かさず淡々と語るのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0003.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こ、これが私の未来の姿……？」

\

csp2 7

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚枮柺偺徫傒02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0650.ogg"

「（ニコッ）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつになく満面の笑みを湛えるキリエが恐ろしかった。

\

bgm "music/.ogg"

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはおよそ食事というものをしない。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

bgm "music/nbgm14.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が摂取するのは、殆どが液体だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤ワイン、ロシアンティー、ローズティー、ざくろ水……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

固形物は、ごく稀に、血の滴るステーキをほんの一欠けら食べることがあるくらいだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……従って、私に饗される食事も、ごく僅かなものだった。

\

csp2 4

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

vh:lsp 2,":a;face/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",,325,255

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_.jpg",400,240,100,100,0,255

mov %sn,7:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,370:mov %sy1,600:mov %sy2,240:mov %so1,0:mov %so2,255:idou

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_.jpg",400,240,100,100,0,255

vh:lsp 2,":a;face/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_.jpg",-20,325,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0004.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ど、どうも……」

\

mov %sn,7:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,370:mov %sy1,600:mov %sy2,240:mov %so1,255:mov %so2,0:idou

csp2 7

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

明らかに食欲が減退する外見のゾンビ執事に給仕をされながら食事をするのは、どうもまだ慣れなかった……。

\

csp2 4

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

一日のうちで、一番の楽しみが、入浴だ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

この時ばかりは、キリエもゾンビ執事を寄せ付けない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の背中を流し、入浴の世話をするのは

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

全て私一人の仕事である。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

滑稽なことに、私はキリエの身体を丁寧に洗いながら、ゾンビ執事に対して優越感を抱いていたのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚暁偟栚05.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0651.ogg"

「ふぅ……ステーキぐらいじゃ、お腹がすいて仕方がないわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は溜息をつく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当に空腹らしく、胃の辺りを手で抑えているのが可愛らしかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0652.ogg"

「やっぱり、ヴァンパイアには血液が必要なのよ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0653.ogg"

「……そういえば、最近貴方の血を飲んでいなかったわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ギラリ、と赤い目で見つめられ、私は少し腰が引ける。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……浴室で血を吸うのは勘弁してくれないか。出血多量で死んでしまう」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0654.ogg"

「ふふ……貴方、違う方法で食欲を満たしてくれと言いたいのでしょう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ドキッ……）」

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの赤い目が、妖艶な流し目に変わった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

折りしも今は入浴中……私たちはお互い産まれたままの姿だ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0655.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの白い裸体が目に眩しい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

凹凸など、殆どないに等しい身体なのに……どうしてここまで凄艶なのだろう。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0656.ogg"

「……いいわよ、では……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0657.ogg"

「空腹を満たしてあげる……貴方の望む方法で……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ゴクッ……）」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚悓偄僯儎儕01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0658.ogg"

「フフ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

裸のキリエが近づいてくる。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちは重なり合い、情欲に任せて肌を合わせた。

\

\*L\_Replay08\_02

mov %Replay08\_02, 1

lsph 30,":c;image/n05\_1\_39.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_39.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm09.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

浴槽の蓋の上に寝そべったキリエに、私は性急にペニスを挿入しようとする。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0659.ogg"

「全く、何をがっついているのかしら……みっともない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私をからかうように言うと、挿入を避けるように腰を引き、石鹸の泡に塗れた脚を開く……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

むにゅんっ

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ！？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが脚を閉じた瞬間、私のペニスは、彼女の細くしなやかな太股に挟まれていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う……こ、これは……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0660.ogg"

「ふふっ……私の太股の感触は、いかが？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……さ、最高だ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

余分な肉のついていないほっそりとした太股は、湯気の立つ浴室の中でもつるりと冷たい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

細いけれども、しかし柔らかな肌の感触は確かに存在し、私のペニスを押し潰すように性感を刺激していた。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0661.ogg"

「クス……最高なのは分かっているわよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは満足そうに微笑む。いかにも賛美されることに慣れている、という顔つきだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0662.ogg"

「私のここで……イッてみたいと思いませんか……？　先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「太股で……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はゴクリと唾を飲み込む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この柔らかでしっとりとした肌に包まれて射精するのは、一体どんな心持だろう……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは……素晴らしいな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

想像しただけで、私の肉棒はビクビクとせっかちな痙攣を始めるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0663.ogg"

「ふふ……もうおちんぽが、暴れてますね、先生……いい年をして、子供みたいだわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、仕方がないだろう……ついこの間まで、童貞だったのだから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0664.ogg"

「そうでしたね……初心者なのだから、仕方がないのかしら……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは余裕の表情で、不慣れな私を嘲笑した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……しかし、３０歳の童貞男と３００歳の処女とは、中々いい組み合わせではないか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気を取り直して、私はやり返す。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0665.ogg"

「（むっ……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の言葉に気分を害したようだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0666.ogg"

「先生なんかと一緒にしないでください！　私は大切に処女を守っていたのです……それを貴方が無理やりに……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私だってそうだ！　……私は君が運命の相手だと思ったからこそ、童貞を捧げたのだ！　君には申し訳ないとは思うが、私の想いも察して欲しい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はこの際、自分の気持ちをぶちまけてしまおうと思ったのだが……。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0667.ogg"

「……もういいわよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに素っ気無く遮られるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0668.ogg"

「余計なおしゃべりなんて、どうでもいいはずでしょ。私は精液が欲しいだけなんだから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0669.ogg"

「そうよ……下等生物に、感情移入なんて、有り得ない……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自分に言い聞かせるようにそう呟くと、太股をゆっくりと動かし始める。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の動作が大きくなるにつれ、私の思考は千々に乱れ、快感で塗りつぶされていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ほんの一秒後には、もう何も考えられなくなり、ただペニスに与えられる心地よさに、どっぷりと浸るのみだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0670.ogg"

「ふふ……すごいわ、先生のおちんちん、張り裂けそうに膨らんじゃって……苦しそう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0671.ogg"

「私が、すぐに楽にしてあげるわ……んっ、んっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずるっ、ずるっ……とキリエが腰を使うたびに、ペニスの皮が引っ張られ、雁がめくれ上がる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぐっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛いぐらいの強い刺激に、私は思わず眉をしかめた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0672.ogg"

「ふふ……これぐらいで音を上げるのですか、先生……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0673.ogg"

「では、もっと速くしてみましょうか？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぬちゅっ、ぬちゅっ、ぬちゅっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの脚の動きが更に速くなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はリズミカルに腰と脚を揺らし、太股でぴっちりと肉棒を挟みこむ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅぐちゅと太股の間で泡が立ち、まるで濡れたオマンコでセックスしているような、嫌らしい音が立ち上る。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0674.ogg"

「ふふっ……おちんちんの先っちょの穴が、パクパク開いてるわっ……もう、すぐにでもザーメン漏れちゃいそうねっ……んっ、んっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0675.ogg"

「本当に嫌らしい先生だこと……貴方をイカせるのって、本当に簡単だわ……三こすり半で、すぐにイッてしまうのだから……んっ！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0676.ogg"

「図星でしょ？　先生ったら、鏡で自分の顔を見てみたら？　真っ赤になって、ハァハァ喘いで、泣きそうな顔をして……恥ずかしい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はハッとして背後の鏡を振り返る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鏡には、キリエが言った通りの、恥ずかしい男の顔が映っていた……。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0677.ogg"

「よ～く見なさい、先生……生徒の太股に興奮して、おちんちんからエッチなオチンチン汁を出そうとしている、変態教師の顔を……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0678.ogg"

「くすくすくす……こんな貴方の姿、クラスの生徒達が見たら、どう思うかしら……？　自分の担任が変態だって知ったら、きっとショックよね」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0679.ogg"

「彼女達に教えてあげようかしら……？　貴方達が尊敬している先生は、私の太股によがっている変態なのよって……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うるさい！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の声を掻き消すように怒鳴ると、苛立ちを紛らわすために勢いよく腰を振りたてた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の膝をぎゅっと押さえ込み、圧迫を増した太股の間を、ペニスが何度も何度も往復する。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0680.ogg"

「あっ、あぁっ、ら、乱暴ねっ……！　貴方、女の子は、もっと優しく扱うものよっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君が優しくするなら、私もするがね！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0681.ogg"

「全く、貴方って最低だわっ……！　んっ、あんっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの話にはもう耳を貸さず、私は自分の快楽だけを追及する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

太股の肉に竿を擦りつけ、亀頭から根本まで滑らせると、甘い陶酔が全身を駆け巡る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

隙間がないほどぴったりと合わさった二つの太股は、男根をきつく締め付け、射精への衝動を駆り立てていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イ、イキそうだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0682.ogg"

「イキなさいっ……早くイッちゃって！　貴方の変態ちんぽから、変態ザーメン汁、早くだしちゃいなさい～～～っ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅっっ！！　びゅるるるる～～～～っっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0683.ogg"

「あぁっ……出た！　ザーメンミルクが、ぴゅうって……私の太股にかかってる……あぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0684.ogg"

「熱いわ……熱くて、すごく沢山…………噴水みたいに、ザーメンが、おちんちんから噴き出してくるわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは半ば放心したように、指で精液を掬い、口へ運ぶ。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0685.ogg"

「はぁ……れろっ、ちゅっ……うん、ステーキなんかより、ずっといいわ……ちゅっ、くちゅるっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

夢中になって私の精液を舐めるキリエを見ていると、愛しさが胸の底から湧きあがってきて、彼女のためなら何だってしてあげたくなってくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと、もっとお飲み、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自主的に腰を振って、太股にペニスを擦り続ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

萎えそうになっていた男根も、その刺激によってムクムクと勃ち上がっていく。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0686.ogg"

「あっ……せ、先生……まだ……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと、君に私の精液をあげたい……！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0687.ogg"

「せ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの頬が、少しだけ紅潮する。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「嬉しいかい？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0688.ogg"

「ふ、ふん……たまには、気が利くじゃない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私には、彼女が無理してしかめっ面を作っているように見えた……。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0689.ogg"

「そ、その心がけは、認めてあげるわ……し、仕方がないから……私も、もう一回擦ってあげる……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒06,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、小さく引き締まったお尻を揺すり始める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が揺れると、ぷりぷりとした尻たぶが私の太股に当たる。その感触が悩ましい。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0690.ogg"

「あぁっ……す、すごいじゃない……二回目なのにっ……おちんちんが、さっきより大きく……ふぁぁっ！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0691.ogg"

「んぁっ……わ、私の、太股に、ぶっといおちんぽ、ゴリゴリ、当たって……んっ、んんっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液でぬめって更に滑りがよくなり、擦り付けやすくなった太股は、私が突き込む度にぷるぷると震える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

白くむっちりとした肉の間にペニスが埋まり、また出てくる。その様子を見ているだけで、私の興奮は最高潮にまで達するのだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0692.ogg"

「あんっ……ガチガチおちんぽがっ、膨らんだ亀頭がっ、私の太股をえぐってるっ……ふぁぁっ……なんて硬いおちんちんなのっ……あんんっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0693.ogg"

「人間のおちんちんが、こんなに力強いなんてっ……この私を、こんなに興奮させるほどっ……太くて、硬くて……ふぁっ、あぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0694.ogg"

「太股で、してるだけなのにっ……変な気分になって……オチンポの匂いが、精液の匂いが漂ってきて……なんだか、私……っ、あぁんっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは我を忘れたように顔を振り、私の下でもがき、身を捩っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君も興奮しているんだな、キリエ……私のペニスを太股に擦りつけて、興奮しているんだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0695.ogg"

「え、えぇっ……？　わ、私、そんなこと言ってな……んっ、んんんっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分が何を口走ったのかさえ、分からない様子のキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

前後不覚に陥ってしまったキリエには、普段の冷たい雰囲気はなく、熱く滾る肉体を持て余すように喘いでいる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の冷たい仮面の下には、意外にも情熱的で淫乱な素顔が隠されていたようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「淫らな君も、美しい……キリエ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は更に身体ごとぶつかるように、彼女の太股を犯していく。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0696.ogg"

「わ、私は……みだら、なんかじゃないっ……んぁぁっ！　こ、これはぁっ……せ、精液の、ため、なんだからぁっ……！　た、ただの、食事、なのっ！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0697.ogg"

「ず、図々しい、人間の、ちんぽなんかでぇっ……はぁぁっ！　だ、誰が、こうふん、するものですかっ……！　んっ、んくぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは否定してみせるが、最早言い返すのも馬鹿馬鹿しいくらい、彼女が興奮しているのは明らかだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ、もう一度、精液をぶっかけてあげよう……君の太股に、胸に、顔に……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はラストスパートの抽送を開始する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

裏筋までしっかりと擦れるように、彼女の両脚をぴったりと閉じさせ、太股の肉にめり込むようにペニスを突き刺した。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0698.ogg"

「あぁっぁっ！　す、すごいっ！　おちんぽがっ脚にズンズンきてっ……あぁぁっ！！　おまんこまで、ズンズン響いてるっ！！　あぁぁあっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0699.ogg"

「で、出るのねっ！？　勃起ちんぽから、またザーメン出るのねっ？　私にぶっかけるのねっ……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、出る……！　最後の一滴まで、きみにぶっかけてやる……！」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0700.ogg"

「かけてっ……ザーメン、おいしいザーメンちょうだいっ……キリエの太股に、おっぱいに……身体中にエッチなお汁、ぶちまけてぇぇぇぇっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぐるるるるーーーっっ！！　びゅぐびゅぐっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの太股からぴょこんと飛び出た亀頭の先端から、大量の精液が孤を描いて迸った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0701.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁーーー……っっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは切ない声を上げて、海老反りになった肢体を波打たせる。

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_38.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_38.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0702.ogg"

「あぁ、あぁぁ……精液が、びちゃびちゃ降ってきてる……熱いのが、いっぱい……私の身体を汚してる……あぁ……ふぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0703.ogg"

「ん……ぴちゃっ、れるっ……精液、おいしい……皮膚からも、いっぱい、エネルギーが、取り込まれてる……はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0704.ogg"

「すごいわ……先生の精液……どんどん力が、漲っていくわ……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の精液を浴びたことによって、彼女は生命感に溢れ、益々美しくなるようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0705.ogg"

「はぁぁ……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を見上げるキリエの顔が、頼りなげに潤んでいる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の精液を求めるその姿は、私に恋しているのかと勘違いしてしまうくらい、一途でまっすぐなものだった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……好きだ……」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は恋心に胸を衝かれて、思わずキリエに口付けしようと、顔を寄せる。

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0706.ogg"

「！！」

\

lsph 30,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝06杍傪挘傞.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

近づけた顔を、キリエに平手で思い切り打たれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

驚いて、頭の中が真っ白になる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0707.ogg"

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、目で私を射殺そうとでもするかのように、きつく睨みつけていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0708.ogg"

「汚らわしい！　人間風情が私にくちづけをしようなどと……笑わせるな！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0709.ogg"

「何を勘違いしているのだ！？　私は貴様など大嫌いだと言っているはずだ！　私の目的は精液だけだ！　自惚れるな！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう……私はキリエの恋人でも何でもない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただの、食料なのだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

血を吸われるか、精液を吸われるかの違いだけ……それは分かっていたはずなのに……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……キリエ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0710.ogg"

「何だ、この馬鹿者が……！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、私は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

被雾枝的行为深深地伤害到了

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠悈偵旘傃崬傓01.ogg"

bgm "music/nbgm10.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0711.ogg"

「なっ！？　きゃぁぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ、私は食料だ……！　精液が欲しいのなら、もっとくれてやる！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は強引にキリエを抱き上げ、浴槽の中に沈める。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、彼女に反撃する間を与えず、すかさず片脚を持ち上げ、女陰に男根を挿入した。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0712.ogg"

「あっっ！！　あぁぁぁぁぁっぁぁぁぁっぁぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

挿入された衝撃で、キリエの裸体がぶるぶると震える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

太股への刺激だけで、あそこまで昂ぶってしまったキリエなのだから、ペニスを挿入されたショックたるや、相当なものがあるのだろう。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0713.ogg"

「あ、あぁぁぁ……う、うそぉ……おちんちんがぁ……お、おまんこに、はいってるぅ……ズブッて、はいっちゃったぁ……ああぁぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは理性の飛んだ表情で、虚ろに呟くだけだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあキリエ、精液をおまんこにもぶち込んでやるぞ……沢山飲み込め！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は獣のような荒々しい感情を隠すつもりもなく、乱暴にキリエを責め立てた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou05\_2\_01\_s3

\*ndou05\_2\_01\_s3\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou05\_2\_01\_s3/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゃんぐちゃんぐちゃんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

浴槽に溜まったお湯が跳ね上がる音に混じり、オマンコの音も聞こえる気がする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのオマンコの中は、それほどまでにぐしょ濡れで、お湯とは違うぬめった液体で、肉棒がぬるぬると滑るのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0714.ogg"

「あぁぁっ、いやぁっ、やめ、やめてっ……！　おまんこ、かき回さないでぇっ……極太ちんぽで、おまんこぐちゃぐちゃにしないでぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のオマンコは、最初からグチャグチャだったよ、キリエ！　いやらしい愛液で、ドロドロになっているぞ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0715.ogg"

「そ、そんなことないぃっ、ふぁぁっっ！！　あ、愛液なんかぁっ……あんんっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私のペニスが、こんなにスムーズに動くのが、何よりの証拠じゃないか……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自分の言葉を裏付けるように、大きく深いストロークで彼女を貫いていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエがどんなに反駁しようと、肉壷は熱く濡れて柔らかく私に絡み付いてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の身体が、涎を垂らして私を求めているということを……私は確信し、微かに残ったプライドを満足させるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0716.ogg"

「あぁっ、あぁっっ、う、うそよぉっ……私が、先生のおちんぽなんかでっ、濡れるはず、ないのぉっ……あぁぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「幾ら言い訳しても、オマンコはお漏らししたみたいに、びしょ濡れだ……それとも、本当におしっこを漏らしてしまったとでも言うのかね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0717.ogg"

「う、うぅぅうっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は私を汚らわしいと言ったが……汚らわしい私にチンポを突っ込まれて、オマンコを濡らしている君は、何なんだね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0731.ogg"

「くっ……ううっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「汚らわしいチンポを悦んで咥え込んでいる君のオマンコは、汚らわしくはないのかね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0732.ogg"

「うううっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは遂に言葉に詰まり、悲しそうに目を伏せた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの気高い美貌が快感に歪み、涙に崩れていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそんなキリエを見て、好きでもない男に征服される彼女を哀れに思うと同時に、深い満足感も得ていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生意気なキリエには、お仕置きが必要だと……高々と勃起した肉棒が、私に告げているような気がしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあキリエ、イクぞ……中出しするぞ……！　下等生物の精液を、君のオマンコで一滴残らず吸い取るんだ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0718.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁあっぁぁあぁぁっぁぁあぁっあぁぁぁ！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぶるるるっ！！　ぶびゅるるるるーーーっっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は子宮底をへこませるぐらいの勢いで亀頭を突き刺し、キリエの身体の一番深いところで射精した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0719.ogg"

「あぁぁぁぁーーー……せ、精液……でてる……おまんこに、オマンコの一番奥に……子宮まで届くくらい深くに……ザーメン、どぼどぼされてるぅ……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0720.ogg"

「あぁ……いや、嫌なのにぃ……おまんこ、きもちいい……精液、だされるの、すごく……おまんこ、じんじんして……あぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0721.ogg"

「先生の、精液なんて、本当は汚らわしいのに……出されれば、出されるほど……きもちよくて……からだが、あつくなって……ふぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはぐったりと打ちのめされて、泣き声を出していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの毅然としたクールな美貌は、いまや台無しだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと欲しいのか？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0722.ogg"

「あ、あぅぅぅ……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0723.ogg"

「（コクン……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥辱に塗れ、それでも肉棒を求めてやまないキリエ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「分かった……今日は、徹底的にやってやろう……精液でも何でも、出せるだけ出してやる……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0724.ogg"

「（……コクン）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは涙ぐみながらも、恥ずかしそうに頷く。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女への愛が胸に溢れるのを感じ、もっともっと、彼女を抱きたくてたまらなくなっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの華奢な身体を抱き寄せ、また肉棒を穿ち込む。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou05\_2\_01\_s1

\*ndou05\_2\_01\_s1\_end\_1

cspd:lsp2 99,":c;ndou05\_2\_01\_s1/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0725.ogg"

「あぁぁっ！！　あんっあんっあぁぁぁんんっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一回、二回、三回……と、回数が増えるごとに、ペニスが肉壺の襞に馴染んでいくようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0726.ogg"

「あぁっ、うそ……っ、こ、こんなに、きもちがいいなんてっ……！　先生のおちんぽっ、挿れられるたびに、どんどんきもちよくなってるっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0727.ogg"

「い、いやっ、こんなの……っ、はずかしいっ……オマンコ、グチャグチャにして、人間に、オチンポ挿れられて、悦んでっ……ふぁぁんんっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0728.ogg"

「こ、こんなの、私じゃないっ……あぁぁっ！　私じゃないのぉっ……こんな、いやらしい、淫らな、わたしっ……おまんこされて感じてるわたしっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0729.ogg"

「わたしじゃないっ……ちがうのぉっ……！　せんせいとっ、セックスして、感じてるなんてっ……こんなのっ、うそ、うそなのぉっ……んぅうぅぅっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「素直になれ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエにのしかかるようにピストンし、ぐっと小さな乳房を鷲掴む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0730.ogg"

「あぁぁぁっぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

柔らかな胸を揉みくちゃにし、グネグネとこね回し、乳首をキュウッと摘み上げると、蜜壺から新たな果汁がドバッと溢れ出た。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「また濡れたな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0731.ogg"

「う、ぅぅうぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イキそうなんじゃないのか、キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0732.ogg"

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私から目を逸らす。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうして目を逸らす？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0733.ogg"

「先生の顔なんて、見たくもない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「素直にならないと、イカせてやらないぞ……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを抱いていた腕を緩め、上体を少し離した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、そのままじっとしていた。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0734.ogg"

「な、何よ……どうしたのよ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは背けていた顔を戻し、すがるような目で私を見た。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0735.ogg"

「ど、どうしたのですか、先生っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一向に動こうとしない私を見て、キリエはじれったそうに、腰をモジモジとさせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

態度をどう取り繕おうと……彼女が一刻も早くイキたくてたまらないのは、一目瞭然だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イカせてやらないと、言っただろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを冷ややかに見下ろし、決然と言い放つ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛した方が負けだとしたら、私は常にキリエに負けている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だからこそ、このゲームでは負けるわけにはいかなかった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0736.ogg"

「な！？　精液をくれると言ったのは、先生じゃないですか！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも必死だった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の身体は勝手に動き出して、淫らがましく腰をくねらせ、少しでもペニスの摩擦を得ようとしている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は意地悪をしたくて、ペニスが抜けそうなくらい腰を引いた。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0737.ogg"

「あぁっ！！　だ、だめ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「精液なら、もう充分補給しただろう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは肉棒を逃すまいと、身体を密着させようとするが、私は彼女の肩を抑え、近づけまいとする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そしてもう少し腰を引き、もうオマンコには亀頭だけが入っているような状態になった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0738.ogg"

「い、いや、抜けちゃうぅ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうして抜けたらまずいのだ？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0739.ogg"

「……っ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今の君は精液が欲しいんじゃない……快感が欲しいんだ」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0740.ogg"

「っ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうしてもイキたくて、たまらないんだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0741.ogg"

「う、うううううっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は苦しそうに呻き……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しばらくたってから……。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0742.ogg"

「い、イキ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唇から、聞き取れないほど小さな声が漏れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何だね？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0743.ogg"

「イキ……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0744.ogg"

「イキたいのぉっ！！　イキたいのよぉっ！！　先生のオチンチンで、イキたいのっ！！　イッちゃいたいのっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ようやくキリエは本心を暴露した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私としては溜飲が下がる思いだったが、まだ許す気にはなれない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……では、お願いしたらどうだね？　君の下僕に。下等生物に。イカせて欲しいと頼んだらどうだ？」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0745.ogg"

「くっ……ぅうぅぅうっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはギッと私を睨みつけた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだそんな元気があったのかと驚く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の膣内の方は、ひっきりなしに襞がざわめき、もう一時も待てないとばかりに、雄弁に訴えているというのに……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0746.ogg"

「うぅぅ……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

おねだりまでするのは、キリエのプライドが許さないのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当は私ももう、この辺りで許してやりたいのだが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ではだめだな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

徹底しなければ意味がないだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はペニスを抜いた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠悈偵旘傃崬傓01.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_2\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0747.ogg"

「い、いやぁぁっっ！！　抜かないでぇっ！！　いやっ！！　おちんぽ抜いたら、だめぇぇぇっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

抜いた瞬間、キリエがばしゃばしゃとお湯を跳ね上げながら、私にしがみ付いてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の計算どおりだった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0748.ogg"

「イ、イカせてくださいっ……先生っ！！　先生のおちんぽでっ……！！　キリエのオマンコ、イカせてぇぇっっ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは涙をぽろぽろ零しながら、私にぎゅっと抱きついてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のささやかな乳房が私の胸に当たり、私の身体の芯がカッと熱くなる。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0749.ogg"

「おねがい、おねがいぃぃっっ！！　せんせいっ、先生のチンポ挿れたいっ！！　キリエのオマンコに、もう一度挿れてくださいっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……仕方がないな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は渋々……という風を装い、キリエの膣口に亀頭を押し当てる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勿論、本音は挿れたくてたまらず、痩せ我慢も限界に近かった。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0750.ogg"

「はやく、はやく挿れてっ！！　おちんちんちょうだいっ……おまんこにちょうだいっ！！　ぶっといおちんぽいれてぇっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「分かった、今すぐ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

にゅぷにゅぷにゅぷっ

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou05\_2\_01\_s1

\*ndou05\_2\_01\_s1\_end\_2

cspd:lsp2 99,":c;ndou05\_2\_01\_s1/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0751.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁ～～～～～～っっ！！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスを再び挿入され、キリエはバスタブの中でお湯を飛び散らせ、派手に身悶えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0752.ogg"

「あぁぁっ……オチンチン入ってるっ……硬くて大きいの、おまんこの中で感じるっ……はりさけそうなおちんぽ、感じてるっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと感じさせてやる……！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou05\_2\_01\_s2

\*ndou05\_2\_01\_s2\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou05\_2\_01\_s2/00000034.jpg",400,220,100,100,0,255

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は間髪入れずに激しく突き上げた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉襞は抜く前よりも強烈に痙攣し、肉棒をぬるぬると締め上げてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

軟体動物のような感触が心地よく、私はペニスの先端で、ぬめる肉をぐちゅぐちゅと突き刺し続けた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0753.ogg"

「あぁぁーーーーーっっ！！　あぁっっ、あぁぁっっ、ふぁぁっぁっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0754.ogg"

「しゅごっ……しゅごいっ……んくぅうっっ！！　き、きもち、いいっ、きもちいいっ！！　ちんぽきもちいいっ！！　先生のちんぽ、いいっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0755.ogg"

「あぁぁーーーっ……！！　もっとちんぽでズンズンしてぇっ！！　オマンコの奥まで、ちんぽ突き刺してぇっ！！　おまんこ犯してぇっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが髪を振り乱し、泣き叫ぶ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生々しすぎるよがり声を上げ、恥ずかしげもなく自分から腰を振ってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれほどまでに意固地になっていたのが嘘のように、キリエは私を欲し、興奮を露にしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0756.ogg"

「きもちいいっ、きもちいいのっ！！　おまんこきもちいいっ！！　こんなのはじめてなのっ！！　先生のちんぽが、はじめてっ！！　あぁぁぁ～～っ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私も気持ちがいい……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0757.ogg"

「きもちよすぎっ！！　先生のオチンポは、きもちよすぎぃっ！　……おまんこがっ、とけちゃいそうっ……ふぁぁ～～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が突き入れると、キリエも身を捩り、可愛らしい反応を見せてくれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

浴室で温められた肌を更に紅潮させ、私のリズムに合わせて腰をくねらせ、肉襞を緊縮させる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

普段は私を嘲り、侮辱する唇からこぼれてくるのは、最早悦びの言葉だけ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体だけなら、こんなにも相性がいいのに……何故気持ちは通じないのかと、それが歯痒かった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0758.ogg"

「あぁぁっ、あぁぁっっ！！　い、いきそうっ！！　せんせい、キリエもういきそうっ！！　イッちゃいそうっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

焦らされていた効果もあるのか、キリエは絶頂への階段を駆け上っていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の膣内はいやらしく痙攣し、ペニスにねっとりと吸着してきて、オーガズムに達するのは時間の問題だと思われた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私もイクから、一緒に……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も腰裏に射精感を感じ始めていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに対する勝利感と共に、突き上げてくるどうしようもない射精への欲求……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、倒錯した開放感に酔っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0759.ogg"

「あぁぁんっ！！　イッてイッてっ！！　先生もいっしょにっ！！　おまんこと一緒に、おちんちんイッてぇぇっっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0760.ogg"

「中に出してっ！！　オマンコの中に出してぇっ！！　先生の雄のエキス、えっちなオチンポ汁、おまんこの中に、ぜんぶだしてぇぇぇっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ！！」

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF中出し",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF外出し",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_3

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_3

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route06b0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route06b1

goto \*L\_selectbtn3

\*L\_route06b0

sw

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュグルルルルルルルーーーーーーーーッッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、精巣にわだかまっていたドロドロした想いを全て、キリエの子宮へと放出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0761.ogg"

「あ、あ、あぁぁぁ……ああぁぁぁ……オチンチン汁でてる……おまんこに、しきゅうに……先生の精液、全部……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0762.ogg"

「あつい……精液が、おまんこに、からだに、しみわたって……はぁぁ……あぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

射精した今となっては、彼女への苛立ちなど、どうでもよくなっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、私は彼女の下僕……それで満足していたはずではないか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0763.ogg"

「はぁ、はぁ……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大きな目に涙を浮かべて、私を見上げるキリエがいとおしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女への愛が、どんどん深くなっていくのを感じていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……たとえ、彼女には嫌われていようとも。

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

goto \*L\_route06bend

\*L\_route06b1

sw

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は絶頂の瞬間、キリエの中からペニスを引き抜いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0764.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁーーーっ……！？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n05\_2\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュグルルルルルルルーーーーーーーーッッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ちょっとした意趣返しのつもりだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液にばかりこだわるキリエへの、ちょっとした反抗……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0765.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁ……ぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液は、キリエの子宮へは届かず、彼女の身体中に飛び散っていく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しい彼女を、私の精液で汚すことに、私は暗い悦びを覚えていた。

\

lsph 30,":c;image/n05\_2\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n05\_2\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0766.ogg"

「あ、あ、あぁぁぁ……ああぁぁぁ……オチンチン汁でてる……からだじゅうに、あびてる……先生の精液、全部……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0767.ogg"

「あつい……精液が、からだに、しみわたって……はぁぁ……あぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

皮膚からでも吸収できるのだろうか……彼女はさほどがっかりした様子もなく、満足気に快感に浸っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

射精した今となっては、彼女への苛立ちなど、どうでもよくなっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、私は彼女の下僕……それで満足していたはずではないか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0768.ogg"

「はぁ、はぁ……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大きな目に涙を浮かべて、私の名を呼ぶキリエがいとおしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女への愛が、どんどん深くなっていくのを感じていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……たとえ、彼女には嫌われていようとも。

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

goto \*L\_route06bend

\*L\_route06bend

sw

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n16\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0769.ogg"

「（むっすーーー）」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……いい加減機嫌を直してくれ……」

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の前で痴態を演じてしまったのが余程恥ずかしかったのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはあの後、一言も口を利いてくれなくなってしまった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、もう意地を張らなくていいではないか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「先刻の君、とても可愛らしかった……『先生のおちんちんちょうだい』と言われた時は……いや、正気を保つのが、難しかったほど……」

\

lsph 30,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0770.ogg"

「言うなーーーーーーー！！！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_愒栚徠傟嫨傃02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0771.ogg"

「（がぶっ！！！）」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは怒りに任せて、振り向きざまに私の首筋に噛み付いた！

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_愒栚徠傟尵偄曻偮01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0772.ogg"

「ぢゅーーーーっっ！！　んちゅうううううっ！！」

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ……うぐぅぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は逃れようと暴れるが、もがけばもがくほど、キリエの牙は私の首に深々と突き刺さっていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どんどん意識が薄れていく……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれだけ射精した後、血まで抜かれたのでは、これはもう流石にダメだという気がする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚徠傟尵偄曻偮01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0773.ogg"

「ちゅううううっ！！　じゅるるるっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の不安をよそに、キリエの吸血はまだまだ終わる気配がない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、ぅぅ……」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

瞼が重くなり、目を閉じる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いよいよこれで最後なのか……と、私は死の予感に震えていた。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ハッ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの寝台の上で目覚めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、生きてる……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体を起こすと、貧血のせいかまだ頭がフラフラしたが、それでも私は生き延びたようだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0774.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、キ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

寝台の傍には、キリエが立っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0775.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

また怒られるのか……と思ったのだが。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0776.ogg"

「……気がついたのですね、先生。中々目覚めないから、心配しました」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の口から出たのは、意外な言葉だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「心配……君が……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0777.ogg"

「ええ……私も、ついカッとなって……吸血してしまいましたけど……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0778.ogg"

「先生が気絶してしまって……お湯の中でどんどん血が流れてしまうし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0779.ogg"

「流石に……やりすぎたというか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0780.ogg"

「悪……かった……というか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは言い辛そうに口ごもる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これは……もしかして……謝罪……しているのか？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

プライドの高い彼女のこと……はっきりと『ごめんなさい』とは言わないが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚怱攝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0781.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のモジモジとした態度……居心地の悪そうな様子からして……罪悪感を感じているのは、確かなようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな彼女に対して、私は……。

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF強気になって怒る",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF自分も反省し、キリエを許す",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_4

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_4

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route06c0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route06c1

goto \*L\_selectbtn4

\*L\_route06c0

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふん、どうせ君は、私など死ねばいいと思っているのだものな！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は鬱屈した思いを隠しきれずに、キリエに向かっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「浴室での吸血はやめてくれとあらかじめ言っていたのに……！　私が苦しもうが、悲しもうが、笑って見ているだけなんだ、君は！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが初めて下手に出ているということも、私を発奮させる要因になっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今なら、キリエに対して、不満をぶつけられるような気がしていたのだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0782.ogg"

「何よ……そんなに怒る事ないでしょう……悪かったと言っているじゃないの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の態度に少しムッとしているようだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……そんなこと、信じられるものか！　君は平気で嘘をつく女だからな！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが私は、彼女を攻撃することをやめなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここで引いたら、いつもと同じだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0783.ogg"

「何ですって？　私を侮辱するつもり？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはギリ、と眉を吊り上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

完全に腹を立ててしまったみたいだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら、またそんな風に私を脅す！　やっぱり悪かったなんて、口だけではないか！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私をそれを逆手にとって、キリエを責め立てた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚崲傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0784.ogg"

「……く、口だけではないわよ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、態度で示してくれるのだな？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0785.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やはり君は嘘つきだな！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_,傇傞偭.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0786.ogg"

「嘘つきではないわよ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはプライドを傷つけられたのか、真っ赤な顔をして怒鳴っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では……本当に私に済まないと思うなら……態度で示してくれるのだな？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0787.ogg"

「くっ……！　分かったわよ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悔しそうに歯軋りしていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0788.ogg"

「一体……私に何をして欲しいというのよ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは……明日学園で……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0789.ogg"

「……全く、すぐに図に乗るんだから……これだから人間は……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは完全に殺気立っていたが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、自分の意志を貫き通し、キリエに約束を取り付けたことで、独り悦に入っていたのだった……。

\

bgm "music/.ogg"

csp2 4

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

goto \*L\_route06cend

\*L\_route06c1

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……私も悪かったのだ……また君に無理強いをしてしまった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私のことを……好きになって欲しいと言いながらも、私はいつも正反対のことをしてしまうようだ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう……彼女の行動も酷いとは思うが、私が彼女にした行為も、決して褒められたものではない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の行為によって、彼女が怒ったのだとしたら……それは仕方がないことだろう……と、今は思っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すまなかった……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟暁偟栚03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0790.ogg"

「……な、何よ、私が、悪かったと言っているでしょう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、思いの外穏やかな声で言う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……原因を作ったのは私だ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0791.ogg"

「……もう、いいって言ってるじゃない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは口元に少し笑みを浮かべる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あどけないその笑顔を見て、私は心がときめくのを感じた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0792.ogg"

「私だって、貴方に、今死なれては困るし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟榖偟偐偗傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0793.ogg"

「あ、ほら……貴方の血の味、私気に入っているし……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟暁偟栚03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0794.ogg"

「その、精液も……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0795.ogg"

「だから、貴方には、もう少し生きていてもらわないと……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何故だか心が温かくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

食料としてでもいい……彼女が私を必要としてくれているのだと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その事実だけで、もう充分だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0796.ogg"

「……ねえ先生……もし、貴方が望むなら……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0797.ogg"

「お詫びのしるしとして、何かひとつだけ、貴方のお願いを聞いてあげてもいいわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「お、お願い……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚壐傗偐側徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0798.ogg"

「ええ……貴方には、これからも私の為に尽くしてもらわなきゃならないんだし……まぁ、たまには……私からの御褒美よ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

嬉しさで胸がいっぱいになる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の上から目線も、全く気にならなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何でもいいのか……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0799.ogg"

「ええ……いいわよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは寛大な自分に酔っているのか、鷹揚に頷いていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、お願いは明日学園で……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0800.ogg"

「学園で……？　まぁ、構わないけど」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

お願いはもう決まっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

明日のことを考えると、楽しみで眠れなくなりそうだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0801.ogg"

「では、今夜はゆっくり休みなさい。また明日……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……お休み、キリエ……」

\

csp2 4

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僪傾暵傔03.ogg"

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが部屋から出て行った後、私は彼女の寝台に潜り込む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の香りが染み付いたシーツを胸いっぱいに吸い込み、私はこれ以上ない幸せに浸っていた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

goto \*L\_route06cend

\*L\_route06cend

sw

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

さて……翌日の休み時間。

\

bgm "music/nbgm03.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエが約束を果たしにやってくるのを、心待ちにしていた。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯塇偽偨偒01.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

バサバサッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鳥の羽音がしてそちらを見ると、丁度変身を解いたばかりのキリエの姿があった。

\

dwavestop 2

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0802.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、キリエ……なんと美しい！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その美しい姿に、私の目は釘付けになる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すんなりとした裸体に纏った薄い布きれ……彼女の色気を余すところなく引き立てている、この魔的とも言うべき衣類……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「素晴らしい……これこそが真実の美だ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの紺色の魅惑的なスクール水着姿に、私は鼻息も荒く、絶大なる興奮を覚えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0803.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

当のキリエはといえば……私の熱狂を冷めた目で見ている。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0804.ogg"

「……貴方のお願いって、本当に下らないわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は苦虫を潰したような顔で吐き捨てた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚惷偐側搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう……私の願いとは、キリエのスクール水着姿が見たい、というものだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

都合よく今日は体育の授業があり、温水プールに入るということを、担任である私は把握していた……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

他の生徒達がプールへと向かっている休み時間を利用して、教室でキリエの水着姿を拝ませてもらった、という訳なのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くだらなくはない！　私が求めているのは美だ！　いわば芸術だ！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0805.ogg"

「……いやらしい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いやらしいとは何だ、君は体育の授業に必要なスクール水着がいやらしいものだとでも言うのか？　日本の女子学生が、皆身に着けている公式の……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚僕僩栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0806.ogg"

「変態」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエには何を言っても、私の芸術は理解されないようだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「コホン……まぁ、言い争いはやめよう……それでは写真撮影に移らせてもらう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は用意していた愛用のカメラを持ち出した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚暁偟栚01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0807.ogg"

「……さすがに引くわよ……先生」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはカメラを見てはっきりとした拒絶反応を示した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……今の君の輝きを記録に残したいだけなんだ……これは私だけの宝物で、決して人に見せたりするものではないんだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚僕僩栚01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0808.ogg"

「……犯罪ですよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のためなら、私は犯罪者になることも厭わない！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私もはっきりと主張した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚曫傟01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0809.ogg"

「分かりましたよ……じゃあ、撮ってみて下さい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはやる気のない感じで承諾してくれた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ありがとう！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は愛用のライカＭ型を構える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このカメラなら、キリエの美しさ、そのかけがえのない一瞬を、きちんと捉えてくれるはずだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0810.ogg"

「こんな感じでいいんですか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが少し斜めを向いた姿勢で、キッとカメラを睨む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さ、最高だ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ん……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ファインダーを覗き、私は言葉を失う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目を擦って、もう一度見てみるが、それでも結果は変わらなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚峫偊傞02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0811.ogg"

「分かったでしょう、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはさも面倒くさそうに言う。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……忘れていた……吸血鬼はカメラに映らないのだったな……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0812.ogg"

「ええ……お生憎」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

カメラのファインダーを覗いても、キリエがいるべき場所に、何も映ってはいない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血鬼は鏡に映らないというのは有名な話だが、同じように写真にも写らないのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くぅ！　……なんということだ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目の前にこれ程までに完璧に美しい被写体があるというのに……！　写真に残すことが出来ないとは……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの水着が見たい、というお願いではあったが……写真に残すということも大きな目的であったのに……！

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0813.ogg"

「そんなに悔しがらないでよ、先生……いい大人が恥ずかしいわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに注意されるくらい、みっともなく身悶えていたようだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚搟傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0814.ogg"

「私の美しい水着姿を見られただけでも、よかったじゃない。貴方の網膜に、しっかりと焼き付けるがいいわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう言ってキリエは、肩にかかった髪をサラリと手で払う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

流れるツインテール、紺色の水着の魅惑的な流線型、そして、引き立てられる白い肌と長い手足……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ！　しっかりと焼き付けよう！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

こうなったら、脳内アルバムに刻み付けるしかない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は目をカッと見開き、キリエを穴の開くほどじっと見つめる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0815.ogg"

「フフ……いやらしい目つき……私を視姦するつもり？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口角は、嘲笑で上向いていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僗僋悈\_惵栚悓偄僯儎儕01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0816.ogg"

「……あら？　フフ……視姦どころじゃ、済まないようね……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……ハッ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに指摘され、股間を見やる。

\

csp2 4

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の股間は、いつの間にか隆々と欲望の形を現していた……。

\

\*L\_Replay09\_02

mov %Replay09\_02, 1

lsph 30,":c;image/n06\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0817.ogg"

「なっ……！？」

\

bgm "music/nbgm08.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はどうにも我慢が出来ず、勃起した一物をキリエの胸の脇辺りから水着の下に差し込んだ。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛用ライカも役に立たないとあっては、こうでもしないと気が収まらない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……これがスクール水着の感触か……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉棒がスクール水着に挟まれた瞬間、身体中に電流のようなものが走り、脳天まで突き抜けた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これがあのスクール水着……憧れて憧れて……しかし学園での写真撮影はさすがに出来ず、涙を呑んでいたあのスクール水着……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「なんと柔らかな布の感触……！　なんと吸い付くような質感なんだ……！　あぁ、これが女子学生だけに許された禁断の水着なのだな……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0818.ogg"

「先生……落ち着いてください……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはペニスを突っ込まれ、一瞬驚いたものの、すぐに私を軽蔑しきった冷めた眼差しに戻っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は分かっていない！　このスク水の神聖さを……！　少女だけに与えられるこの聖衣とでも言うべき神々しさを……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「露出面積が少ないにもかかわらず、肉体のラインをこれでもかと強調する！　かといって淫猥には決してならず、少女の清楚さを損なわない！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「このシンプルさ、華美な装飾などは何もなく、あくまで少女の素材を大切にするシンプルさ！　これはもはや神の領域なのだ！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0819.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは完全に沈黙していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「コホン……まぁ、君も少しは理解してくれただろう……私のスクール水着に対する情熱を……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0820.ogg"

「……情熱という名の異常性欲を理解しました」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ……相変わらず、手厳しいな……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0821.ogg"

「それより先生……早くしてくださいよ。もう授業、始まっちゃいますから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、水着を貫通するペニスにチラチラと目をやっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勃起したペニスが、どうにも気になって仕方がない、といった様子だ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ははぁ……キリエ、もう精液が欲しくなったのだな？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0822.ogg"

「そ、そうじゃないですけど！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは怒ったように否定するものの、男根に対しての嫌悪感は特にないらしい。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0823.ogg"

「お、おちんちんが、胸の上でビクビクしてるから……その、気になって……ほら、時間もないですし……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぽうっと頬を染め、肉棒を凝視するキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心なしか、スク水に包まれた腰の辺りも、もじもじと動いているようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうかそうか……キリエにおねだりされては仕方がない……早く射精するとしよう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はにんまりと笑いながら、腰を動かし始めた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0824.ogg"

「も、もうっ……おねだりなんかしてないわよっ……んっ、んっ……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0825.ogg"

「ふぁっ……ば、ばかみたい、水着になんか、おちんぽこすりつけてっ、んんっ……こんな変なこと考え付くの、先生ぐらいですよ……んっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

文句を言うキリエの声が、段々小さくなり、かすれていく。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0826.ogg"

「ぁぁっ……おちんぽが、水着をでたりはいったりして、はぁぁ……へ、へんなの……擦れると、変なにおいが……はぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0827.ogg"

「水着が、蒸れて……おちんぽのにおいが、水着に、こもっちゃう……あぁっ……いやぁ……こんな、いやらしい匂い……えっちな匂い……はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0828.ogg"

「先生のチンポ、何でこんなにいやらしい匂いがするの……はぁぁ……こんな匂い嗅いでたら、わたしまでおかしくなっちゃう……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口から出る言葉は、今や熱っぽい喘ぎに変わっていて、私を益々奮い立たせるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、何てかわいいのだ！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

スク水の中にペニスを突き込むと、伸縮性のある素材が伸び縮みする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

水着は私に何もしてはくれないが、キリエの白い肌と紺色の水着のコントラストを見ているだけで私は満足だった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0829.ogg"

「ふ、ふん……こんなところにちんぽ擦りつけて、気持ちよくなってるなんて、先生って、本気のバカねっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何と言われようと構わない……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0830.ogg"

「変態っ、変態ちんぽっ！　私を犯すだけじゃ飽き足らず、水着まで犯すなんて、どういう神経してるのよっ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛しい君の水着だから、犯したいんだ！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0831.ogg"

「さ、最低よっ！！　先生の最低チンポッ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと言ってくれ、キリエ！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0832.ogg"

「馬鹿！　変態！　気持ち悪い！　最悪ちんぽっ！　極悪チンポっ！　劣悪チンポっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに罵られれば罵られるほど、じわじわと快感が湧き上がってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の罵声に傷つく段階はもう通り過ぎ、今は快楽を彩る装飾品のようにしか感じられなかった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0833.ogg"

「……って、これじゃ貴方を悦ばせてるだけじゃないっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

賢明なキリエはすぐに気づき、口を閉じてしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、君も私を罵倒して、悦んでくれているのだろう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの声がもっと聞きたかったので、話しかけるのをやめなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は根っからのＳだものな」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0834.ogg"

「何を言ってるのよ、こんな変態行為に付き合わされて、よろこべるわけが……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、スク水の股間が、何だか湿ってきているようだぞ」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0835.ogg"

「う、うそっ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私に指摘され、脚を閉じ合わせようとするが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら、やはり濡れている」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそれよりも早く、水着の下に指をくぐらせ、キリエの股間に触れた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0836.ogg"

「あ、あぁぁっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒04,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは可愛い悲鳴を上げて、私の耳を楽しませた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……スクール水着だけに、濡れているな……それにしても、性感帯に触れてもいないのに濡れてしまうとは……君も相当な助平だな」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0837.ogg"

「や、やめてよっ！　私は助平なんかじゃないわよっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ここをこんなにグチョグチョにして、説得力がないぞ」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0838.ogg"

「あぁぁっ！！　あぁぁぁ～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はしばらくキリエのおまんこを弄っていたが、やがて指を抜いた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0839.ogg"

「え……？　な、何でやめるのよぉ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快感に浸りきっていたキリエは、指を抜かれて残念そうな顔をしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに弄って欲しいのか？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0840.ogg"

「そ、そうじゃないわよ、馬鹿っ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……おあずけだよ、キリエ……まずは私が達してからだ。もたもたしていると、授業も始まってしまうしな」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0841.ogg"

「そ、そんなぁっ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずりゅっ、ずりゅっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は水着から抜けるくらいペニスを大きく引いたかと思うと、グイッと力強くキリエの胸の谷間まで突き刺す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぴっちりとしたポリエステル生地が肉竿を満遍なく締め付け、キリエのすべすべとした肌が裏筋を優しく撫でる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

天国のメロディーもかくやという、その二重奏が、私の官能を一気に倍増させる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉棒を包み込む膣も唇も胸もなく、水着と素肌だけでここまで興奮できるとは、私ですら考えもしなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そこまでスクール水着への思い入れが強かった、ということなのだろう……。私はあと２～３往復で射精、というレベルにまで達していた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0842.ogg"

「ふぁぁっ！　そ、そんなに乱暴に、おちんちん擦り付けないでよぉっ……！　み、水着が破れちゃうっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0843.ogg"

「先生の剛直おちんぽがぁっ……わ、私の水着につきささってっ……！　むりやり、亀頭でゴリゴリしてるぅっ……あぁんんっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0844.ogg"

「あぁっ……な、なんだか、おちんぽが、一段と大きくなって……んくぅっ！　ま、まさか、い、いくつもりなのっ……せんせいっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、イクぞ……水着に出すぞ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの言うとおり、ペニスは膨張を増し、今にも精液が飛び出しそうだった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0845.ogg"

「ちょ、ちょっと、何を言ってるのよ……！　水着になんて、出しちゃだめ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n06\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅっ！！　びゅるるるるるるるる～～～～～～っっっ！！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の精液は亀頭からドボドボと吐き出され、水着のポリエステルの生地に吸い込まれていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0846.ogg"

「あぁぁっ……あぁぁ……でてるぅ……どぴゅどぴゅってぇ……水着の中に、全部ぅ……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0847.ogg"

「あ、あぁぁぁ……なんてことするのよぉ……ばかばか、水着の中に出すなんて、馬鹿じゃないの……これじゃ、飲めないじゃない……ばかぁ……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0848.ogg"

「ど、どうしてくれるのよぉ……水着もよごしちゃってぇ……ばかばかっ！　この役立たずっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは未練がましく、肌に零れた精液を指で掬っては口に運んでいた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、なんと可愛いのだ！　キリエ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は感動で我が身をわななかせた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の精液を、意地汚くもぺろぺろと舐める、スクール水着のキリエ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんなに素晴らしいものを拝める日が来るとは……ほんの一ヶ月前には、想像すらできなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それが、今こうして、現実に起きているとは……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、恥ずかしがらなくてもいいんだぞ、私の精液が欲しければ、素直にそう言い給え！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0849.ogg"

「……貴方の言い方、何だかムカつくわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ハイテンションな私が気に入らないようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、精液はもういらないのかね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0850.ogg"

「うぅ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いらないのかね？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0851.ogg"

「い、いるわよっ、馬鹿ぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

素直になれないところが、また可愛かったりするキリエなのだった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

amsp2 4,400,245,100,100,0,255

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0852.ogg"

「ふぁぁっ……は、はいったぁ……っ……あぁっっ」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを後ろから抱え上げ、肉棒を挿入した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体はまるで人形でも抱いているように軽かった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが吸血鬼であるせいなのか、それともただ単に、ほっそりとした少女だからなのかは分からなかったが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こうして抱え上げても、特に負担を感じない軽やかさだった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0853.ogg"

「あ、あぁぁ……ぶっといおちんぽ、はいってるぅ……お、おまんこに、ずっぽり、いれられて……はぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0854.ogg"

「あ、あぁぁ……お、おまんこが、先生のオチンチンの形に、ひろげられてぇ……はぁぁ……えっちなかたちに、なっちゃうぅ……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは早くも苦しそうな……色っぽい吐息を漏らし、切なげに身体をくねらせるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……こんな風に脚を広げられて、子供のおしっこポーズをとらされて、恥ずかしくはないのかね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、意地悪く尋ねる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

出来ればこの姿を、カメラで撮影したかった……それが出来なかった欲求不満を、こうして解消していたのかもしれなかった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0855.ogg"

「は、恥ずかしいに、決まっているでしょう！　で、でも貴方が、こうしたいって……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私のせいにしたければそれもいいが……こんなポーズをとらされて感じているのは、紛れもなく君自身なのだからね……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0856.ogg"

「う、うぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの悔しそうな声を聞いて、私は低い笑いを漏らした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すごく濡れているね、キリエ……水着の中に精液を出されて、余程悔しかったのかな？　オマンコの中に出して欲しいと、こうして濡れてしまったのか？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0857.ogg"

「うぅ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それほどまでに私の精液を求めてくれるとは……嬉しいよ、キリエ……私は何と幸せ者なんだろう」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0858.ogg"

「も、もうっ！　そんなことはどうでもいいから、早くうごかしなさいよぉっ……ばかぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ネチネチと耳元で囁いていると、キリエはじれったそうに身悶える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

挿入したまま、私がピストン運動を行おうとしないので、待ちきれなくなったようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何を動かすんだね？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0859.ogg"

「も、もうっ……変態っ！　いちいち言わせないでよぉっ！　言わなくても、分かるでしょう！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエの口からいやらしい言葉を聞くのが好きなんだ。いつも言ってくれるだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0860.ogg"

「う、うううっ……分かったわよっ！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/n06\_2\_52.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/n06\_2\_52.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/n06\_2\_52.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0861.ogg"

「はやくっ！　おちんちん動かしてよっ！　セックスしてっ！　オマンコの中で、オチンチン、ズボズボしてよっ！　おまんこグチャグチャかき回してっ！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

プライドと快楽を天秤にかけ、快楽を取ったらしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

真っ赤な顔をして、怒ったような表情で、それでも快感に蕩けきって、キリエは叫んでいた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……分かったよ、キリエ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゃんぐちゃんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は背後から膣内を抉るように突き刺した。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0862.ogg"

「あぁぁぁぁ～～～～っっ！！　き、きたぁっ……ふかいのきたぁっ……おちんちん、おまんこのおくまでっ……子宮まできてるぅうっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスは勇ましく愛液を跳ね上げ、襞を潜り抜け、子宮の壁まで到達する。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0863.ogg"

「あぁぁあぁ～～～～～っっ！！　子宮がノックされてるぅっ……亀頭のさきっぽでぇっ、おまんこの一番奥、つつかれてるぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭の先端が子宮底に当たるごとに、キリエは高い声を上げて身を捩らせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに気持ちがいいのか、キリエ？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0864.ogg"

「き、きもちいいっ……おちんちん、最高にきもちい……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0865.ogg"

「……はっ！　わ、私ったら、な、何を言って……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私に弱みを見せたくないのか、すぐに口を噤んでしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、私の男根でキリエが感じていることは間違いないのだから……それだけで私の自尊心は甘く満たされるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0866.ogg"

「へ、変なこと、言わせないでよっ……先生のばかっ……ばかちんぽっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

憎まれ口を叩きながらも、顔を赤く染めているのが可愛らしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

毒舌も、彼女に出来る精一杯の抵抗……と思うと、全く腹も立たなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私が言わせてる……？　君が、いつも自分から率先して言っているのじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0867.ogg"

「ちょっと、私を変態みたいに言わないでよ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「変態だとは言っていないが……淫らなことばかり言うのは、いつも君……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0868.ogg"

「う、うるさいうるさいーーーーっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが怒って身体を揺らす。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はその動きに合わせ、ピストン運動の速度を上げた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずぷっ、ずぷっ、ずぷぅっ！！

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0869.ogg"

「あぁぁぁぁぁ～～～～～～～っっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が肉棒で串刺しにすると、キリエの脚が面白いように跳ね上がる。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0870.ogg"

「お、おちんぽっ！！　おまんこにグサグサッ！！　き、きもちいいっ！！　こんなにふかいのっ……すごいっ……おちんぽすごすぎぃいっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自分でも気づいていないのか、私の動きに合わせて腰を振り、悦びの声を上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0871.ogg"

「あぁっ！！　ちんぽすごいっ！！　極太ちんぽぉっ！！　おまんこの中、もう愛液で、ぐちょぐちょぉっ……！！　ふぁぁっっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0872.ogg"

「勃起チンポで、ズンズンされるとぉっ……あいえき、もっとでちゃうぅっ……おまんこが洪水みたいに、濡れまくっちゃうのぉっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0873.ogg"

「やぁぁっ……も、もうっ、脚、がくがくしてきたぁっ……！！　おちんちんきもちよしゅぎてっ……おまんこもビクビクッ……も、もう、らめっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0874.ogg"

「い、いっひゃううっ……おまんこ、いっちゃいそうっ……！！　せんせいのおちんぽで、また、おまんこいかされるうぅうぅぅっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのオマンコが痙攣を始める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

襞という襞がざわめき、ペニスに絡みつき、粘り気を増した愛液を分泌しながら、締め上げてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「よ、よし……じゃあ、一緒に……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絡み付いてくる肉襞の感触を愉しみ、いとおしみながら、私は最後の連打を加えた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0875.ogg"

「あぁぁぁ～～～～～っっっ！！　いぐいぐいぐぅぅうっ！！　おまんこいぐぅっ！！　おまんこっ、いっちゃうぅぅうぅぅーーっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n06\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぶびゅるっっ、びゅるるるるっ！！　びゅぐるるるるるっ！！　びゅぐびゅぐびゅぐっ！！

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭挭悂偒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n06\_2\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

amsp2 4,400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぷしゃぁぁぁっっ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0876.ogg"

「あぁぁぁぁーーーーーーーーっっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは絶頂の叫びを上げ、私が精液を撒き散らすのと同じように、派手に愛液を撒き散らした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「これは……潮吹きか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

潮吹きとは……オーガズムの前または最中に、女性の尿道から液体が排出される現象のことだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それが……キリエに起こったというのか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このほっそりとした、凹凸のない少女の身に、快感の余り潮を吹いてしまうなどということが、本当に起こったのだろうか。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0877.ogg"

「あ、あぁぁっ……や、やだぁっ……おまんこが、ばかになっちゃった……あ、あいえきが……こんなに、ふきだして……や、やぁぁ……はずかしい……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0878.ogg"

「こ、こんなに……きもちよくなっちゃうなんてぇ……先生のちんぽで、しおふいちゃうぐらい、かんじちゃうなんてぇ……はぁぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0879.ogg"

「そ、そんなの、うそ……うそなのぉ……私、そんなにエッチじゃない……ちがうのぉ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥らって顔を隠そうとするキリエだが、おしっこポーズで抱えられている今はそれもままならず、俯いて半べそをかくのが精一杯だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……潮吹きなどするのは、セックスに慣れたベテランだけだと思っていたが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ようやく潮も止まり、私はキリエをからかいたくなっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ははは……キリエ、君はよっぽど貪欲な身体の持ち主なのだな」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0880.ogg"

「う、うぅうぅぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは俯いたまま、ぶるぶると身体を震わせている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の発言に怒ったのか……と思い、顔を覗き込むと……。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_56.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_56.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0881.ogg"

「う、ううっ……はぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どうも違うようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は苦しげに、美しい顔を歪めている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体中に力を入れているので、ペニスが入ったままのオマンコも、必然的に締まってくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ど、どうかしたのか、キリエ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は締め付けられた肉棒が、再び硬くなってくるのを感じながら、キリエに問いかけた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0882.ogg"

「は、はぁぁ……はぁ……な、何でも、ない、けど……はぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何でもないようには、見えないが……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0883.ogg"

「んんっ……！　おちんちんがっ、おまんこの中でまた大きくっ……！　あんっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣内で膨張するペニスを感じたのか、キリエは大きく身体を仰け反らせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

仰け反った時、ほのかな薔薇の香りと絹のような髪が私の鼻に触れ、少々くすぐったく、心をときめかせた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0884.ogg"

「せ、先生……貴方のペニスは、どうしてそう、節操がないのですかっ……うぅんっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの苦悶の色が濃くなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、蜜壺は快感を求めているのか、益々強く締め付けてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、君がオマンコを締め付けるからだろう……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0885.ogg"

「し、しめつけてなんかっ……はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はオマンコを締め付けるだけでは飽き足らず、身体をユサユサと揺すってきた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0886.ogg"

「あ、あぁっ……も、もうっ……んんぅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くぅっ……！　そうか、もっとしたいのだな、キリエ……君がその気なら……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n06\_2\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずちゅんっ！！　ずちゅんっ、ずちゅんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は再び猛々しく抽送を始めた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0887.ogg"

「あぁぁっ！！　あっぁんっ！！　ふぁぁんっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも感じているのか、泣き声を出している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は気をよくして、更に荒々しく、彼女の身体を揺さぶり、下から突き上げた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0888.ogg"

「あぁぁ～～～っ！！　は、離してぇっ！！　あぁぁぁっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「離してなどと……恥ずかしがることはない」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0889.ogg"

「ち、ちがうっ……ちがうのぉっ！！　あぁぁぁ～～～っっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何が違うものか、キリエ、君はエッチな女の子だ！　自分からオマンコを締め付けて、欲しがっていたではないか！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0890.ogg"

「ち、ちがうのぉっ……おまんこはぁ、おまんこはぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちがいいんだろう！？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0891.ogg"

「き、きもちいいっ……！！　き、きもち、いいけどっ……ちがうのぉっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0892.ogg"

「お、おしっこなのぉっ！！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

沈黙が流れ……私は腰の動きを止めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、今……なんと？」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0893.ogg"

「聞こえたでしょう！？　バカァッ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は真っ赤になって怒鳴っていた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふむ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は考えた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ということは……キリエが今まで苦しそうだったのは、放尿したかったからなのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして……こうして私のペニスが挿入されている今も、放尿したいはずなのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……では、今すぐおしっこをしてみたらどうかね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は結論を下した。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0894.ogg"

「な、何を言ってるのよ！？　こんなところで出来るはずがないでしょう！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは怒ってまた脚をばたつかせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、できるはずだ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんっ！！

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0895.ogg"

「ひぅぅうぅぅぅぅんんっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを諌める意味も込めて、ペニスを深く穿ちこんだ。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

そのままリズミカルに出し入れすると、彼女は苦痛だか歓喜だか分からない声を漏らし始めた

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0896.ogg"

「あ、あぁぁぁぁっ！！　くふっ……だめ、だめよぉ……おしっこ漏らすなんて、できない……んくぅっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0897.ogg"

「あ、貴方みたいな下等生物の下僕の前で……うぅっ！　おしっこ漏らすなんて……しかも、おちんちんを、おまんこに挿れながら、漏らすなんて……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0898.ogg"

「こ、高貴な私がっ……！　ふぁぁっ……！　で、できると思ってるのっ！？　んくっ！　ば、ばかじゃないのっ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ズブズブと抽送を繰り返されても、キリエは中々理性を失わなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

おしっこを漏らすということは、それほどキリエにとって不名誉なことなのだろう……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら、丁度よく、おしっこポーズもとっているではないか。心置きなくおしっこできるはずだぞ」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0899.ogg"

「いやぁぁっ！！　やめてよぉっ！！　そんなこと、言わないでぇぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0900.ogg"

「はずかしいのぉっ……！　こんな格好でっ……オマンコ、感じまくって、おしっこもらしちゃう、なんてっ、くつじょく、なのぉぉっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0901.ogg"

「お、おねがいっ、もう、やめてぇっ！　お、おもらし、させないでぇっ……！　わたしを、ぶじょく、しないでぇっ……！　ふぁぁぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの泣き声と、オマンコを掻き回す水音が、教室中に響き渡る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

二人の熱気で、部屋の温度が急激に上昇したみたいに暑い。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は顔を火照らせながら、どうしてもキリエの放尿が見たい、とそればかりを考えている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣内の肉は引き攣るように震えて、肉棒をみしみしと締め上げてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの顔色を見ると、爆発するのは、もうあと少しだと思われた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0902.ogg"

「あぁぁっ！！　あっぁぁっ！！　いやぁっ、おちんぽ、おおきくしないでぇっ！！　しきゅうを、圧迫しないでぇっ！！　膀胱、圧迫しないでぇっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0903.ogg"

「もれちゃうもれちゃうぅっ！！　おちんちんで、お腹の中押されるとぉっ……漏れちゃうっ……！！　おしっこ、もれちゃうぅぅうっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「漏らしたまえ、キリエ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の肉棒も、キリエの中で最後の暴走を始める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少しでも気を抜くと溢れ出してしまいそうな精液を、どうにか我慢して彼女のお漏らしを待った。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0904.ogg"

「いやぁっ、おしだされるぅっ……！　おしっこがっ、もう、でそうっ……！　あぁっ、ちょびっと、もれちゃったぁっ……あぁぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0905.ogg"

「い、いやぁっ……こんなの、いやなのにぃっ……き、きもち、よすぎてぇっ、もうっ……お、おしっこ、がまん、できないぃいっっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0906.ogg"

「あぁぁぁ～～～～～っっ……いやぁっ……もれるぅっ……おしっこ！　おしっこがもれるぅっ……！！　おしっこぉぉぉぉぉっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……もうだめだ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n06\_2\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぶるるるるるるるるるるるるるるーーーっ……

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉僀儞\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉僀儞\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/n06\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/n06\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/n06\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭偍偟偭偙懍02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぷしゃぁぁぁぁぁぁぁっ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0907.ogg"

「いやぁぁぁぁぁぁぁーーーーーーーーっっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/n06\_2\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

可憐な美貌を真っ赤に染め、キリエは遂におしっこを漏らした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私もほぼ同時に達し、一緒にエクスタシーを得たような、深い満足感を覚える。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0908.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁ…………」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭偍偟偭偙抶01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

しゃぁぁぁぁぁっ……！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

我慢していたせいか、彼女のレモンイエローの液体は、いつ耐えるともなく流れ続けていた。

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_45.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_45.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0909.ogg"

「うそよ、うそ……人間の前でぇ……下僕の前でぇ……おもらししちゃうなんて……おしっこしちゃうなんてぇ……うそぉ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0910.ogg"

「こんな、みっともない……こんなの……わたしがするはずないのぉ……ありえないのぉ……うぅっ……」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0911.ogg"

「いや、いやぁぁ……はずかしい……っ、もう、もうっ……しんじゃいたいっ……うくっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、美しい……っ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

嘆き悲しみながら、自分の意思とは反対におしっこを漏らしてしまうスクール水着姿のキリエ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「この悲壮美……！　この嗜虐美……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

打ちひしがれ、おしっこを止められず垂れ流すキリエを見ているだけで、ゾクゾクと身体中に快感が奔る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そのせいだろうか……出し切っていなかった精液が、ぴゅっぴゅっと膣内に吐き出された。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……この瞬間を目に焼き付けねば……！　奇跡だ……これはスク水の奇跡だ……！　カメラに写せないことだけが、残念でたまらない……！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0912.ogg"

「うぅぅぅうぅっっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n06\_2\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n06\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0913.ogg"

「バカァァァッッ！！」

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

悔しがる私に、罵声を浴びせかけるキリエだった……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

sw

\*L\_kk\_main\_10

sw

;\*L\_Main

sw

sw

\*L\_Replay10\_01

mov %Replay10\_01, 1

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_15梉曽.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_15梉曽.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

それから……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かんかんに怒ったキリエは蝙蝠に変化すると、授業も受けずに飛び立ってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/nbgm16.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

……少々、やりすぎたかもしれない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつも何かやってしまってから後悔するのが、私の悪い癖だ……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今日はキリエを怒らせてしまったので、彼女の家には寄らずにまっすぐ帰宅した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「鉄分を取らねば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はＦＥと書かれたサプリメントの瓶を取り、適量を取って、鉄分入りジュースで飲み干した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……キリエと付き合うのも大変だ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……この関係を長続きさせるためにも、少しでも血を増やさねばならない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「疲れたから、今日はもう休むか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

貧血のせいか、最近疲れやすい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

たまには早寝をしようと、私はベッドに潜り込んだ。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯塇偽偨偒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バサバサバサッ……

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すー、すー……」

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭揹婥徚.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭揹婥徚.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0914.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すーすー……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚惷偐側搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0915.ogg"

「……ふん、無防備に寝ておるわ……馬鹿め」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚徠傟儉僢偲偡傞03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0916.ogg"

「全く……昼間はこの私に……お、お漏らしなどさせおって……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0917.ogg"

「ゆ、許せん……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0918.ogg"

「目にもの見せてくれるわ……！」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

夢を見ていたのだろうか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの香りが、微かに漂ってきたかと思うと……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仴傐傛傫01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

むにゅんっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んぶっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_69.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_69.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm10.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

顔面がぬめっとした柔らかいもので包まれていた！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んぐっ……んががっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唇が、柔らかな襞のようなもので塞がれていて、呼吸が困難だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、この香りには馴染みがある……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0919.ogg"

「いい加減に起きろ……！　この変態教師が！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んぐっ！　キ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

段々暗闇に目が慣れてきて、自分の顔の上に乗っているものが何かぼんやりと分かってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それはキリエのお尻だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、なんという……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呼吸困難に陥りながらも、神秘的な眺めに感動すら覚える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

左右対称の二つの尻が、途轍もない大きさと迫力で、闇の中に青白く光り、私の視界を塞いでいる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それに……今私の口を塞いでいるのは、このアングルからいくと……キリエの……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生きていて良かったとすら思う私だった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_70.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_70.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0920.ogg"

「フフ……苦しいか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の喜悦には気づかず、意地悪な口調で言う。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_66.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_66.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0921.ogg"

「昼間はよくも私をあそこまで辱めてくれたな……たっぷり仕返ししてくれるわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

お尻で視界が覆われていたので、見ることは出来なかったが……パジャマのズボンからペニスを引っ張り出されるのを感じた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐにっ！！

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ひんやりとした感触のもので、肉棒を挟みこまれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こ、これは……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0922.ogg"

「貴様など、足蹴にしてやる」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あし……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

成る程……このどことなく手指に似ている感触は、足の指か……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の顔面に騎乗し、伸ばした脚指で肉棒を挟んでいるようだった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0923.ogg"

「ククク……脚で扱かれるなど、屈辱か？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いやぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0924.ogg"

「これは罰なのですからね、先生……甘んじて受けてくださいよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を侮辱することが出来たと悦に入っているようだったが、私としては彼女の美脚で扱いてもらうことは、悦びでしかなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それに、彼女の花びらが発する、甘い、生々しい匂いがたまらない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

先ほどから口を圧迫しているむっちりとしたヒダヒダを、私は舐めてみたくて仕方がなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「れろっ……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0925.ogg"

「ふふ……そうよ先生……しっかり舐めなさい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が舌を伸ばすと、キリエは笑みを漏らし、一層オマンコを押し付けてきた。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んぶっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

むわっとしたキリエの匂いに、顔中が包まれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉感的で動物的な、そして僅かにほの甘い……男を挑発する匂いだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0926.ogg"

「さあ、窒息したくなかったら、頑張って舌を使いなさい。……私を気持ちよく出来たら、もしかしたら解放してあげるかもしれなくてよ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒02,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んんぅっ……ちゅっ、くちゅるっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はなんとか鼻の穴から呼吸し、口は奉仕のためだけに使用する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

舌を伸ばして襞をなぞり、唾液を出して外性器中に塗りつけ、ぬるぬるにしていった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0927.ogg"

「あんっ……フフ……上手いじゃない、先生。その調子よ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの脚も動き出した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

竿を器用に掴んで、上下に扱いてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んんっ……！　はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

指の股で挟まれ、強引とも言えるやり方で、グイグイと引っ張られる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うくっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

乾いた指で扱かれるので、少々痛みを感じ、声を上げると、キリエはいかにも楽しげに笑った。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0928.ogg"

「うふふっ……痛いのかしら？　軟弱なおちんちんねぇ……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0929.ogg"

「ほら！　舌が止まってるわよ！　ちゃんと舐めないと、おちんぽ引っこ抜くからね！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに強く叱責され、私は肉竿の痛みと息苦しさを堪え、クンニリングスに集中した。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒02,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くちゅっ！！　ちゅくるっ！　ちゅぷっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0930.ogg"

「んっ……はぁぁっ……あふっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の顔の上でキリエが身悶えると、小さなお尻がふるふると揺れる。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0931.ogg"

「あっ……あんっ……いいわ……上手……んくっ……でも、もっとよ……ふぁっ……もっと、犬みたいに、ペロペロ舐めなさい……！　んぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

お尻しか見えないので、お尻が話しているようなものだったが、私は満足だった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0932.ogg"

「あんっ……そうよ、もっと中まで……舌をとがらせて、はぁっ……オマンコの中まで、つっこみなさいっ……んふぅっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0933.ogg"

「クリトリスも、ちゃんとペロペロするのよっ……んんっ……ひだひだも、ぜんぶっ……貴方の舌で、なめてきれいにしなさい……あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの女王様然とした態度も、こうして尻に敷かれている立場としては、かなり好ましいものだった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0934.ogg"

「んぅ、んくっ！　し、舌が、いきなり、はげしく動いてっ……！　ふぁっ……あ、貴方、もしかして、悦んでいるの……？　はぁっ……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0935.ogg"

「あぁっ……全く、こんな風にお尻で踏んづけられて悦ぶなんて……んぁっ……何度も言うけど、先生って変態すぎるわ……！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0936.ogg"

「学園では偉そうにしているくせに、マゾッ気があるのが気持ちが悪いわ……本当に人間の屑ね……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0937.ogg"

「んっ……人間なんて、そもそも最底辺の生き物だけれど……はぁっ……その中でも、貴方は最悪よ……先生……あぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、その最悪男の舌で喘ぎ声を上げているのは、誰なんだろうか？　れろれろっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0938.ogg"

「あぁぁんっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の舌が膣内に侵入すると、キリエは高い声を上げて全身を震わせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0939.ogg"

「（むっかぁぁぁぁぁ～～～っ……）」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0940.ogg"

「生意気なことを言わないで！！　本当に窒息させるわよ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仴傐傛傫01.ogg"

lsph 30,":c;image/n07\_1\_69.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_69.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐにゅんっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぷっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

尻を更に押し付けられ、息が出来なくなる。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0941.ogg"

「すぐに私を言い負かそうとするんだから！　年下の癖に、偉そうにしないでよ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鼻と口にむにむにと性器を押し付け、私を苦しめたことを確認すると、キリエは肉竿を擦る脚のスピードを上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0942.ogg"

「ふん！　教師の風上にも置けないレイパーの癖に！　私が貴方ごときのいいようになると思ったら、大間違いよ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0943.ogg"

「貴方のオチンポなんて、私が本気を出せば、すぐにでもイカせられるんだから！　覚えておきなさいよ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの足指の間で、グチュグチュと淫らな音が立ち始めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自衛のためか、それとも乱暴にされることが快感だったのか……亀頭の先端からはカウパー氏腺液が漏れ始めていたのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0944.ogg"

「いやだ……気持ち悪い液で私の美しい脚が汚れてしまったわ！　どうしてくれるのよ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「むぐっ、むぐむぐっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0945.ogg"

「そうね、話せないんだったわね……まぁいいわ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはわざとそんな一人芝居をしながら、私を嘲笑った。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0946.ogg"

「フフッ……侮辱されているというのに、ここまでおちんちんをビンビンにして、男って哀れだわ……！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0947.ogg"

「気持ちいいのでしょう？　私の脚が……？　乱暴にゴシゴシ擦られて、脚で踏みつけられるのが、気持ちよくって、たまらないのでしょう……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0948.ogg"

「くすっ……おちんぽが、ビクって動いたわ……図星っていう証拠よね？　貴方、苛められて感じるタイプなのよね？　くすくす……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0949.ogg"

「だったら、私に逆らおうなんて、もう思わないことよ！　身の程知らずにも、私を快楽で屈服させられるとでも思っているなら、考え直すことね！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うぅうっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの声がまるで遙か彼方から聞こえるようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は息が出来ずに、意識が朦朧となっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただ……ペニスに加えられる快感だけが強烈で……。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0950.ogg"

「ほら見なさい！　おちんちんがどんどん大きくなって、硬く赤黒くなっていくわ！　みっともなく震えて、もうイキそうじゃない！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヌルヌルになったペニスを滑るように、彼女の脚は上下に移動する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

指が裏筋を通り、背筋が震えるような気持ちよさを感じたかと思うと、亀頭の傘に引っ掛けられ、ビクンと電流のような衝撃が走る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ……ぐぅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の言う通り、私は絶頂しそうだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただし、その前に死ななければ、の話だが。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0951.ogg"

「さあ、イキなさいっ！　私の脚で踏んづけられて、格好悪く身を捩りながら、盛大に精液を噴き出しなさいっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n07\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュルルルルルルルーーーーーーーッッ！！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの望み通り精液を噴出した。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0952.ogg"

「あぁっ……出たわ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その瞬間キリエの腰が浮き、私は空気を肺いっぱいに吸い込むことが出来た。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁっ、はぁっ、はぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0953.ogg"

「あぁぁ……精液……好き……ちゅっ、れちゅっ！　　おいしいわ……れるっ……んっ、独特の味が、たまらないわ……ちゅぱっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液はキリエの顔や身体中に飛び散ったらしく、指で掬って舐めているのが、何となく気配で分かった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0954.ogg"

「んちゅっ……はぁ……貴方は、大人しく、私に言われた通り、精液だけ出していればいいのよ！　分かった？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ、わ、分かった……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を振り返り厳しく問いかけるキリエに、私は忙しなく頷いた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

また窒息させられては敵わない。ここは大人しくいうことを聞くしかないだろう……。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0955.ogg"

「分かればいいのよ……では、自分だけ気持ちよくなっていないで、私のことも気持ちよくしなさい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の従順な態度に納得したのか、今度は鼻を塞がないように慎重に腰を下ろしてきた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の唇に、再びキリエの襞が触れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の花びらはしっとりと蜜を帯びて、濃厚な匂いが鼻腔を満たした。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0956.ogg"

「舐めるのよ……余計なことは考えないで、私のことだけ考えなさい」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……ちゅっ、ぴちゃっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_34.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_34.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0957.ogg"

「はぁっ……！　そうよ、そう……あぁっ……もっと、舌を動かしてっ……はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが顔の上で感じるままにピクピクと身体を跳ねさせると、私の肉体も疼く。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0958.ogg"

「また脚で擦ってあげるわ……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

グチャグチャと粘っこい摩擦音を立て、キリエが脚を滑らせると、例えようもない快感で、男根が射精前と同じように膨れ上がった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0959.ogg"

「ほんと……節操のないおちんちん……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0960.ogg"

「でも、憎めないわ……私を悦ばせてくれるから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスを見て、キリエがくすりと微笑むのが分かったが、その言葉までは聞き取れなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何か言ったかね？」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0961.ogg"

「な、何も言わないわよ、馬鹿ね！　しっかり舐めなさいっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは慌てたように言うと、激しく脚を動かしてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずぎゅーん！　と下腹部を撃ち抜かれたような気持ちよさが、ペニスを引っ張られると同時に沸き起こる。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0962.ogg"

「フフ……恥ずかしい声を出して……そんなに気持ちいいのかしら？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「き、きもち、いいっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

既に、キリエに反抗しようなどという気持ちはなくなっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はただの下僕として、キリエに尽くし、キリエから快感を与えられることに、深く感謝すらしていたのだ。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0963.ogg"

「可愛いじゃないの、先生……そうやっていつも素直なら、私だって、もっと先生に気持ちいいことしてあげるのに……んっ、んっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの脚が、より丁寧な、淫靡な動きを見せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

残った精液や我慢汁をネトネトと塗り広げ、滑りをよくした上で、つーっと踵で裏筋を擦ったり、指先で鈴口をほじったりする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しつこく亀頭を弄られたり、雁首をくすぐられたりしていると、むずむずと腰が踊り、脚が勝手に跳ね上がった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0964.ogg"

「先生ってば、ちょっとじっとしていなさいよ……んっ、そうじゃないと、うまくおちんちん扱けないわ……はぁっ」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0965.ogg"

「うふふっ……ビクンビクン暴れまくっちゃって……なんてはしたない暴れん坊オチンチンなのかしら……はぁっ」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0966.ogg"

「ねえ、この亀頭が気持ちいいんでしょう？　精液とかカウパーですっごくヌルヌル……ねえ、亀頭の穴、足の指で弄られると、どうなの？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悪戯っぽく囁くと、亀頭を指でぐちょぐちょと揉み、鈴口をくるくると撫でるように動かす。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ……あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭ばかり責められて、私は言葉も出ないくらい感じてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、このままではまた自分だけイッてしまうと、必死でキリエのクリトリスに舌を伸ばした。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0967.ogg"

「きゃんっ……！　あ、あぁっ……ま、また、舌が、活発にっ……あふっ……あ、あぁっ……く、くりとりすっ……ふぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少し鈍っていた舌の動きを速め、敏感な部分にしゃぶりつき、愛液を啜る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0968.ogg"

「ふぁぁっっ！　やっ、おまんこ吸って……あんっ！　お、おまんこっ、ちゅうちゅう吸われてるぅっ……はぁぁっ、んぁぁっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅーーっ！　ちゅくちゅくっ！　れちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_40.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_40.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0969.ogg"

「あ、あぁぁっ……いやぁっ、は、恥ずかしい音出して、吸わないでっ……ふぁぁっ……あっ、く、くりとりすっ、きもち、いっ……あぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0970.ogg"

「あっ……！　だ、だめぇっ！　クリトリスっ、れろれろしながら、おまんこちゅうちゅうっ……！　あぁぁっ！　やぁっ……かんじすぎっ……あぁっっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0971.ogg"

「あっ……らめっ、い、い、っ……こ、このままじゃ、イッちゃうっ……！　あぁぁ～～っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのお尻がビクビクッ、と痙攣するのを確認し、なんとか私の射精に間に合うように、キリエを絶頂させようと試みる。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0972.ogg"

「わ、私だけなんて、だめっ！　せ、先生もっ、先生も、一緒にイクのよっ……！！　あぁぁ～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

が、キリエの脚技も猛烈さを増し、私を射精へと追い詰めようとしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……キ、キリエ、イッてくれ！　ちゅっ、れるれるれるっ、ちゅうううっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0973.ogg"

「あぁぁんっ！！　イキそうっ……！！　先生もイッて……！！　一緒にイッて……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、一緒にっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0974.ogg"

「いくぅうぅぅうぅうぅううぅうぅうぅっっっ……！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n07\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぶぶっ！！　ぶびゅるるるるーーーーっっ！！　　どくどくっ！！　どくっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0975.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁーーーーーーーーっっっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちは同時に達し、同じ瞬間に身体を震わせた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快楽の大きさまで同じかどうかは分からないが……一緒にオーガズムを迎えられたことが、何だかとても嬉しかった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0976.ogg"

「あ、あぁぁぁ……き、きもち、いい……はぁ、はぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは精液を舐めるのも忘れて、快感の余韻に浸りきっているようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0977.ogg"

「う、うそ……まだ、膝がガクガクしてる……はぁ、はぁ……こ、こんなになるなんて……うそ……きもちよすぎる……はぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに気持ちがよかったのか？」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_54.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_54.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0978.ogg"

「え、ええ……すごすぎて……私……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に反発することすら忘れて、素直に答えるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その喘いだせいで掠れた声や、荒い息遣い、唇に押し付けられたままビクビクと伸縮する性器、どんどん濃くなっていく女の匂いなどが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を荒ぶらせ、あっという間に勃起させた。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_59.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_59.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0979.ogg"

「あっ、あぁっ……ま、またおちんちんが、大きく……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……もっとしてくれ。私もするから……ちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_54.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_54.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0980.ogg"

「あっ、あぁぁっ、やぁっ、も、もっと、もっとしてぇっ……お、おまんこ、もっとなめてっ……わたしも、わたしもおちんちんこするからぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私がキリエの花びらに口をつけ、クリトリスを転がすように優しく愛撫すると、キリエも肉竿を足指で挟み、忙しなく扱いてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅうっ！　あぁっ、キリエのおつゆは、なんておいしいんだ……！　れるれるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0981.ogg"

「い、いやぁっ！　そ、そんなこと、いわないでぇっ……！　あっぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ん？　今、オマンコがキュッと締まったぞ……本当は言って欲しいんだろう、キリエ？」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_51.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_51.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0982.ogg"

「い、いやよ、変なこと、言わないでっ……あんっ、あっぁっあんっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……そもそも君が、私の顔に乗っかってきたんじゃないか……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0983.ogg"

「でっ、でもっ！！　恥ずかしいこと言われるのは、いやなのっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の態度は矛盾しているように思えたが……責めるのはいいけど、責められるのは苦手……ということだろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、私は細かいことには拘らないことにした。恥ずかしがるキリエの姿も、とても可愛らしかったからだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のオマンコ、悦んでおつゆをいっぱい垂らしているぞ……ちゅうっ！　くちゅるっ！　おまんこの匂いもどんどん濃くなっている……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は益々張り切って、言葉でキリエを責め立てた。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0984.ogg"

「あぁんんっ！　いやいやっ……えっちなことは言わないでっ……あぁぁーーーっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

嫌だと言う割りに、キリエのオマンコはヒクヒクとして感度を増し、愛液をどっと溢れさせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

感じやすい体質なのではないかと疑ってはいたが、ここまで濡れた蜜壺を目の当たりにすると……感激で胸が詰まった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、おつゆが零れてしまう、私が全部飲んであげよう……ちゅうっ！　じゅるるるっ、くちゅっ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n07\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0985.ogg"

「あぁぁっっ！　い、いやぁっ、の、のまないでっ……！　は、はずかしいのっ……あぁぁ～～～っ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「とっても美味しいから、恥ずかしがることはない……！　ちゅううっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0986.ogg"

「あぁぁぁーーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

長いツインテールを振り乱し、汗を飛び散らせるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が舌でクリトリスを探るたびに、彼女の腰は跳ね、お尻がバウンドし、顔を踏み潰される。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「んぐっ！　ちゅううっ！　ぺろぺろぺろっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのお尻攻撃を食らいながら、私は懸命に舌を伸ばし、外性器を舐めしゃぶる。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_60.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_60.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0987.ogg"

「あぁぁっっ！！　や、やぁぁっ！　らめらめっ、おまんこべろべろっ、きもちよしゅぎっ！！　くりとりすっ、きもちよしゅぎぃっっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0988.ogg"

「らめっ、こんなのっ！　くりとりすっ、とけちゃいそうっ！　ふぁぁーーっ！！　きもちよしゅぎてっ！　おかしくなっちゃううぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……あんまり暴れると、舐められない……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は暴れる彼女のお尻を両手で摘み、舌を尖らせて膣内に刺し挿れた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

lsph 30,":c;image/n07\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0989.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーーーーっっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

舌がオマンコに挿入された瞬間、キリエは絶叫し、華奢な上半身を折れるほど仰け反らせた。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_51.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_51.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0990.ogg"

「やっ、やぁぁぁっ……し、舌ちんぽっ……！　舌ちんぽがっ、おまんこに、はいった……！　あぁぁっぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は舌で彼女の粘膜を感じていた。ぬめっとして、柔らかい、彼女自身を。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅくっ！　れちゅれちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣内の感触を確かめるように舌を動かす。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0991.ogg"

「あぁぁぁーーーっ！！　らめぇぇぇっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

泣きそうな声で拒んではいるものの、キリエが求めているのは、勿論全く逆のことだった。

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0992\_Retake.ogg"

「あぁぁっ、舌チンポがっ、オマンコズボズボしてるっ……！　おちんちんじゃないのにっ、おまんこに、はいってきちゃってるぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0993.ogg"

「いやぁっ、舌ちんぽっ、そんなに、うごかさないれっ……！　おまんこ、なめなめしないれぇっ！　い、いやぁっ、はずかしいのぉっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0994.ogg"

「ど、どうしようっ……き、きもちよしゅぎてっ……わらしっ、わらしぃぃっっ……ふぁぁぁ～～～っ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イキそうなのか？　キリエ」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0995.ogg"

「い、いくっっ！！　いっひゃうぅうっっ……こんなふうにされてたら、いっちゃうぅうっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の舌も、キリエの興奮を感じていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに余り猶予はないようだ。私の方も、彼女の痴態のおかげで、性感はかなり高まっている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君も擦ってくれ、キリエ……！　私もイク……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あとほんの少しの刺激で、私もキリエも達しそうだった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅうっ！！　くちゅるっ、ちゅくちゅくっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_60.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_60.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0996.ogg"

「あぁぁぁっ！！　イキなさいっ、オチンポイッて、オチンポイッて！！　オマンコもイッちゃうからっ、おちんぽイッてぇぇぇぇっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は夥しい愛液を啜りながら、膣穴を舌先でほじった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも、湯気が立ちそうなほどむんむんとしたペニスを、足指で体液を跳ね飛ばしながら扱きたてた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うくっ……も、もう、だめだ！　ちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0997.ogg"

「い、いくいくいくいくっ……わたしもいくっ……いくぅぅうぅぅうぅぅっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph 30,":c;image/n07\_1\_63.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_63.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるっ！！　びゅぐるるるーーーーーーーっっ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0998.ogg"

「あぁぁぁぁ～～～～～～～っっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちは絶叫した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

余りにも強い快感、余りにも熱い衝動が、私たちを支配していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ、はぁ……す、すごかった、な……」

\

lsph 30,":c;image/n07\_1\_62.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n07\_1\_62.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0999.ogg"

「はぁ、はぁ、はぁ……」

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バタン

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが突然私の上に倒れこんできた！

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭揹婥徚.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒栭揹婥徚.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1000.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを抱き起こし、彼女の反応を窺う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、大丈夫か……！？」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚柊傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_惂暈01\_惵栚柊傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1001.ogg"

「すーすー……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

穏やかな呼吸の音が聞こえる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気絶……か？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

強すぎるオーガズムのせいで、気を失ってしまったとでもいうのだろうか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まぁ……寝かせておいてやろう……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体に異常はないようなので、ベッドの、私の隣に横たえる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1002.ogg"

「すーすー……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「罪のない顔で寝ているものだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人が寝ているところへいきなりやってきて、散々射精させて、挙句の果てに自分が寝てしまうとは……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……全く、人騒がせなヴァンパイアだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなところが、可愛いのだがね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も横になる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「眠って、体力を回復しなければ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

明日も、キリエに色々吸い取られてしまうかもしれないからな……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おやすみ、キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1003.ogg"

「すーすー……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はこうして、美しいキリエと同衾する光栄に浴したのだった……。

\

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仧僗僘儊偺柭偒惡01.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚偦偭偗側偄01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1004.ogg"

「ん……ふぁ……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_04庡恖岞偺壠帺幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1005.ogg"

「ん……ここは……」

\

bgm "music/nbgm14.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……あ、キリエ、起きたか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

隣でキリエが身動きする気配で目が覚めた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚徠傟嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1006.ogg"

「……な、何で貴様が！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何でって……忘れたのか？　昨日君が夜這いしてきて、私の顔面にオマンコを……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1007.ogg"

「わ、分かった！　思い出した！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは顔を赤らめて、乱れていた衣服をいそいそと整えていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚姶偠02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1008.ogg"

「く、くそっ……何故私は寝てしまったんだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「寝た……というか、快感の余り気絶してしまったようだったぞ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚徠傟搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1009.ogg"

「黙れ！！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

真っ赤に頬を染めているキリエが、実に可愛らしかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈02\_惵栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「折角泊まっていったのだから、一緒に登園しよう」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚徠傟嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1010.ogg"

「ばっっっっ……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_惂暈01\_惵栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1011.ogg"

「馬鹿じゃないの！？　教師と生徒が、朝っぱらから仲良く登園なんて、おかしいでしょう！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あれ？　吸血鬼の癖に、やけに常識に囚われたことを言うのだな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚徠傟搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1012.ogg"

「……っ、兎に角……貴方となんか、一緒に歩きたくありません！」

\

csp2 4

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯塇偽偨偒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは怒鳴りつけるように言って、蝙蝠に変化すると、あっという間に窓から飛び去っていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の声は一人きりの部屋の中で虚しく響いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエの方から訪ねて来てくれたということは、少しは心を開いてくれたのかと思ったのだが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……まぁ、焦っても、仕方がない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「人の心は、簡単に自由になるものではないのだから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自分にそう言い訳して、出勤の準備に取り掛かった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠巒嬈儀儖.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、今日はここまで」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分のクラスの授業が終わり……職員室へ戻ろうとしていたところ、数人の女子生徒に声を掛けられた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_joss0002.ogg"

「先生は、ピアノ弾けるんですか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……勿論弾けるが」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_joss0003.ogg"

「え～～っ！！　かっこいいですね～！　ちょっと弾いてみてくれませんか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……う～ん……短い曲でよければ」

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯僺傾僲楙廗嬋02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は暗譜していた短い練習曲を弾いて見せた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_joss0004.ogg"

「ステキステキ！　さすが先生、プロみたいにお上手です！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はは……若い頃は、目指していたものだったが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_joss0005.ogg"

「本当ですか！　かっこいいですぅ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は女子生徒達に囲まれ、請われるままにピアノを弾いてやった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の周りに群がるのは、皆年若い少女達……。彼女達にちやほやとおだてられ、私は少々得意になっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そういえば、しばらく前まで、こんなことがよくあった気がする。

\

不特定多数の少女達に囲まれ、「かっこいい」等ともてはやされ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ほんの一瞬のたわいないおしゃべり……その程度のことで、以前の私は満足していたのだ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

演奏の合間、私の目は、自然とキリエを捜す。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1013.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは行儀よく自分の席に着き、不機嫌な顔で私を睨んでいた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに話しかけたかったが、他の生徒達の前で何と言っていいのか分からなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈02\_惵栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1014.ogg"

「（ふん！）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

逡巡しているうちに、キリエはプイッと顔を背ける。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_joss0006.ogg"

「先生先生、他の曲も弾いてくださいっ」

\

dwavestop 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、いや……次の授業の準備があるから、このへんで失礼するよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、急に彼女達に対する興味を失い、そそくさと教室を立ち去る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエにそっぽを向かれた途端に、女子生徒達との交流が、とても無味乾燥なつまらないものに思えた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

その日……終業してからキリエの家を訪ねた。

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1015.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは昼間と変わらず仏頂面で私を迎えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何を怒っているのだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1016.ogg"

「ふん……貴様は本当に下らない人間だと思ってな！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何だ、突然……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚惷偐側搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1017.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは妙な目つきで私を見ていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1018.ogg"

「……このロリコン変態教師！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは吐き捨てるように言う。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1019.ogg"

「貴様は自分の生徒だったら、誰でもいいのだろうが！！　この鬼畜め！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……？　何のことだ？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1020.ogg"

「とぼけるな！　教室で……生徒達と……何やら楽しげにしていたではないか！　鼻の下を伸ばしおって、全く見ていられん！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぷりぷりとして、ツーンとそっぽを向くキリエ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが……私が他の生徒達と仲良くしていたからと……怒っている……？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……君、まさか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まさかとは思うが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1021.ogg"

「何だ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「妬いているのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はこの疑問を口に出さずにはいられなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1022.ogg"

「っっっっっ……！！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは真っ赤になって絶句していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そうなのかっ！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1023.ogg"

「そ……」

\

csp2 4

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1024.ogg"

「そんなことがあるかーーーーーーーっっっ！！！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

それから、約３０分ほど、キリエにお説教を食らった私であった……。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚悓偄搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚悓偄搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1025.ogg"

「……と、いうことで、私は妬いてなどいない！　ただ貴様の破廉恥極まりないロリコンぶりが目に余っただけだ！　分かったか！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……分かった」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟儉僢偲偡傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

と言うより他なかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟暁偟栚01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1026.ogg"

「ふん……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を見下し、その麗々しい眉を吊り上げていたのだが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1027.ogg"

「……では、弾いてみせろ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

突然、ふっと面差しが柔らかくなり、私に何事かを命じた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ひいて……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1028.ogg"

「ピアノだ。教室で弾いていただろう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1029.ogg"

「どうした？　他の連中には聴かせるのに、私には聴かせられないとでも言うのか……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

またしても眉がギリリと吊り上る。

\

bgm "music/.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……そんなことはない……弾くよ」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慌ててピアノの前に座る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、キリエのこの態度……やはり妬いているのではないのか……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1030.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どちらにせよ、キリエには妬いている等という自覚はないようだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は思いつくままに指を動かし、曲を奏でた。

\

bgm "music/nbgm12.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の頭に浮かぶのは、夜のイメージ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

暗く深く、美しい、夜の闇……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

夜の女王……いや、姫君と言うべきだろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それが私の、キリエに対するイメージだった。

\

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1031.ogg"

「……何、この曲は？　聴いたことがないけれど……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それはそうだろう……今即興で作っている……君の曲だ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚嬃偒01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1032.ogg"

「……私の……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……キリエのための即興曲、とでも言えばいいかな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1033.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは神妙な顔で聴いていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は一音一音に愛情を込めて、鍵盤を叩く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の想いを、旋律に乗せて、キリエに伝えたかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1034.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚儉僢偲偡傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1035.ogg"

「……中々やるじゃない……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1036.ogg"

「……ふん、だからって、別に見直したとか、そういうわけじゃないけれど……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが何事かを呟いていたが、私は今や音楽の世界に没頭していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

全身に響く、流れるようなピアノの音色……感情に任せて指を動かし、曲を奏でることだけが、私の全てになっていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1037.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だから……キリエが私の方に歩いてきた……その気配には、全く気がつかなかったのだった。

\

\*L\_Replay11\_02

mov %Replay11\_02, 1

bgm "music/nbgm12.ogg"

lsph 30,":c;image/僘乕儉僀儞\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉僀儞\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、気まぐれな猫のようにしなやかに、私の膝の上に座ってきたのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……？」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_58.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_58.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1038.ogg"

「こら、誰が手を止めていいと言った」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「？　あ、あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は演奏に戻った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは涼しげな無表情で、私を見つめている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は先ほどのようには没頭できなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どうしても、キリエが気になってしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

感情を込めて弾こうとすると、どうしても腕がキリエにぶつかって、彼女のささやかな胸にまで触れてしまいそうだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膝の上にはキリエのお尻、その二つに割れた形まではっきりと感じ、彼女の股間が私の股間に、グイグイと押し付けられる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_59.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_59.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1039.ogg"

「なーに？　どうかした？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは明らかに確信犯だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の心を乱そうと、身体をくねらせ、しなだれかかってくるのだ。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_65.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_65.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1040.ogg"

「ふふ……そんなに私が気になるの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1041.ogg"

「私のことなんか、気にせずに弾けばいいじゃないの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……気にせずになんて、無理だ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_61.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_61.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1042.ogg"

「あら、どうして？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口から可愛らしい牙が零れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうしてって……分かるだろう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1043.ogg"

「分からないわよ、先生……はっきり言ってよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはどうしても私の口から言わせたいようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……君が、君が好きだからだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女への愛は勿論ゆるぎないものだが……こうして強制的に言わされるのは、この私でもやはり恥ずかしかった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_65.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_65.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1044.ogg"

「フフ……そうよね、先生は私が好きなのよね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは満足げに微笑む。自分の賛美者がいることが嬉しいのだろうか。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_59.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_59.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1045.ogg"

「誰よりも、私が好きなのでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……勿論だ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_65.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_65.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1046.ogg"

「ふふ……貴方のオチンチンも、私が好きみたいね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスは、二人の股間の間で、当然のように勃起していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……君のオマンコを、求めているようだ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_58.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_58.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1047.ogg"

「ちょっと、手が止まっているわよ、弾き続けなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勃起した状態でピアノを弾き続けろというのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は少々不満に思いながらまた鍵盤に指を伸ばす。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_68.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_68.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1048.ogg"

「そうよ……止めてはダメよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が演奏を始めると、キリエはそろそろと私のパンツのファスナーを下ろしだした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_65.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_65.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1049.ogg"

「止めてはダメ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は私を睨みつけ、少し腰を上げると、スカートを引き上げていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぬちゅっ！　ぬちぬちぃっ！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/僘乕儉僀儞\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉僀儞\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1050.ogg"

「あっ……あぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは膣口を勃起肉の上に宛がい、そのまま一気に腰を下ろした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……す、すごく、濡れて……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思わず、興奮の喘ぎが漏れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まさか、いきなり性交が始まるとは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、キリエの膣が、こんなにも濡れているとは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一体いつ、彼女の性感がここまで高まっていたというのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

兎に角全てが意外すぎて、私をどうしようもなく昂ぶらせるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……君も、興奮していたのか……？」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1051.ogg"

「な、何を言っているのよっ……はぁっ……わ、私は、食事をしたかっただけよ……ぁっ……誤解、しないでよねっ……はぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そうか……？」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1052.ogg"

「そうよ、はぁっ……それより、何をしているのよ……あんっ……弾き続けないと、だめ……よ」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1053.ogg"

「手が……止まったら、セックスは……終わり、だからっ……あぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、分かった……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は仕方なくピアノを弾き続ける。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に跨ったキリエは、自分の好きなように動いて、快感を得ているようだ。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1054.ogg"

「あぁっ……んっ、んんっ！　はぁっ、おちんぽ太いっ……あぁっ……！　この体位、おまんこの奥まで、入ってくるっ……！　あぁっ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1055.ogg"

「ゴリゴリっ……亀頭がっ……しきゅうに、あたってるっ……はぁっ……！　すごいわ……おちんちん、きもちいい……っ……はぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずぶぅっ、と肉襞の中に男根が埋まる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

濡れた肉の中に、どこまでも沈んでいきそうな感覚。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1056.ogg"

「あんっ……おちんぽっ、すごく硬いのっ……はぁっ……おまんこ、きもちよくて、どんどんぬれてきちゃう……エッチなお汁、いっぱいでちゃうっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが身体を弾ませると、肉棒が膣内でこね回されるように扱かれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の動きが大きくなるたびに、快感も大きくなっていき、私はうっかり指を滑らせ、音を外してしまった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1057.ogg"

「貴方……今、間違えたわね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……つい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に指摘され、私は無意識のうちに手を止めていた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1058.ogg"

「あら……今、手を止めたわね……止めたら、終わりだと言ったでしょう……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

失敗を犯した私を見て、キリエの瞳が意地悪くギラリと光る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……セックスしながら、間違えずに弾くなど……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1059.ogg"

「そう……じゃあ、終わりね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそう言うと、ゆっくりと腰を上げ始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_59.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_59.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1060.ogg"

「ほら……ちんぽが抜けていくわよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

段々と、温かいヴァギナの中からペニスが空気中へと出ていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのぬるぬるとした花蜜にまみれた、ふやけたようなペニスが、遂に亀頭だけを残して、全て露出してしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_65.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_65.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1061.ogg"

「フフ……ちゃんと弾かなかった罰よ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

喘ぐ私を嘲笑うかのように、キリエはニヤリと笑う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1062.ogg"

「ほら……私がちょっとでも腰を上げたら、ちんぽは全て抜けてしまうわよ……どう？　それでもいいの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、嫌だ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1063.ogg"

「くすくす……あら、ちんぽが未練がましくビクビクして、先端が膨らんできたみたい……それにこんなに、怒ったみたいに血管を浮き出させて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1064.ogg"

「恥ずかしいわね……そんなに射精したくてたまらないの？　男なんて、本当に単細胞生物ね、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、頼むから……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は苦しみの中、救いを求めてキリエを見る。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1065.ogg"

「何を頼むのよ……全く、ハァハァしちゃって、気持ちが悪いったらないわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「挿れてくれ、頼む……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

驚いたことに、焦らされたことによって、私の性感は限界まで高まっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

早く彼女の膣内に入って、精液を放出したい……！　頭の中にあるのはそれだけだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は既に快楽の虜となっていたのだ。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1066.ogg"

「そう……では、もう他の女になど、目移りしないことね……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を睨みつけ、厳しく言い放つのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何を言って……私は目移りなど……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1067.ogg"

「兎に角、しないと約束しなさい！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しない、するわけがないっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私ははっきりと断言する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が他の少女に目移りなどするはずがないことは、キリエも分かっているだろうに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや、やはりキリエは、嫉妬しているのだろうか……？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私には君だけだキリエ……！　私の生涯の恋人よ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は何だか嬉しくなって、更に言い募るのだった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1068.ogg"

「ふん……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは当然だという顔で、頷いた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1069.ogg"

「貴方は、私の奴隷なんだから……立場をわきまえることね……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは一気に腰を落としてきた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

想像を絶する気持ちよさで、ガクガクと膝が震える。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1070.ogg"

「ふぁっ……！！　くふっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも快感に耐えているようだが、私の昂ぶりはそれよりももっと激しかった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

続けざまに腰を振られ、肉襞で男根を舐めしゃぶられると、私の意識は吹っ飛んでしまいそうなくらい、深い官能の海に飲み込まれていった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1071.ogg"

「他の女に、目移りなんて、許さないからっ……あんっ！　貴方は、私のもの……！　私の食料なのよ！　勝手なことは、許さないっ……！　ふぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1072.ogg"

「いつでも、私の言う事を聞いて、あぁっ……！　私だけを、見ていればいいのよっ……！　あぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、キリエ、私は君のものだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1073.ogg"

「当たり前よ……！　貴方は、私のっ……所有物、なのよっ……はぁぁっ、あんんっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

物扱いされても、怒る気にもなれない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それどころか、幸福感に打ち震えていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエがここまで私に執着し、嫉妬めいた態度まで見せたということが、私の自尊心を、甘く満たしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……イキそうだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1074.ogg"

「いいわよっ……イ、イキなさいっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの許しを得て、精液は発射段階に入る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに命じられ、彼女に盲目的に従うことが、嬉しくてたまらなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イ、イクッ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1075.ogg"

「イキなさいっ！！　私のオマンコに、貴方の子種汁を……人間の赤ちゃん汁を、たっぷり放出しなさいっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n08\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュルルルルルルルルルルーーーーーーッッッ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1076.ogg"

「あぁぁぁぁああぁぁぁぁぁーーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

びく、びくと身体を震わせ、失神するようなめくるめく恍惚の果てに、私は達した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅるるっ、びゅるっ、と立て続けに溢れる精液が、膣内に吸い上げられ、キリエの子宮へと送られていく……。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_34.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_34.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1077.ogg"

「あ、あぁぁ……きたぁ……精液が……ザーメンミルクが……！　力が漲る……ふぁぁぁ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1078.ogg"

「はあぁぁ……きもちいい、きもちいい……お、おまんこが、きもちよすぎて、とまらないぃ……っ、あぁぁっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつものように、一回では満足できないキリエは、射精後間もなく上下に弾みだした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も、彼女に合わせて腰を突き上げてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの影響か、最近は私の方も、一度だけでは物足りない体質になってしまったようだ……。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1079.ogg"

「ふぁぁっ！　だ、だめよっ、ちゃんと演奏は続けなさい……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、分かった……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一体何のために演奏を続けるのか、もう分からなくなっていたが……キリエの機嫌を損ねないためにやるしかなかった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1080.ogg"

「そ、そうよ……！　貴方、ピアノは中々上手いじゃない……はあっっ……！　私の為に、きちんと弾きなさい……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、私の指は震え、ピストン運動の振動で、鍵盤を押すことすら難しい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……手が、動かない……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1081.ogg"

「んっ！　だめ、ちゃんと、弾いて……！　あぁぁっっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……恐らく彼女も……ピアノなんて、もうどうでもよくなっている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……ピアノのせいで、セックスに集中できないというもどかしさが、私達の興奮を高めていることは、間違いないようだった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_38.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_38.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1082.ogg"

「んっ、んんんぅぅっ……！　あぁっ、も、もう、愛液と、精液で、おまんこぐちゅぐちゅっ……ふぁぁっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、私の膝の上で悶える。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

情熱的に髪を振り乱し、ヴァギナから夥しい液を溢れさせ、ヒダヒダでペニスをねっとりと愛撫する。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うくっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

荒々しい快楽のダンスの為に、私の指はまた音を外した。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1083.ogg"

「あぁんっ！！　きもちいいっ！　ふぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、キリエの耳には、既に音楽は届いていないようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1084.ogg"

「おちんちん、きもちいいっ！！　先生のちんぽっ……！！　きもちいいのっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は、性器が触れ合い、肉と肉が擦れ合うことだけに熱中していた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1085.ogg"

「あっ、あぁっっ……もっと欲しいのっ……！　精液が、オチンチン汁が……！　先生のっ、おちんちんミルクがっ……！　んぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1086.ogg"

「ほ、ほしくて、たまらないのっ……！　あぁっっ！　おちんちんから、ザーメンミルク、私の為に、出して欲しくてっ……たまらないのっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_38.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_38.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1087.ogg"

「オチンポ汁っ、オマンコの中に、じゅわって出される瞬間が、すきなのっ……たまらないのっ……オマンコの中、あったかくなって、きもちいいのっ！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_34.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_34.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1088.ogg"

「ほしいのっ、オチンポ汁っ……キリエにっ、キリエにちょうだいっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

扇情的なキリエの言葉に翻弄され、私はピアノから手を離し、彼女を思い切り抱きしめていた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1089.ogg"

「あっ、あぁぁっっ！！　らめっ、らめらめっ……ピアノを弾かないと、らめってゆったじゃないっ……あぁぁっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……もう、無理だ……！　気持ちよすぎて、ピアノを弾くなんて、もう……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1090.ogg"

「あぁぁ～～～っっ！！　らめらめっ、ぎゅってされるとぉっ……先生にぎゅってされるとぉっ……何か、へんっ……離してぇっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「離したくない……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1091.ogg"

「だきしめ、られるとぉっ……おまんこがっ、おまんこがっ、きゅんってなって、よけい、きもちよくっ……んくぅうぅっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は強く強くキリエを抱きしめ続け、下から激しく突き上げていった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1092.ogg"

「あぁぁぁ～～～っっ……！！　らめらめっ！　こんなのっ！　下からおちんぽ突き刺されるのっ、きもちよしゅぎっ……ふぁぁぁ～～～～っ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1093.ogg"

「きもちよしゅぎなのぉっ……！　先生のぶっといおちんぽっ、極太ちんぽっ！　私のおまんこを、きもちよくししゅぎなのぉぉっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも、私に演奏させるという建前を忘れて、ぎゅっとしがみ付いてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

細い腕が私の背中に回され、彼女の華奢な身体、平らな胸を押し付けられ、切なさで息が出来なくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女を愛している、と、狂おしい程に実感していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……またイキそうだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はピストン運動を止められなくなり、彼女を抱きしめ、突きまくった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n08\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1094.ogg"

「あぁっ、あぁっっ、らめっ……まだぁっ、まだだからっ、わたしまだっ……まだいけないのぉっ……ふぁぁっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1095.ogg"

「キリエをおいて、イッちゃらめっ！！　まだ、いっちゃらめなのぉっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ダメだ……イクっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n08\_1\_54.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_54.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュビュビュビュビュビューーーーッッ……！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

意志の力ではどうしようもない衝動に突き動かされて、私はオーガズムに達した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1096.ogg"

「あぁぁぁーーーーー……っっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの声が力なく途切れる。

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_53.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_53.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1097.ogg"

「あぁぁ……出てるぅ……精液、精液出ちゃったぁ……オマンコの中に、あふれてる……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

荒い息を吐いて射精の衝撃に耐えてはいるが、飽き足りない結果であったことは、表情を見れば分かった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に名前を呼ばれ、キリエが顔を上げる。

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/n08\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1098.ogg"

「はぁ、はぁ……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絡みつくような視線が、私を拘束した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_1\_51.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_1\_51.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1099.ogg"

「きゃっ……先生……！？」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを抱え上げ、鍵盤の上に押し倒した。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯僺傾僲僶乕儞01.ogg"

lsph 30,":c;image/n08\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの下敷きになった鍵盤が、心をかき乱す不揃いな音を立てる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1100.ogg"

「あぁっ……！」

\

bgm "music/nbgm09.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ピアノの上に乗せられ、キリエは短い悲鳴を上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、好きだ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の小作りな胸を揉み、乳首を弄りながら抽送を開始した。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1101.ogg"

「あぁっ、あぁぁっ！　せ、先生っ……まだ……おちんちん、まだできるんですかっ……ふぁぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君が相手なら、何回だって出来る……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1102.ogg"

「す、すごいっ……まだ、なんて……おちんぽ、すご、っ……あぁぁ～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液さえ与えれば、彼女は満足するはずだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

元々そういう契約だったのだ。私はただの栄養補給剤だと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……先刻彼女は、私が射精したのに、明らかに不満の表情を見せた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1103.ogg"

「あぁっ、おちんぽっ、オマンコの奥までっ……！！　先生の、巨根チンポがっ……子宮まで突き刺さってっ……あぁぁぁ～～～っ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1104.ogg"

「きもちいいっ……ちんちん、ずぼずぼされるとっ……おまんこが、じーんって、頭まで、しびれちゃうっ……あぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の中で……何かが変化しつつある……と。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

考えるのは、自惚れすぎだろうか……。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1105.ogg"

「イ、イキそうっ……！　キリエイキそうっ……おまんこ、いっちゃいそうっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体がガクガクと痙攣しだした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今までの経験から、彼女が真実絶頂しそうなのが分かった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イッていいぞ、キリエ……イカせてやる……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1106.ogg"

「い、い、い、いぐいぐいぐいぐぅっ、あぁぁっっ、ぁぁぁぁ～～～～～～っっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n08\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の全身が上下に揺れ、オマンコが突然締まる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1107.ogg"

「あぁぁぁっ……あぁぁぁっぁっ……あぁぁぁあぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

瞼が重そうに半分閉じられ、清楚な唇からは涎の筋が流れた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1108.ogg"

「あぁぁぁ……はぁぁぁ……いった……おまんこ、いった……おまんこ、いっちゃった……先生のちんぽで、イカされた……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐったりと力の抜けた身体が、再び鍵盤を押し、不協和音が奏でられる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……キリエ……また私のペニスでイッてしまったのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は愛しい恋人の身体をしっかりと抱きしめた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1109.ogg"

「はっ……な、何よ……ちょっと私をイカせたからって、偉そうにしないでよね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

我に返って、憎まれ口をきく気の強さも、とても可愛らしく感じられる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「偉そうになど、するつもりはない……私は、君の虜なのだから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心底から、私はキリエにひれ伏していた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1110.ogg"

「……そ、そう、それならいいけれど……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、頬を染めて、少し恥ずかしそうに呟いていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……好きだ……！　私は君が、好きだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

強くかき抱く。その細い肩を……腕を……しなやかな背中を……ぎゅっと……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はありったけの想いを込めて、彼女を抱きしめ、腰を振り続けた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1111.ogg"

「あぁぁっ！！　あ、あたりまえでしょう、んくっ！　あなたが、私を、すきなのは、当然、じゃないのっ……うくぅうっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1112.ogg"

「あなたは、私の、どれい、よっ……！　私を心から、敬い、なさいっ……ふぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、君を敬い、愛することを誓うよ……！　キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

神前での結婚の誓いのように、私は真心込めて誓うのだった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1113.ogg"

「も、もう、やめてよっ……あくぅっ……！　し、しつこいのよっ……はっぁっ……！　も、もう、聞きたくないのっ……あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、だが、眉をしかめて首を振る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何故？　さっきは聞きたがっただろう？」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1114.ogg"

「さ、さっきは、さっきよ……あんっ！　もう、ききたくないっ……はぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1115.ogg"

「すきだとか、あいしてるとか、いわれるとっ……んぁぁっ！　む、むねが、なんだか、くるしく、なって……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1116.ogg"

「へんっ……へんなの……むねがくるしくて……気分が、わるいのっ……！　だから、好きなんて、いわないでっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1117.ogg"

「私はっ……あなたが、嫌いなのっ……なんど、言えば……ふぁぁっ！　わ、わかるのよっ……私は、あなたがっ……あんっ……！　だい、きらい……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「嫌いでもいい……それでもいいんだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は『嫌い』と言われても平気だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今夜の彼女の態度が、私に勇気を与えていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつか……いつか彼女の身体だけでなく、心までも私のものにしてみせる……と……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな無謀な希望を抱くほどに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつの日か、その日が来るまで……大嫌いだろうと、奴隷だろうと、食料だろうと……なんと言われても、構わなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君が嫌いでも、私は好きなんだ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女にぴったりとくっつき、執拗に好きだと耳に唇をつけて囁くと、キリエはいやいやをするように身体をくねらせた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1118.ogg"

「も、もうっ……いやぁっ……もう、囁かないでぇっ……貴方の、ひくいこえっ……お、おまんこに、ひびいてっ……ゾクゾク、してぇっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1119.ogg"

「いやなのぉっ……何だか、おまんこがっ……変なのっ……い、いつもより、感じちゃう……おまんこ、感じちゃうのぉぉっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは未知の恐怖に震えるように、目を見開いていた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1120.ogg"

「いやっ……いやいや……貴方は、ただの食料なのっ……精液さえ、手に入れば、それでいい……それでいいはずなのにぃっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1121.ogg"

「こんなのっ……いやっ……何回も、イカされて……私、よろこんでる……！？　もっともっと、イカされたいと、思ってるなんて……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1122.ogg"

「先生の、おちんちんで……もっと、気持ちよくなりたいって、思っちゃってる……！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1123.ogg"

「うそっ……そんなの、うそよっ……うそなのぉっ……ふぁぁっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「怖がらなくていいんだ、キリエ……私が、もっと気持ちよくしてやる……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はここぞとばかりに抽送のピッチを上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

子宮に突き刺すように角度をつけて肉棒を押し込み、雁で引っかくようにズルッと引き抜く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それを何度も何度も繰り返した。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1124.ogg"

「あぁぁっっ……あぁぁぁーーーっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの声が、高く、泣き声じみてくるまで、何度も……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が何もかも忘れてしまうくらい……深い悦楽を与えたかった。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1125.ogg"

「あぁっ、あぁっ、あっ、あぁぁっ、あんっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

段々、キリエの言葉が意味を成さなくなり、断続的な悲鳴のみになる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のオマンコも、絶頂を目指してぴくぴくと痙攣し、精液を搾り取る準備段階へと突入する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私もオーガズムを迎えるために、必死になって腰を振りたてた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の柔らかな襞が、ペニスに切なく絡みつき、私の射精を優しく促していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……イク……！！」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1126.ogg"

「イッてぇっ！！　イッてイッて……！！　わたしもいくからぁっ……先生のおちんぽで、いっちゃうからぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1127.ogg"

「先生もイッてぇっ！！　キリエと一緒にっ……！！　キリエのおまんこと一緒に、おちんちん、イッてぇぇぇっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n08\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるるるっ！！　びゅぐるっ！！　ぶびゅるるるっ！！　びゅぐるるるるる～～～っ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1128.ogg"

「あぁぁぁぁあぁぁぁぁあぁぁぁ～～～～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの絶叫を合図にしたかのように……私達は同時に達した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ、はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1129.ogg"

「あぁぁぁぁ……はぁぁぁ……はぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達は言葉もなく、ただ、定まらない呼吸を反復し、精液が膣内に吸い込まれるのを、じっと感じていた。

\

lsph 30,":c;image/n08\_2\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n08\_2\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1130.ogg"

「はぁ、はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、ぐったりと、私に抱きしめられるままになっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が、何を考えているのは、まだ分からない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが今は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この腕の中のぬくもりだけで、私の心は満たされていた。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1131.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

交合が終った後……キリエはどことなく赤い顔をして、身支度を整えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1132.ogg"

「うるさいっ！！　話しかけないで！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が声を掛けると、キリエは真っ赤になって遮った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……また怒っているのか……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1133.ogg"

「うるさいうるさいっ！！　貴方の声なんか、聞きたくないっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはヒステリックに叫ぶと、両手で耳を塞ぐ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

知らない間に、またキリエの機嫌を損ねてしまったのか……と一瞬思ったが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚徠傟偆傠偨偊傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1134.ogg"

「～～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの顔は未だにトマトのような完熟ぶりで、瞳は泣きそうにうるうると潤んでいる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

怒っているのではなくて、これは……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……キリエ、もしかして、照れているのか……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚徠傟嬃偒02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1135.ogg"

「！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は……先刻のセックスでの、自分の態度を……恥ずかしがっているのではないか……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚徠傟嬃偒01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1136.ogg"

「！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

図星のようだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……本人に自覚があるかどうかは分からないが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1137.ogg"

「そ、そんなことっ、あるわけないじゃないっ！！　ば、バカじゃないのっ！？　わ、私が、恥ずかしがるような、何をしたって言うのよっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口では否定するものの……普段のクールなキリエとは似ても似つかぬ慌てぶりを見ると、どうにも恥ずかしがっているように思えて仕方がないのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1138.ogg"

「あ、あなたっ！！　最近ちょっと生意気よっ！！　それが主人に対する口のききかたなのっ！？　誰のおかげで生きていられると思っているのよっ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が怒れば怒るほど……それが恥ずかしさの裏返しの態度に見えてしまう……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな彼女が、とても可愛らしく思えて、私は……。

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFFキリエを思い切り抱きしめる",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFFキリエをからかいたくなってしまう",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_5

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_5

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route10a0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route10a1

goto \*L\_selectbtn5

\*L\_route10a0

sw

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぎゅっ！！

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟嬃偒02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1139.ogg"

「っ！！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

怒られることを承知で……キリエを思いっきり抱きしめてしまった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1140.ogg"

「ちょ、ちょっとっっっ！！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁキリエ……頬を染めた君は、何と愛らしいのだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女の髪にすりすりと頬を擦りつけ、芳しい少女の薔薇の匂いをかいだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のほっそりとした身体を肌で感じると……甘酸っぱい恋心で、胸がふさがれるようだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1141.ogg"

「ばっ……！！　馬鹿者っ！！　離しなさいっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

案の定キリエはバタバタと暴れ始めたが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「頼む、キリエ……もうしばらくこのままで……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、力を込めて、なだめるように、彼女の身体を抱きしめ続けた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1142.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟暁偟栚04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1143.ogg"

「ふぅ……全く……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはやがて諦めたのか、肩の力を抜いて、私の腕の中に黙って収まっていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚悓偄徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1144.ogg"

「……貴方って、時々子供みたいね……先生」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

『先生』という単語を、皮肉たっぷりに口にするキリエ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

意地悪ではあったが、その口調には、以前には感じられなかった親しみがあった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は成熟した大人だが」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚枮柺偺徫傒02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1145.ogg"

「ふふ……そういうことにしておいてあげてもいいわ。負けず嫌いの先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1146.ogg"

「でも……私に逆らおうなんて、思わないことよ。私が貴方を甘やかすとでも思ったら、大間違いなんだから。今度、しっかりと教えてあげるわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はいはい……楽しみにしておくよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1147.ogg"

「ふふ……楽しみに、ね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの脅し文句も、次の逢引の約束のように聞こえて、私は嬉しかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして……一分一秒でも長く、この穏やかな時間が続けばいいと、心の中で願っていたのだった。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

goto \*L\_route10aend

\*L\_route10a1

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……キリエ、どうしたのだ？　君の顔、まるで金魚のように真っ赤じゃないか」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1148.ogg"

「っ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に指摘され、キリエは声を詰まらせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「普段は冷静な君も、今は形無しだな。一体何がそんなに恥ずかしいのだ？　教えてくれたまえ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1149.ogg"

「あ、赤くなどっ……なっていないっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では部屋が暑いのかな？　風呂上りのように茹蛸じゃないか。窓でも開けたらどうだね？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1150.ogg"

「うぅうぅうっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悔しそうにぶるぶると震え、大きな瞳に溜めていた涙を、今にも零しそうになっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おや？　きれいな瞳に涙を溜めて……何がそんなに悲しいのかな？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1151.ogg"

「っっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに歯を食い縛るものではないよ、キリエ。君の鋭い牙で、赤く柔らかな唇が、裂けてしまうじゃないか」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟曫傟01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1152.ogg"

「～～～っっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「泣きたければ泣くがいい、キリエ……さあ、私の胸で……！」

\

lsph 30,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/廤拞慄2.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1153.ogg"

「誰が泣くかーーーーーーーっっっ！！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ついにキリエが爆発した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗02\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……爆発するまでいたぶった私が悪いのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは半べそをかきながら、ギリギリと音がするほど私を睨みつけるのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚姶偠03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1154.ogg"

「き、貴様、私を侮辱しおって、覚えていろ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ぶ、侮辱など、したつもりは……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1155.ogg"

「うるさいっ！！　もう貴様の顔など見たくないっ！！　ゾンビ執事、コイツを追い払え！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

amsp2 7,212,240,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0005.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの後を追おうとするが、キリエの命令で現れたゾンビ執事に前をふさがれる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1156.ogg"

「貴様のその涼しげな面を、汚辱で塗りつぶしてくれるわ！！　今に見ていろ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、最後に私を罵倒し、立ち去って行った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「待ってくれ、キリエ……！」

\

csp2 4

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_敿\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",212,230,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0006.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おい！　その腐敗した手で私のスーツに触れるな！」

\

csp2 4

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_戝\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",212,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0007.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、分かった……！　帰ればいいのだろう、帰れば！」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

csp2 7

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

内心ゾンビ執事を恐れていた私は、すごすごと退散するしかなかった。

\

lsph 30,":c;image/1\_10怷栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

それにしても……今夜のキリエは本当に可愛らしかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちの距離が近づきつつある……と考えるのは、やっぱり私の思い過ごしなのだろうか……？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふふふ……しかし、真っ赤な顔をしたキリエも可愛かったな」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自己満足に浸りながら、寂しい森の道を愛車へと急いだ。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

goto \*L\_route10aend

\*L\_route10aend

sw

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1157.ogg"

「今夜は満月か……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/nbgm16.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

満月の夜は何故か心が騒ぐ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は狼族ではないけれど……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1158.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや、心が騒いでいるのは、満月のせいだけではないのかもしれない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、ふとあの男のことを思い出していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

斧神滋比古……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あの、愚かで忌々しい、思い出すだけでも腹が立つ……それでいて不思議と無視できない、あの男のことを……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を、好きだなどと調子のいいことを言って陵辱し、私の生活に土足でずかずかと入り込んできた……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、何故彼奴を、殺してしまわないのだろう……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼奴には、私の忘却の術がきかなかった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

秘密を知られ……殺す理由なら幾らでもあるというのに……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1159.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1160.ogg"

「ふん……彼奴のことなど、考えるまでもない！　あんな奴、どうせすぐ死ぬわ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1161.ogg"

「ただの、下等な……人間……なのだから」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1162.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が人間だった頃のことは、もう、忘れた……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1163.ogg"

「……はぁ……考え事は、性に合わん」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1164.ogg"

「……こんな夜は、飛ぶに限るな」

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯塇偽偨偒01.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

窓から飛び立つと、周囲の闇が私に溶け込んできた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1165.ogg"

「あぁ……気持ちがいい……！」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

風を切って空を駆けるのは大好きだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何もかも、忘れられる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

空との一体感、風に乗る感覚、ゾクゾクするような浮遊感。どれもこれも、人間などには体験できない楽しみだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1166.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう……私はヴァンパイア……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人間らしい感情など、持ち合わせていない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人間など、利用して弄び、殺すだけ……。

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

それだけでいいのだ。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯幵撪.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n17\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は就業後、いつも通り愛車ジャガーを駆り、キリエの家へと向かっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今日は職員会議があった為、少々遅くなってしまった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエには学園でも毎日会っているが、これから二人きりで会えるのだと思うと、やはり心が弾んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今行くぞ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

逸る心を抑えきれず、私の脚がアクセルを踏み込んだ、その時……。

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠徴撍壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドーーーーーーンンッッ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うわあぁあぁぁぁぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ボンネットの上に、何かが落下してきた！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「なっ！？」

\

dwavestop 2

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯僪儕僼僩壒.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

相当重量がある物だったらしく、前輪がつんのめるような衝撃を感じ、私は慌ててブレーキを踏み込んだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吱吱吱吱——————……！！

\

lsph 30,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

アスファルトにブレーキ痕を付け、タイヤがすり減る嫌な音を立てて、ＸＪが止まる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

タイヤ交換なんてことにならなければいいが……それよりも、ボンネットが凹んでいたりしたら……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、そもそも、何が落ちてきたんだ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛車の心配よりも、そちらの確認が先だと思い当たり、顔を上げて前方を確認する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が、フロントガラス越しに見た落下物は……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1167.ogg"

「今晩は、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1168.ogg"

「ドライブに行くわよ、先生」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

黒いマントを翻し、ニヤリと笑う我が恋人の姿だった……。

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯僺傾僲尪憐懄嫽嬋.ogg"

lsph 30,":c;image/n17\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1169.ogg"

「あら……どうしたの？　機嫌が悪いのね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、当たり前だろう……愛車に傷でも付けられたら、たまらないからな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

調べてみたところ、派手な音の割には被害はなかったようでホッとしたのだが\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1170.ogg"

「フフ……狭量なんですね、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の動揺をしっかりと感知していながら、からかうように言うのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「コホン……ところで、き、君の……その姿……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は先程から気になっていた、彼女の珍しい扮装について、思い切って尋ねてみた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1171.ogg"

「ふふ……どうかしら？　ヴァンパイアらしく見える？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは少し誇らしげに、惜しげもなく晒した白い肌を私にひけらかした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

マントの下には、紐のようなビキニしか身に着けていない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

マントに、黒いビキニに、ブーツ……まるでいつかニュースで見た、アニメやゲームのコスプレイヤーのようないでたち……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

普段はツインテールにしている髪を、潔くサラリと下ろしていることも……私の胸を妖しくときめかせるのだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、運転もままならないほどに……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1172.ogg"

「先生？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、なんという破廉恥な……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

余りにも刺激に満ちたその服装に……私は自分の顔が紅潮し、手がぶるぶると震えるのが分かった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1173.ogg"

「気に入らない？　では、うちに帰って着替えましょうか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「と、とんでもない！！　着替えてはいかん！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1174.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「絶対にダメだ！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1175.ogg"

「ふふ……分かりました、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは嘲るように微笑む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは心の中で、私のことを愚か者だと思っているのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その通りであることが恨めしかった……。

\

lsph 30,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の希望で、私達は郊外の一般道を滑るように疾走していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

月のきれいな夜で、恋人達のドライブにはうってつけの日だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は快適なシートにゆったりと身を委ね、リラックスしてハンドルを握っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しいキリエを助手席に乗せている、という高揚感も手伝って、私は車に乗っていると言うよりは、空を飛んでいるような感覚を味わっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達の他に、車は見えない。対向車もいない。夜の闇の中に、キリエと二人きりだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

果てしなく続くかと思える白線と、オレンジ色のライト……そして、ステレオから流れてくる幻想即興曲……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

なんともいえないロマンチックな雰囲気に、私は酔っていた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n17\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうかね？　この車は」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1176.ogg"

「そうね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気に入らないかね？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1177.ogg"

「さあ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……ジャガーを代表するフラッグシップといえば、文句なしにこのＸＪなのだよ、キリエ。伝統も長いしね。ハイパワー化にも力を入れている」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はドライブを楽しいものにしようと、愛車ジャガーＸＪに対する思い入れを語り始めた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1178.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「乗り心地も抜群だろう？　しっとりとして滑らかで……ロールも抑えられているから、リラックスしてゴージャスな時間と空間を過ごすことができる」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1179.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「インテリアも史上最上級と言われている。ここまでウッドとレザーを贅沢に使ったキャビンには、お目にかかったことが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1180.ogg"

「先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何だ？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1181.ogg"

「うるさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛車ＸＪの話をうるさがられてしまうとは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は少々落胆しながら、黙って運転を続けた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1182.ogg"

「……貴方、この車に随分御執心のようね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の薀蓄をうるさいと一蹴したくせに、車の話を続けるキリエだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……それは勿論。私は一流品しか持たない主義なんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1183.ogg"

「ふーん……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

興味なさそうに呟く。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……しかし、君だってこの車に興味があるのだろう？　だから私をドライブに誘ったのではないのか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1184.ogg"

「そう思う……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは突然、鋭い眼差しを私に向けてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……違うと言うのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、その時になってやっと……不穏な空気を感じ始めたのだった……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1185.ogg"

「……そうね、どうしてこのドライブに誘ったのか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1186.ogg"

「それはね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはするりと運転席に滑り込み、私の膝の上に乗ると、脚を伸ばしてアクセルを一気に踏み込んできた。

\

dwavestop 2

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚崅徫偄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1187.ogg"

「貴方に、自分の身の程を教えてあげるためよ！！」

\

bgm "music/nbgm05.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「なっ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ジャガーＸＪが滑るように加速する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

７０キロ、８０キロと、どんどんスピードが上がっていく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1188.ogg"

「フフ……貴方のその顔が見たかったのよ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそんな私を振り返り、嗤っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、危ないじゃないか、こんな……！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚崅徫偄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1189.ogg"

「貴方の運を試してみたら？　先生！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1190.ogg"

「この状況に冷静に対処できるなら……貴方のことを、少しは認めてあげてもいいわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……事故が起きたらどうするんだ！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1191.ogg"

「別に」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の膝の上で、キリエは冷酷に言ってのけた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1192.ogg"

「私は死なないし。飛べるから」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……ど、どうしてこんなことを……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

幸せの絶頂から、一気に奈落の底に突き落とされたような気分だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1193.ogg"

「……理由なんかないわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1194.ogg"

「だって、たのしいじゃない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そんな理由か？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1195.ogg"

「そうね……強いて言うなら……私が主人で、貴方が下僕だから」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1196.ogg"

「貴方は、私を愉しませるためだけに存在しているのよ？　下僕の先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

怯える私を、ニヤニヤと笑いながら見つめるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女にとっては、こんなことはゲームでしかないのだと……遅まきながら私は気づいていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「も、もう充分に分かったよ、だから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は懐柔するような口調で、キリエを説得しようとする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1197.ogg"

「いいえ、全然分かっていないわ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に背中を向けていたキリエが、向かい合わせに座り直した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚悓偄徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1198.ogg"

「だから、先生の身体に、叩き込んであげる……」

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして彼女の手が下へ……私の股間へと伸びてきた。

\

\*L\_Replay12\_02

mov %Replay12\_02, 1

lsph 30,":c;image/n09\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm10.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「お、おいっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1199.ogg"

「先生、ハンドルをしっかり握っててね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう言いながら、キリエは私の愚息をしっかりと握り締めてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うくっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1200.ogg"

「……死にたくなかったら、前を向いて運転に集中しなさい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはなまめかしく手を動かしながら、自らの行動とは正反対のことを言ってくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……こんなことをされたら……」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1201.ogg"

「くすくす……貴方の浅ましいおちんぽは、すぐに勃起してしまうかしら……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に言われるまでもなく、ペニスが膨張を始めているのは、自分でも分かっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生命が危機に瀕すると、子孫を残したくなるという俗説は正しかったのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

はたまたスリルが興奮へと直結してしまったのか……。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1202.ogg"

「ほら……もう、ちんぽ硬くなってる……私の手の中で、大きく……血管を浮き立たせて、脈打って……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1203.ogg"

「ふふふ……貴方、よくこんな時に、いやらしい気持ちになれるものね？　さすが変態先生だわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1204.ogg"

「先生の、恥知らずちんぽ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……君のほうこそ、よくこんな変態的な行為を思いつくものだな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1205.ogg"

「……まだ、そんな口をきくの……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは少し眉を上げて私を見ると、肉竿にぎちっと爪を食い込ませてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぐっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛みを覚え、声を上げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、痛みだけではなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

オープンカーで風を切るヒリヒリするようなスリルと、鋭い爪の刺激……それが私を、たまらなく興奮させていた……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1206.ogg"

「……減らず口はそこまでよ、先生」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を睨みつけ、素早くズボンのファスナーを下ろす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

慣れた手つきで男根を引っ張り出すと、その上に股間を押し当て、跨ってきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほ、本気なのか……？」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1207.ogg"

「今夜が最後のセックスになるかもしれないのだから……つべこべ言わずに、愉しんで」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは光る牙を見せてニヤリと笑い、自らの柔らかな裂け目にペニスを先端をあてがうと、一気に腰を下ろしてきた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

にゅるっ！！　ぬぷぷぷっ！！

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1208.ogg"

「あぁぁぁぁっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の熱く濡れた坩堝に、どろりと飲み込まれる。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1209.ogg"

「あっ……はぁっ……おちんちん、すごく、硬いっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「き、君の、おまんこも、すごく濡れている……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やはり危機的な状況が興奮を煽るのか……私達は、常よりもあっさりと快楽の只中へと落ち込んでいった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1210.ogg"

「ふふっ……貴方って、おちんちんだけは最高ね、先生！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私にしなだれかかるように身体を寄せ、熱く囁いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の胸に、その可愛らしい頭を凭れさせる彼女……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の甘えるような仕草に、胸が締め付けられる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

可愛らしい、私の天使……。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1211.ogg"

「ふふ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はギラリと赤い眼を好戦的に輝かせると、突然激しく腰を揺さぶってきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うあぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の荒く淫らな腰使いに翻弄される。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達はガクガクと大きく振動し、車体までもが揺れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これではいつハンドル操作を誤っても、おかしくはない……！

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1212.ogg"

「さあ、先生……地獄へのドライブよ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

地獄……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、彼女は天使ではなく悪魔だったのだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、その名にふさわしい、苦痛のような快感が訪れた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1213.ogg"

「あんっ、あぁぁっっ！　あんっ！　はぁっ！　あくぅんっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは優しさなど皆無な動きで、乱暴に尻を押し付け、肉棒をこそげ取るように巾着状の女膣を絞り上げてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今夜のキリエは、私を徹底的に責め抜くつもりのようだった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1214.ogg"

「あぁぁっ！　もっと、もっとちんぽを勃起させなさいっ！　もっと硬く、大きく……！　これぐらいじゃ、全然、足りないわ……！　はぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1215.ogg"

「私を感じさせたかったら、貴方のおちんぽで、おまんこを、満足させなさいっ……！　マン奥まで、硬いちんぽを、届かせなさいっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1216.ogg"

「まだよ、まだっ……まだおまんこ、全然感じてないっ……！　全然感じてないわっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のしゃくりあげるような喘ぎを聞いていると、全然感じていないとは到底思えないのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだまだキリエが満足していないのは、本当だろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、彼女が満足するまで、これが終ることはないのだ……。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1217.ogg"

「ほら！　カーブよ、先生！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うわっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の声で我に返ると、既にコーナーの直前だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慌ててブレーキを踏み込んで減速し、ハンドルを切った。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯僪儕僼僩壒.ogg"

lsph 30,":c;image/n17\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キキキキキーーーーッッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

タイヤが滑って派手な音を立てる。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1218.ogg"

「あははははっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの甲高い笑い声が不吉に響く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一瞬スピンしてしまうかと思ったが、なんとかカーブを曲がりきり、態勢を立て直した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はＸＪを減速させたまま、しばらく直線が続く道路を走らせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の背中にはまだ、冷たい汗が伝っていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1219.ogg"

「ちょっと、のろのろ走ってるんじゃないわよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはからかうように言うと、後ろ足でまたアクセルを踏み込んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うあっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

グン！　と車が加速し、身体がシートに押し付けられる。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1220.ogg"

「ふふっ……スピードを落としたら、血を吸っちゃうわよ……ちゅくっ！　れちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは更に上半身をくっつけてくると、私の首筋をいやらしい音を立てて舐め始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1221.ogg"

「ちゅっ！　ちゅぷっ！　はぁ……美味しそうな首筋……ちゅぅっ！　どう……？　舐められるのって、気持ちいい……？　れろぉっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「き、気持ち、いい……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

首に沿ってヌメヌメと舌を動かし、鎖骨をなぞり、喉仏をちゅっと吸われる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつ噛み付かれるかもしれないというスリルが、余計に性感を高まらせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1222.ogg"

「ちゅっ！　えっちな先生……はしたないちんぽもビクビクさせて……ふふっ！　舌でペロペロすると、おまんこの中でちんぽが動いてるの、感じるわ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

蜜壺も、強くペニスを締め付けてきて、ぐちゅぐちゅととろけるような粘膜の感触が、私に絶え間ない快感を与えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁっ……キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はいつしかキリエに言われるままに走行速度を上げ、彼女の愛撫と抽送に身を委ねていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1223.ogg"

「ふふ……天国に行っちゃいそう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

天国に……等と、今は不吉な言葉だが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……イキそうだ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉棒は欲望のはけ口を求めて、既に暴発寸前に膨らみきっていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1224.ogg"

「じゃあ、出しなさい……私のおまんこに、全部！　貴方の一億個の精子……全て私のエネルギーにしてあげる……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n09\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅっっ！！　びゅぐるるるるっ！！　びゅぶぶっ！！　びゅるるるるーーーっ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの膣内で精液が爆ぜる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛車の包み込むような安定感のあるコックピットで、流れるような快適な走りを感じながら、私は射精の悦びに浸りきっていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1225.ogg"

「あぁ……はぁぁ……相変わらず、先生の精液は、量が多いわね……ふぅ……匂いもキツくて……濃厚だわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは鼻声になり、欲情でとろりと濁った眼差しで私を見た。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は息を切らし、キリエの眼を見返す。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1226.ogg"

「……どうしたの？　先生……もう、怖気づいたのかしら」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに質問され、未だ物足りなく思っている自分に気づく。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1227.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私を値踏みするような目つきで眺めている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……まだだ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は右足でアクセルを踏み込み、同時に下からキリエを突き上げた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1228.ogg"

「あぁぁぁぅっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

急にペニスを押しこまれたせいか、キリエの身体が倒れ掛かってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はハンドルを握り締めながらも、頬を彼女の柔らかな髪や、小さな頭に擦り付けた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……君の望むことなら、何でもする……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は決意を示すように、一般道を時速１００キロで走行した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

郊外の広い道路を、愛車ＸＪは飛ぶように走る。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1229.ogg"

「あぁぁっ……すごいわ……このスピード……迫力……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……これがＸＪの走りだ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恐ろしいことに……私はこのカーセックスを、満喫し始めていたのだった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1230.ogg"

「そうね、いい車だって認めるわ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの髪が宙を舞う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の目に映る、夜空をバックにした彼女は、まさしく美しい吸血鬼にふさわしい姿だった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1231.ogg"

「んっ、んっ……！　先生も、もっと下から、おちんちん突き上げて……！　んうっ！　あぁぁっ……！　きもちいい……！　この疾走感……最高……！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1232.ogg"

「んぁぁっ、風が、おっぱいを嬲ってる……もっと、スピード出して……！　きもちいい、きもちいいのっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはあらわにした胸元を、突き出すように風に晒す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

剥き出しになった愛らしい乳房やさくらんぼ色の突起が、風の刺激で硬くなり、ぷるぷると震えていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1233.ogg"

「舐めなさい……先生……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは貧弱だが魅力的な乳房を、私の唇に押し当てる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……し、しかし……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これでは視界がキリエで塞がってしまう。いや……今までも、キリエしか見ていなかったようなものなのだが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1234.ogg"

「私が舐めろと言ったら、舐めなさいっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、分かった……れろっ……ちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの乳房に吸い付いた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_38.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_38.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1235.ogg"

「ふあっ……んくっっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

首を曲げて頭を下げ、舌でキリエのぷくっと膨らんだ突起を探る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「れろれろっ、じゅぷっ、ちゅうっ！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_39.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_39.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1236.ogg"

「あ、あぁっっ……！　上手よ、先生……ちくび、きもちいいっ……あぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤く腫れたキリエの乳首を、口に含み、チュウチュウと吸って、舌先で転がすと、キリエの身体は暴れて、襞が肉棒に吸い付いてきた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで、乳首のお返しに、ペニスを舐めしゃぶるように……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……ちゅっ、くちゅるっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は一層奮い立つように舐めまくった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口の中で、ポロリと取れてしまいそうに硬くなった乳首を、夢中で吸い立てた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1237.ogg"

「んぁぁっ……おっぱいっ……舌で擦られてっ……れろれろされるの、いいっ……ちくび、きもちいいっ……おまんこに、じーんって、つたわるぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私のペニスにも、伝わっている……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

運転中だということを忘れるくらいに……私は乳首のぷりぷりとした硬さと、柔らかな襞の感触に酔いしれていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1238.ogg"

「……貴方も気持ちがいい？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……君の乳首を舐めているだけで、幸せだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1239.ogg"

「では、私もこうしてあげるわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悪戯っぽく微笑むと、シャツの上から私の乳首を爪で引っかいてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うわっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僽儗乕僉01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

吱吱吱————！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつの間にか敏感になっていた乳首を引っかかれたことで、私は仰天してしまい、ハンドル操作を誤ってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

車は反対車線に飛び込み、更にガードレールへと突進していく。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僽儗乕僉02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キキキキキキーーーーッッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ブレーキを踏むと、今度こそ愛車はぐるぐるとスピンする。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1240.ogg"

「あぁぁっ！！　いいわっ……！！　このスリル、たまらないっ！！　もうおまんこビチョビチョだわっ……ふぁぁぁぁっ！！　あぁぁんっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ！！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの嬌声をよそに、私は回転を止めようとハンドルを切りまくる。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯僪儕僼僩壒.ogg"

lsph 30,":c;image/n17\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n17\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

心臓が止まりそうなほどバクバクして、勃起したペニスも縮み上がりそうだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の愛車ＸＪは、車線を超えて、来た方向へかなりスピンで戻ってから……やっと停止した。

\

lsph 30,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_14愒偄寧.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁ……はぁ、はぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は恐怖のあまり俯き、息を荒げ、キリエの顔をまともに見ることも出来なかった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1241.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、しばらくそんな私を見つめていたのか……無言でいたのだが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1242.ogg"

「……怖い……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口を開くと、囁くようにそっと私に尋ねるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……怖かった……はぁ、はぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1243.ogg"

「……もう、やめたい？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1244.ogg"

「フフ……弱虫の貴方には、これが限界かしら？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤い唇から、牙が覗く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはいっそ優しいような表情で、私をじっと見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……私は、まだ大丈夫だ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

折角危機を脱したというのに、自分でも何を考えているのか分からない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、私はまだキリエを……味わい足りない……。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1245.ogg"

「……それでこそ、先生ね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはニヤリと笑うと、上下に激しく肉体を踊らせ始めた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんぐちゅんぐちゅんっ！！

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1246.ogg"

「あぁぁっ！　あんっ、ふぁぁっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

反対車線に止まったままのジャガーＸＪが、ガクガクと揺れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

誰かに見られたら、確実にセックスしているとばれてしまう……遠くからでもそれと分かる動き。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の腰使い、いやらしすぎるぞ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の細いウェストを掴み、上下に揺すりながら、その動きをより大きくさせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1247.ogg"

「うぅぅんっ、先生こそっ……下からの突き上げが、強烈にいやらしいわっ……！！　あぁぁ～～っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

教師が公然猥褻……教え子との淫行……そんなスポーツ新聞の見出しのような言葉が頭をよぎる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……最高だ、キリエ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

公共の場での、禁じられた行為……それが私を、こんなにまで昂ぶらせている……！！

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1248.ogg"

「先生の変態ちんぽも最高っ！　私のオマンコっ、ぐちゅぐちゅ掻き回してるぅっ！　あぁっ、あぁぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1249.ogg"

「こうして、お尻を下ろすと……オマンコの奥まで、ちんぽずっぽりぃ……ふぁぁっ！！　ちんぽ突き刺さって、きもちいいっ……あぁぁんっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1250.ogg"

「ちんぽっ！　デカちんぽきもちいいっ！！　オマンコの中っ、ちんぽでひろげられるのいいのっ！！　むりやりひろげられるの、きもちいいっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはひっきりなしに甘い声を上げながら、私の膝の上で、性器をぶつけるようにバウンドしてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはひっきりなしに甘い声を上げながら、私の膝の上で、性器をぶつけるようにバウンドしてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスはヌルヌルとしたぬかるみを進み、柔らかな壁に突き刺さり、先端にゾクゾクとした痺れを伴って、また出て行く。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ううっ……もう……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これ程までに気持ちがいいことを、これ以上続けられるはずがない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気持ちがよすぎて、気が狂いそうだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……私はもう狂っているのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この美しい怪物に。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1251.ogg"

「イキたいのね、先生っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の状況を察知し、腰の振り幅が更に大きくなる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、イキたいっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の滑らかな抽送は、私をすぐにでも到達させることだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそれでもなお欲深く、自分からもシートを揺らし、勃起肉を突き上げていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1252.ogg"

「んくぅうっっ！！　ちんぽ深いっ……しきゅう、がっ……おしあげられてっ……ちんぽで、おなかが、いっぱいでっ……んぁぁぁっっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1253.ogg"

「あぁっ、らめっ、もうらめぇっ……おまんこが、びくびくしちゃってぇっ！！　わらしもいくっ、わらしもいぐぅうぅうぅぅうぅうっっ……！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n09\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュルルルルルルルーーーーーーッッッ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1254.ogg"

「あぁぁぁあぁぁぁぁあぁぁぁあぁぁーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ハンドルに仰け反るキリエを抑えつけるようにして、私は精を解き放った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

熱く滾ったスペルマが、びゅるるっと肉棒を通り抜け、キリエの膣へと流れ出してゆく。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1255.ogg"

「あぁぁっ、また、せいえきっ……オマンコの中、たぷたぷしちゃってるっ……！　す、すごい勢い、しきゅうに、たたきつけられて……はぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1256.ogg"

「う、うぅぅっ……先生の子種が、精子達が、おまんこに、びゅるびゅる当たって……ふぁぁ……っ、あぁぁーーー……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……誰かに聞こえるぞ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも興奮しているのか、声がいつもより大きく、周辺に響いていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の口に手の平を当て、小心に周囲を窺う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もし、彼女の艶やかな声に惹かれて、誰かがやってきたら……。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1257.ogg"

「いいのよっ……気持ちがいいから、声が出ちゃうの……！　んあぁぁぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

噴き上げ続ける精液の奔流に、彼女はまだビクッビクッと膣壁を震わせ、荒い喘ぎ声を上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、君のこんな姿、他の男には見せたくない……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は独占欲もあらわに言い募る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の美しい肉体を知っているのは、私だけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

たとえ愛されていなくても、彼女の裸体を眼にし、愛でることが出来るのは、私だけなのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その優越感すらなくなったら……私に残されたものはもう、何一つなくなってしまう……。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1258.ogg"

「フフ……男の醜い嫉妬心という訳？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自尊心をくすぐられたのか、少々嬉しそうに微笑んでいた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1259.ogg"

「じゃあ、車を発車させなさいよ、先生……ドライブセックスを続けましょう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……」

\

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仧幵媫敪恑.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はまんまとキリエの囁きに乗って、車を発進させた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

またしても、死に一番近いセックスが始まってしまったのだ。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n09\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1260.ogg"

「あっぁっ！！　この風、たまらないわっ！　もっとスピードを上げてっ……！　もっとおちんちん、ズンズンしてっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは淫靡な吐息を風に撒き散らしながら、全身を弾ませた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

股間からも愛液や精液を弾き飛ばし、私のパンツやＸＪのシートまでもがびしょ濡れになっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

走行音に混じって、ねちゃっねちゃっと肉擦れの音が立ち上ってきて、二人の体液の大量さを想像させた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1261.ogg"

「んあっぁぁっ！！　すご、いっ！　ぐちゃぐちゃまんこっ……！　エッチなおしる溢れすぎてっ、もうちんぽぬるぬるすべりすぎっ！！　あぁっっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1262.ogg"

「亀頭がっ、きもちいいところに、ゴツゴツあたるのぉっ！　ふぁぁっ！　イッたばっかりのヌレヌレまんこにっ、巨根がズブズブ埋まってるぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1263.ogg"

「んくぅぅっ！　先生のちんぽでっ、オマンコ肉、思いっきりズリズリしてぇっ！　でっかい傘で、まんこ襞ひっかいてぇっ！！　はぁぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1264.ogg"

「ぴくぴくイキまんこに、ゴリゴリおちんぽつっこまれるのっ、きもちいいっ！！　お尻ふりふりして、おまんこに突っ込むの、きもちよしゅぎぃぃっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1265.ogg"

「先生っ……先生も、キリエのマンコで、おちんちん扱かれるの、好き？　キリエのマンコ、気持ちいい？　ザーメンミルク、漏れちゃいそうっ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不意にキリエが、すがるような眼をして、私を見つめてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1266.ogg"

「ねえ、キリエのエッチなおまんこ、好きなんでしょう？　キリエのオマンコじゅぼじゅぼするの、最高でしょう……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……勿論だ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はコクコクと忙しなく頷いた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1267.ogg"

「じゃあ、もっと私をっ……褒め称えなさいよっ……！　オマンコが、好きだって、言いなさいっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは急に鬼の首を取ったように勝ち誇った顔をして、私に命じるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……？　しかし、先日は、好きだと言うな、と……」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1268.ogg"

「もうっ……揚げ足を取らないでっ！　貴方は下僕なんだから、主人の言うことをきいていればいいのよっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの言うことを聞かないと……またアクセルを踏まれるかもしれない……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエのオマンコは、最高だ！　素晴らしいオマンコだ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は諾々と従った。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1269.ogg"

「風に負けてるわ！　もっと大きな声で！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエのオマンコが好きだーーー！　大好きだーーー！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

殆どやけっぱちであった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1270.ogg"

「あはははっ……！　大声で『オマンコが好き』だなんて、変態教師っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、声を上げて笑った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_41.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_41.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が、こんなに屈託なく、声を上げて笑うのは……初めてではないか……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その可愛らしく、少女らしい笑顔を見て……私の心臓は、ドキドキと鼓動を早める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエのオマンコは、世界一美しい！！　キリエのオマンコは、いやらしくて、よく締まって、気持ちよくて、大好きだっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1271.ogg"

「あははははっ！　先生の変態ーーーっ！　変態ちんぽーっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女も私に負けじと、笑いながら声を張り上げる。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1272.ogg"

「でも、先生のおちんちん、好きよ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、彼女は何気なく、そんな一言を漏らした……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1273.ogg"

「あっ！　か、勘違いしないでよね！　おちんちんだけ、なんだから……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

慌てて言い訳をするキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……今の彼女が執着しているのは、私の血とペニスにだけ……それは分かっているが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は左手をハンドルから離し、キリエを掻き抱いた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ほんの気まぐれの一言でもいい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が、好きだと言ってくれた事……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それが、私には、胸が張り裂けそうなぐらい、嬉しかったのだ。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1274.ogg"

「な、何っ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

抱きしめられたキリエが、戸惑った声を上げている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1275.ogg"

「せっ、先生っ……ハンドル……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「好きだ……！　キリエ……私は、君を、愛している……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエを強く抱きしめ、今や運転よりも性交に熱中していた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1276.ogg"

「あぁぁっ！　お、おちんぽが、また、硬くなって！　ふぁぁぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私がペニスを穿ち込むと、キリエは仰け反って、ハンドルの上に身を投げる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

運転なんて、もう出来そうにない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、足はアクセルを踏み続けている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

飛ぶように流れ去る景色を横目で見ながら、恐怖よりもむしろ、高揚感を感じている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままキリエとどこまでも、地の果てまでも行ってしまいたい……そんな気持ちだった。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1277.ogg"

「あぁぁ～～～～っ！！　いいわっ！！　こんな風にぶっ飛ばしながら、ビンビンちんぽハメられるの、最高っ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1278.ogg"

「うぅんっふぁぁぁっ！！　ドロドロまんこにっ、ちんぽいっぱい挿れてよぉっ！　がちがち勃起おちんぽ、いっぱいちょうらいっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こうか！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はシートからずり落ちてしまいそうなほど、身体を深く沈めてためを作り、弓なりになって男根を突き刺した。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1279.ogg"

「ふぁぁぁぁぁぁぁ～～～っっ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは絶叫した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1280.ogg"

「あぁぁっっ、あぁぁぁっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私にしがみ付き、必死で快感に耐えている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣内もきゅっきゅっと小刻みな締め付けを始め、キリエの絶頂の兆しを、私に教えていた。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1281.ogg"

「あぁぁっ、お、おまんこがっ、びくびく、してっ……！　イキそうっ……おまんこがっ、イッちゃいそうっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1282.ogg"

「先生の変態エロチンポでいくっ！！　ロリコンちんぽ、マン奥に突っ込まれて、いっちゃうぅうぅ～～～～っっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、私もイクぞ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも持ちそうにないが、私ももう限界だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は時速１２０キロの風圧を頬に感じ、右手でハンドル、左手でキリエを強く抱きしめながら、射精の瞬間を待った。

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1283.ogg"

「いってぇぇぇっ！！　先生のドロドロザーメン汁、子宮マンコにどっぷり中出ししてぇっ！！　ザーメンぶちまけて、イキマンコにしてぇぇぇっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1284.ogg"

「ドクドク白濁ザーメン、いっぱいちょうらいっ！！　先生の子種汁で、おまんこビチョビチョ精液だらけにして、イキたいのぉぉぉぉっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n09\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドクドクドクッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュルルルルルルルーーーーーッッ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1285.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーーっっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目の前が霞むような絶頂感で……私は思わず、両足を踏ん張った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁぁっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n09\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n09\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1286.ogg"

「きゃぁぁっ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の右足はアクセルを力一杯踏んでいたのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ＸＪが一気に加速し、ハッと気づいたら、ガードレールが目に前にあった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁあぁあぁぁぁっっ……！！」

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僽儗乕僉02.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仧僋儔僢僔儏01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は成す術もないまま……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛車が激突し、ガードレールがヘッドライトを突き破り、リアガラスまで貫通するのを、ただ眺めているしかなかった……。

\

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁぁぁ……私のジャガーＸＪがぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は可愛いＸＪが、恐ろしいガードレールに食われている様を、愕然として見つめていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それはもう……私のＸＪの姿ではなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かつてＸＪだったモノ……残骸だった。

\

bgm "music/nbgm16.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、くぅぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

眼にじわっとした違和感を感じ、唇を噛み締める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが傍にいなければ、きっと泣いていたに違いない……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚椻崜01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚椻崜01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1287.ogg"

「はぁ……女々しい男……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそんな私を、冷酷な眼差しで見下していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「し、しかし……君には分からないだろう！　私がどんなにあの車を愛していたか……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1288.ogg"

「あのね……私が助けなければ、貴方もああなっていたのよ？　分かっているの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

確かにその通りだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

激突の瞬間、私は物凄い力で引き上げられ、気づくと空を飛んでいた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、私を助けてくれたのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1289.ogg"

「物なんて、みんないつか壊れるのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの無慈悲な態度に、私は……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は冷たい……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

悲しみのあまり……本音が口から零れ落ちるのを、止めることが出来なかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚搟傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

初めてＸＪでドライブした時の思い出や、常に洗車をして、車内を清潔に保っていたことなどを、懐かしく思い出す……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚搟傝02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1290.ogg"

「私が、冷たい……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは納得いかないとでも言いたげに、眉を釣り上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君には、大切なものがないから、失った時の悲しみが、分からないのだ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1291.ogg"

「……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、一瞬言葉に詰まったかと思うと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぱっ、と両手を開いた。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うわぁぁぁぁぁぁーーーーーっっ！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仴棊壓壒僺儏乕儞.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに手を離されてしまった私は、重力に逆らえず、落下した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエーーーー……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は力なくキリエに手を伸ばす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのニヤニヤ笑いが、目の端に映った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……ここまでか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、愛車と共に死ぬのか。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……結局キリエは、私が死のうが生きようが……どうでもよかったのだ……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒05.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ガシッッ！！

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、再びキリエに両脇を抱えられ、宙に浮かんでいた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1292.ogg"

「フフフ……先生、ビックリした？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはニヤニヤと笑っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、恐怖と驚きと悲しみと怒りで、口もきけなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1293.ogg"

「言ったでしょ？　先生……私に生意気な態度を取るなって……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1294.ogg"

「先生は、私の下僕なのだから」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……分かった……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は頷くしかなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1295.ogg"

「ふん、分かればいいのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心の中でキリエへの反抗心を燃やしつつも、私は生きるために口を閉ざすのだった……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1296.ogg"

「では、行きましょうか」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ええっ！？　ＸＪをこのままにして、どこへ行くというのだ！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚僕僩栚02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1297.ogg"

「壊れた車がどこへ連れていってくれると言うのよ……行くわよ」

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を抱えたまま、優雅に空を滑空する。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わあぁぁぁぁっっ……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚曫傟01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1298.ogg"

「先生、うるさい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエには、どこか私の知らない目的地があるようだった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_13栭宨栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_13栭宨栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1299.ogg"

「ここよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思わずため息が漏れる。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02栭宨1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02栭宨1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm06.ogg"

csp2 4

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが案内した場所……それは、都会の美しい夜景を眼下に、宝石のようにきらめく星空を頭上に見ることができる、高台だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「素晴らしい景色だ……君はいつもここに？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を連れてくるぐらいなのだから、きっとお気に入りスポットなのだろうと見当をつけて尋ねる。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_13栭宨栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_13栭宨栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1300.ogg"

「ええ……飛ぶ時は、最後にここに来て、景色を見て帰るの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……君にも意外と、詩情的な所があるのだな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも、夜景を楽しむような心を持ち合わせているのだと知って、何故かほっとしていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1301.ogg"

「……そういうわけではないけれど……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1302.ogg"

「ここから見る景色は、巴里の灯を思い出させるのよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「パリ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

突然予想外の地名を言われて、私は大きな声を出してしまった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚柍娭怱01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1303.ogg"

「何よ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……君はパリにいたのかね？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1304.ogg"

「ええ……でも、３００年前の話よ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のクラスの生徒が……ヴァンパイアで３００歳でパリに住んでいた……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あまりに突拍子も無い話なので、私の頭はついていくだけでやっとだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1305.ogg"

「最後に見たパリは、丁度こんな夜で……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1306.ogg"

「街の灯が見えた……きれいだったわ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1307.ogg"

「私は、山の上から懐かしい灯りを見ていた……蝙蝠の姿で……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1308.ogg"

「それが最後だった……私は二度と、フランスに帰ることはなかった」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはその時のことを思い出しているのか、ぽつりぽつりと語るのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「その時……君はもうヴァンパイアだったのだな？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1309.ogg"

「ええ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは無表情で頷く。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……よかったら、話してはくれないか？　君が何故、ヴァンパイアになったのか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまで踏み込んでいいものかどうか、正直なところ、分からなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが私は……この孤独な少女の心の中を、少しでもいいから、覗いてみたかったのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1310.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

てっきり拒絶されるかと思ったのだが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1311.ogg"

「あの頃……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはゆっくりと、自らの出自を語りだしたのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1312.ogg"

「あの頃……貴族たちの間で、ヴァンパイアに生まれ変わることが流行していたの……退廃もここに極まれり、ね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1313.ogg"

「彼等は、ただ楽しみのためだけに、ヴァンパイアになり、貧民を陵辱し、殺戮したわ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1314.ogg"

「貴族の娘だった私も……彼らのほんの気まぐれで、ヴァンパイアにされた……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1315.ogg"

「私の両親は、彼等に殺されたわ……ほんの気まぐれで……いえ……私という、美しい娘を持ったがために……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1316.ogg"

「彼等は、永遠に少女の身体をした、ペットを作りたかったのね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1317.ogg"

「そして、私の１６歳の誕生日に、仲間全員で私の処女を散らす計画を立てていた……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1318.ogg"

「私は彼等の慰み者になる気はなかったから……一人で逃げた……夜の闇の中を、たった独りで……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1319.ogg"

「その時、パリの灯りを見たの……とてもきれいだったけれど……そのあとはもう振り返らなかった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1320.ogg"

「私はその時誓ったのよ……一人で生きて行くと……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1321.ogg"

「パリに背を向けたときに、甘えや恐怖心、その他いらない感情は全て、そこに置いてきたの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

なんという壮絶な話なのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……当時の彼女の苦痛、不安、恐怖を考えると……何も言葉が出てこなかった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……それは、大変だったのだな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このような平凡な言葉しか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1322.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さぞ……怖かったことだろう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1323.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私が……そばに居てあげられたら、よかったのだが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1324.ogg"

「……貴方など、そばにいたところで、何の役にも立たないでしょう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

案の定バッサリと斬られた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうかもしれない……が……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……追手を阻むための、囮ぐらいにはなれるぞ。時間稼ぎのために特攻するとか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚椻崜01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1325.ogg"

「……貴方、死ぬじゃないの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の為なら死ねる」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1326.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、きょとんとした顔で絶句した後……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徠傟徫婄02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1327.ogg"

「……ぷっ！！　クスクスクスクス……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

破顔一笑、笑い出したのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……何故笑う！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1328.ogg"

「今の私の話……全て本当だと思う……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……騙した……のか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1329.ogg"

「さあね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは軽くはぐらかす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……私は怒る気にはなれなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

微笑むキリエの顔が、とても可愛かったから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1330.ogg"

「……何？　じっと見て……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「パリの話、本当なんだろう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

静かに語っている時の、寂しそうな彼女の横顔は……どう考えても、嘘を言っている時の顔ではなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1331.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1332.ogg"

「……先生って、おめでたいのね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君を信じているだけだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徠傟暁偟栚01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1333.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはぷいと横を向く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

照れくさいのか、頬が少し赤くなっているようだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1334.ogg"

「さ、そろそろ行きましょうか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

話は終わりとばかりに、キリエはさっさと立ち去ろうとする。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はその背中に声をかけた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1335.ogg"

「何」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君はもう、独りじゃない……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私が……君のそばにいる……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徠傟捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1336.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徠傟暁偟栚01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1337.ogg"

「……押し付けがましいのは、迷惑だわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それでも、そばにいる……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徠傟捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1338.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だからもう、寂しくはないぞ、キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徠傟偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1339.ogg"

「……勝手にすれば」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは踵を返し、今度こそ振り返りもせずに歩いて行く。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……勝手にするさ」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02栭宨1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02栭宨1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

３００年の孤独は、そう簡単に埋められるものではない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、少しでも、私がその手伝いを出来ればいいと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

独り歩く彼女の後ろ姿を見つめながら、考えていたのだった。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

翌日、私は憂鬱な心持ちで登園した。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/nbgm03.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ＸＪの件が私の心に影を落としていたのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、苦痛に満ちた朝の満員電車を思い出していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大勢の人間がひしめき合い、押され、潰され、目的の駅に着いて降りるまで、終わることのない試練の時間を過ごす……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、他人に肌を押し付けられるのも、安い整髪料の匂いを嗅がされるのも、楽をしようと寄りかかられるのも、御免だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こればかりは、キリエを恨まずにはいられない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快適なＸＪの車内での、優雅な時間……それを返して欲しかった……。

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFFキリエを許す",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFFキリエに仕返しをしてやりたい",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_6

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_6

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route10b0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route10b1

goto \*L\_selectbtn6

\*L\_route10b0

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……もう何も言うまい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ＸＪの件は、もう過去のこと……。いつまでも過去に囚われていても仕方がない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あんなに過酷な過去を持つキリエだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少しぐらい、性格が歪んでしまっても、それは仕方のないこと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今まで与えられることのなかった、愛情と優しさで……私の愛の力で、矯正してあげればいい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もう車のことは忘れよう……それより、キリエの寂しさを解消してあげることのほうが重要だ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「欲しいというのなら、血液でも……精液でも、幾らでも与えよう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……キリエはきっと、今日も欲しがるだろうな……」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は早くも、キリエの家で過ごす放課後に思いを馳せていた。

\

bgm "music/.ogg"

goto \*L\_route10bend

\*L\_route10b1

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そもそも……キリエがあんな無茶なプレイをしなければ……こんな事にはならなかったのだ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いきなりボンネットに飛び降りてきて、非常識な行為を強制したキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

命があったからよかったものの、下手したら死んでいた可能性すらある。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……勿論、彼女だけが悪いと言うつもりはない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本気で、キリエに対して腹を立てているわけでもない……が。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何か……ちょっとした仕返しをしても、罰は当たらないのではないだろうか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……やられっ放しでは、男がすたるな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どのようにして、キリエに一泡吹かせるか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエと過ごす放課後が、今から楽しみになってきた私だった。

\

bgm "music/.ogg"

goto \*L\_route10bend

\*L\_route10bend

sw

sw

\*L\_kk\_main\_13a

sw

;\*L\_Main

sw

sw

lsph 30,":c;image/1\_20奨梉從偗.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_20奨梉從偗.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やあ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事に通され、私は足取りも軽く、キリエの寝室へとまっすぐに向かったのだった。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1340.ogg"

「先生、いらっしゃい」

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは昨日と同じ肉感的な衣装で私を迎えてくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

我知らず、顔が微笑む。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1341.ogg"

「先生、昨日は車を壊してしまって、ごめんなさいね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

開口一番、キリエの口から思わぬ言葉が飛び出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ええええっ！！！？？？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1342.ogg"

「あれから、私考えたのよ……あの時はあんな風に言ってしまったけれど、先生は、とてもショックを受けていたんだって……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、いいんだ。あの事はもう忘れようじゃないか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚怱攝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのしおらしい様子……女らしい控えめな態度を見て、私は彼女の謝罪を遮った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1343.ogg"

「でも……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや、本当にもういいんだ……車なんかより、私は君の方が大切なのだから……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1344.ogg"

「そうですか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは安堵の微笑みを浮かべる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その顔を見て私は……許してあげて良かった、と心からそう思った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1345.ogg"

「ねえ先生、お詫びのしるしにプレゼントを用意したんです。受け取ってもらえますか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、私のためにプレゼントまで用意してくれたというのか……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1346.ogg"

「ええ勿論……先生にはいつもお世話になっていますから」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは媚びるような上目遣いで私を見つめている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そのフランス人形のような愛らしさに、私の心はただただキリエに感服するのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1347.ogg"

「ベッドに腰掛けて、楽にして下さいな、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、失礼する」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は胸を弾ませ、言われた通りに腰掛けた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1348.ogg"

「ねえ、プレゼントを渡す時、驚かせたいの。目隠しをしてもいいですか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は全て彼女に従い、無抵抗に目隠しをされた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1349.ogg"

「フフフ……じゃあ、プレゼントをあげるわ……先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ドキドキ……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は胸を高鳴らせながら、キリエを待つ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚崅徫偄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1350.ogg"

「これよ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠敍傝.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体がきつく締めつけられ、身動きができなくなる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

細い紐のような物が身体に食い込み、痛みを感じた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徫婄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1351.ogg"

「あははははは……いいザマね、先生！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……！？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに目隠しを取られた時……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、寝台に縛り付けられていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こ、これは、どういうことなんだ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は暴れて、ロープを抜けようとする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、キリエの馬鹿力で縛られたロープは、決して解けてはくれなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1352.ogg"

「だから……これがプレゼントよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは少し拗ねたように、唇を尖らせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何を言っている……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚椻崜01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1353.ogg"

「もう……貴方、教師のくせに、理解力がないのね……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚椻崜徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1354.ogg"

「今日は、貴方にとっても素敵な緊縛プレイをさせてあげようと思っているのよ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1355.ogg"

「素直に喜びなさい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはニッコリと微笑む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の耳元で、悪魔が嘲笑う声が聞こえるようだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

『だからキリエを許さなければよかったのだ』と……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1356.ogg"

「フフ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一歩一歩近づいてくるキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女がくれるという、緊縛という名のプレゼントを……私は身動きもできないまま、黙って受け取るしかなかった……。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

\*L\_Replay13\_03a

mov %Replay13\_03a, 1

lsph 30,":c;image/n10\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠敍傝.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うくっ……！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

bgm "music/nbgm10.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1357.ogg"

「ふふふふ……苦しいでしょう？　先生」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは縛り上げた私の服をはだけ、跨ると、なんと射精ができないように、ロープで肉棒の根元をきつく縛ってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何をするつもりなんだ……！？」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1358.ogg"

「何って……お・た・の・し・み……でしょ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはニヤリと笑うと、縛られたペニスに自身の割れ目をねっとりと押し付けてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……キ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1359.ogg"

「気持ちいいでしょ？　先生……私のビラビラ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

誘惑的な声音を使い、腰を前後に動かしてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの外性器は熱く、火傷するようで、私のペニスを嬲り、ぺったりと張り付いてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「や、やめてくれ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1360.ogg"

「あら？　どうして？　気持ちがいいでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だ、だが……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんな風に、射精ができない状況に追い込まれていては、快感を与えられても、辛いだけではないか……！

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1361.ogg"

「ふふん……おちんぽ、どんどん大きくなって、ハムみたいになってるわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエにはそれが充分分かっていて、眉を顰める私を見て、嘲笑うのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1362.ogg"

「くすくす……おちんちん、はちきれそうになってるじゃない。その調子で大きくして、ロープも引きちぎってみなさいよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは無理だろう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1363.ogg"

「じゃあ、ずっと射精できないわよ……それでもいいの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは酷薄な眼差しで、私を見下ろしている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今日は本気で、私を苛める気のようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「よくない……が」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_41.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_41.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1364.ogg"

「私は解いてあげないわよ、絶対に……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ニヤリと笑った瞬間に唇から牙がこぼれ、私は久しぶりに彼女を恐ろしいと感じた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「解いてくれ、頼む……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1365.ogg"

「あんっ、あんっ……硬いちんぽ、クリトリスで感じるっ……ふぁっ！　ロープがゴリゴリして……変な気分になっちゃう……はぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の頼みをサラリと無視し、キリエは男根を使って自慰を始めるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1366.ogg"

「んくぅっ……クリトリスッ……圧迫されてっ、き、きもち、いいっ……！　あぁっ！　亀頭で、いっぱい、こすれてるっ……んぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1367.ogg"

「あぁっ……ちんぽでずりずりぃ、ビラビラも、きもちいいっ……きもちよすぎて、こえ、いっぱい出ちゃうぅっ……！　あくっ、んぅぅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1368.ogg"

「ふぁぁっ、おまんこ汁、あふれてきちゃうぅっ……ぬるぬる、きもちよくて……くぅんっ！　クリトリスが、ちんぽに押されて、きもちいいの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1369.ogg"

「あぁっ、クリトリスがっ、気持よすぎて、大きくなるっ、勃起しちゃうぅっ……私も、先生みたいに、勃起しちゃうのぉっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

刺激的な言葉の数々に、肉竿がビクビクと反応してしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

現実に、キリエの肉裂から愛液が垂れ落ち、外陰唇がヌメヌメとペニスの上を這っているのを、目の当たりにしているというのに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分の意志では触れることができない。縛られているので、手を伸ばすことすらできない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

射精すらできない今の現状では、扇情的な彼女の態度は、拷問でしかなかった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1370.ogg"

「あぁっ、気持ちいいわ……！　先生も、気持ちいいのでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うぅっ……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1371.ogg"

「主人である私が話しかけているのよ？　答えなさい……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は頑なになってしまい、彼女の問いを黙殺した。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1372.ogg"

「……まだ自分の立場がわかっていないのね」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠敍傝.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

グイッ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはチンポに結び付けられたロープを、無造作に引っ張った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ギリギリと締め付けられる勃起肉。私は痛みで悲鳴を上げた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1373.ogg"

「フフ……こんな風にされると、どう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、痛い……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1374.ogg"

「痛いだけではないはずよ、先生……貴方のおちんちん、悦んでいるもの……私には分かるの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは薄く開いた瞳で、何もかも見透かしていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエに乱暴にされること、痛みを与えられることに、悦びを感じていた……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1375.ogg"

「先生のちんぽ、ぴくぴく跳ねあがって、嬉しそう……先っちょの穴から、我慢汁もいっぱい滲み出してるじゃない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは鈴口に溢れた我慢汁を指先で掬い、ピンク色の舌でチロっと舐めた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1376.ogg"

「んふ……おいしいわ……ちゅるっ、ぴちゃっ……先生のがまんじる……んちゅっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

わざと舌を出して、私に見せつけるようにいやらしく指を舐め回す。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……ぐっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の淫らな振る舞いを見て、絞めつけられた肉棒が、欲望を感じて更に膨れ上がる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛みと興奮で、頭がおかしくなりそうだった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1377.ogg"

「もっと我慢したいの、先生？　……ふふ、先生のマゾチンポ……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1378.ogg"

「苦しいでしょう？　楽になりたいと思わない？　おちんちんから、ぴゅ～ってエッチなお汁、出しちゃいたいんでしょう……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは歌うように、私に尋ねる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だ、だしたい……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1379.ogg"

「……じゃあ、私の言うことを聞く？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「き、きく……！　何でもきく……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1380.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは一瞬考えるふりをするが……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1381.ogg"

「でもだーめ。先生がいい子になるまで、解いてあげない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

结果还是进入了残忍路线。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私に、どうしろというのだ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

結局残酷に突き放すのだった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1382.ogg"

「簡単よ。全てにおいて、私を最優先すればいいの」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはさらりと言ってのけ、またなまめかしく腰を使い始めた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1383.ogg"

「んっ、んっ！　はぁっ……貴方は、いつも私のために、このおちんぽを勃起させておきなさいっ……！　はぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1384.ogg"

「貴方の取り柄は、このおちんちんだけ、なんだからねっ……！　あぁんっ！　このビンビンちんぽで、私をっ、悦ばせなさいっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に性器を押し付けられ、濡れた肉の気持よさで頭が働かなくなり、私は小刻みに頷く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの柔肉は肉竿を優しく愛撫し、ロープは意地悪く締め付け、私を傷めつける。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ああぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

相反する感覚に弄ばれ、苛まれているうちに……いつしか痛みも全て快楽へと変わっていくのを、私は自覚していた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1385.ogg"

「あぁっ……それにしても、きもち、よしゅぎっ……ふぁっ！　クリトリス、ビリビリ、くるぅっ！　オマンコの中まで、じわぁって……！　ふぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1386.ogg"

「んっ！　おちんちん、挿れなくてもっ、クリ、こするだけでも、きもち、いっ……！　こ、このままっ、い、いっちゃいそうっ……！　あぁぁっっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体が私を踏みつけるように跳ね上がる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

むちゃくちゃにクリトリスを擦りつけ、肉棒をベチャベチャの愛汁まみれにする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の濡れた性器のせいで、私のペニスまでもがふやけてしまう。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1387.ogg"

「あぁぁっ！　あんんっ！　あくぅっ！　ふぁぁぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もう私の存在など忘れてしまったかのように、夢中になって腰を振っているキリエ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ま、待ってくれ……！　そんな、私を放置して、イクのか……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエが私を置いていってしまうような気がして、ほんの少しの寂しさを感じたのだった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1388.ogg"

「あぁっ、ふぁっ！　だ、だってっ、か、からだが、かってにぃっ……ビクビクッ……！　あぁぁっ！　クリッ、びんかん、すぎっ……あぁーーっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1389.ogg"

「や、やめられ、ないのぉっ！　くりとりすっ、ちんぽにこすりつけるの、きもちよしゅぎて、やめられないぃっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1390.ogg"

「あぁーーっ……！　先生の、おちんぽに、亀頭のでっぱりに、クリッ……ゴリゴリするのっ、さいこうに、きもち、いっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1391.ogg"

「らめっ、らめらめらめっ……い、いくっ……もう、いっちゃうぅぅうぅぅぅっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体が、一度、二度、と大きく痙攣したかと思うと、がっくりと力を失った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1392.ogg"

「あぁぁぁ……はぁ、はぁ……すごい……クリトリス、すごく……イッちゃった……ぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは肩を揺らし、荒い息を吐いている。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

額に浮いた汗や、トロンとした目付きを見れば、彼女がオーガズムに達したのは自明の理だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「クソッ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女が自分勝手に高まり、絶頂するのを、黙って見ていることしかできなかった……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1393.ogg"

「はぁ、はぁぁ……ふふ……指を咥えて見ている気分はどう？　先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは何もかも分かっているとでも言いたげに、唇の端を釣り上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1394.ogg"

「貴方のおちんぽ……爆発寸前みたいに膨れ上がってる……フフ……可哀そう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1395.ogg"

「役立たずの先生……くすくす……おちんぽビンビンでも、なんにもできないのよね……？　ふふ……ふふふふ……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは淫靡な微笑を漏らしながら、再び身体を揺すり出す。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1396.ogg"

「あっぁっ、あぁっっ、んっ、んんぅっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

何かに取り憑かれでもしたかのように……何度も何度も、前後に揺れている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

きつく目を閉じ、もう私の姿も見ていない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

完全に自分だけの快感に、浸りきっていた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1397.ogg"

「あぁっ、す、すごいっ、ちんぽっ、かたいのっ……！　んぁぁっ！　クリッ、こんなにすぐっ、きもちよくっ……ふぁぁぁーーっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1398.ogg"

「イッたばっかり、くりっ、きもちよしゅぎてっ……！　びんかんっ、でっ……も、もうっ、むりっ……こしのうごき、とめられ、ないっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1399.ogg"

「ら、らめらめっ、ま、またいくっ……また、いきそうっ……クリトリスでぇっ……おまんこイッちゃいそうぅぅっ……あぁぁーーーっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びくっ、びくびくっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今度は先刻よりも簡単にイッた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1400.ogg"

「あ、あぁぁぁ……い、いやぁ……しゅご、しゅごい……また、いくなんて……こんなにすぐ、またいくなんてぇ……ふぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだ小さな痙攣を繰り返しながら、だらしなく緩んだ顔つきで、キリエは呟く。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1401.ogg"

「きもちいい……くりとりす……せんせいのおちんちんで、おなにー、するの……しゅごく……きもちいい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

蕩けるような声が、私の耳をくすぐる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……どうして私は縛られているのだ……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今すぐキリエを抱きしめ、押し倒し、彼女の熱いぬかるみの中にペニスを突っ込んで、精を吐き出したい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それなのに……一体私は、何をやっているのだ！

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1402.ogg"

「あぁぁっ、あぁぁっ、ぁぅぅ……っ、ハァッ……あんっ、くっ……んくぅうっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒06,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体が、またヌメヌメと動き出す。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

快楽を求めて、洪水のように愛液を滴らせた女性器を、ぷっくりと固く膨らんだクリトリスを、擦りつけてくる……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……こちらが苦痛の声を上げるくらい、強く、乱暴に叩きつけてくる。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1403.ogg"

「あんっ、あんっ、あんっ……き、きもちいっ……！　あぁっっ、あぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロープにグイグイと割れ目を押し付け、痛いんじゃないかと心配になるくらい、盲滅法にぶつけてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは明らかに、もっと強い刺激を欲していた……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1404.ogg"

「あぁぁっっ！！　あぁぁっっ！！　また、いくっ、いぐぅぅうっぅぅぅうぅうっぅ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビクッ、ビクッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは短く浅い絶頂を、何度も味わっていた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1405.ogg"

「はぁ、はぁぁぁ……クリトリス、イッてもイッても……まだ、たりない……はぁ、はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1406.ogg"

「き、きもちいいのにぃ……きもちいいの、ずっとつづきすぎてぇ……はぁ、はぁ……もう、苦しい……はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恐らく、もっと深い、気絶するほどの快感を求めているのだ……しかしそれは、クリトリスのオーガズムでは得られないもののようだった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして私も……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……チンポを挿れたくなってきたんじゃないか……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の我慢も、限界に近づいていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やわやわとした肉ビラでの愛撫と、卑猥なキリエの姿によって、行き場のない昂ぶりだけをもたらされた私のペニス……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロープで縛られた跡がつくほどに……硬く大きく勃起しきって、苦しくてたまらなかった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1407.ogg"

「ふぁ……ち、ちんぽ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは己の所業を忘れたかのように、縛られた私の肉棒を見下ろした。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1408.ogg"

「（ゴクッ……）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

荒々しくいきり勃った私の男根を見て、彼女が生唾を飲み込むのが分かった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君も、挿れたいんじゃないのか、私のペニスを……私のペニスを膣奥まで挿れて、精液を出してもらいたんじゃないのか……？」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1409.ogg"

「あ、あぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の台詞を聞いて、禁断症状のように震えた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女も私を欲しがっている……それは間違いないのだが……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1410.ogg"

「で、でも……お仕置きが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはまだ私を虐め足りないらしく、戸惑うばかりだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……私のペニスなら、君を満足させられる……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はしつこく言い募った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このまま放っておかれるのは、耐え難い苦痛だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君だって、もっと気持ちよくなりたいんだろう！？　では私のチンポに奉仕させたらどうなんだ？　私は君の為に勃起している、君の為に射精する！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は君の為なら何だってできる、それを証明させてくれ、キリエ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1411.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは目を細め、少し考えている風だったが……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1412.ogg"

「いいわ……じゃあ、ちんぽで奉仕してもらうわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しばらくしてから、小さく頷いてくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……ありがとう！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は恥も外聞もなく、キリエにお礼を言う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の獣欲は、もう抑えようもなく荒れ狂っている。プライドなどうでもいいから、私はキリエに挿入したかった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1413.ogg"

「いいわ……ただし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1414.ogg"

「ロープで、縛ったままよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……！？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅっ、ぬちぬちぃっ！！

\

lsph 30,":c;image/僘乕儉僀儞\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉僀儞\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1415.ogg"

「あぁぁっ！！　あぁぁぁーーーっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

散々焦らされたせいか、熱い粘膜に包まれた瞬間、火傷するような錯覚を覚える。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……すごい……濡れて、絡みついてくる……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの性感も相当高まっていたのだろう……挿れた瞬間に、襞の一枚一枚がゾワゾワっとペニスに群がってくるようだった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1416.ogg"

「あ、あぁぁぁ……や、やっぱり、ちんぽいいっ……はぁっ、ちんぽ、ちんぽぉ……！　ちんぽ、ちんぽ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はうわ言のように繰り返し、膣肉をキュウッと引き締め、体内でペニスを抱きしめるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……気持ちいい……キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……私の肉棒の根元には、キリエが言い置いたように、ロープがきつく巻かれたままだった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これでは挿入は果たせても、射精ができない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

オマンコの快楽を知ってしまった今となっては、最前よりも状況は悪くなっているような気もした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、ううっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は今更ながらに身体をよじらせ、身体の戒めを何とか緩めようと試みるが……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1417.ogg"

「先生……ジタバタしたって無駄よ……貴方が挿入したがったのじゃないの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1418.ogg"

「私……かわいそうだから、挿入だけはやめてあげようと思っていたのに……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

た、確かに……縛られたままの挿入は、いたずらに苦痛を増すだけにすぎない……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1419.ogg"

「でも……先生の気持ちは、嬉しかったわ……たとえ自分が苦しんでも、私の快感を最優先してくれるというわけね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロープを解いてもらうつもりでいた私は、二の句が告げなかった……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1420.ogg"

「あぁんっ！　先生の言うとおり、やっぱりおちんちんは気持ちがいいわっ……！　クリトリスもいいけど、おちんちんは、やっぱりちがうっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の苦悩を知ってか知らずか……いかにも気持がよさそうに抽送を開始した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1421.ogg"

「先生のおちんぽは、カリ高で、エラが張って……ひぅっ！　さいこう、よっ……ふぁぁっ！　私のおまんこに、ぴったり……ぴったりだわっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1422.ogg"

「あぁぅっ……！　おしり、ぶつけると、まん奥に、ずぅんって……ちんぽひびいてっ……ふぁぁっ……！！　じーんってしびれてぇっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1423.ogg"

「おまんこが、とけちゃいそうっ……おまんこ、どろどろになって……ふあっぁっ！　あ、あたまがぼーっとして……とろけそうっ……あぁぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのおまんこがとろける前に、私のペニスが溶けて無くなってしまいそうだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どろどろと絶え間なく流れてくる愛液に、すっかり浸りきり、キリエのぬめりに包まれて……快感の中で消失してしまいそうだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、あぁっ……キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は耐え難い気持ちよさで、身体をゴロゴロと転がすように揺らす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

手を伸ばして、キリエのなめらかなおっぱいに触れたい……！　乳首をつまみたい……！　指でクリトリスを撫で回したい……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の髪に手を入れ、掻き回し、首筋に指を滑らせ、太腿や脇腹を愛撫したい……！！　キリエに触れたい……！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そのどれも叶うことはない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はただペニスの快感に悶えながら、みっともなく転がるしかなかった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1424.ogg"

「あんっ、先生、暴れないで……！　お、おちんちんが、はずれちゃうっ……あっぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1425.ogg"

「先生……あ、あばれても、むだよ……！　貴方は、芋虫なの……！　ダルマなのよ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ショックを受ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

が、今の私は……あの小説の帰還兵のごとく、ごろんと仰向けになっているだけの存在なのだ。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1426.ogg"

「ふぁっぁっ！！　そうよ、先生……！　貴方は今、欲深いちんぽそのものなのっ！　ちんぽだけの人間なのよっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1427.ogg"

「あぁっ……！！　だから、硬く、強く、勃起させるのっ……！　私を、深く貫けるようにっ……いっぱい、感じさせられるように……っ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ううっ……私は、ペニスだけ、なのか……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1428.ogg"

「そうよっ！　先生は、ちんぽだけっ！　だからもっともっと……ちんぽ硬くしてっ……私を、突き刺してっ……きもちよくしてぇっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は声を上げた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私にはもうペニスしか取り柄がないのだから（いや、初めからそうだったのか）、硬く、雄々しく、逞しく、そそり勃てるしかない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、キリエェェェ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

名前を呼び、何とか腰を反り返らせ、下から勃起肉を打ち付ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

悔しさと、何故か甘美な、虐げられる悦びが、あった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1429.ogg"

「やぁぁっ！！　きゅ、きゅうにっ、ちんぽすごすぎっ……！！　下から、ズンズンきてるぅっ！！　おまんこに、ずんずん……っ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1430.ogg"

「あぁぁっっ、うそうそっ……おまんこやぶれそっ……んぁぁっ！　子宮まれっ、ちんぽ突き抜けそうっ……ンァァァーーーーッッ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1431.ogg"

「あぁぁっっ！？　あぁぁぁぁーーーーーーーっっっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが不意に身体をピーンと突っ張らせたかと思うと、オマンコの肉という肉が、蠢き、肉棒に吸いつき、締め上げてくる。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1432.ogg"

「ひゃ、ひゃうぅうぅぅぅうっ……あ、あぁぁぁ……っっ……あぁぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唐突に、キリエが達したのだ。キリエは顔を真っ赤に染め、口から涎をこぼし、淫らがましく上体をだらりとさせていた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1433.ogg"

「あ、あぅぅぅぅ……き、きもひいい……きもひ……あうぅ……はぁぁぁ……しゅご、ちんぽ、しゅご……ひ……あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呂律の回らぬ舌、うつろな瞳……キリエは絶頂の深い奈落に囚われてしまっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……しっかりしろ……キリエ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は焦れったさで、身体中を掻きむしりたい気分だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは独りきりで、何度も達しているというのに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は置いてきぼりを食ったまま……性感だけはこれ異常ないほど高まっているのに、決して射精は赦されないまま……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今にも爆発しそうな肉棒を持て余したまま……どうすることもできないのだった！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、頼む、動いてくれ……！　もっと、セックスしてくれ……！　おまんこを、擦りつけてくれ……！　このままじゃ、気が狂いそうだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1434.ogg"

「あ……れも、れもぉ……くふっ……もう、うごけらい……はぁぁ……せんせいの、おちんぽ、しゅごしゅぎ、て……もぉ、むり、むりなのぉ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私に凭れ掛かるようにして、完全に停止してしまっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「情け無いことを言うな！　ほら、また腰を振って……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は必死の思いで下から突き上げる。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1435.ogg"

「あんっ、あんっ！　む、むりぃ……！　しょんなのぉっ……むりぃいっっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ズン！！　と深い一撃を与えると、キリエはゆっくりとだが、また動き始めた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1436.ogg"

「あぁぁっっ、び、びんかん、まんこぉっ……らめっ、もう、むりぃ……っ！！　まんこ、もう、こわれひゃうよぉ……っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だがすぐに動きを止めてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快感が強すぎて、耐えられないのだろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヒクッ、ヒクッ……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし膣肉は、此の上なお快楽を求めるように、淫靡なさざめきが止まることなく続いている……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1437.ogg"

「あぁぁぁぁ……きもひいい……きもひいいの、ずっと……おまんこ、ずっと、かんじしゅぎ……あぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だが、気持ちがいいんだろう、キリエ？」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1438.ogg"

「き、きもちいい……きもちいいのぉ……しゅごく、おまんこ、かんじちゃってるのぉ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、切れ切れに声を漏らす。今や私より苦しげで、焦点の定まらない瞳は、理性を失っていることを物語っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと、気持ちよくなりたいんだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1439.ogg"

「な、なりたいけろぉ……むりなのぉ……おまんこ、かんじしゅぎて、らめなのぉ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……ロープを解けば、精液を注いでやれるぞ」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1440.ogg"

「しぇ、しぇーえき……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ。いつも欲しがってるじゃないか……濃厚な精液を、ドバドバ中出ししてやるぞ」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1441.ogg"

「しぇ、しぇーえき、どばどば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはうっとりと頬を染めると、いそいそとロープを解き始める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、早く、早く解いてくれ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1442.ogg"

「はぅぅ……しぇーえき……精液っ！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

遂に封印は解かれた！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスは凛々しく屹立し、睾丸に溜まりきったものが、今にも溢れそうだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体は縛られたままだったが、私はその不自由な体勢でもどうにか腰を使い、下からキリエを責め立てた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1443.ogg"

「ふあっぁっ！！　おちんぽっ！！　きもちいいとこっ、あたってるっ……あぁぁぁ～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

突き刺し、肉の傘が襞をえぐるように引っかかるのを、ズルッと引き出す。また突き刺す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭の先端が肉の壁にぶつかる瞬間が、たまらなく気持ちがいい……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

抑えつけられていた精液が一気に流れだし、放出の機会を待ち構えているのを、ペニスの脈動ではっきりと感じた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1444.ogg"

「あぁぁぁーーーーーっっ！！　これしゅごっ！　ちんぽしゅごっ……かちかちおちんちん、しゅごしゅぎぃぃぃっ……！！　あぁぁぁんんっっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1445.ogg"

「すっごく深くまできてるぅっ……！　おちんちんで、おなかのなか、ぱんぱんになってるっ……ちんぽ、ずっぽり入っちゃってるぅぅうっっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1446.ogg"

「亀頭がっ……おまんこをっ、子宮をっ、おしあげてるっ……！　あぁっ、くるしいぐらいっ……きもちいいのっ……ふぁぁーーーっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！　だめだ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

焦らされていた時間があまりにも長すぎたせいで、私にはすぐに限界が訪れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イ、イクッ……イクぞ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1447.ogg"

「あぁぁぁぁぁっぁぁぁっぁぁっぁぁっぁぁっぁぁぁっあぁぁぁぁぁーーーーっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n10\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅっっ！！　びゅるるるるるるるるるっっ！！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呆れるぐらいの大量の精液が鈴口から噴き出し、キリエの子宮底へと押し寄せる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1448.ogg"

「あぁぁっっ、あぁぁぁあ～～～～～っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達は、射精の衝撃に耐えられず、互いに獣じみた声を上げるばかりだった。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1449.ogg"

「あぁぁ……やっぱり、しぇーえきぃ……いい、きもちいい……力が、戻ってくる……あぁ……ザーメンミルク、注がれて……満たされていく……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは膣を収縮させ、放出された精液を吸い上げながら、満足の息を吐いていた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_34.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_34.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1450.ogg"

「はぁ、はぁ、はぁ……エネルギー、充填されたわ……ふぅ……よかったわ、先生……よく頑張ったわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私を労うように微笑んで見せた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……キリエ、私はまだまだ頑張れるぞ……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1451.ogg"

「え？　なんですって？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずんっっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

完璧に不意打ちで……ペニスでの重く鋭い一撃を、キリエの女陰に撃ち込んだ。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1452.ogg"

「ひゃぅぅうぅぅうぅぅうっっっ……！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはビクビクーーッと身体を突っ張らせ、動きを止めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

またイッたのかもしれなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、膣内はずっと小刻みに震えっぱなしなので、もうイッているのか、いないのか、私には判断がつかなかった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……私はまだ奉仕できるぞ……！　君にもっと精液をくれてやる！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は腰を跳ね上げるように、飛び上がるようにして、彼女の肉を男根で抉っていった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉を、襞を、粘膜を、愛液を、腹の中まで抉るように、ペニスを穿ち込み、彼女の内部を蹂躙する。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1453.ogg"

「あぁっ、あんっ、ひぁっ、あっ、あくぅっ、あぁっ、んぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の悲鳴と、グチュグチュと蜜壺をかき混ぜる音が、うるさいぐらいに耳に響く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

湯気を上げるほど熱せられた愛液が、肉棒を出し入れする度に弾け、辺りに撒き散らされ、新たな愛液が吹き出した。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_34.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_34.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1454.ogg"

「あぁぁっっ、イキ、イキっぱなしっ……おまんこ、イッて、イッてるぅっ！！　おまんこ、ばかまんこになっちゃうっ、おまんこ、こわれてるぅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1455.ogg"

「あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛っっ……！！　らめっ、またっ！　またイグッ……またいぐぅうぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絶え間なく身体を引きつらせ、痙攣し、泣き声を上げ、白目を剥いて、小さな乳房を揺らし……何度も何度も、キリエは達する。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1456.ogg"

「あぁぁ゛っ、くるし、くるしいっ……おまんこ、イキすぎマンコっ、くるし、きもちよしゅぎてっ……まんこ、びくびくっ……あぁぁーーーーっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

口角から涎を飛ばしながら、髪を振り乱す。輪郭がぐにゃりと歪んだように見え、普段の涼し気なキリエの美貌とは、似ても似つかない。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1457.ogg"

「んあ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛っっ……！！　らめらめらめっ……ひぐぅっ……うっ、うぐっ……！！　あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛っっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しい、それでもキリエは美しい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だらしない、卑猥な姿でもキリエは美しい。気品がある。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ何度でもイけ、キリエ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1458.ogg"

「ひゃうぅぅぅぅうぅぅっっ……んぐぅうぅぅうぅうぅ～～～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは苦しそうに呻きながらも、いつしか自分からも腰を動かしていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の陰毛にクリトリスを擦りつけるように、ぐねぐねと前後に揺れ始める。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1459.ogg"

「うぐっ！　き、きもひっ……ひゃぅっ！！　く、くりもぉ、おまんこもぉ、どっちも、しゅごいっ……あ゛あ゛っ、ぁぁぁぁぁーーーっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さ、さすがだな、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまで深い絶頂を味わっても……まだ足りないというのか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの底なしの欲望の深さ……女の業とでも言うべき姿をまざまざと見せつけられ、私は訳もなく震えた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1460.ogg"

「しぇ、しぇんしぇいっ……！　ま、またいぐっ、またいぎしょうっ……あぁぁぁっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの抽送の速度が速くなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

大きな波を求めて、貪欲にバウンドするキリエに併せて、私も可能な限り、深く、力強く、突き続けた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1461.ogg"

「あぁぁぁっっ！！　イグッ、いぐいぐっ、いかしぇてぇっ、もう、いかしぇてぇぇっっ……！！　せんせいのおちんぽで、絶頂しゃしぇてぇぇっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1462.ogg"

「ちんぽミルク出してっ！！　ざーめんで溺れるぐらい、ぶちまけてっ！！　先生の子種汁で、お腹のなかぁ、じゅうまんしゃしぇてぇぇぇっっ！！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、しっかり受け止めろよ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はベッドのスプリングを利用して、下半身を宙へ飛ばすように跳ね上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクぞ……イクぞ！！」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1463.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁっぁぁぁぁぁっぁぁぁぁっぁぁぁーーーーーっっ……！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n10\_1\_38.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_38.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュビューーーーッッ！！　ドビュルルルルルルルルルッーーーーーーーッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は止まらない情熱の迸りを、キリエの子宮に全てぶちまけた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぶびゅるっびゅぐるるるっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一度では収まり切らない……。あれほど焦らされ、我慢させられ、行き場を失っていた精液が……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どくどくと、引きも切らず、大量に……キリエの中に溢れていく……。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1464.ogg"

「あぁ、あぁぁぁぁ……っ、でてるぅ、先生の雄汁……また、でてるぅ……どぷどぷ、お腹の中で、あふれてるぅっ……あぁぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1465.ogg"

「さっきより、量が多い……おまんこに、沁みて……はぁぁ……もう、おまんこ、焼けちゃいそう……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは苦しげに……それでも少し嬉しげに……私を見て囁くのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……凄まじかった、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、やっと精巣が空になり、満ち足りた笑顔をキリエに向けた。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1466.ogg"

「はぁぁ……そうね……見直したわ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも優しく笑い返してくれる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、それほどでも……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエの笑顔が嬉しくて、にへら、と笑う。恐らく阿呆のように見えたことだろう。

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_40.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_40.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1467.ogg"

「では……私はシャワーを浴びてこようかしら」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは汗で濡れた髪をはらりと後ろに払う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え、ちょ、ちょっと待ちたまえ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロープを忘れて行ってしまいそうだったので、慌てて彼女を呼び止めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1468.ogg"

「何」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何ではない……このロープを解いてくれ、そろそろ痛くなってきた」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_41.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_41.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1469.ogg"

「何を言っているのよ。解かないって言ったでしょう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1470.ogg"

「先生……私、先生のその、馬鹿みたいにぽかんとした顔、大好きなの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n10\_1\_40.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n10\_1\_40.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1471.ogg"

「じゃあね」

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私に微笑みかけると、軽やかに寝台から飛び降りた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ま、待て！　……シャワーを浴びたら戻ってくるのか！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1472.ogg"

「さあ、どうかしら……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おい！　待ってくれ、キリエ！！」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエーーーー……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……結局、私がゾンビ執事に助けられ、キリエのお仕置きから解放されたのは、深夜を過ぎてからであった……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

sw

\*L\_kk\_main\_13b

sw

;\*L\_Main

sw

sw

lsph 30,":c;image/1\_20奨梉從偗.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_20奨梉從偗.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僼僋儘僂.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やあ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事に通され、私は足取りも軽く、キリエの寝室へとまっすぐに向かったのだった。

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1473.ogg"

「先生、いらっしゃい」

\

bgm "music/nbgm02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは昨日と同じ肉感的な衣装で私を迎えてくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

我知らず、顔が微笑む。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚僕僩栚02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1474.ogg"

「何を笑っているのよ、気持が悪いわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは相変わらずの毒舌だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……そういえば、君はロシアンティーが好きだったのではなかったかね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1475.ogg"

「ええ……好きよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は少々わざとらしくも本題に入ったのだが、キリエは特に不審がることもなく返事をしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今日は、君にプレゼントを持ってきたよ。本場フランスの高級ジャム、フェルベールのブルーベリージャムだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1476.ogg"

「……ふーん、まぁまぁ美味しそうね……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

気のない振りをしているが、口元が引き攣っているのを見ると、充分惹かれているらしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今日は私がロシアンティーを淹れてあげよう。君はくつろいでいたまえ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1477.ogg"

「貴方、ロシアンティーがどういうものだか分かっているの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まぁ、任せておきたまえ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はいそいそと準備を始めるのだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1478.ogg"

「へえ……分かっているじゃない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が献上したロシアンティーを見て、キリエは嬉しそうに目を細める。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1479.ogg"

「日本人は、ジャムを紅茶に入れて飲むのが、ロシアンティーだと勘違いしている人が多いのだけれど……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が出したロシアンティーは、紅茶のカップとジャムの皿は別々に用意してある。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ロシアではジャムは付け合わせのようにして、そのままスプーンで舐めるのが一般的だな。勿論紅茶の中に入れるロシア人も、中にはいるとは思うが」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「サモワールという湯沸かし器でお湯を沸かし、濃い目の紅茶をティーカップに半分くらい注ぎ、好みの濃さになるようお湯を足していく……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そして付け合せにジャムを舐める……それが本場のロシアンティーだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1480.ogg"

「ふふふ……その通り」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは静かにカップに口をつける。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1481.ogg"

「うん……紅茶もいい香り……これは、テオドーのものかしら？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が用意した高級茶葉を、香りだけで言い当てるキリエ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ご明察だ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1482.ogg"

「ジャムも美味しいし……とても気に入ったわ……こく、こく……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

よほど紅茶が好きなのだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ジャムを舐めながら、お上品に紅茶を啜るキリエの姿は、とてもヴァンパイアとは思えない……ごく普通の可愛らしい女の子でしかなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう……言うなれば、隙だらけだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1483.ogg"

「うふふ……貴方もたまには、気のきいたことをするじゃない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の喜ぶ顔を見ると、私も嬉しいのだよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徠傟旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1484.ogg"

「ふん……まぁ、下僕としては合格、ね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は手首のロレックスを確認する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そろそろ効いてくる時間だが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1485.ogg"

「こくっ、こくっ、こくっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1486.ogg"

「……」

\

csp2 4

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒04.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バタンッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唐突に、キリエは長椅子の上に倒れた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

倒れた拍子に落としたカップは絨毯の上に転がり、中身が全てこぼれていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ？　大丈夫か、キリエ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエのそばに屈み込み、彼女の反応を窺った。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1487.ogg"

「すー、すー……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、ぐっすりと眠っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「よし……」

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_18僉儍儞僪儖.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_18僉儍儞僪儖.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

これでキリエは確保した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は素早く次の作業に移った。

\

\*L\_Replay13\_03b

mov %Replay13\_03b, 1

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1488.ogg"

「ハッ……」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ようやくキリエは目覚めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

薬の量が多すぎたかと心配したが……やはり吸血鬼、大丈夫だったようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「眠り姫のお目覚めだな」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1489.ogg"

「！？」

\

bgm "music/nbgm10.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を見、次いで、自分の置かれた状況を確認する。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1490.ogg"

「何よ、これは！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

也难怪她会吃惊。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目が覚めたら、部屋の隅の鳥籠のようなエレベーターに鎖で繋がれてしまっていたら、誰だって驚く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかも、片足を上げ、恥ずかしい所が丸見えの格好で……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1491.ogg"

「ちょっと、外しなさい！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自分の取らされている体勢に気づき、顔を赤らめて怒り出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「薬がよく効いたようだね」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1492.ogg"

「く、薬って、何よ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「紅茶に一服盛らせてもらったのだよ、睡眠薬をね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1493.ogg"

「な、何ですって……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはショックを受けたように絶句する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんなキリエを見ると、私も胸が痛む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

卑劣な手段を使ってキリエを自由にするなど……我ながら非道だと思う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……キリエがヴァンパイアである以上、力の差が歴然すぎる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に仕返しをするには……非力な人間の私としては、このような手段に訴えるしかなかった。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1494.ogg"

「うぅ……卑怯者……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、悔しそうに私を睨みつける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそんなキリエを、ゆっくりと視姦した。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1495.ogg"

「……いやらしい目で見ないでよ、気持ちが悪い……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を睨みつけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……幾ら強がってみても、どうにもなるまい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は余裕の眼差しで見返した。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1496.ogg"

「私に何をするつもり……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは後退りするように、身体を揺らす。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……私の愛車、ジャガーＸＪの復讐……と言えば分かるかね？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1497.ogg"

「！　あ、あれは私のせいじゃないわよ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだね……確かに君のせいだけとも言い切れない。私にも責任があるだろう……だが」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だからと言ってどうすればいい？　私のこの傷ついた気持ちは？　どう折り合いをつければいいのだ？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1498.ogg"

「そ、そんなの、分からない……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君を少し苛めれば、気が晴れるかと思ったんだ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

薄く笑う私を、キリエは戸惑いの顔で見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「怖いのかね？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1499.ogg"

「私が貴方など、怖がるはずがないでしょう、先生……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気丈な態度のキリエに水をさすように……私は背後から、前もって用意していたバラ鞭を取り出した。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1500.ogg"

「！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おや？　顔色が変わったようだな」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1501.ogg"

「ま、まさか……それで私をぶつ、とか言うんじゃないでしょうね……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうすると思うのだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1502.ogg"

「……さあ、貴方のような変態の考える事など、分かりたくも……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ！！

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1503.ogg"

「ひゃぅぅうっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに無駄口を叩かせないよう、素早く鞭を振り下ろした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

バラ鞭はキリエの白いお尻に命中し、ぱっと赤い花を咲かせた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1504.ogg"

「あ、あぁぁ……な、何をするのよ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ショックを受けたのは間違い無いと思われるが、キリエはキッと上を向き、私を怒鳴りつけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何を……お仕置きかな……」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1505.ogg"

「お、お仕置き、ですってぇ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その言葉が、キリエの怒りを煽った。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目は燃えるルビーのような光を放ち、牙をむき出し、今にも飛びかからんと鎖をガチャガチャと揺らす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、いくら怒ろうと、私に飛びかかることはできなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1506.ogg"

「うーっ、うーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

手負いの獣のように、凶暴な息を吐いているキリエ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふむ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の牙の餌食にならないように、少し離れると……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

再び、彼女のお尻に鞭を振り下ろした。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1507.ogg"

「あっ……あぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

魅惑的に膨らんだ、白いふたつの山……そこにピンク色の痛々しい跡が散る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

妖精のような容姿のキリエだからこそ、この被虐美が生き生きと冴えるのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「美しい……まさに芸術だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はため息を漏らしつつ、呟いた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しい少女のシミ一つない肌に、鞭の傷跡をつける快感……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは私という存在の刻印を、キリエの身体に刻み込むような、ときめきがあった……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1508.ogg"

「な、何を言っているのよ！？　私を痛い目に合わせて、芸術ですって？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「鞭打ちはあのサド侯爵も好んだと言うではないか。著作の中には、鞭打たれながらでないと、気をやれないという人物が数多く出てくる」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1509.ogg"

「貴様！　そんな変態と、私を一緒にするのか！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「サド侯爵は天才だぞ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1510.ogg"

「だが変態だろうが！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふふん……私は君も変態かと思ったのだがね……」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1511.ogg"

「何だと……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今それを証明してやろう……」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n11\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ、バシッ！！

\

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は立て続けに鞭を振るった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1512.ogg"

「あぁっっ、んくぅぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは目を閉じて、痛みに耐えている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……このバラ鞭はＳＭプレイ用の鞭だ。大きな音は出るが、それは雰囲気作りのためで、然程痛みを与えないようにできている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、キリエには……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1513.ogg"

「うっ、うぅっ……何ということ……この私が、誇り高い私が……くっ！　人間なんかに、鞭打たれるなんて……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛みよりもむしろ、私という下等生物に鞭打ちという屈辱を受けていることが、ショックなのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうだね、キリエ……鞭打たれる気分は……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、噛まれないように慎重に後ろに回り、キリエに声をかけた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1514.ogg"

「最低に決まっているだろう！！　貴様、後で覚えていろよ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはまたうるさく鎖を軋ませ、宙に浮いた状態でジタバタと暴れ始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうかな？　君は結構、愉しんでいるかと思ったのだが……」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1515.ogg"

「そんなわけが……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

最期まで言わせず、私は鞭の柄をキリエの股間にグッと押し付けた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1516.ogg"

「はぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「クク……今、喘ぎ声が聞こえたぞ、キリエ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒02,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

クリトリスを狙って、グリグリと抑え付ける。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_58.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_58.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1517.ogg"

「い、いやっ……やめろっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふむ……やめて欲しいのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はあっさりと鞭を引っ込めた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1518.ogg"

「え……？　もう、やめるのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

拍子抜けしたように、キリエは言う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「がっかりしたのかね？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1519.ogg"

「馬鹿者！　そんなわけが……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あるだろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はからかうように笑って、鞭の柄を見せた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは……キリエの股間が触れた、柄の部分は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女自身がつけた、興奮の証……愛液で、てらてらと光り輝いていた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1520.ogg"

「え……？　い、いや、嘘……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは泣きそうに顔を歪ませ、慄いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「嘘ではないのだよ、可愛いキリエ……れろっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は柄に纏わり付く愛液を、舌で味わった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは紛れもなく、少し塩辛い彼女自身の味だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1521.ogg"

「い、いやっ……やめてっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは顔を背ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥辱でぶるぶると震えていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は、鞭打たれて感じていたんだ」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1522.ogg"

「違う……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや違わない。君は、常日頃馬鹿にしている私に、見下している私に、鞭打たれるのが快感だったのだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1523.ogg"

「ち、ちが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そういう変態なのだ、君は！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1524.ogg"

「うっ……うぅぅうっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に責め苛まれ、キリエの目から宝石のような涙がポロポロと落ちた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……泣くのかね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女をいたぶることが愉しくてたまらなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1525.ogg"

「な、泣いてなどいないっ……うぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……では絶対に泣くなよ、キリエ」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ、バシッ！！

\

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1526.ogg"

「あぁぁっ、あぁぁーーーーっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は力を入れすぎないように加減しながら、彼女のお尻に鞭を落とし続ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見る間にお尻は赤く腫れ上がり、幾本もの筋が浮かび上がってきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1527.ogg"

「あぁっ、こんなのって……！　私が、主人である私がぁっ……下僕に、鞭、打たれてっ……ふぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1528.ogg"

「く、くやしいっ……けど……っ、ふぁっ、あぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「悔しいけど、感じてしまうんだな」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1529.ogg"

「そ、そんなっ……私、そんな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1530.ogg"

「へ、へんたいじゃ……淫らな、女じゃないっ……ちがう、ちがうのぉぉっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

悲しげに涙をこぼし、首を横に振るキリエ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、君のおまんこはこんなに……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身を屈めて、キリエの女性器を覗き見ると……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

溢れる涙と同じように、花びらの間からねっとりとした液体が、ぽた、ぽた、と落ちているのだった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おぉ……しとどに濡れているな。落ちた愛液が、高級なカーペットにシミを作っているぞ」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1531.ogg"

「くふっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「鞭でこんなに感じるとは……君はいやらしい女だ……性的倒錯者だ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1532.ogg"

「うううっ……ち、ちがうぅっ……感じたんじゃ、感じたんじゃぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、この愛液は何と言い訳するんだ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は身体をずらし、彼女の性器に口をつけると、勢いよく漏れでてくるジュースを吸い上げた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1533.ogg"

「あぁぁっ！？　あぁぁぁっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒02,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ぢゅううっ！　ちゅくっ、あぁ、すごい、吸っても吸っても、どんどん溢れてくるぞ……このいやらしいおまんこめ！　ちゅーっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は甘露のように、次から次へと口に流れ込んでくる愛液を啜り、音を立てて飲んだ。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1534.ogg"

「あぁぁっ……あぁぁぁぁーーーーっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、舌での直接的な刺激に、全身を踊るようにビク、ビク、と震わせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はしたないクリトリスだ！　こんなに膨れて……！　舐めて欲しいのか！　私に！　舌で嬲って、可愛がって欲しいのだろう！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣口に舌を挿れて粘膜をほじくった後、攻撃の矛先をクリトリスに向けると、キリエの泣き声は切羽詰まった響きを伴い始めた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1535.ogg"

「い、いやいやいやいやっ……！！　く、くりとりしゅは、らめぇぇぇぇーーー……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒02,1.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「れろれろれろれろっ！　じゅーーーっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1536.ogg"

「あぁぁっ……あぁァァァァァァァーーーーーッッ！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビク、ビクビクンッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

舌の動きを速めてすぐ、キリエは身体を突っ張らせ、烈しい痙攣の発作を起こした。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1537.ogg"

「あ、あぁぁぁぁぁ……あぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今は全身から力が抜け、ぐったりと鎖にぶら下がっているような状態だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鎖で固定されていなければ、この場に昏倒してしまっていただろう……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イッたのだな、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は立ち上がり、打ちのめされたキリエの顔を覗き込んだ。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1538.ogg"

「あ、あぅぅぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは口の端から涎を流し、虚ろな目で頷いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「恥ずかしいな……鞭でお尻を打たれて感じ、オマンコを吸われてイクとはな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1539.ogg"

「う、うぅぅぅ……っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こんなに淫らで堕落した君が、私の主人だなどと言えるのか？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1540.ogg"

「く、ぅぅぅっっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「なんだね？　何か言いたいことでも……？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1541.ogg"

「……うぅっ……せ、先生の……ばか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女がようやく口にした憎まれ口は、とても幼稚な可愛らしいものだった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふむ……まだ逆らう力があるのか」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシッ、バシッ！！　バシッ！！

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

lsph 30,":c;image/n11\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1542.ogg"

「あっっ！！　あぅぅっ！！　あふぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエに歯向かう元気がなくなるまで、打ち据えた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1543.ogg"

「い、いたっ……いたいっ……あぁぁっ、あぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1544.ogg"

「いた、いたいのにっ……何でっ……？　わたし、なんでっ……んぐぅぅっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1545.ogg"

「う、うたれると……おしり、むずむずしてぇっ……！　あぁぁっ……お、おまんこも、むずむず、してぇっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1546.ogg"

「お、おかしいっ……へんなのぉっ……おまんこがっ……へんっ……！　ぬ、ぬるぬるっ……おまんこぬるぬる、してきちゃうぅぅっ、あぁぁーーっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「それは君が、変態だからだろう！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1547.ogg"

「んぁぁっ！　せ、先生みたいなっ……下僕にぃっ……お、お尻、叩かれて、おしり、ジンジンしてぇっ……！　んくぅぅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1548.ogg"

「か、感じちゃうなんてぇっ……！　お、おまんこまで、じーんって、かんじちゃうなんてぇっ……！　ふぁぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が打つたびに、キリエのお尻は杏仁豆腐のようにぷるぷると揺れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見るからに美味そうな……ふるいつきたくなるような、形の良い尻……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これ以上打つと血が出てしまうかもしれないという、ギリギリのところで、私は打つのをやめた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1549.ogg"

「あ、あぁぁぁ……おしりぃ……おしり、まだむずむずしてるぅぅ……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは先程の態度とは打って変わって、私の方に、その可憐なお尻を突き出すようにしていた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1550.ogg"

「あ、あぁぁ……こんなの、変……おしり、ぶたれるのが、何だか……はぁ、はぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちがいいのか？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1551.ogg"

「う、うぅうっっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

雾枝一边低下她通红到耳根的脸，屁股却还是往这边顶着。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「仕方がない変態お姫様だな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは耳まで真っ赤に染めた顔を伏せるようにしながらも、お尻は突き出したままだった。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1552.ogg"

「せ、先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、言葉では言わないが、目で何かを訴えてきている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

結局私は、キリエの望みを叶えてやることにした。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝05曏懪偨傟.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

バシーーーーッ！！！

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1553.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁーーーっっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が鞭を振り下ろした瞬間、予期せぬことが起きた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが断末魔のような悲鳴を上げ、体を弓なりに仰け反らせ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、イッたのか……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1554.ogg"

「あ、あぁぁっっ……あぁぁぁぁ……っっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は急いで屈みこみ、キリエの脚の間を覗く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのおまんこは、ドバッと愛液を撒き散らし、濃密な女の匂いを充満させ……膣口はと言えば、ぱくぱくと卑猥な伸縮を繰り返していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まさか、鞭で打たれてイクとは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

さすがの私も、思ってもみなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鞭を使ったのは、少しキリエを痛い目に合わせて、私に対する傲岸な態度を、改めてもらいたかっただけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それなのに……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_57.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_57.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1555.ogg"

「あ、あぁぁぅぅぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鞭一本で、ここまでキリエが乱れてしまうとは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少々悔しいような気もする、複雑な気分だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……では、そろそろ本番と行こうか、キリエ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鞭打ちの痴態を魅せつけられ、私のペニスは充血し、グロテスクな血管を浮き立たせ、完全なる臨戦態勢に入っていた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_55.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_55.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1556.ogg"

「ん、んぁぁぁ……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの目が、欲情渦巻く目で肉棒を凝視したのを、私は見逃さなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「欲しくてたまらないのだね」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_56.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_56.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1557.ogg"

「……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまで性欲に塗れていながらも、言うのが嫌なのか、キリエはプイッと顔を背けた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ！　言うんだ、私のチンポが欲しいと……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝06杍傪挘傞.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n11\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

パシッ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の赤く腫れた尻を平手で叩いた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1558.ogg"

「きゃふぅぅうぅぅぅっっ……！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これ以上鞭で叩くのはかわいそうだと思ったからだが、平手でも同等の効果が得られた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1559.ogg"

「あぁぁぁっ……はぁ、はぁ、はぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは甘い息を吐き、お尻を生々しく振って……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1560.ogg"

「ほ、ほしいっ……先生の、おちんぽがっ……欲しくてたまらないですぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

おねだりを始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1561.ogg"

「おねがいっ……せんせい、おねがいっ……先生のチンポ欲しいッ……いますぐっ……おまんこにちょうらいぃぃっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの赤裸々な……あまりにも赤裸々な姿を見て、私は……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1562.ogg"

「もうっ……！　焦らさないれぇっ……おまんこに挿れてよぉっ……先生の巨根チンポ、おまんこにつっこんれよぉっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

はち切れそうに張り詰めていた肉棒が、もう一回り大きくなったように感じ……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

一刻も待っていられず、慌ただしくキリエの膣内に挿入した。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n11\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

にゅちにゅちにゅちにゅちっ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1563.ogg"

「あぁぁっ！！　あぁぁぁーーーーーっっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

洪水のようにびしょ濡れだったキリエの股間から、ほんの少し動くだけで、ぐちょ、ぐちょ、と、恥ずかしい音が響いてくる。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1564.ogg"

「あぁぁ……おちんぽ、あぁぁ……しゅごい、きもち、いい……あぁぁぁ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鞭で打っただけで、ここまで感じてしまったのか、と、私は驚きを隠せなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに気持ちがいいのか、キリエ？」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1565.ogg"

「きもちいいっ……！！　おちんぽでぇ、おまんこじゅぼじゅぼぉっ……きもちよしゅぎぃっ……あぁぁっ、あぁぁっっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1566.ogg"

「ビンビンちんぽでぇっ、キリエのヌレヌレまんこ、もっとほじくってぇっ！！　ぶっといちんぽで、まんこひろげてっ、子宮まで押し込んでぇっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鎖で吊るされた彼女の身体は、不安定に揺れてしまう。私は彼女が揺り戻されるのを見計らって、腰を烈しく打ち付ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はブランコのように不安定な体勢での交合を、逆に愉しむような気持ちで、肉棒をゆっくりと、根元から先端まで抜き差しする。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1567.ogg"

「あぁぁっ……先生のデカチンポッ……！　上から下までぇっ、根元から、亀頭の先っちょまで、オマンコで感じるぅっ……！！　ふぁぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1568.ogg"

「先生の、ちんぽの形、わかるよぉっ……！　おまんこで、わかるっ！　先生の硬さも、太さもぉっ……ぜんぶっ……！　あぁぁーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの肉襞は、私のペニスの形を確かめるように、ねとねとと絡みつき、締めつけてくるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1569.ogg"

「あぁんっ！　これ好きぃっ！　ちんぽしゅきぃっ！　ちんぽ、きもちいいっ！　先生っ、もっとしてぇっ！　おちんぽ、もっとしてぇっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

欲情に乱れきった表情で、甘えるように私を見つめるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

素直な彼女が実に可愛らしく、私の胸を高鳴らせた……のだが。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君ももっと、このお尻を振って、私を気持ちよくしたまえ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠墸傝06杍傪挘傞.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

パシィンッ！

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1570.ogg"

「ヒィィぃぃんんっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今日はキリエをいじめ抜くという目的を思い出した私は、わざと素っ気無く、手の平でキリエのお尻を叩いた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1571.ogg"

「あ、あぁぁっ！　お、お尻、また、ぶたれたぁっ……あぁっ！！　あんんっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

お尻をぶたれたことでキリエの感度が上がり、膣内がギュウッと生き物のようにうねり出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今までただ揺れに任せていたヒップも、もじもじとくねり始め、妖しい蠢きを見せていた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1572.ogg"

「や、やぁんんぅっ！　お、おしり、ぶたれると、なんでっ、感じちゃうのぉっ……はぁっ！　お、おまんこがっ、勝手に、ぎゅってなっちゃうぅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1573.ogg"

「わ、わたしっ、イこうとしてるっ……！？　おしりぶたれてっ、は、はずかしめられてっ、い、いこうと、してるっ……んぁぁっ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もうイクのか、キリエ……早すぎるぞ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は高まってしまったキリエをからかうように、乳房を鷲掴み、乳首をきゅっと摘んだ。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1574.ogg"

「んはぁっ！！　あぁっ、ち、ちくび、までぇっ……らめっ！！　しょんなの、かんじしゅぎっ！！　あぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ダメと言われてもやめる訳もなく、私は乳首をすり潰すように捏ね、反対側の乳首を唇で吸った。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1575.ogg"

「やっっっ……やぁぁぁぁあぁぁぁぁーーーっっ！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビクンビクン！！　と、キリエの身体が跳ね上がり、快感に耐えかねてか、腕を突っ張って私の身体を押しのけようとする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は逃れようとする彼女を逆に引き寄せ、空いている手で、充血しきった乳首を思い切りひねり上げた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1576.ogg"

「あぁぁぁーっ！！　おっぱいらめぇっ、ちくび、しゅごいのぉっ、ビリビリきちゃうのぉっ！　おまんこまで響いてるのぉっ……あぁっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1577.ogg"

「ら、らめぇぇぇっ！　い、いぐっ、いっちゃうぅっ！！　しょんなにされたら、い、いぐぅうぅぅぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私もイクぞ、キリエ……！　しっかり受け止めろよ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私にも、どうにもならない射精衝動が兆していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絶頂に向けて少々乱暴なピストンを送り込むと、キリエの瑞々しい肉体は、もっと肉棒を感じようと、激しく暴れ、くねり出した。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1578.ogg"

「ふぁぁっ！！　先生のしぇーえきっ、おちんぽ汁ぅぅっ！　おまんこでうけとめるぅぅっ！　おまんこに、いっぱい出してぇぇぇぇーーっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n11\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュルルルルッッ！！　ビュクビュクビュクビュクーーーッッ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は獣のように咆哮しながら、煮えたぎるような精液をキリエのおまんこに浴びせかけた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1579.ogg"

「あぁぁぁーーーっっっ……あ、あついぃっ、おちんぽ汁っ……先生の子種汁ぅぅっ……！！　あぁぁーーーーっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1580.ogg"

「しぇ、しぇーえき、しゃせい、されながら、オマンコイッたぁ……ち、ちくび、つままれて、イッちゃったよぉぉ……っっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドピュ、ドピュッ、と爆ぜる白濁液は、断続的に放出を続け、膣内から溢れてドロリと垂れ落ちてくる。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1581.ogg"

「あぁぁーーー……おちんぽ汁ぅ……垂れちゃうよぉ……もったいないぃ……はぁぁ、はぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

太腿を伝って流れる精液を、惜しそうに眺めるキリエが卑猥で愛しかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……遠慮するなよ、もっと精液を注いでやるからな！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

lsph 30,":c;image/n11\_1\_35.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_35.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゃんぐちゃんぐちゃんっっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はますます奮い立ち、最初から怒涛の勢いで腰を振り始めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鎖に囚われたキリエ、お尻を叩かれていやらしく悶えるキリエ、私のペニスで狂おしく乱れるキリエ、精液を欲しがる浅ましいキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どのキリエも、私にとっては可愛らしく、限りなく性欲をそそられるのだ……。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_40.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_40.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1582.ogg"

「あぁぁぁっ！！　んくぅぅぅうぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の猛攻を受けて、為す術もなくよがり狂い、泣き狂った。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1583.ogg"

「あぁぁっ、い、いま、今らめぇっ……！！　オ、オマンコっ、イッたばっかりっ……んぁぁっっ、敏感まんこっ、らめぇぇぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1584.ogg"

「あぅぅっ、ビクビクマンコッ、やすませ、てぇぇっっ……おまんこ、イキしゅぎて、つらい、のぉぉっ……んぁぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

嫌がる彼女とは裏腹に、イキまくる女陰は連続的に痙攣し、ペニスに襞を絡ませ、溢れた愛液でヌルヌルと扱いてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「す、すごいマンコだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の蜜壺の異常なまでの具合の良さに恍惚となり、頭の中が空洞になる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これほどの女性器を持つ少女が、他にもいるのだろうか？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……キリエだけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の運命の恋人……キリエだけなのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女だけがこんなにも私を気持ちよくし、私の心をかき乱すのだ……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は感極まり、激情のままに腰を揺らし、彼女を犯していくのだった。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_33.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_33.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1585.ogg"

「あぁぁっ！！　あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛っっ！！　んぁぁぁぁーーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは何度となく身体を突っ張らせ、引き攣らせ、大声を上げて、瘧のようにブルブルと震える。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1586.ogg"

「あ゛あ゛あ゛っ！！　んぐぅぅっ！！　ちんぽしゅごっ、ちんぽぉっ……んぁぁぁぁっ！！　あぁぁぁっ……あぁぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絶頂しすぎたせいなのか……遂にキリエは、ぐったりとし、悲鳴をあげるしかできなくなってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1587.ogg"

「しゅ、しゅごいよぉ、しゅごしゅぎらよぉ……っ、ちんぽっ、子宮にずんずん……っ、もぉ、イキしゅぎて、くるしいぃ……はひぃっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_41.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_41.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1588.ogg"

「も、もうっ、ゆるしてぇっ……せんせいっ、もぉっ……くるし……あぁぁっ！　おまんこ、ばかになるぅっ！　あたまが、へんになっちゃぅうぅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、許さないよキリエ……私が射精するまで、絶対に許すものか……！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1589.ogg"

「あぁぁぁんんっ！！　あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛ーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私から逃れようともがくキリエをねじ伏せ、無理やり肉棒を押し込む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の支配欲は今や頂点に達していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

泣いて許しを請う高慢なキリエを、自分の思うままにするという歪んだ欲望……それはいよいよ、叶えられようとしていた。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_37.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_37.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1590.ogg"

「んぐぅぅっ！　ぼ、勃起ちんぽっ……つよすぎるぅっ！　おまんこやぶれてっ、あたままで、つきぬけそうっ！！　ふぁぁぁぁぁーーーーっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の苦しみは充分伝わってきたが、私は決して容赦せず……いや、一層過酷に、肉襞を引き裂かんばかりに貫いていく。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_41.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_41.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1591.ogg"

「あぁぁっっ！！　あ゛あ゛あ゛あ゛っ！！　んぁぁぁっっ！！　あぁぁーーっ！！　あぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの喘ぎ声が耳に心地いい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女をとことんまで堕としてやりたい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あのキリエを苛めている、その実感が、私の射精欲を掻き立てるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ、またイクぞ、キリエ……！　私の精液を、おまんこで一滴残らず飲み込むんだ！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_36.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_36.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1592.ogg"

「あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛っっ……あぁぁぁぁぁーーーーーっっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n11\_1\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュグルルルッッ！！　ビュブブブブブーーーッッ！！　ビュルルッ！！　ビュルルルルルルーーッッ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁ……っっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_44.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_44.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1593.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁっぁぁぁぁぁぁっぁぁぁっぁぁぁっぁぁぁぁーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

果てしなく続く……かと思うくらいの、長い射精だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気を失うほどの絶頂感と幸福感に包まれながら……私は精巣が空になるまで、濁った欲望のエキスを出し尽くした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1594.ogg"

「あ、あぁぁ……どくどく、でてる……精液、いっぱい……おまんこから、どんどんあふれるくらい、むりやり、出されたぁ……ふぁぁ……！」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1595.ogg"

「あぁぁ……い、いや、いやぁ……お、おまんこが、おかし……ひぁぁぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1596.ogg"

「あぁぁぁぁーーーーっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは急に苦しげに、上体を折り曲げたかと思うと……。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭偍偟偭偙懍02.ogg"

lsph 30,":c;image/n11\_1\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

シャアアアアアアアアアアアッッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

股間から、湯気の立つレモンイエローの液体を、爆発的に迸らせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……キリエ、感じすぎておもらしか」

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1597.ogg"

「あ、あ、あ、あ、あ……いや、いやぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が笑うと、キリエは羞恥心で赤面し、泣き崩れてしまった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、尿は止まらない。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭偍偟偭偙懍02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

シャアアアアアアアアアアアッッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥ずかしい音を立てて、香しい匂いを立ち昇らせ、一向に止む気配がなかった。

\

lsph 30,":c;image/n11\_1\_51.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n11\_1\_51.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1598.ogg"

「う、うそ、こんなの……いやぁぁぁ……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

鎖に拘束された哀れな姿のまま、キリエは自分の尿から目を逸らすのだった……。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

散々、思う様キリエを弄んだ後……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……だ、大丈夫か、キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1599.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その後が恐怖だった……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やり過ぎてしまったか……と後悔する気持ちと、キリエの仕返しを恐れる気持ちが混在し、私はこのまま逃げ出したくなってくる……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、本当に逃げ出すわけにもいかず、私はエレベーターに繋がれたままのキリエの拘束を外した。

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1600.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、その……少々行き過ぎた行為だったかな……はは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1601.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの沈黙が重く、私にのしかかってくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1602.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「済まなかった……キリエ、許してくれるか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1603.ogg"

「……ええ……いいのよ、もう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

予期せぬキリエの優しい言葉に虚を突かれ、私はいささか狼狽えてしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……ほ、本当に許してくれるのか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1604.ogg"

「……私も、気持ちが良かったし……ああいうのも、思ったより、悪くはなかったわ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは平常通りの無表情で……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

確かに行為の最中はキリエも悦んでいたな、と、私はほっと一息ついたのだった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そ、そうか……よかった！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は心の重荷が消え、晴々とした気分でキリエに笑いかける。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1605.ogg"

「でもね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは冷静に、静かな声で続けた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1606.ogg"

「薬を飲ませて、私を自由にするだなんて……そのやり方は、いくら何でも悪虐非道だったとは思わない？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……そうだな……それは……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1607.ogg"

「そういう卑怯な真似は、私、許せないの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1608.ogg"

「がぶっ！！！」

\

lsph 30,":c;image/0\_red.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_red.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

状況を判断するよりも前に……私は噛み付かれていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅぅっ……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1609.ogg"

「ちゅうううううううっ！！　ちゅじゅーーーーーーぅっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

例によって首に噛み付いてきたキリエは、怒りに任せて見る見るうちに私の血を抜いていく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ……ぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快楽の代償としては……高くついたのだろうか……？

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1610.ogg"

「ちゅるるるるるるっ！！　ちゅぴっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ガクッ……）」

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_16錕錘.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_16錕錘.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

考えているうちに眼前が暗くなり……私は急激な血液の減少に耐えられず、気絶したのだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

揺れている……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぼんやりとした意識の中で、幼児期に父に抱えられ、寝台まで運ばれた記憶が蘇る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

未だに頭が朦朧とし、目を開けられずにいたが、背中と膝下に腕を入れられ、持ちあげられているのだということは、何となく理解できていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう……まるでかつての父のような、がっしりとした逞しい腕に横抱きにされ、どこかへ運ばれているような……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

逞しい腕に……！？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0008.ogg"

「あ゛～……」

\

bgm "music/nbgm04.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、うわぁぁぁぁぁぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ハッと覚醒した私の目に映ったのは……気絶した私をお姫様抱っこしている、ゾンビ執事の姿だった！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ど、ど、ど、どうして！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どうしてと問いつつも、私の脳裏にはひとつの回答が浮かんでいた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もしかして……いや、確実に、これまで私が気絶した際に、どこかへ運んでいたのは……ソンビ執事だったのか！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0009.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はゾンビ執事の腕の中でじたばたと慌ててみたが、彼？は一向に気にする気配もない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

がっしりと私をホールドして、決して落とさないように慎重に抱えているのだった。

\

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_敿\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,230,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0010.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事は小さく首を横に振る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで、『暴れたらだめだ』と、優しくたしなめられているようだ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0011.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ありがとう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0012.ogg"

「あ゛～……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事は小さく頷く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は歯向かう気力もなく、ゾンビ執事の腕に抱かれたまま身を縮め、寝室まで運んでもらったのだった……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

sw

\*L\_kk\_main\_14

sw

;\*L\_Main

sw

sw

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm02.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは、素朴な疑問から始まったのだった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1611.ogg"

「学園の十字架？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……考えてみれば、うちの学園はキリスト教系の私立校じゃないか。君は、十字架が苦手なのに、よく大丈夫だなと思って……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの家での晩餐の席で、私はその疑問を口にしてみた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1612.ogg"

「大丈夫に決まっているでしょう。こうして元気に通っているのだから」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まあ、そうなのだが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1613.ogg"

「プロテスタントの十字架になど、何の効力もないわ。あの人達は、悪魔払いすらしないしね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、プロテスタントでも、悪魔払いをする宗派はあるらしいが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1614.ogg"

「とにかく、恐るるに足らずよ……私は古株だから、ちょっとやそっとのことでは動じないわ。日光だって大丈夫だし、ニンニクも怖くない」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは平然と言ってのけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、私が持っていたロザリオを怖がっていたではないか……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1615.ogg"

「あれは……貴方が持っていたロザリオ、ヴァチカンの紋章が入っていたじゃない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは少々バツが悪そうに答える。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……そうだったな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヴァチカンはカトリック教会のいわば総本山であるから、さすがのキリエも恐れないわけにはいかないのだろう。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1616.ogg"

「あんな物持っている人は、滅多にいないわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は一流品しか持たない主義なのだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1617.ogg"

「……ま、それ以外のものは、大して効き目なしよ。昔はカモフラージュのために、修道院で暮らしていたこともあるぐらいだもの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何？　修道院で？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1618.ogg"

「ええ……退屈だったけれど、ヨーロッパにいた頃はヴァンパイアがうじゃうじゃいたから……構われたくなかったの」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1619.ogg"

「誰も、修道院にヴァンパイアがいるなんて思わないでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「確かに。……では、君も着ていたのかね？　あの、修道服を……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1620.ogg"

「ええ……もちろん着ていたわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドキドキと胸が高鳴り始める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

禁欲の塊のような黒と白のコントラストが美しい、あの修道服を、キリエが着ていたとは……！

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚僕僩栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1621.ogg"

「……先生……鼻の下」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが軽蔑の眼差しを向けていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おっと……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いかん……つい興奮して鼻の下が伸びていたようだ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「コホン……それは……その、修道服は、今はもう所持していないのかね？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1622.ogg"

「持っていると言ったら？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あー……そうだな、持っているというのなら……修道服姿の君を……ぜひ見てみたいものだな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1623.ogg"

「フフ……そう言うと思った」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の下心を嘲笑しているようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ニヤリ……）」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は嗤われていることなど気にせずに、服の下に密かに身につけていたある物に、そっと手を触れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずっとキリエには知られないように隠してきたが……今こそ、これを使うべき時が訪れたのだ……。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1624.ogg"

「お待たせしました。先生」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

晩餐の後、キリエは私の希望通り修道服に着替えてきてくれた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1625.ogg"

「どうですか？　似合っているかしら？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は声も出ないほどの感動に包まれていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この可憐さ、清楚さ、美しさ……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

黒い修道服がキリエの顔の白さを引き立て、穢れ無き純粋さを演出する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

禁欲的な雰囲気が、キリエのスレンダーなロリータボディにマッチして、思わず抱きしめたくなるような愛らしさを醸し出していた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚峫偊傞02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1626.ogg"

「あのね……見とれるのは分かるけど、少しは褒めたらどうなの？　わざわざ着てあげたのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……美しい、最高だ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は意気込んでキリエを褒め称える。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1627.ogg"

「安っぽい台詞ね……まぁ、いいけど」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは鷹揚に頷き、上品な仕草でベールを直していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分でもこの格好が気に入っているのか、私に褒められて、明らかに気を良くしているキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の無防備な態度は、私の計画を後押しするのに充分だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1628.ogg"

「え？　何かしら？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に呼びかけられ、こちらを向いたキリエは……。

\

bgm "music/.ogg"

csp2 4

lsph 30,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_17僔儍儞僨儕傾.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟嬃偒02.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1629.ogg"

「ヒィッ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が持っている物を見て……小さな悲鳴を上げたのだった。

\

\*L\_Replay14\_02

mov %Replay14\_02, 1

bgm "music/nbgm10.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝04.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1630.ogg"

「う、うそっ……そんな……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私がロザリオを掲げると、キリエは恐怖に顔を強ばらせた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1631.ogg"

「それは……なくしたはずでしょう！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

初体験の夜に、私が森でロザリオをなくしたことを言っているのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれから……私は暇があればロザリオを求めて森の中を探した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その努力も虚しく見つけることは出来なかったが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、キリエに対抗する力を何も持たないままというのも不安だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふふ……世の中にはインターネットというものがあるのだよ、キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1632.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そこで私は、紛失したロザリオと全く同じ物をインターネットで買い求めたのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この家のインテリアにはパソコンは似合わない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも一応現代人であるから、ネットの存在くらいは知っているだろうが、ネットを通じて外国の商品も購入できるとまでは思い至らなかったようだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1633.ogg"

「ど、どうして……？　私にひどい事をするつもり？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなつもりはないよ、愛しいキリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ただ……君はいつも私を苛めるだろう？　だから、自己防衛とでも言うのかな。それだけのことだよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟暁偟栚04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1634.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚暁偟栚05.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはジリジリと後ずさっていく。

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロザリオで弱体化してしまった今、私を恐れているのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのこういう態度を見ると、私のナルシシズムは満たされ、自分が全能の神ゼウスにでもなったような錯覚に陥った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君も私と一緒に愉しんでくれ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はロザリオをかざしながら、一歩ずつゆっくりとキリエに近づいていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

尼僧姿のキリエは、いつもより儚く、頼りなげに見え、それも私の欲情を刺激してやまなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝04.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟崲傝04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1635.ogg"

「っ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

壁に追い詰められたキリエの、そのベールを私は掴む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ……今日の糧を与えよう、キリエ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの頭を押さえつけ、跪かせて、股間に引き寄せる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「感謝を持って、天にまします父に祈り給え……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉欲まみれの礼拝が、始まろうとしていた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1636.ogg"

「んっ！？　ングっ!!」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の怒張した逸物を咥えさせると、キリエは嗚咽のような声を漏らした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうだね、おいしいかね？　私のペニスは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1637.ogg"

「グッ……うぐっ！　お、おいしいわへがらいでしょうっ、んんっ！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうかね……君には私の恥垢や、こびりついた尿もたっぷりと味わって欲しいのだがね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら、舌を使って、隅々まできれいにしたまえ。汚れは全て舐め取るんだ。傘の裏も忘れずにやるんだぞ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はわざと肉棒を乱暴に押し込み、彼女の頬の形が変わるほど、口内粘膜にグイグイと擦りつける。

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1638.ogg"

「んーっっ！！　ん゛ん゛ん゛ん゛ん゛ん゛っっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうした？　ただ口を開けているだけじゃ、ダメだぞ。しっかり舌を使いたまえ」

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1639.ogg"

「うぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエがギラリと睨んできたので、彼女の眼前にロザリオを差し出す。

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1640.ogg"

「きゃぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは眩しい光に目を射られたように、瞼を閉じて悲鳴を上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私に逆らってはいけないよ、キリエ。今は私が君の神なのだ。言うことを聞かないと、どうなるか……？」

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1641.ogg"

「わ、分かった！　分かったわよ！　だからそのロザリオを引っ込めて！　目が潰れちゃう……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは本当に十字架を恐れているようだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は実際にキリエに危害を加えたい訳ではなく、プレイを愉しみたいだけなので、ロザリオはポケットに仕舞った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……君がいい子にすれば、これは使わないよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、キリエが油断ならない少女であることは充分分かっているので、私も気を抜かず、ペニスを彼女の喉奥まで差し入れるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、私に快感を与えることが出来なければ、その時は……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1642.ogg"

「うぅっ……！！　わ、分かったわよ！　貴方の汚らしいちんぽを、舐めればいいんでしょ！？　じゅっ、じゅぷぷっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は渋々と、私に従い始めた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou12\_1\_01\_s6

\*ndou12\_1\_01\_s6\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou12\_1\_01\_s6/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1643.ogg"

「んぐっ、じゅるるっ！　よく恥ずかしげもなく、こんなに臭いチンポを、私の前に出せたものだわ！　ちゅるるっ！　ちゅーっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1644.ogg"

「先生って、本当に悪趣味！　私のような女の子をいじめて、こんなにおちんぽを勃起させるなんて！　じゅちゅっ！　じゅるるるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1645.ogg"

「変態よね、先生は！　この汚くて恥知らずなおちんちんも、変態チンポだわ！　むんむんとフェロモンをまき散らして、臭いったらないわ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1646.ogg"

「私を自分の言いなりにさせて、ご満足！？　でもね、先生、私を支配できたと思ったら、大間違いよ……！　れるれるっ、ちゅぷっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1647.ogg"

「私は、精液を飲むためにやってるだけですから！　決して貴方に屈したわけじゃないのよ……それだけは……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「無駄口はいい。そんな舐め方では、私は満足しないぞ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は厳しく言うと、キリエのおしゃべりを罰するために、両手で彼女の頭を掴んで、前後に振り始めた。

\

ndou12\_1\_01\_s4

\*ndou12\_1\_01\_s4\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou12\_1\_01\_s4/00000032.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1648.ogg"

「んぎゅっ！！　ンググググッ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に頭を揺さぶられて、キリエは苦しそうな声を漏らす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが哀れにも思うけれど、私は追撃の手を緩めない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……君の粘膜は実に甘美だ、キリエ……さあ、舌もちゃんと動かすんだ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1649.ogg"

「んっ！！　くちゅるっ！　じゅるるるっ！　んじゅうっ！　れろれろっ、ちゅううっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の眉を顰めた顔が私の嗜虐心を燃え立たせ、諦めにも似た従順な態度が、私の情欲を一層募らせるのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ、亀頭から裏筋まで、舐めつくすんだキリエ……！　君の唾液で、ペニスをドロドロにしておくれ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1650.ogg"

「んんっ！！　じゅじゅじゅっ、じゅぷじゅぷじゅぷっ！　ちゅるるるっ、ちゅくっ！　れちゅれちゅ、ちゅううっ……！　ちゅぱっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは喉奥まで亀頭を突っ込まれながらも、懸命な奉仕を始めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唾液がいっぱいに溜まった口の中で、舌先で鈴口をくすぐり、肉傘にぐるりと一周させ、裏筋をねっとりと這い回らせた。

\

ndou12\_1\_01\_s5

\*ndou12\_1\_01\_s5\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou12\_1\_01\_s5/00000064.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1651.ogg"

「くちゅっ！　んじゅーっ、ちゅうっ！　れろれろれろっ、ちゅうっ、んちゅるっ！　ちゅくちゅくちゅくっ！　ぴちゃ、ぷちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつしか彼女も夢中になって、肉棒を舐めることに専念していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

苦しみをこらえ、必死で鼻呼吸を繰り返しながら、私の快楽の為に我が身を犠牲にして舌を使うキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉棒に絡みつく唾液の熱さ……柔らかくまとわりついて、まるで駄々っ子のように離れようとしない舌の感触がたまらない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri0431.ogg"

「ちゅるるるるるっ、ぷちゅううううっ……れるれるっ、じゅちゅぅぅぅうっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……上手いぞ、キリエ……射精したくなってきた……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も、彼女の頭を振る腕に力を込める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

じわじわと腰裏に射精感が迫ってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの舌技はやっぱり圧倒的で、私をすぐさま快感の極みへと突き上げるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「よし、では最初の糧をやるぞ、キリエ！　口を開けて、感謝して飲み込め！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1652.ogg"

「じゅるるるるるっ！　ちゅうううっ！　れちゅううっ！　ちゅくるっ！　ちゅぅぅうぅうぅぅぅっっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュッッ！！　ビュルルルルルルルルルーーーーーーッッ……！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの苦しみなどお構いなしに、喉奥に肉棒を突き立て、精液を溢れさせた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュグッ、ビュグググッ！！　ビュルルルッ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1653.ogg"

「ンッ！！　ごふっ、んぐぐっ！！　ゲホッ……！　ちゅじゅうううううっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……素晴らしい……！　はぁ、はぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは咳き込み、不吉な音を立てているが、私は幸福を感じながら盛大にザーメンを噴き出させた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1654.ogg"

「ごぼっ！！　げふっ、んぎゅるっ！　んちゅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呼吸が困難になったのか、キリエは咳をした拍子に精液をダラダラと口の端から零す。

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1655.ogg"

「はぁっ、はぁっ……っじゅうっ、ゲホゲホッ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精液を飲むのが好きなキリエでも、喉の奥に出されるのは、やはり苦しかったようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の口内は最高の精液処理器だな、キリエ」

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1656.ogg"

「うぅぅっ……！　んじゅっ、じゅるるるっ！　ク、クソッ……！　ロザリオさえなければ、貴様など……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恨めしそうに私を睨みつけ、未だに折れていない反抗心を私に見せつけた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まだそんなことを言うのか？　君の口は、憎まれ口をきくためにあるのではないのだぞ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私の精液を飲み込むためにあるのだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、衰えず盛り上がったままの男根を、更に深く口内へ差し挿れる。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1657.ogg"

「ングググッ！！　ぐぅっ……！！　ごぐっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフフ……もう降参かね？　もっと精液をあげようと思ったのに……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目を白黒させるキリエに、私は曇りのない笑顔で応えるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「零した精液もきれいに舐めるんだ。一滴も無駄にするな。君の為に注いでやっているんだから、ありがたく思うのだぞ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1658.ogg"

「う、うううっ……！　ちゅるるるっ！　ちゅぷるっ！　ちゅくぅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは唇をＯの形に開け、鼻孔を拡げてくぐもった声を漏らし、もはや逆らっても仕方が無いと判断したのか、必死になって奉仕をする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……よく見ると、彼女は観念したのではなく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1659.ogg"

「んじゅっ……！　んっんっ、はぁっ……やっぱり、おいひいわ、先生の、おちんぽ汁は……ちゅるるっ！　はぁ、舐めても舐めても、溢れてくる……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1660.ogg"

「あぁむっ！　ぷちゅるっ！　いいわ、しゅっごく、おいひいっ……ちゅうっ！　濃厚で、オスの匂いが鼻の中に立ち込める感じ……たまらない……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1661.ogg"

「はぁっ……ちゅうっ！　やめられないわ……っ、こんらことされて、くやしいけろっ……おいひいから、おちんぽなめるの、やめられないっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1662.ogg"

「あぁ……しゅじゅぐちからぁ、どんどんでてくるぅ、おいひいおいひいじゃーめんめるく……！　もっともっと、ちょうらいっ……！　ちゅうぅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今や彼女自身が、悦んで肉棒を咥え込み、口からこぼれた精液を舐めしゃぶっているのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……キリエ、君もようやく目覚めたようだな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1663.ogg"

「んぅうっ！　おいひい、せんせいのおちんぽおいしいのっ……！　れちゅれちゅ、くちゅるっ！　おちんちん、ぺろぺろするの、すきっ！　ちゅくっ！」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou12\_1\_01\_s2

\*ndou12\_1\_01\_s2\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou12\_1\_01\_s2/00000064.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1664.ogg"

「もっと、なめしゃせてぇっ！　おちんぽもっとっ……！　ぴちゃぴちゃ、ちゅっ！　おちんぽにいっぱい、キスしたいのっ……ちゅうぅぅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの舌の動きが勢いを増し、生き物のようにぬめぬめとペニスの上を這い回る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唇をすぼめ、じゅるじゅると音を立てて吸い上げられると、精液どころか、魂まで吸い上げられそうな気持ちよさだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……気持ちがいい、キリエ、最高だ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの唇に、舌に、粘膜に、身を任せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

温かいキリエの口に含まれていると、ふわふわと雲の中に漂っているような心地良さだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1665.ogg"

「んぐっ！　せんせいの、欲張りちんぽっ！　じゅるるっ！　何回精液出しても、まだたりないのねっ！　んちゅううっ！　くちゅるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1666.ogg"

「いいわっ……飲んれあげるっ！　ぷちゅっ！　せんせいの、こだねじるはっ……私のおくちれっ……んじゅっ！　じぇんぶ、うけとめてあげるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1667.ogg"

「じゅーーーーーっ……！！　んちゅるるるるっ、くちゅっ、ちゅぅぅうぅっ……！！　じゅぶっ！　れちゅうううぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの舌使いが、激しさを増す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

顔を上下に振り、頬を凹ませて肉竿の根元まで飲み込み、じゅぶじゅぶと淫らな水音を立てて、一心不乱に吸いついてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1668.ogg"

「んちゅるるるぅっ！！　じゅぶじゅぶじゅぶっ、ちゅーっ！　んっ、いいにおい、へんへいのおちんぽっ！　おいしいっ、ちんぽおいしいっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はたまらず、自分からも腰を突き上げていた。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou12\_1\_01\_s1

\*ndou12\_1\_01\_s1\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou12\_1\_01\_s1/00000032.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1669.ogg"

「んぐぐっ！！　んぶっ！！　ごきゅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭で喉の奥を突かれたキリエは、えずいたような嫌な音を出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まずいな……とは思ったが、もう止められない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は両手でキリエの頭を固定し、乱暴に腰を振り立てた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1670.ogg"

「ぐぎゅっ！！　んごきゅっ！！　ごほっ、んん゛っ、ん゛っん゛っん゛っん゛っん゛っん゛っ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が突き込むたびに、キリエの喉から変な音が漏れる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、吐くなよ……！　私の精液を吐いたら、承知しないぞ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は偉そうに、彼女に向かってそう命じていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1671.ogg"

「んぐぅぅっ！！　ゲホッ、じゅぶぶぶっ！！　ちゅくるっ！！　んーーーーっ！！　ん゛ん゛ん゛ん゛っ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女はどうすることも出来ず、ただ口を開けて、口内をメチャクチャにされるままになっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

柔らかな粘膜をズボズボと犯され、喉に突き刺され、苦しげな声を上げるだけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

固く閉じた目からは、苦痛の涙が一筋頬を伝い、決して自分では閉じられない口からは、涎がダラダラと垂れ流される。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

責め苦に耐えるその表情は、哀れを誘い、私の胸を少なからず痛ませる……だが。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……君は美しい、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんな彼女が、私には実に美しく見えるのだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

尼僧の姿で、拷問に耐えるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは、神の前に跪く殉教者の姿にも似て……私の血を滾らせ、興奮させてやまないのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そろそろイクぞ……！　また精液をだしてやるから、ありがたく受け取るのだ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1672.ogg"

「ん゛っん゛っん゛っん゛っん゛っん゛っ！！　ごぎゅっ！！　ぐぶぶぶぶっ！！　じゅるるるるるっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの顔はちっとも有り難そうではなかったが、私は構わず抽送を続け、性器のように彼女の喉を犯し、ズボズボと掘り続けた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

むしろ辛そうな彼女の顔を見て、尚一層獣欲が増し、ハッと気づいたら、もう精液が鈴口から漏れ始めていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、イク、イクッ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1673.ogg"

「んぎゅぅうぅうぅぅっ……！！　ちゅううううううううううううっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はラストスパートとばかりに、キリエの顔を貫くくらい、口内深く肉棒を沈めた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュルルルルルルーーーーッッッ！！！　ビュクビュクビュクビュクーーーッッ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は大声を上げながら、体を反らせ、途轍もない開放感を味わう。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぶぶぶっ！！　びゅるるるるっ！！　びゅぐるっ！！　ぶびゅびゅびゅびゅっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しつこいまでにいつまでも、肉棒は跳ね上がり、キリエの口の中に粘着く白濁液を漏らし続けた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1674.ogg"

「ん゛ん゛ん゛ん゛ん゛ん゛ん゛ん゛ーーーーっっ！！……ゴボゴボゴボッ……！！　ググググッ……げほげほっ、ごふっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

喉奥に放出されたキリエは、苦しそうに殆ど全てを吐き出してしまう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ダメだぞ、キリエ……全部飲むんだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1675.ogg"

「んっっっ！！　んじゅるっ！！　ぶちゅううううっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそれを許さず、更に頭を抑えつけ、吸引を強制するのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1676.ogg"

「んぐぅぅ！！　も、もう、無理よぉっ……く、くるし……ゲホゲホゲホゲホッ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は堪え切れず、唾液と共に精液を吐き出してしまう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……仕方がないな……」

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は漸く、彼女の口を肉棒から解放する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、彼女自身を解放する気は、まだなかった……。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1677.ogg"

「きゃぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの背後に回り、スカートを捲り上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「本当にシスターの格好が似合うよ、キリエ……禁欲的な装いが、たまらないな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを後ろから抱き寄せ、ベールに頬ずりをする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエ本人のイメージとはかけ離れた、清楚な服装、処女を連想させる服装が、私の魂をこれでもかと揺さぶるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1678.ogg"

「な、何をするのよ、この変態！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、尻を撫で回す私の手から逃れようと、無闇矢鱈と暴れまくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……ロザリオで弱体化した今のキリエは、非力なただの少女ほどの力しか出ないのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……おや？　折角いい子にしつけたと思ったのに、また生意気な君に逆戻りか？」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1679.ogg"

「（ビクッ！）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が脅しでポケットに手を入れると、キリエは竦み上がり、抵抗をやめた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……どうした？　もう暴れないのかね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はわざと焦らすように、ゆっくりと尻たぶを撫で回す。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1680.ogg"

「うぅっ……！　くふっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは唇を噛んで、私の仕打ちに耐えている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちがいいかね？　こうして尻をさすられるのは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は薄いパンティーの上から、尻穴に指を近づけ、くすぐるようにしたり、膣口の方へ滑らせたりして、キリエの反応を見る。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1681.ogg"

「あっ……い、いや……変なところ、しないで……はぁっ……ぁぁ……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やっぱり敏感なキリエの身体は、私が少し指を這わせただけで、ピクピクとしどけなく息づくのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……パンツがもうぐっしょりだから、脱いでしまおうか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

イラマチオだけで興奮してしまったのだろう。キリエのパンティーのクレヴァスの辺りは、濃いシミができ、湿っていた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1682.ogg"

「え、ええぇっ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分では気づかなかったのか、キリエは驚きの声を上げる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こんなに濡れていたら、気持が悪いだろう？　脱いだ方がいい」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1683.ogg"

「う、ううっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは泣きそうな顔で俯きつつも、素直に脱がされるままになっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恐らく……彼女も無意識のうちに望んでいたのだろう。私と交わることを。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、私は今日、少し違うことをするつもりだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁすごい……おまんこヌルヌルだな、キリエ……太腿まで滴ってきている……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はたっぷりと量のある愛液を指で掬い、アナルをマッサージするように擦りつけた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1684.ogg"

「あぁぁっ……！　あんっ、変なとこ、こすらないで……！　そ、そこは、ちがう……はぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どう違うんだね？　気持よさそうにしているじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1685.ogg"

「だ、だめよ……そ、こは……きたない……し……あぁ……はぁ、はぁ……い、いや……な、の……あぁ……あぁぁ……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

嫌だと言う癖に、息が上がってきていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ベールに囲われた顔がみるみるうちに紅潮し、額に汗が浮いてきている。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_31.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_31.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1686.ogg"

「あぁっ……いや、いやぁ……お尻ぃ、ぬるぬる、しないでぇ……はぁ、はぁ……へ、へんな、きもちに、なっちゃうぅ……はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_29.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_29.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1687.ogg"

「あ、だめ、だめぇ……おしり、きもち、よくなってきちゃう……だめ……おしりは、いじらないで……あぁ……んっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

甘い声を漏らし、お尻をもじもじと動かす。これでは感じているのが丸分かりだが、キリエはあくまで拒絶する。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は試しに中指を一本挿入してみた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_30.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_30.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1688.ogg"

「あぁぁっ！！　ハァッ！　い、いれた……？　ゆび？　あぁぁっ……あんぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

指の感触に、お尻をフリフリして、悶えるキリエ。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_32.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_32.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1689.ogg"

「あぁぁっ、ゆ、指ちんぽっ！　指チンポ、お尻に、アナルに、はいってるぅっ……いや、いやぁっ……へ、変な感じっ……あぁぁっっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

明らかに、嫌がっている風ではない。それどころか、このいやらしい少女は、お尻で感じているのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は何と淫らなのだ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

遂に私はたまらなくなり……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今度は指ではなく肉棒を、キリエのアナルへと挿入したのだった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ギチギチギチギチッ！

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1690.ogg"

「きゃぁぁっ……あぁぁぁぁぁぁーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、無理やりペニスを挿入された痛みで、悲鳴をあげる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それはそうだろう……。キリエのアナルは硬く閉じられていて、私はそれを強引にこじ開けて、押し入ったのだから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ、キツイな……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、挿入したものの、肛門の締め付けは思っていたよりもきつく、中々根元まで嵌めこむことが出来ない。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1691.ogg"

「う、う゛う゛う゛う゛う゛う゛っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが腹に力を入れ、体を強ばらせているせいかもしれなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「力を抜くんだ、キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1692.ogg"

「うぅっ、そ、そんなこと、言われても、無理ッ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは小刻みに息を吐きながら、痛みを堪えるだけで精一杯のようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふむ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の気をそらそうと、小さな胸を愛撫し始めた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1693.ogg"

「んんっ！！　んっ、はぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……ちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は背後から彼女の耳を舐め、首筋をなぞり、両方の乳首を捻ったり摘んだりくすぐったりしてみた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1694.ogg"

「んんんっ！！　くふっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは苦しそうな声を漏らすだけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエを熱く燃え立たせるはずの愛の手管も、今は全く通用しないようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうすれば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままでは、いたずらにキリエを傷めつけるだけだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女を強姦している身ではあるのだが……出来れば彼女にも、愉しんでもらいたい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……これはどうかね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……ポケットからロザリオを取り出した。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1695.ogg"

「きゃぁっ！！　あぁぁぁっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恐怖の叫びを上げ、顔を背ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はロザリオで、彼女の身体中をなぞっていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……神の祝福を君に与えるよ……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1696.ogg"

「う、うううっ……そ、そんなもので、私のからだに、ふれ、るな……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「力を抜いて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1697.ogg"

「う、うぐっ……！　や、やめろ……私を、ころす、気か……！　ふぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いわゆるショック療法……のつもりだったのだが。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1698.ogg"

「あ、あっぁっ……やめろぉ……ロザリオなんかでぇ、わたしを、はずかしめる、気か……？　はぁっっ……！　あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

メダイという装飾の部分で乳首をこすったり、脇腹に数珠を垂らしたりすると、不思議とキリエの口から甘い声が漏れ始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1699.ogg"

「い、いや、ちくびぃ……ロザリオなんかでぇ、いじらないでぇ……ふぁぁ……ちくびが……ぷっくり、勃起してきちゃうぅ……んぁぁ……！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1700.ogg"

「あ……だめぇ、ロザリオのせいで、ちからが、はいらない……はぁぁ……なんで、かんじちゃうの……おっぱい、くすぐったくてぇ……あぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1701.ogg"

「い、いやぁ……変な感じ……ふぁっ……あたまが、ふらふらするぅ……お、おかしく、なりそう……あぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロザリオの威力が誤作動したのか……キリエはロザリオで身体を弄られるたびに、悩ましくよがる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……ロザリオが気に入ったのか……それでは……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は思い切って、十字架の下の部分を、空いているキリエの膣内に挿入した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1702.ogg"

「あぁぁぁっっ！！！！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

唐突に、雷に打たれたかのように、キリエは全身を硬直させ、痙攣を起こした。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1703.ogg"

「あぁぁぁぁぁっぁぁぁぁぁっぁっ……！！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビクンビクン！　と断続的な膣の震えは、ペニスが入っている肛門まで響いてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すごいな、見事なイキっぷりだ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、オマンコをロザリオで犯された瞬間、そのショックで頂点に達したのだった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「神の子に犯された気分はどうだね、キリエ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はロザリオに刻まれたイエスの像を見ながら尋ねた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

神と言えば、キリエにとっては天敵のはずだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

憎みこそすれ……性的に興奮するなどということがあるのだろうか。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1704.ogg"

「う、ぅうぅっ……！　さ、さいあく、だけど……かんじちゃう、のっ……！　あぁぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

憎いからこそ、感じてしまうということもあるのかもしれない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

性というものは、簡単に答えを出すことはできない、複雑なものだと、私は改めて思うのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……ロザリオをオマンコに咥え込んで絶頂するとは……罰当たりなヴァンパイアだな」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1705.ogg"

「う、うるさいぃっ……！　あぁぅぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロザリオのおかげで、キリエの身体も大分解れて、いつしか肛門への抽送もスムーズになっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……すごく締まる……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はオマンコから愛液を掬い取り、ベッタリと肉棒になすりつけてから、グウッ！　と一気に根元まで突っ込んだ。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1706.ogg"

「あっ……あぁぁぁぁ～～～っっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

チンポの侵入を感じると、歓喜の叫びと共に、お尻をふりふりと揺り動かすキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

誘うような２つの白い丘。丸く盛り上がったその可愛らしさは、思わず頬ずりしたくなるほどだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、あぁっ！　……素晴らしい、君のお尻は……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒05,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は感極まり、夢中になってピストン運動を繰り返した。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1707.ogg"

「あぁぁっ！！　おしりっ、お尻マンコ、めりめりぃっ……ふぁぁ！　き、きもち、いいっ……あなるぅ、きもちよく、なってきたぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1708.ogg"

「ぶっといちんぽっ、お尻にはいってきてるぅっ……！　あなるもっ、おまんこみたいに、おかされてぇっ……あぁぁっ！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1709.ogg"

「おしりっ……きもちいいっ……おちんちんで、ズボズボされるのっ、いいよぉっ……！　あぁっ、おしり、めくれちゃいそぅっ……はぁぁっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉道は狭く、強く締め付けてくるため、決して速いピストンはできない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、ペニスを根元から亀頭まで食い締めてくる肛門括約筋の快感は、私をあっという間に舞い上がらせた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、イキそうになってきた……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエのお尻をしっかりと掴み、パンパンと肉の打ち合う音を立ててピストンする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こすれ合う直腸とペニス……その感触にうっとりとなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

硬く狭かった肛門もかなり柔らかく広がり、私の肉棒を受け入れ、キュッキュッとリズミカルに締め付けてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭を肉の壁で潰されるような感覚に、私のペニスは耐え切れず、すぐにも昇天してしまいそうだった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1710.ogg"

「あぁぁぁっっ！！　きてぇっ、おしりにもっ、おしりまんこにもザーメンミルク出してぇっ！　オケツまんこにも、栄養いっぱい注いでぇぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1711.ogg"

「お尻も欲しがってるのぉっ！　おしりもっ、せんせいのチンポ汁、ほしがってるぅっ！　だからドバドバしてえっ！　いっぱいちょうらいぃぃっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イク……ッッ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_2\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるるるるるるるるるるるるるるっっっ！！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1712.ogg"

「あぁぁぁぁーーーーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は遂に、キリエのアナルにも精液を放った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……これで君のアナルも私のものだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエのアナルを手に入れたという満足感で、高揚していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

興奮は収まるところを知らず、私はまた慌ただしく腰を振り始めた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1713.ogg"

「あぁぁっっ！？　あぁぁっっ……お、おちんぽっ、まだぁっ？　……あぁぁっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ、キリエ……！　私はまだまだ満足していない！　君のお尻を、もっともっと犯しまくりたい……！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1714.ogg"

「ふ、ふぁぁっっ……お、おかしまくる……はぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ、キリエ……私は君のアナルを、犯して犯して、犯しまくる……！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/n12\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1715.ogg"

「あぁぁぁぁっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の言葉を聞いて、その白い肌にさあっと鳥肌を立てた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1716.ogg"

「お、おかしてぇっ……！　おしりまんこ、先生の、好きにしてぇっ……！　おしり、めちゃくちゃにしてぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いいんだね？　私にお尻を差し出すのだね？」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1717.ogg"

「は、はいぃっ……せんせいに、お尻、して欲しいっ……おしり、犯して欲しいっ……ちんぽで、いっぱい、ほじくってほしいっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1718.ogg"

「おしりも、きもちいいからぁっ！　オケツマンコ、たくさんかわいがってほしいっ……！　奥までっ、いっぱい、突っ込んで欲しいっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、君の可愛いお尻を……奥までっ……犯す！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1719.ogg"

「うれしいっ……せんせいっ、いっぱい、おかしてぇっ……！！　キリエのオケツまんこ、もっともっと、きもちよくしてぇぇっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

二人して性の悦びにまみれ、他のことは何も考えず、ただ獣のように腰を振る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一度出した精液のせいで、肉棒はヌルヌルと滑り、先程よりも早くピストンできるようになっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くぅっ……私も……気持ちがいい……！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1720.ogg"

「ふあっぁぁっっ！！　せんせいっ、せんせいっ……！！　きもちいいっ！！　ちんぽきもちいいっ……！！　あぁぁ～～っ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

狭い肛門をこじ開けるように抜き差しすると、肛門の中と入り口が、根元と先端を絶妙に締めつけてきて、思わず声が漏れるほどだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これほどまでに素晴らしいキリエのアナルを、存分に満喫できる私は、何と幸せなのだろうと思わずにいられなかった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1721.ogg"

「あぁぁっ、あぁっ！　こうもん、ぴくぴくぅっ……！　ちんぽすごすぎてっ、お、おしりでも、イッちゃいそう……はぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの言葉を裏付けるように、肛門は小さな痙攣を開始していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の眼の焦点は合わず、ひっきりなしにお尻を押し付けてくる様子を見ると、もう何時イッてもおかしくないぐらい、高ぶっているようだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか、では、私も……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も彼女と同時に達しようと、抽送に力を込める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肛門括約筋は、変わらずに驚くべき締め付けを発揮していたので、私がオーガズムを迎えるのは、もう時間の問題となっていた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1722.ogg"

「あぁぁ～～～～～っっ……！！　い、いきそうっ！　おしりまんこいきそうっ！！　せんせいのデカチンポ、おしりにハメられて、イッちゃいそうっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1723.ogg"

「あぁんっ、あぁっ！！　おしりでもイッちゃうっ！　おまんこみたいに、おしりでもぉっ！　おしりむずむずして、もう、がまんできないぃっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私もイクぞ、キリエ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1724.ogg"

「ふぁんっ、チンポ汁ぅぅっ……！　あなるにもう一回、チンポ汁ちょうらいっ！　アナルマンコに、ざーめんどぼどぼあふれさせてぇっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1725.ogg"

「おなかのなかまでぇっ、先生のおちんちん汁でいっぱいになるくらいっ……！　おなかの中真っ白になるくらい、だしてぇぇぇぇぇぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_2\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅるるるるっ！！　ぶびゅるるるるるるるるるるるーーーーっっ！！　びゅぐるっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1726.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は弾みをつけて男根を押入れ、キリエの肛門の一番深いところまで侵入し、そこで果てた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1727.ogg"

「あぁぁぁ……あつい、あついよぉ……先生の精子、あつい……あなる、やけどしちゃいそう……はぁ、はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_42.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_42.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1728.ogg"

「すごいのぉ……おしりのあなぁ……こんなに、すごいなんて……おちんちん挿れると、こんなに、きもちいいなんてぇ……はぁ、はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはぐったりと脱力しながら、うわ言のように呟いている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

よほど疲れたのか、私が支えてやらないと、一人で立っていることも難しいほどだった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_44.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_44.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1729.ogg"

「あ、あぁぁ……イ、イキすぎた……おしりで、イキすぎて、もう……はぁ、はぁ……ちからが、でないのぉ……はぁぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絶頂のせいもあるだろうし、ロザリオに力を奪われているせいもあるだろうが、キリエが消耗しきっているのは明らかだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが……私は勃起肉をアナルから抜こうとはしなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の欲望はまだ尽きてはいない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだキリエを汚し足りないと、睾丸の辺りにわだかまっている精液の存在を感じていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女の膣内に挿しっぱなしだったロザリオを、ペニスの代わりにグチュグチュと動かした。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1730.ogg"

「あぁぁぁっぁあっぁぁっ！？　あぁぁぁっぁぁぁぁぁっぁぁぁっぁぁーーーーーーー……っっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ロザリオで刺激すると、キリエの身体は発条仕掛けのように跳ね上がった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

急に生気を取り戻し、ビクンビクンと身体を踊らせている。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1731.ogg"

「あぁぁぁぁぁっ！！　い、いや、いやぁっ！　また、ロザリオチンポがっ、おまんこ、すきかってにっ……あぁぁぁぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

憔悴した表情と、生き生きと飛び上がる身体はちぐはぐで、まるでキリエが人形で、見えない手によって操られているかのようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……私がもう一度イクまで、つきあってもらうぞ！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_45.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_45.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1732.ogg"

「も、もう一度っ！？　ひゃうぅうっっ！！　ひぁぁぁぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに済まないという気持ちが、ないでもなかったが、目先の情欲に負けてしまった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は拡がった尻穴にズボズボとペニスを突き入れながら、ロザリオで膣肉を掻き回し続けた。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1733.ogg"

「あうぅぅうぅっ！！　おまんこと、おしりマンコっ、両方なんてっ……あたま、おかしく、なるぅぅうっ……ひぁぁぁっっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1734.ogg"

「らめぇっ……！　おしりも、おまんこもっ、いきしゅぎれっ……かんじすぎれっ……も、もうっ、もぉぉぉっ……おかひっ……はぁぁぁっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1735.ogg"

「おかひいのっ、おまんこ、こわれっ……んぁぁっっ！！　あなるもぉっ、めりめりらめぇっ！　あなる、がばがばに、なっひゃうぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

呂律が回らなくなったキリエの言葉は不明瞭で、何を言っているのか、よく分からない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや、何を言われたところで、私はこのセックスをやめはしない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この最高に気持ちがいい行為を、やめられるはずもない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、キリエ、愛している！　君のお尻も、オマンコも、両方愛している……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は我侭だと知りながら、抽送をやめることが出来なかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ズルリッと肛門粘膜を引き摺り出すように肉棒を引き抜き、粘膜ごと押しこむように肉棒を突き込む。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何度も何度も抜き差しを繰り返すと、アナルの入り口で溢れた精液が泡を立て、火照った男根が湯気を立てるようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1736.ogg"

「あぁぁあぁぅぅうぅっ……きりえ、もう、おかしくなるぅっ！　あなるぐちゃぐちゃにされて、おまんこもめちゃくちゃにされてぇっ、もうっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_41.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_41.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1737.ogg"

「い、いぐよぉおおっっ！！　きりえ、また、いぐぅぅうぅっ……おまんことおしり、いっしょにいっひゃうぅうっ……！！　うあぁぁぁぁぁぁっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビクゥッ、ビクビクビクッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これで何度目だろう？　果てしない快楽の輪廻にはまったキリエは、絶頂を繰り返す。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1738.ogg"

「あぁ、あぁぁ、あぁぁっ……だめ、らめ、いくの、やめられなぃっ……んくぁぁ！　いぐ、いぐのぉっ……いきっぱなし、ふぁぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どこを見ているのか判然としない目から涙を垂れ流し、開きっぱなしの唇からは舌がだらしなく飛び出している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつも感じやすいキリエだが、今日はその比ではない。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、可愛いよ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

汗に濡れた太腿や、乱れた髪までもが愛おしく、私は彼女の全身を撫で回しつつ、いよいよ奮って腰を使うのだった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1739.ogg"

「うううっ！！　も、もお、らめぇっ、ばかまんこぉっ……おひりもっ、もうっ……い、いぐぅっ、いぐぅぅうっ……！！　あぁっ、あぁぁんんっ！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_46.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_46.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1740.ogg"

「あぁぁっ、マンコッ……またイッて……ふぁぁっ！　あなるもっ、き、きもひっ……ひぃぃっ！　あふっ！　あぁぁぁっ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

十字架で膣内をえぐると、じゅぼじゅぼと愛液が飛び散り、肛門までぬるぬると滑りまくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はその潤滑を利用して、勢いよくアナルに突き込み、ゾクゾクするような射精の前兆を感じていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、イキそうだ、キリエ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_43.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_43.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1741.ogg"

「んんんんんんっ！！　いくっ！？　いくっ、わらひ、もういってるぅっ……イクゥゥウゥウゥゥッッ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何度目になるか分からない絶頂を極めるキリエ。涙を流すそのイキ顔を見るだけで、私も達してしまいそうだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

背筋に走る快美感に突き動かされ、私もクライマックスに向かって、キリエの雪のようなお尻に連打を叩き込んだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イク……イクぞ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_47.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_47.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1742.ogg"

「ひぅぅっ！！　いぐっ、いぐのぉっいぐぅっ！！　くひぃっ！！　いぐぅっ、おまんことおしりまんこ、両方でいぐぅうぅぅぅっ……！！」

\

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF中出し",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF外出し",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_7

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_7

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route14a0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route14a1

goto \*L\_selectbtn7

\*L\_route14a0

sw

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_2\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅるるるっ！！　どぴゅどぴゅっ！！　びゅぶるるるっ！！　びゅぶぶぶっ！！　どくどくどくっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_49.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_49.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1743.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーーーっっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どくどくっ！！　びゅるるるるっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精巣が空っぽになるまで、私は出し尽くした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの細い体を抱きしめ、ベールに顔を埋め、彼女の薔薇の香りに包まれて……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

脳まで蕩けそうな……最上この上ない射精だった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_50.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_50.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1744.ogg"

「あぁぁぁ……おしりのなか、あつい……せんせいの、ざーめんじるで、おしり……どろどろ……あぁぁ……きもち、いい……はぁぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1745.ogg"

「せんせい、せんせい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

囁くように、私の名を呼ぶキリエ……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛している……キリエ……私の天使……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女が伸ばしてきた手を、しっかりと握りしめたのだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

goto \*L\_route14aend

\*L\_route14a1

sw

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n12\_2\_48.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_48.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/n12\_2\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅるるるっ！！　どぴゅどぴゅっ！！　びゅぶるるるっ！！　びゅぶぶぶっ！！　どくどくどくっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

射精の直前、私は陰茎を引き抜いた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この穢れなき尼僧姿のキリエを……ふと、私のスペルマで汚してみたくなったからだ。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1746.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、精巣が空っぽになるまで、出し尽くした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

禁欲的な尼僧の黒服を白濁液で染め上げ、キリエの薔薇の香りを、私自身の匂いで塗り潰した……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どくどくどくっ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

脳まで蕩けそうな……最上この上ない射精だった。

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_26.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_26.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1747.ogg"

「あぁぁぁ……おしり、あつい……せんせいの、ざーめんじるで、おしり……どろどろ……あぁぁ……きもち、いい……はぁぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n12\_2\_25.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n12\_2\_25.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1748.ogg"

「せんせい、せんせい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

雾枝呢喃般地，叫着我的名字……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛している……キリエ……私の天使……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女が伸ばしてきた手を、しっかりと握りしめたのだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

goto \*L\_route14aend

\*L\_route14aend

sw

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_07僸儘僀儞壠僟僀僯儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1749.ogg"

「ところで先生……」

\

bgm "music/nbgm16.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

身支度を整えた後……キリエが私に鋭い眼差しを向けてきた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚惷偐側搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1750.ogg"

「その内ポケットに入っている物は何なの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気づかれていた……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はスーツの内ポケットに入っている、キリエの目をかすめて失敬した銀器を思い浮かべる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ディナーの際にキリエが使用したナイフとフォークを、私のキリエコレクションに加える予定だったのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何も……入っていないが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は苦し紛れの嘘をついた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚儉僢偲偡傞04.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1751.ogg"

「嘘おっしゃい、カチャカチャと音がしているわ。私、耳はいいんだから」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は観念してポケットの中の物を差し出した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1752.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「も、申し訳ないっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は深く頭を下げた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この銀器はアンティークで価値がありそうなので……キリエは私を、こそ泥と思うだろうが……致し方ない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

真実の理由を知られるよりは、手癖の悪いやつだと思われる方がよっぽどましだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1753.ogg"

「……それを盗んで……どうしようっていうの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

言えなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まさか、今までもキリエの持ち物を度々盗んで、それをガラスケースに入れて保管しているのだ等と……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして時々はそれを取り出して独り手淫に耽るのだ等とは……愛する少女に、決して言ってはならないことだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1754.ogg"

「どうせ、夜のおかずにでも使うのでしょう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

看破されていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「す、済まないっ……もう、こういうことはしない……今回ばかりは、見逃してくれ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまでばれてしまっては、もう言い逃れはできない……私はひたすらに頭を下げた

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1755.ogg"

「別に……好きにすれば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

また軽蔑されるのかと恐れていた私だったが、キリエは拍子抜けするほどサラリと許すのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いいのかっ！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚暁偟栚03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1756.ogg"

「私は、吝嗇家じゃないのよ……まぁ、貴方は私の役に立ってくれることもあるし……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僔僗僞乕01\_惵栚挧敪01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1757.ogg"

「フォークの一本ぐらい、あげてもいいわ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の一言は、神の御託宣のように私の胸に響いた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、ありがとう、キリエっ……！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚悓偄徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1758.ogg"

「フン……変態」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

罵り言葉も、優しい愛撫のように感じた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私という人間の本性を知りながらも……それでも受け入れてくれるキリエの度量の広さに、感激していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「で、では、私はこれで！　また明日、キリエ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの気が変わらないうちに、ナイフとフォークを内ポケットにしまい込み、意気揚々と辞去したのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1759.ogg"

「ふん……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1760.ogg"

「……私が使ったものを有り難そうに押し頂くなんて……下僕根性が染み付いているわね、先生……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟暁偟栚04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1761.ogg"

「そんなに……私が好きなのかしら……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僔僗僞乕01\_惵栚徠傟枮柺偺徫傒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1762.ogg"

「フフ……全く、馬鹿につける薬はないな……」

\

csp2 4

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

立ち去る私の耳に、キリエの嬉しそうな声が聞こえた気がしたが……恐らく空耳だったのだろう……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_戝\_僔僗僞乕01\_惵栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_戝\_僔僗僞乕01\_惵栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

日曜のうららかな昼下がり……私達はアフタヌーンティーを嗜んでいた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1763.ogg"

「ねえ、またピアノを聴かせて」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はピアノの前に座り、以前キリエのために作った即興曲を弾き始める。

\

bgm "music/nbgm12.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚椧偟偘徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1764.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは気怠げにピアノにもたれ掛かりながら、静かに耳を傾けていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、今では休日でもキリエの家を訪れるようになっていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の顔を見ない日は、一日もない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それは、毎日彼女に、私のエネルギーを吸われるということでもある……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

すなわち、私の命の火が、早く消えてしまうことにも繋がるのだろうが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それでも彼女に会わずには、一日だって暮らせない私なのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1765.ogg"

「……私、この曲好きよ。気に入ったわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ありがとう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

思わぬ褒め言葉をいただき、私は頬を赤くする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1766.ogg"

「また私に曲を作ってくれる？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ、勿論……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

褒めてもらえたばかりか、次の依頼までされて、私は嬉しくて天にも昇る心地だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚枮柺偺徫傒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1767.ogg"

「そう、嬉しいわ。どんな曲かしら？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:lsp 21,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,170:lsp 11,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF明るく可愛らしい曲",255,180

vh:lsp 22,":a;image/慖戰巿\_off.jpg",240,250:lsp 12,":s/18,18,2;#000000#FFFFFF荘厳な美しい曲",255,260

mov %box,150

mov %btn,160

vspa0

\*L\_selectbtn\_8

spbtn 11,1

spbtn 12,2

print 2

textoff

btnwait %0

if %0 == 0 goto \*L\_selectbtn\_8

if %0 == -1 systemcall rmenu

if %0 == 1 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route14b0

if %0 == 2 cspb:vspa1:print 2:goto \*L\_route14b1

goto \*L\_selectbtn8

\*L\_route14b0

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……明るくて、可愛らしい曲がいいんじゃないか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はしばし思案してからこう答えた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟儉僢偲偡傞04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1768.ogg"

「ええ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の返答が気に入らなかったのか、その流麗な眉を顰める。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟暁偟栚01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1769.ogg"

「私は、明るくも可愛らしくもないんだけれど」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなことはない。キリエは可愛い」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1770.ogg"

「！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の笑顔は、本当に愛くるしい……。滅多に見られないのが残念だが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の笑顔をイメージして作るとするなら、明るく華やかな曲以外、あり得ないんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟暁偟栚03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1771.ogg"

「……そ、そうかしら……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1772.ogg"

「そんな風に、言われたことないから、分からないわ……私のことは、みんな怖がるのよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟暁偟栚01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1773.ogg"

「私はヴァンパイア……恐れられこそすれ、可愛いだなんて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、君は可愛い女の子だ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は断言した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

誰がどう思おうと、私には関係ない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私にとっては、彼女は可愛い私の恋人。それだけで充分だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1774.ogg"

「そう……褒め言葉として、受け取っておくわ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟枮柺偺徫傒02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

戸惑うように、しかしどこか嬉しそうに微笑んだ彼女の顔は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

誰が見ても、あどけなく可愛らしい少女の笑顔なのだった。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

goto \*L\_route14bend

\*L\_route14b1

sw

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……荘厳で、美しい曲がいいんじゃないか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はしばし思案してからこう答えた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1775.ogg"

「そうね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の返答が気に入ったのか、その果実のような唇を笑いの形に変えた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1776.ogg"

「この気高く美しい私には、そういう曲が似合うでしょうね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、気品があって、凛々しく、それでいて女性らしい……そんな曲を作ろう。今度は即興ではなく、ちゃんと時間をかけて作曲するよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚徠傟枮柺偺徫傒02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1777.ogg"

「まあ素敵……！　今から楽しみだわ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

本当に楽しみなのか、キリエは顔を輝かせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの笑顔を見て、私は自分の判断が正しかったことを確信した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女には、私の持てる力を全て注ぎ込み、素晴らしい曲をプレゼントしよう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それまでに、私の命が持てばいいのだが……と、それだけが心に引っかかる私だった。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

goto \*L\_route14bend

\*L\_route14bend

sw

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_13枮寧\_彫偝偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして夜になり……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは例のごとく、浴室で飲酒に耽っていた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01儚僀儞僌儔僗1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠擖梺01.ogg"

bgm "music/nbgm02.ogg"

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1778.ogg"

「やっぱり赤よね……この濃厚な香りと風味がたまらないわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n16\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は酒があまり強くないので、晩酌にはほとんど付き合えないのだが、キリエは毎晩のように酒を煽っていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……ヴァンパイアという存在であるキリエは、普通の人間とは違う。だからアルコール依存症になることも、体を壊すこともないのだろうが……。

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_28.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_28.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1779.ogg"

「先生、どうしたの、その陰気臭い顔は？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は元々こういう顔だが」

\

lsph 30,":c;image/n16\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n16\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1780.ogg"

「少しは飲みなさいよ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんな風に絡まれるのも、困りものだった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_09僸儘僀儞壠梺幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁02\_愒栚徠傟偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁02\_愒栚徠傟偦偭偗側偄02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1781.ogg"

「ふーっ……少し酔っ払ったかしら」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう言うと、キリエは素っ裸のまま、身体も拭かずに浴室から出て行ってしまう。

\

mov %sn,4:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,430:mov %sy1,600:mov %sy2,260:mov %so1,255:mov %so2,0:idou

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ま、待て……キリエ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慌てて体を拭き、タオルを巻きつけて後を追った。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚徠傟捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚徠傟捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1782.ogg"

「（スタスタ……）」

\

amsp2 4,400,260,100,100,0,255

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

mov %sn,7:mov %st,300:mov %sx1,400:mov %sx2,370:mov %sy1,600:mov %sy2,240:mov %so1,0:mov %so2,255:idou

amsp2 7,212,240,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0013.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1783.ogg"

「用はないわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0014.ogg"

「あ゛～……」

\

mov %sn,7:mov %st,300:mov %sx1,212:mov %sx2,370:mov %sy1,600:mov %sy2,240:mov %so1,255:mov %so2,0:idou

csp2 7

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おい、キリエ……せめて身体を拭け！」

\

csp2 7

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は遂に追いつけないまま、キリエが寝室まで到達することを許してしまった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_愒栚徠傟柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1784.ogg"

「はー……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそのまま寝台の上に倒れこむ。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯儀僢僪02.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、シーツが濡れる！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

シーツはキリエの身体に付着していたお湯で、ぐっしょりと濡れてしまった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚悓偄儉僢偲偡傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚悓偄儉僢偲偡傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1785.ogg"

「うるさいわねぇ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君……酔っているのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まぁ……聞かずとも酔っているのは明白なのだが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚徠傟惷偐側搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1786.ogg"

「別に」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、とにかく身体を拭きなさい。そのままじゃ風邪をひくぞ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁02\_愒栚徠傟偦偭偗側偄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1787.ogg"

「うるさく指図しないで」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うるさく指図するのが、教師の仕事だ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁02\_愒栚徠傟暁偟栚02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1788.ogg"

「～～～～っ、もうっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

グイッ！！

\

csp2 4

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒04.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うわっ！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに物凄い力で腕を引っ張られ、私は寝台の上に倒れこんだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1789.ogg"

「えいっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはすかさず私の上に馬乗りになる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……キリエ……？」

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚悓偄徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1790.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、トロンとした目で、私を見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が口を開いた瞬間……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_愒栚徠傟枮柺偺徫傒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1791.ogg"

「これでも飲みなさいっ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯儚僀儞拲偓01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どぼどぼどぼっ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

開いた口に……これでもかと赤ワインを注がれたのだった……。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ごほごほっ……キ、キリエ……！？」

\

\*L\_Replay15\_02

mov %Replay15\_02, 1

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして彼女は互いの肉体にワインをドクドクとかけると、私の上に覆いかぶさってきた。

\

bgm "music/nbgm08.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_愒栚悓偄徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1792.ogg"

「先生は口うるさいのよ……少し酔っ払うぐらいが、ちょうどいいのじゃない？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……私は酒があまり強くないのだが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_愒栚悓偄僯儎儕01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1793.ogg"

「ではもっと飲みなさい」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯儚僀儞拲偓01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どぼどぼどぼっ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは澄ました顔で言うと、私の顔面にワインを注いだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うっ！　わぷっ！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁02\_愒栚徠傟旝徫02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1794.ogg"

「ふふふ……おいしいでしょう？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは酔いに任せた魅惑的な笑みを浮かべて、私を見下ろしていた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

amsp2 4,400,220,100,100,0,255

lsph 30,":c;image/n13\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1795.ogg"

「はぁむっ……ちゅくっ……れりゅれりゅっ……んーっ……ぺろぺろっ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1796.ogg"

「んっ……おいひいわ……おちんちんも、ワインも……くすくす……いつもは臭いおちんちんも、今日はいい匂い……ちゅっ、ぷちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ワインに塗れた私のペニスを、キリエは美味そうに啜る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスだけでなく……下腹や、太腿、私の胸にまで、キリエは舌を這わせ、丁寧にワインを舐めとっていく。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1797.ogg"

「んっ、ちゅうっ……あぁ、いい匂いがするわ……先生の、牡のフェロモンと……ちゅっ！　ワインの芳香が、混じり合って……たまらない匂いだわ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1798.ogg"

「ちゅぱっ……れろれろれろっ……おいしいっ、んんっ……やっぱり、ブルゴーニュの、シャンベルタンね……ちゅうっ、れちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは熱心に男根を舐めながら、自分の女陰を私の顔に押し付けてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1799.ogg"

「せんせいもっ……はやく舐めなさいっ……ちゅくっ、れろれろっ……私のオマンコも、おいしいワインの味よ……ちゅうっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちは、寝台の上で自然と６９の形をとっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……確かにいい匂いだ……だが、ワインというよりは、潮の香りだな……ちゅうっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの艶やかな裂け目に唇をつけた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

たっぷりとワインがまぶされていたため、赤い液体が口に滴ってくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それはキリエの好む血液にも似て、女壺からワインが滴る様は、破瓜の瞬間にも似ていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「れるれるっ……ちゅるっ、くちゅっ……はぁっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は早くも酩酊しそうだったが、それはワインによるものだけではなく、彼女自身の濃厚な女の匂いのせいだったかもしれなかった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1800.ogg"

「あぁっ……先生、上手よ……んっ……オマンコ、気持ちよくなってきたわ……はぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女に促され、割れ目をなぞるように舐めていくと、奥からワインとは違うねっとりとした蜜が溢れてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……君の愛液がでてきた……ちゅっ！　ワインなんかより、こっちのほうが、ずっとおいしいよ……ぺろぺろぺろっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は夢中になってキリエの味を貪った。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1801.ogg"

「んっ……はぁっ！　せ、せんせいっ……そんなに、むしゃぶりつかないでよぉっ……は、はずかしい、じゃないっ……んんっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「恥ずかしがることはないだろう、おいしいんだから……ちゅうううっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は退こうとするキリエのふんわりとした尻を掴み、強引に膣口を舌で割り、こそぐように愛液を舐めとった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1802.ogg"

「あぁぁぁっ……あぁぁぁ～～～っ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのお尻や太腿が、漣のように震えだす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

早くも昂ぶってしまったのか、ビュッと飛び散った愛液で、しとどに顔が濡れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……自分だけ気持ちよくなるのではなく、私のことも気持ちよくしてくれ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は余裕の表情を取り繕って、キリエに快楽の催促をする。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1803.ogg"

「わ、わかってるわよ……そんなのっ……べ、べつに、まだ、イッちゃったわけじゃ、ないんだからっ……ちゅうっ、くちゅるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1804.ogg"

「せ、先生こそ、本当に私を、イカせてみなさいよねっ……ちゅううっ、れるっ、くちゅっ、ちゅぷるっ……れろれろれろっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、イカせてやるさ、すぐにな……ちゅるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1806.ogg"

「い、言ったわねぇっ……ちゅくちゅくちゅくっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しばらく私たちは、互いをイカせることだけに熱中した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

静まり返った部屋には、性器への接吻の音だけが響き、私たちが醸しだす熱気とフェロモンとワインの香りで、むせ返りそうだった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1807.ogg"

「ふふん……ちゅう！　先生の、ちんぽの先っちょから、我慢汁が溢れてきてるわよっ……れるっ、下品な味ねっ……ちゅっ、ワインとは大違いだわ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1808.ogg"

「すずぐちぃ、ぱくぱくして、何だかくるしそう……！　ちゅっ、れちゅっ！　イキたくなってきたんでしょう？　先生……ぷちゅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いやぁ、君こそ、おまんこの口がぱくぱくして、もう限界みたいじゃないか……ちゅくっ！　どんなに強がっても、オマンコは正直だぞ」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1809.ogg"

「そ、そんなことないわよ、嘘言わないでっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは否定するが、彼女のオマンコに慣れ親しんだ身の私に言わせれば、このヒクつき方は間違いなくオーガズムの前触れだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、おまんこの中がずっと震えっぱなしだ。自分でも気がついているんだろう？　れろれろれろっ！　ちゅうううっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1810.ogg"

「そ、そんなこと、ないってばぁっ……！　んくっ！　ま、まだまだ、いかないわ、よっ！　はぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、指を挿れて調べてみよう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は容赦なく、彼女の蜜壺に中指を刺し挿れた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずぶぅっ！！

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1811.ogg"

「あぁぁっ！！　あぁぁぁあぁぁぁぁーーーーーっっっ……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

びくっ、びくびくびくっ！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

長い悲鳴の後、背を弓なりに反らせて、彼女は簡単に到達した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら、イッたじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1812.ogg"

「ず、ずるいわよぉっ！　指使うのは、はんそくぅっ……！　ふぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絶頂の恍惚に震えているキリエは、恨めしそうではあったが、本気で怒っているいるわけではなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それどころか、トロンとした目は、私を切なげに見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「反則かね？」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1813.ogg"

「う、うぅっ……そうよ……だからぁ……指じゃなくて、お口で、して……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

甘えるように、しどけなく身体をくねらせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の貪欲な肉体は、まだまだ快感を求めているようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……ちゅっ！　くちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1814.ogg"

「んんんっ……！　おまんこペロペロ……きもち、いいっ……！　柔らかい舌で、クリトリスなめられるのぉ……すごく、かんじる……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1815.ogg"

「あぁっ……舌ちんぽ、いいっ……んくっ！　わたしも、先生を、気持よくしてあげるわね……ちゅぷるっ……くちゅくちゅくちゅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のクンニに対するお返しをするように、キリエは肉棒を根元までの見込み、舌先でレロレロとくすぐるのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……凄い、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1816.ogg"

「ちゅうっ！　いっぱい舐めてあげるっ！　ちゅぱっ……おちんちん、お口の中で、ちゅるるるっ！　いっぱいきもちよくしてあげるっ……！　ちゅぅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1817.ogg"

「んっ……せんせいの硬直ちんぽっ、私の舌になめられて、ちゅるっ！　ビクビク、ふるえてるっ……フフ、ちょっとかわいいわ……んちゅっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1818.ogg"

「かわいがってあげるわねっ……ぷちゅるっ！　わたしの、おくちで……じゅるるっ！　いっぱいナメナメして……涎もいっぱいつけて……ちゅるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1819.ogg"

「んふっ……ヌルヌルして、気持ちがいいでしょう？　れるれるっ……おちんぽぜ～んぶ、ヨダレまみれにしてあげるわ……んちゅぅぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはペニスを深く口中に飲み込み、涎をたっぷりと垂らして唇で扱いてくれる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「う、あぁっ……！　ちゅくっ……ちゅぷっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

射精感が高まるのを感じ、それを紛らわせようとオマンコに舌を伸ばすが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だ、だめだ……もう、イキそうだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

精巣に溜まった精液は、どうにも収まらず、今にも押し出されようとしていた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1820.ogg"

「いいわっ……イッて！　わたしもぉ……ちゅっ！　わたしも、またイクからぁっ！　ちゅるるるるっ！　れるれるれるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1821.ogg"

「キリエのおくちにだしてぇっ！　先生の生臭いせいえきっ……！　ワインと一緒に味わわせてぇっ……ちゅうううううううっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n13\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるっ！！　びゅくびゅくびゅくびゅくびゅく～～～っっ！！　ぶびゅるるるっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1822.ogg"

「んぶっ！！　んぶぶぶっ！！　ちゅううっ、くちゅるるるるぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの温かい口内に、それよりももっと熱い、私の愛の塊を迸らせた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1823.ogg"

「ちゅうっ！　んっ、おいしい……やっぱり先生の子種汁は、おいしいわ……んちゅるっ……おいしくて、私を、あつくさせるわ……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1824.ogg"

「もっと、んっ……飲みたいな……ちゅぷるっ……先生の、生のおちんぽじる……ちゅくっ！　れるれる……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは可愛く言って、いつまでも肉竿をしゃぶっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

お腹をすかせた猫がミルクを舐めるような、執拗な舌の刺激によって、私の男根は萎えることを知らなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……また勃起してしまう……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1825.ogg"

「いいのよ、何回でも勃起して……ちゅうっ！　私が、ちゃんと責任をもって、れちゅっ！　射精、させてあげるから……ちゅるるるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1826.ogg"

「先生の、ザーメンミルクはっ……れろれろっ、ちゅっ！　何時でも私が……んじゅうっ！　全部っ……飲み干してあげるわっ……ちゅくちゅくっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「随分嬉しいことを言ってくれるのだな……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1827.ogg"

「そうかしら……ちゅうっ！　素直な気持ちだけれど……れちゅれちゅっ……私、先生の精液、大好きだし……んんっちゅくるっ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1828.ogg"

「精液、のめるの、うれしいから……ちゅくっ！　だから、いっぱい出していいのよ……私がお口で、全部うけとめてあげる……ちゅるるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

始めの頃とは違う、キリエの優しい愛らしい態度……それが私を悦ばせ、胸をときめかせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口の中で、私の肉棒はますます力を持ち、その体積を増していくのだった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1829.ogg"

「でも、ちょっと味が薄くなったわね……もっとワインをかけましょう」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯儚僀儞拲偓01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どぼどぼどぼどぼっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自分の身体と私の身体に、豪快にワインを振り撒いていくキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

水のようにかけるので、身体中がびしょ濡れになってしまう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……キリエ、かけすぎではないか……！？」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1830.ogg"

「そんなことないわよ……ちゅるっ！　あぁっ、先生のちんぽ、もっとおいしくなったわっ……ちゅうっじゅるるるっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは笑って答えると、いそいそとペニスに舌を這わせる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もしかして……ワインを舐めたいだけ？　いや……そもそも、彼女もかなり酔っ払っているはずだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私への優しい態度も、酔いのせいだとも思えてきて、私は落胆の溜息をついた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1831.ogg"

「もう、せんせいも、なめるのよ……ちゅっ！　わたしのおまんこが、さびしがってるじゃないっ……れりゅれりゅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「わ、分かった……ちゅっ、くちゅるっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉の割れ目を顔面に押し付けられ、呼吸困難になりながらも、舌で彼女の蜜の出所を探った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅうっじゅるるるるっ、くちゅるっ、ちゅぷっ……！　れるれるっ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1832.ogg"

「あぁぁっ！！　愛液と一緒に吸い上げられるのっ、いいっ……子宮の中まで吸われそうっ……まんこのヒダヒダまでぇっ……ふぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はぶるぶると震えるキリエの尻たぶを両手で固定し、肛門にも舌を伸ばした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「れるれるっ……ん、こっちは少々苦い味がするな……ちゅばっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1833.ogg"

「あ、あぁぁっ……お、お尻の穴もなんてっ……んんんっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君の体の隅々まで、舌を這わせたいんだ」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1834.ogg"

「んんんっ……んぅっ！　すみずみまで、なんて、い、いやらしいわね、先生は……！　ちゅっ、れちゅっ！　お尻の穴を舐めて、悦ぶなんて、変態よっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「舐められて悦ぶ方は、どうなのかな？」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1835.ogg"

「も、もうっ！　ばかぁっ！　しらないっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥じらっているような口ぶりに反して、下半身はグイグイと押し付けてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

嫌がっているわけではない……ので、私はアナルの周辺を舌で丹念に愛撫しながら、膣内につぷっと指を差し挿れた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1836.ogg"

「きゃっ……きゃぅうぅぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こっちもして欲しいんだろう？　お預けされた犬みたいに、ヨダレがダラダラこぼれてきてるぞ……ちゅくちゅくっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は洪水状態になった蜜壺内に、指を一本、二本と増やしていき、アナルの皺をなぞるように舌でくすぐり続けた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1837.ogg"

「あぁっ、おまんこと、あなるぅっ……！　ゆびちんぽとっ、したちんぽでぇっ……！　ふぁぁぁぁ……っ！！　両方、おかされてるぅっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1838.ogg"

「う、うそぉっ……すごいっ……きもち、いいっ、ふたつのあな、いっぺんにされるのぉっ……いやぁっ……かんじ、ちゃうぅうっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは自分も負けじと、竿の根元を手で扱き、亀頭と鈴口にねちっこい口撃を加えてきた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1839.ogg"

「んちゅうっ！　や、やぁっ……く、くんにっ……されながら、ふぇらちお……んくっ！　む、むずかしいっ……んぁぁぁっ……れる、くちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1840.ogg"

「あ、あなるぅ、なめられる、とっ……んくぅっ……からだ、ふわふわ、ういてきちゃいそうっ……ふぁぁっ……ちゅううううっ、ちゅるっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは本当にビクビクと身体を浮かせ、私はその度にお尻をしっかりと掴み直さねばならなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「動くなキリエ、舐められない……！　れるれるっ」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_19.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_19.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1841.ogg"

「だってだって、んじゅるるるっ……きもちよくてっ……おまんこもおしりも、すごいからぁっ……じっとしていられないのぉっ……！　ちゅぅぅぅっ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1842.ogg"

「で、でも、先生のおちんぽだってっ……れりゅれりゅれりゅっ……びくびくちんぽでぇっ……ちっとも、じっとしてないじゃない……んちゅうーっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1843.ogg"

「わたしの、おくちのなかれぇ……ちゅるるっ！　あ、あばれて……んくっ、イ、イキたくなってきたんでしょうっ……んじゅうううううっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「き、君こそ、イキそうなんじゃないのかね……！　じゅぶじゅぶっ、ちゅぅぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達は、互いに限界なのは分かっているくせに、少しでも快楽を長引かせようと頑張っている、哀れな性の囚われ人だった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1844.ogg"

「あ、あぁぁぁっ……れ、れもっ、もう、らめかもぉっ……あぁっ、したちんぽれ、あなるなめなめもっ、ゆびちんぽれっ、おまんこずぼずぼもっ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1845.ogg"

「どっちも、きもちよしゅぎれっ……も、もうっ、ひぁぁぁぁぁぁぁぁぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体がガクガクと前後に揺れ始める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もう両手で尻を押さえても、彼女の発作を止められない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛液が激しくしぶき、もっと舐めろと言わんばかりに腰を振って、まるで私の顔でオナニーをしているみたいだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……私ももうダメだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの淫乱な動きに刺激され、私も動物的に昂ぶってしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私もキリエのように腰を振り、彼女の口をガボガボと下から突き始めた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1846.ogg"

「んぎゅっ！！　んぶぶぶっ！！　んんーーっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の歯茎や舌、口の中の柔らかな部分を突きまくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ピストンすると、彼女の手が竿に擦れ、唇が雁をめくり、亀頭が喉に当たり……頭の芯まで、ジーンと痺れるようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁぁっっ！　イクぞ……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1847.ogg"

「んぶぶっ……！！　イッへ！　せんせいっ……！　子種汁ぶちまけへっ……おなかの中まで、エッチなお汁で、どろどろにしてぇぇーーーーっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n13\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるるるるーーーーーーっっっ！！　びゅぐるっ！！　どくどくどくどくーーーっ！！

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1848.ogg"

「んぐぐぐっ！！　げほっ……ちゅるりゅりゅりゅりゅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの喉めがけて、精子たちを放流した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

喉奥に精液が当たり、キリエは一瞬苦しそうな顔をしたが、すぐにゴクゴクと飲み干していった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1849.ogg"

「んんっ、ちゅぷっ！　はぁっ……まったく、せんせいのおちんぽは、乱暴ちんぽなんだから……ちゅうっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「すまない、気持ちよくなってしまって、つい……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1850.ogg"

「いいわ……ちゅるっ！　ああいうのも、キライじゃないし……ちゅううっ！　はぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは寛大に言いながら、口からこぼれた精液を丁寧に舐め取っていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……それにしても、頭がフラフラする……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ワインのせいで酔ったようだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

元々酒が強くない私は、この程度の飲酒（？）でも、顕著に酔いが現れてしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女のような姿をしていても、齢３００歳であるキリエには、到底敵わないのだ。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1851.ogg"

「あら……先生？　顔が赤いみたい」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが私を振り返って、笑った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……少し酔ったようだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1852.ogg"

「くすくす……先生ってば……だらしないのね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1853.ogg"

「先生にはもっと……頑張ってもらわないと……ちゅくっ！　ちゅじゅぅうっ……くちゅぅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはやはりペニスから離れようとせず、三回戦に臨むつもりらしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は朦朧とした頭で、自分の輪郭さえもはっきりしない様な感覚に陥る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それでも、下半身の快感だけは強烈だった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1854.ogg"

「ちゅぱっ、ちゅくるっ……れりゅれりゅれりゅっ、ほらぁ、せんせい、おまんこ忘れてるわよ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……ちゅっ……ちゅばっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに請われるままに舌を動かす。が、もう舌には何の感触もない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

先ほどまで感じていたキリエの匂いも、むせるような熱気も、ぷりぷりとした性器の舌触りも、全てが消えていた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1855.ogg"

「ちゅううううっ……くちゅくちゅっ……あぁむっ！　んちゅるるるっ！　れちゅううっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスだけが、私から切り離されたように、熱く激しく燃え盛っていたのだった。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1856.ogg"

「んふぅっ……た、たしかに、わらひも、しゅこし……よっぱらってきたかもぉ……ちゅぶるっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

かくいうキリエも、少々呂律がおぼつかなくなってきたようだ。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1857.ogg"

「れ、れも……しゅこし、よ……ほんのしゅこし、ちゅうちゅうっ、ちゅぅぅうっ……わいんぐらいで、よっぱらう、きりえしゃまじゃらいのよっ……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1858.ogg"

「しぇんしぇいっ！　ちゅうううっ……！　わかってるんでしょーねぇっ……わらしは、よっぱらってらんか、いないんらからねっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、君……どうも酔っているようだが……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

酔ったキリエというのが、どうにも可愛らしく、私はつい笑みを漏らしてしまう。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1859.ogg"

「あぁっ！　わ、わらったわねぇっ、しぇんしぇいっ……ひ、ひつれいな、ひとねっ！　ちゅるるるっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1860.ogg"

「れ、れも、よくかんがえたら……おちんぽを口で吸うらんて、おかしなこういよねっ？　じゅるっ……らんだか、おかひくなってきたわっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……オマンコを舐めるのも、おかしいと言えばおかしいな……」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_24.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_24.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1861.ogg"

「ふふふっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くっくっくっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達はどうやら笑い上戸だったらしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

フワフワとした頭で、私たちはなんとなく笑い、それでも決してやめることなく、この行為に没頭していた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_22.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_22.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1862.ogg"

「ふふっ……おかしいけろっ、きもちがいいんだから、しかたがらいわねっ……ちゅううっ……れりゅれりゅっ、ちゅうっ！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_21.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_21.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1863.ogg"

「わらし、こうするの、しゅきよ……しぇんしぇいの、おちんぽ、なめなめしゅるの、らいしゅき……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1864.ogg"

「しぇんしぇいは……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「（ドキッ……！）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

うっとりと潤んだ瞳で見つめられ、心臓が早鐘のように鳴る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……好きだよ、君のオマンコもアナルも、ずっと舐めていたいぐらい好きだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は顔が赤くなるのを自覚したが、照れくさくて、心の中で酔いのせいだと言い訳していた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1865.ogg"

「ふふっ……らんだか、うれしいわ……らんでかしら？　ちゅうううっ、くちゅるっ、ちゅぷっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはクスクスと笑う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつになく、素直で可愛らしいのは、彼女も酔っているからなのか……それとも……。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1866.ogg"

「しゅっごくうれしくて……きもちよくて……なんらかもう、イッちゃいしょうなの……っ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体が痙攣を始め、思考が遮られる。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_23.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_23.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1867.ogg"

「あぁっ、らめっ、もうっ……い、いきそ……！　おまんことおけつまんこれっ、しゅっごく、いっちゃいしょうっ……！！　あぁぁぁぁぁぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……私もだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も彼女と同時にアクメに達しようと、勢い込んで腰を振る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

夢の中で動いているような、ひどくゆっくりとした動作になってしまったが……。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1868.ogg"

「んんっ！！　んぶぶっ、んぎゅっ、んぐんぐっ……！！　ちゅぅぅぅぅぅぅぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口内は、いきなり押し込まれたペニスを吐き出すでもなく、ねっとりと包み込んでくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1869.ogg"

「ぅぅんっ！　しぇんしぇいのっ、らんぼうちんぽっ！　んぐっ！　く、くるしいけろ、ゆるして、あげるっ……れるれるっ、ちゅううっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1870.ogg"

「しぇんしぇいのちんぽ、しゅき、らからっ……！　んっ！　んぐんぐっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1871.ogg"

「らから、おちんぽじる、いーっぱい、らしてねっ！　ちゅじゅーーーっ……！　くさぁいおちんぽエキス、い～っぱい、ほしいのっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1872.ogg"

「きりえのおくちのなかぁ、ちゅっ！　しぇーえきで、いっぱいにひてっ！　どろどろのこいやつをぉ……、ドピュドピュしひゃって！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ううっ……も、もう……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスを口いっぱいに頬張りながら、舌足らずに話すキリエが、可愛くてたまらない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

性技よりも、彼女の愛らしさにやられて、私は早々に限界に達した。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1873.ogg"

「イッへぇっ……！！　しぇんしぇいのおいしいざーめんみるくぅ……キリエに……！　キリエらけに、ちょうらい～～っ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n13\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュルルルッ！！　ビュブルルルルルルルーーーッッ……！！

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1874.ogg"

「んんんんんんっ！！　んちゅぅうぅぅうぅうぅううっっ……！！　じゅるるるるるっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはぎゅっとまぶたを閉じ、口の中に吐き出される精液の衝撃に耐えながら、全て喉奥で受け止めてくれた。

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1875.ogg"

「んんぅっ……ふぅ……れろれろっ、んちゅるっ！　あぁ……おいひい……うふ……あちゅくって、のうこうで……したにからみちゅく……はぁ」

\

lsph 30,":c;image/n13\_1\_27.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n13\_1\_27.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1876.ogg"

「あふ……しゅごい、たくしゃん……ふあぁ……もう、おなかが、いっぱい……ざーめんでぇ、たぷたぷぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそう言うと、寝台の上にぺたんと倒れてしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ……はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私ももう、今夜は打ち止めのようだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

疲れてしまったし……何より、頭がフラフラして……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私も、もう少し、酒に強くならなければな……」

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は小さく呟き、キリエのお尻を抱きしめるようにして……いつしか眠りの世界へと旅立っていた。

\

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1877.ogg"

「ん……？」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm02.ogg"

print 10,50

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁02\_惵栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁02\_惵栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1878.ogg"

「もう朝か……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは昨夜のしどけない姿のまま、寝台の上に身体を起こした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「お目覚めかな？　ご主人様」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_棁01\_惵栚徠傟捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1879.ogg"

「！　……先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を認めて、微妙な表情をする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少々頬が赤いような気がするのは……カーテンから漏れる朝の光のせいだろうか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おはよう、キリエ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚姶偠01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1880.ogg"

「お、おはよう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どことなくもじもじと……だが、キリエは挨拶を返してくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君、いつも朝食を食べないそうだが？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事の身振り手振りだけで、何とかキリエに関する情報を引き出していた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1881.ogg"

「え、ええ……そうだけど、何故……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「朝食代わりになるかどうか分からないが、よかったらこれを食べてくれ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、早起きして作ったワインゼリーを差し出した。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚嬃偒01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1882.ogg"

「えっ……これ……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私が作ったんだ。キッチンにゼラチンがあったし、ワインを使った料理で、君が気に入りそうなものが、他に思いつかなかったのでね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1883.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「大丈夫、アルコールは抜けているよ。酔っ払って学園に行くわけには、いかないしな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1884.ogg"

「どうして、これを作ったの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエは、ワインが好きだから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、いつも昨夜のように深酒をするのはどうかと思うし……これで代用できないかと思ってね」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1885.ogg"

「……私のために……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はは……下僕としては、これぐらいできて当然だ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1886.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、食べようとせず、じっとゼリーを見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうした？　食べたくないか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚姶偠01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1887.ogg"

「きれい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1888.ogg"

「とってもきれいな色だから、食べるのが、もったいない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ははは……また幾らでも作ってやるから、食べなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1889.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそれでもなお、ゼリーを見つめ続けていたが……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚僉僗01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1890.ogg"

「ぱくっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

とうとう、一口頬張った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうかね？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1891.ogg"

「うん……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟崲傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1892.ogg"

「おいしい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1893.ogg"

「ええ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは大人しく頷く。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟暁偟栚04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1894.ogg"

「あ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ん？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟崲傝02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1895.ogg"

「あ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟榖偟偐偗傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1896.ogg"

「あ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ……じゃ分からないぞ。ゾンビ執事みたいだな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟暁偟栚04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1897.ogg"

「あ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟暁偟栚03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1898.ogg"

「りがとう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁02\_惵栚徠傟嫨傃02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1899.ogg"

「ぱくぱくぱくっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは真っ赤になって……誤魔化すように猛烈な勢いでゼリーを食べ始めた。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが……私にお礼を言ってくれた……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あのキリエが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自動的に浮かんできた涙を、慌てて拭う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は嬉しくて……嬉しくて嬉しくて……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

遂にここまで来たのだと……あのキリエに感謝される日が、遂にやってきたのだと思うと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

抑えようとしても、どうしても感情が昂ぶってしまう私なのだった……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁02\_惵栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁02\_惵栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1900.ogg"

「ふぅ……ごちそうさま。とても美味しかったわ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁02\_惵栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1901.ogg"

「……でも、こんなに少しだけ食べると、かえってお腹が空いてしまうものなのね……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1902.ogg"

「ねえ、先生……お願いがあるのだけれど」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ううっ、ぐすっ……何だね？　何でも言いたまえ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

愛しいキリエの願いなら、たとえどんな事でも叶えてやりたいという気分になっていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟崲傝徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1903.ogg"

「貴方の血を、ほんの少し飲ませてもらえないかしら？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ勿論、好きなだけ飲みたまえ！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟榖偟偐偗傞01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1904.ogg"

「好きなだけ……？　いいの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ勿論、飲みたまえ！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_棁01\_惵栚徠傟枮柺偺徫傒02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1905.ogg"

「では……カプッ！！」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは美しく微笑みながら、私の首に勢い良く噛み付いてきた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚徠傟僉僗01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1906.ogg"

「ちゅうううううううううっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅ……愛するキリエの為なら、血ぐらいいくらでも……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚徠傟枮柺偺徫傒02.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1907.ogg"

「ちゅじゅーーーっっ！！　あぁ、おいひい！　じぇりーもおいひかったけろ、やっぱり、へんへいの血は、さいこう……ちゅくるるるっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚徠傟僉僗01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1908.ogg"

「ちゅーっ！！　んちゅぅうぅっ！！　じゅりゅーっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……何だか頭がクラクラしてきたのだが、そろそろ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚徠傟僉僗01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1909.ogg"

「ちゅうううううううっ……ぷちゅううううっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キ……リ……エ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_棁01\_惵栚徠傟僉僗01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1910.ogg"

「じゅるるるるるるるっ！！　ちゅうううううっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_red.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_red.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は気を失った。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

後日、目覚めた時にキリエに聞いた話では……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はまる二日間、目覚めなかったという……。

\

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0012.ogg"

「……先生、斧神先生！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_02妛墍嫵幒拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm11.ogg"

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

名前を呼ばれ、私はハッと目を覚ました。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……ここは、学園の教室か……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、壁に凭れかかったまま、いつの間にか眠ってしまっていたらしい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の前には、不審な眼差しを向ける、クラスの生徒達の姿があった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0013.ogg"

「もう、先生の授業は終わりました……次の授業が始まりますから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

学級委員長が、私を叱責するような口調で言う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

以前は、私を見る時に、目を輝かせていた生徒だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……そうか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女らに追われるようにして教室を出た。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0014.ogg"

「どうしてしまったのかしら、斧神先生……授業中に居眠りだなんて……この間なんて、二日間も無断欠勤をしましたし……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0008.ogg"

「最近おかしいわよね、何日も同じ服を着ていたり……あのオシャレな斧神先生とは思えない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0006.ogg"

「そうそう、いつもぼんやりとして、何か違うことを考えているみたいだし……授業もつまらないわ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0015.ogg"

「あんなに素敵な先生でしたのに……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0009.ogg"

「でも先生……最近いつも、篝ノさんのことを見ていると思わない？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｃ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josc0007.ogg"

「ええ？　篝ノさん？　……あの人って、きれいだけど、何だかちょっと怖くない？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ａ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josa0016.ogg"

「篝ノさんと先生が、何かあるとでも仰るの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【女子生徒Ｂ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_josb0010.ogg"

「そうじゃないけど、見てるのは確かよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_惂暈01\_惵栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1911.ogg"

「……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

lsph 30,":c;image/1\_03妛墍楲壓拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_03妛墍楲壓拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……疲れた……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体がだるい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここのところ、毎日放課後にキリエと過ごし、血や精液を吸われている私は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

日中とても疲れやすく、授業などにも全く身が入らなくなり……。

\

先輩教師からも、「しっかりしなさい」と注意されることが多くなっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……そんなことはどうでもいい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

仕事は終わった……早くキリエの家に行かなければ……。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

\*L\_Replay16\_02

mov %Replay16\_02, 1

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06枮寧1.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの家でディナーをご馳走になり、夜も更けて、ぼちぼち帰宅時間となっていた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_08僸儘僀儞壠怮幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では……そろそろ失礼するよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエに別れの挨拶をする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1912.ogg"

「もう帰るの」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1913.ogg"

「今夜も泊まっていけば？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここ何日か、私は自宅に帰っていなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエとの淫ら事に夜を費やし……そのまま朝まで眠ってしまう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

帰って着替える時間もないまま、学園へ……その繰り返しだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……いや、今夜は帰らないと……服も着替えねば……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1914.ogg"

「ゾンビ執事のシャツを借りれば？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……私は一流品しか身につけない」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1915.ogg"

「あら、彼等の服は全てエルメスよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ゾンビが着た服など着られるか！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1916.ogg"

「そう……では帰るの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1917.ogg"

「帰って、何をするの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……何も」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1918.ogg"

「一人の家に帰って、たのしい？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……楽しくはない、だが……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「明日の授業に、支障が出る……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1919.ogg"

「貴方、授業なんてやってて、たのしいの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1920.ogg"

「ずっとここにいても、いいのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1921.ogg"

「何故ためらうの？　私が好きなのでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……好きだ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……だが。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人間の、大人の生活というものは、こういうものではない。毎日きちんと仕事をこなし、遊びにも節度を持って、規則正しい生活をせねばならない。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚柊傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1922.ogg"

「先生って、お堅いのね……たまに貴方の考えていることが、分からない……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚僯儎儕01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1923.ogg"

「では、主人である私が命じるわ。泊まっていきなさい」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ふと、私はキリエを見つめた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1924.ogg"

「何よ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何故、そんなことを命じるのだ……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1925.ogg"

「い、いいじゃない！　私がいてって言ってるんだから、貴方は素直にそばにいればいいのよ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは顔を真赤にして、ぷりぷりと怒り始めた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟儉僢偲偡傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……君、私と一緒にいたいのか……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟儉僢偲偡傞04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1926.ogg"

「べつ、別にっ……そういう訳じゃないけれど……っ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚姶偠03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1927.ogg"

「貴方が、私と一緒にいたかったら、いてあげてもいいっていう……ただそれだけよ！」

\

bgm "music/nbgm07.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は幸福感で胸がはち切れそうになる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

疲れも、仕事のことも、何もかも吹っ飛んでいた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の中でキリエへの愛だけが、際限なく膨らんでいくのを感じていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は激情に任せて、キリエを抱きしめようとする。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚旝徫02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1928.ogg"

「ふふっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそれを、ひらりと避ける。

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あっ、何故避けるのだ？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚徫婄01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1929.ogg"

「うふふっ……捕まえてご覧なさいな」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「この……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエを背中から抱きしめ、そのまま寝台へ押し倒した。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠搢傟傞壒04.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚姶偠01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚姶偠01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1930.ogg"

「きゃっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はは……捕まえたぞ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1931.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はは……は……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1932.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

気分が高揚していた私に比べ、キリエはじっと黙ったままだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1933.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

只是，那瞳孔深处，在直勾勾地盯着我。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ど、どうした？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただ、その深い瞳で、私をまっすぐに覗き込んでいた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1934.ogg"

「……貴方こそ、どうしたの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「え……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1935.ogg"

「犯したいのでしょう、私を……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつになく……キリエは真剣な表情をしている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるで何かを……私に訴えかけてくるような……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1936.ogg"

「どうしたの？　犯したくないの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「無理強いはしない……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女の雰囲気に、少なからず気圧されていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1937.ogg"

「……いつも無理強いするじゃない……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……そうだな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女を見ていると……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はいつも、感情を抑えられなくなってしまう。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1938.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは逃げるでもなく……私の下で、仰向けになっている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、吸い寄せられるように、彼女に顔を寄せた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚姶偠01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1939.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは嫌がってはいない。じっとしている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「っ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、身体を起こした。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1940.ogg"

「どうかした？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1941.ogg"

「キス……しようとしたんでしょう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚暁偟栚02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1942.ogg"

「貴方って、意外と意気地なしね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……君は私を……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

『愛してはいない』と言えなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その事実を受け入れるのが、未だに怖いのか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、彼女に拒絶されるのが、怖いのか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1943.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、そんな私を静かに見つめているだけだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1944.ogg"

「……では、やめるの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1945.ogg"

「犯すの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「犯しはしない……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1946.ogg"

「……ではどうするの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は君を、愛したいんだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚暁偟栚01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1947.ogg"

「そう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは頷き、そっと着ているものをはだけ始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1948.ogg"

「愛するって、どうするの？　犯すのと、どう違うの……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1949.ogg"

「貴方は私を、愛してるから犯したのではないの？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚斶偟傒01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1950.ogg"

「貴方の言ってること、よく分からない」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……自分でも、よく分からないよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエとの関係を築く上で、やはり最初のステップを、間違えてしまったのだろうか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が間違えてしまったから、キリエに、私の気持ちが伝わらないのだろうか。

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1951.ogg"

「……きて」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達はまた、曖昧な関係のまま、身体を重ねる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体だけなら、これ以上ないほど近くにいる私たちなのに……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の心だけは依然として掴みどころがなく、霧の中をさまようように、どこにあるのさえ分からない私なのだった。

\

bgm "music/nbgm08.ogg"

lsph 30,":c;image/n14\_1\_098.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_098.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1952.ogg"

「ふぁぁっ……あぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅっ、ぷちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの胸を、丁寧に舐め始めた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつもより優しく、慎重に……触れるか触れないかぐらいのタッチで、先端を舌で愛撫し、乳輪をなぞっていった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_103.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_103.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1953.ogg"

「あ、あぁ……おっぱい……きもち、いい……ちくびぃ……はぅっ……やさしくされると、ちくび、かんじる……はぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1954.ogg"

「あ……んん……おまんこ、きゅんきゅんしてきちゃうぅ……はぁぁ……あいえきが、でて……おまんこ、ぬるぬるに、なっちゃうぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの期待に応えようと、乳首を舐めつつ、性器にも手を伸ばした。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

lsph 30,":c;image/n14\_1\_105.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_105.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1955.ogg"

「ふぁっ……あぁっ！　お、おまんこにも、指ぃ……き、きもちいい……はぁぁ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……すごく濡れてる……ちゅっ、手がヌルヌルと、滑っていくよ……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_103.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_103.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1956.ogg"

「んっ……ちくびも、おまんこも、きもちいいからぁ……おまんこヌレヌレになっちゃうぅ……恥ずかしいぐらい、愛液ビショビショになるぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恥じらうように身をくねらせるが、びしょ濡れの蜜壺は、ぬるぬると滑って、指を簡単に奥まで到達させる。

lsph 30,":c;image/n14\_1\_105.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_105.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1957.ogg"

「あぁぁっ……！　おまんこに、ゆび、はいってきたぁ……！　あっ、あぁっっ……ゆびちんぽ、きもちいい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

雪のように白い肌を桃色に染め、汗を浮かせて快楽に浸るキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

冷たい美貌が、私の手によって、どんどん火照り、花開いていく……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「可愛いよ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は刻々と変わっていくキリエの表情に見とれながら、顔を寄せて耳元で囁いた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_102.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_102.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1958.ogg"

「んぁっ……わ、わたし、かわいい、の……？　あふっ……んっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、可愛いよ……君ほど可愛い少女は、この世に存在しない……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_097.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_097.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1959.ogg"

「んくっ！　はぁっ……そ、そうなの……？　ふぁっ……な、何だか、うれしいかも……あぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1960.ogg"

「先生に、かわいいって、いわれると、何だかうれしい……はぁっ、あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の方こそ、彼女を言葉を聞いて、踊りだしたいくらいに嬉しくなる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「かわいいよ、キリエ……君が可愛くてたまらない……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その嬉しさをどうやって伝えていいのか分からず、私は『可愛い』と繰り返すのだった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_103.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_103.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1961.ogg"

「あぁ……先生、私、もう……ほしくなっちゃった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1962.ogg"

「先生の、おちんぽ、挿れてほしい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あぁ……今夜の彼女は、どうしてこんなにも、素直で可愛らしいのだろう……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もう、挿れていいんだね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は胸が苦しくなり、今にも泣き出しそうだった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_105.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_105.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1963.ogg"

「早く挿れて……はやく……おちんぽ、もう待てないの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……分かった」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自らその細く美しい脚を開くキリエに、肉棒を差し挿れる。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

にゅちにゅちにゅち～～～っ！！

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_012.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_012.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1964.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスが挿入された瞬間、キリエは、甘く切ない声を上げた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_008.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_008.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1965.ogg"

「はいってる……先生のおちんちん……私の中に……全部……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1966.ogg"

「あぁ……先生のおちんぽは、どうしてこんなに、きもちいいの？　ただ、おまんこに、いれてるだけなのに、どうして……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のオマンコも、最高に気持がいいよ」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_007.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_007.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1967.ogg"

「そ、そう？　ふふ……変なの。そんな風に言われると、なんだか、くすぐったい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

潤みきった瞳で、キリエは私を見つめる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いつも言っているじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_012.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_012.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1968.ogg"

「そうね……でも、今日は何だか、嬉しいの……んっ、あぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

欲情に染まった頬が、人形めいた肌を人間らしく彩る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

冷酷なヴァンパイアであるはずのキリエだが……今夜の彼女は、私の腕の中で甘える、かわいい女の子でしかなかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、キリエ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は感情を抑えきれず、荒々しく腰を動かす。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_008.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_008.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1969.ogg"

「あぁぁっ！　先生のおちんぽっ、はげしいっ……！　ぶっといのが、おくまで、はいってっ……！　あぁっっ！　ふぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の動きに、キリエは慣れたように合わせてくれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

下から腰を突き上げ、くねらせ、両足を私の背中で交差させて、グイッと引き寄せてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

息のあったその抽送が、私を益々昂らせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエと私は、お似合いだ、感じる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肌が合うとは、私とキリエのためにある言葉だろう。皮膚も、性器も、粘膜も、何もかも。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、気持ちがいい、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_012.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_012.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1970.ogg"

「私もぉっ……わたしも、先生のちんぽ、きもちいいっ……これすきぃ……！　先生のちんぽ、好きっ……先生と、せっくす、するの、すきっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私も好きだ……ずっとこうしていられるなら、死んでもいい……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_016.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_016.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1971.ogg"

「じゃあ、ずっとこうしててぇっ……！　キリエのオマンコの中に、ずぅっとビンビンチンポ、挿れっぱなしにしてぇっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_008.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_008.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1972.ogg"

「んぁぁっ……ずっとちんぽ挿れてたいのぉっ……！　先生のちんぽっ……朝も昼も夜も、ずーっと……！　ずっとおまんこしてたいのぉっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1973.ogg"

「オマンコ気持よくて、ぬれぬれで……！　先生のちんぽ、挿れられると、こうなっちゃうのぉっ……おまんこ洪水になっちゃうのっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私もだ……！　君とセックスしていると、いつまでも勃起してしまう……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_014.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_014.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1974.ogg"

「あぁんっ、先生っ……ずっと勃起しててぇっ……！　先生の勃起ちんぽ、すきぃっ……！　ぼっきちんぽで、おまんこグサグサしてぇっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このままずっと続けたい……それは偽らざる真実なのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

悔しいことに、腰裏にたまらない射精感が疼きだしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……気持よすぎて、駄目だ……イキそうだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は情けない声を出して、射精感を忘れるためにピストン運動を止めた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_006.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_006.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1975.ogg"

「あぁぁっ、だめぇっ……やめちゃ、だめぇっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、キリエは私の休憩を許さず、下からグイグイと強引に腰を振ってくる。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_008.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_008.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1976.ogg"

「だめっ、やめちゃ、だめぇっ、おまんこ、きもちいいのっ、やめちゃ、だめっ……！　あぁぁっ、あぁぁぁんっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは泣きそうな顔で、汗とフェロモンを飛び散らせ、さかんに淫らなダンスを踊る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うあぁっ……キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここまでされたらたまったものではない。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私も突き動かされるように抽送を再開した。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_010.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_010.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1977.ogg"

「あぁぁんっ！　おちんぽっ、ガンガンくるの、いいっ……！　しきゅうに、突き刺さってるぅっ……！　ふかいのいいっ、きもちいいっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ、だめだ、イク……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

悦ぶキリエをがっかりさせそうで申し訳なかったが、この尿意にも似た衝動には、耐えられそうもなかった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_014.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_014.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1978.ogg"

「じゃあ、イッて……！　おまんこに、せいえきドバドバしてぇっ……！　キリエのすきな、先生の子種汁っ……たくさんだしてぇぇっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n14\_1\_028.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_028.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぶびゅっ！！　びゅるるっ！！　びゅぐるるるる～～～っっ！！

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_032.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_032.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1979.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーーーーっっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快美感が、ゾクゾクと肛門からペニスの先まで突き抜ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

意識を失いそうなぐらいの強い快感で、放出するたびに頭の先まで痺れた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_030.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_030.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1980.ogg"

「あぁぁっ……いっぱいでてるぅ……おまんこのなかに、ザーメンミルク……おちんちんから、どくどく、でてるぅ……ふぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1981.ogg"

「あついの、きもちいい……はぁぁ……おまんこ、とろけそう……ふぅぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

熱い液体と粘膜に包まれた私の肉棒も、どろりと溶けて無くなってしまいそうな気がした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁぁ……キリエ……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_026.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_026.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1982.ogg"

「んっ……先生……はぁっ、あぁっ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

顔を見合わせて、どちらからともなく動き出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

抽送していくと、ドロリと形がなくなっていたペニスが、また硬く、大きく反り返り、形を取り戻していく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの蜜壺も程よく締め付け、吸引を繰り返し、私の勃起を鼓舞していた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_025.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_025.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1983.ogg"

「あぁっ、オマンコの中でっ、また、おおきく……！　極太おちんちんで、やわらかまんこ、はりさけそうっ……はぁぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_030.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_030.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1984.ogg"

「あぅぅ……巨根ちんぽ、きもちいい……！　おまんこパンパンに、やぶけそうなくらい、拡げられるの、きもちいいっ……！　ふぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1985.ogg"

「先生チンポっ、いいよぉっ……きもちいっ……キリエの、ふかいところ……からだの、おく、までぇっ、きもちよくしてるぅっ……あぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

シーツの上で身体を反り返らせるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それが快感の表現なのだと知って、私の快感もまた深くなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の感じている様を見るだけでも、私は愉しい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の悦ぶ顔を見るだけで、私は……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、気持ちがいいか？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_034.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_034.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1986.ogg"

「うんっ……！　おく、おくぅっ……しきゅうがっ、ちんぽの先っちょ、しきゅうに当たって、つき、ささって……きもち、いいっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、更にキリエの興奮を高めようと、奥ばかり狙って突き始めた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_026.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_026.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1987.ogg"

「あぁぁぁーーーーーっっ……！！　しきゅうまんこっ、じーんて、おくまで、ひびいてぇっ……からだじゅう、びりびりっ、はぁぁぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1988.ogg"

「おまんこもっ、つまさきもぉっ、しびれてぇっ……！！　しゅごっ、しゅごい……！　こんなの、感じ、すぎぃっ……ふぁぁぁーーっ……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_028.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_028.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1989.ogg"

「お、おまんこ、ふるえっぱなしでっ、なんだか、こわいっ……こわいのぉっ……おまんこ、どうにかなりそうでっ……あぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快感の大きさに震えるキリエを、動かないようにしっかりと抱きしめる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、子宮底を狙って亀頭を叩きつけた。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんぐちゅんぐちゅんっっ！！

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_032.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_032.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1990.ogg"

「あぁぁぁっ、あぁぁぁっ、あぁぁぁぁっ……あぁぁぁぁーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の腕の中から逃れようとするが、私はそれを許さず、更にきつく抱きしめ、鋭角に腰を使う。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_028.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_028.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1991.ogg"

「あぁぁんんっ、らめっ、そんなっ、しげき、つよしゅぎぃっ……はぁぁっ！　やぁっ、らめらめっ……これいじょう、おまんこっ、らめっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1992.ogg"

「こんなっ、のっ……ビクビクマンコッ……らめっ、あいえき、ドロドロになって、きもち、よしゅぎてぇっ……！　おまんこ、こわれ、ちゃうっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_032.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_032.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1993.ogg"

「お、おまんこ、こわさないれっ……！　おまんこ、こわれたらぁっ、も、もう、せんせいとっ……えっち、できなくなっちゃうぅぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「壊れはしないよ、キリエ……まだまだ何回でもできるから……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエが何気なく漏らした『先生のエッチできなくなっちゃう』という言葉に、胸を熱くさせる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、私とまた『エッチ』をしたいと思ってくれているのだと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その言葉を聞いたら、益々キリエを、感じさせたくなってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「大丈夫だから、もっと感じていいんだ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_036.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_036.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1994.ogg"

「ふぁぁぁーーー……っ、うそ、うそおぉっ……オマンコッ、こわれっ、こわれるぅっ……あぁぁぁぁっぁぁぁぁっぁっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実際に、そこまで激しく乱暴に抽送したわけではない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、感じすぎたキリエには、蜜壺が壊れるかと思うほどの衝撃だったのだろう……。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_027.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_027.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1995.ogg"

「あぁぁぁぁっぁっ……らめっ、もうっ、いぐいぐいぐいぐいぐいぐいぐいぐいぐぅぅうぅぅっっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっっ、キリエっ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣内が、急に男根にへばりつき、ギュウッと引き絞ってきたかと思うと……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁぁっ、あぁぁっっ……！？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_032.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_032.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1996.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁああぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーっっ……！！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n14\_1\_050.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_050.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドビュルルルッ！！　ビュビュビュビュビューーーッ……！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

絞り取られるようにして、一瞬で、私は精液を失っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ハァッ、ハァァッ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何が起こったのかと、確認する間もなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

壮絶な締め付けに襲われた直後、一気に抜き取られていた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_047.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_047.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1997.ogg"

「あぁぁぁぁ……またおちんぽ汁、あふれてるぅ……はぁぁ……おまんこから、ぼたぼた、おちちゃって……んぁぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……すごいおまんこだ……はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

驚きのあまり、中々息が整わない私だった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_043.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_043.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1998.ogg"

「はふぅ……もう、おまんこ、だめになるかと思っちゃった……先生ちんぽ、らんぼうだから……はぁぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そんなに乱暴にした覚えはないのだが……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_102.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_102.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri1999.ogg"

「だって、感じすぎちゃって……すごかったんだから……もう、先生の、ばか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の首に腕を回し、猫のように頭を擦りつけてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いや……恋人のように、と言うべきか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女に応えるように抱き寄せた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君のおまんこは、もうだめになってしまったのかね？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_103.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_103.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2000.ogg"

「ん……ううん……まだ大丈夫……まだできるの……おまんこ、できるから……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの声は小さく掠れている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

おとなしく私に抱かれている彼女が、愛おしくてたまらない……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、もう一度……？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_100.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_100.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2001.ogg"

「うんっ……もう一度、先生のおちんちん、キリエのオマンコで、感じさせてっ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

今度は焦らず、緩やかな動きで腰を揺らす。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_103.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_103.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2002.ogg"

「あぁぁっ……あんっ……あんんっ……はぁっ……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_048.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_048.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/僘乕儉傾僂僩\_僄僋僗僥.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

波のように……快感が寄せては返す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの喘ぎ声も、耳元で大きくなり、また遠ざかる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

優しすぎる程のゆっくりとした抽送は、そのまま私とキリエの心を表しているようだった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_044.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_044.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2003.ogg"

「んんんっ……すごい、ゆっくりだと、おちんちんの、形とか、大きさ……おまんこで、はっきりわかっちゃう……あぁっ……あぁっ……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_043.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_043.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2004.ogg"

「んふふ……こういうのも、えっち……かも。じれったいぐらいなのも、きもち、いい……はぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は乱暴にはせず、角度を変えて挿入したり、腰を回してみたりして、キリエの反応を確かめる。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_047.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_047.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2005.ogg"

「あぁっっ、やっぅううんっ……い、いやらしい、うごきっ……はぁっ……そ、そんなに、おちんぽ、ねっとり動かさないでぇっ……ふぁぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちよさそうに見えるが……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_051.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_051.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2006.ogg"

「うぅんんっ……き、きもち、いいけどっ……はぁんっ……ん、んっ……おまんこのかべ、くすぐるみたいな動きかたぁ……か、かんじ、ちゃうからぁっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「感じるなら、いいのだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_048.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_048.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2007.ogg"

「んっ、んんんっ……！　れもっ、また、イキたくなっちゃうからぁっ……イキっぱなしマンコになっちゃうからぁっ……あぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「なら……何回でもイケばいい……私は、君が満足するまで、付き合うから……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_044.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_044.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2008.ogg"

「な、何回でもっ……！？　あはぁっ……うぅうっっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……何回でもだ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_048.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_048.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2009.ogg"

「あぁっぁっ……！　やぁぁっ……オマンコゾワゾワしてっ、が、がまんっ、できなく、なってきたぁっ……あぁぁーーーーっっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの腰の振り幅が大きくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭や雁に擦りつけるように、膣粘膜を締め付け、グイグイと揺さぶってくる。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_052.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_052.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2010.ogg"

「あぁぁっ、おまんこ、こすりつけちゃうぅっ！　おちんぽに、ゴリゴリッ……！　ふぁぁっ……もう、ゆっくりなのじゃ、だめなのぉっ……あぁぁっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、どうしたいんだ？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_050.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_050.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2011.ogg"

「んぅぅーーっ……ガンガンやってぇっ……！　らんぼうに、犯してぇっ……おまんこのおくまでっ、ちんぽで、ふかく、つきさしてぇぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「乱暴にするのは、ダメなんだろう？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私がわざとゆっくりピストン運動を行うと、キリエは痺れを切らしたように、交差させた脚で強く揺さぶってくる。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_052.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_052.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2012.ogg"

「もうっ、ゆうづうのきかないひとねっ……！　イ、イキたいって、言ってるでしょうっ……！？　わからないのっ……！？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_046.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_046.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2013.ogg"

「たくましいちんぽほしいのっ！！　ぶっといちんぽっ！　ビンビンちんぽっ！　おくまで挿れて、よがらせてよぉっ……！！　あぁぁーーっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……キリエ……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

下から激しく突き上げてくるキリエに合わせて、私のピストンも加速度を増す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉と肉が痛烈に擦れ合い、ぐちゅぐちゅという生々しいセックスの音が頭に直接響いて、肉棒の感度を上げていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

穏やかな抽送でも、いつしか興奮は高まっていたのだろう。私の方も昇り詰めるのはあっという間だった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_049.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_049.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2014.ogg"

「あぁぁーーっ……おまんこっ！　おまんこ、またいぐぅうぅっ……！　イッていいんでしょ？　またマンコイッて、いいんでしょっ……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……イキたまえ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_046.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_046.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2015.ogg"

「いくぅっ、いくいくっ……！！　先生のおちんぽでっ、いっちゃぅうぅぅうぅぅぅっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が頷くと、キリエは安心したように微笑み、身体を引き攣らせて痙攣した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イク、私も、イクぞ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n14\_1\_063.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_063.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるるるるーーーーっっ！！　びゅるるるるるるっ！！　どくどくどくどくっ！！

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_067.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_067.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2016.ogg"

「んあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁああぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

三度目とも思えない大量の精液が、キリエの膣内に撒き散らされる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣襞は精液を吸い上げようと蠕動するが、それでも吸い切れないザーメンが逆流し、ごぽごぽと膣口からこぼれ落ちていた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_066.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_066.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2017.ogg"

「あぁぁぁぁ……あつい、せんせいの、おしるぅ……あかちゃんの、もとぉ……はあ、はぁ……あついよぉ、やけどしそうぅ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「大丈夫か、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは三回もの性交を重ねてさすがに疲れたのか、ぐったりとして枕に頭を沈ませていた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_062.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_062.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2018.ogg"

「ん、はぁ……だい、じょうぶ……おまんこ、まだ大丈夫……はぁ、はぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まだ満足しないのかね？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_060.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_060.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2019.ogg"

「うん……満足しない……もっともっと、せんせいと、したいの……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、上目遣いで、すがるように、私を見た。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私と……？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_061.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_061.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2020.ogg"

「そうよ……先生と、したいの……せんせいのちんぽで、オマンコかき回されたいの……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_062.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_062.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2021.ogg"

「だめ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体は、疲れきっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恐らく、もう満足しているはずだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが、心が、満足していないのか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだ、私を求めるというのか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だめなものか……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は彼女をきつく抱きしめ、腰を進ませた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私自身、三度の交合で肉棒がひりつき始めていたが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体など、ボロボロになってもいい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエとの性交以外に、私の人生で大切なものなど、何もなかった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_063.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_063.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2022.ogg"

「あぁぁっ……また、ちんぽきたぁっ……あぁっ……あぁぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは悦びの声を上げ、身体をいじらしくくねらせた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_067.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_067.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2023.ogg"

「んんっ……先生の、すごい、まだ、こんなに、硬くて……太くて……くふっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_062.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_062.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2024.ogg"

「はぁっ……先生のちんぽ、おおきすぎるからぁ……わたしの、おまんこ、すごく、ひろげられてぇっ……ゆるく、なっちゃいそうっ……んんっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「大丈夫、君のはすごくキツイよ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスが粘りつく本気汁を掻き分けると、傘の部分が引っかかり、ずりゅっずりゅっと音を立てる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヒダヒダが竿や裏筋を擦り上げ、巾着のような穴全体が、肉棒を押し潰そうと締め上げてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キツくて、気持ちよくて……最高だ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_061.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_061.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2025.ogg"

「んんっ……先生の、おちんちんも、最高……！　さいこうに、きもち、いいっ……！！　あぁぁっ、くうぅうぅんんっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_067.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_067.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2026.ogg"

「あぁっ……ま、また、きもちよく、なっちゃうぅっ……きもちよすぎてぇっ、からだ、びくびく、してきちゃうのぉっ……！　ふあっぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では、もっと気持ちよくしてやろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、いかにも摘んでほしそうに、ぷっくりと硬く膨れ赤く色づいた乳首を、お望み通りきゅうと摘んだ。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_106.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_106.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2027.ogg"

「ひぁぁぁぁぁぁんんっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体がビクンビクンと跳ね上がり、上にいる私にぶつかる。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_103.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_103.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2028.ogg"

「あ、あ、あ、ああぁぁ……ち、ちくび、ふいうちぃ……ふぁぁぁ……くふんっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頬を紅潮させ、泣きそうな目をして私を見るのが、たまらなく可愛らしい……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「どうした？　乳首を触っただけで、そんなに感じるのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は少々意地悪な気持ちになり、両手でコリコリと尖った先端を弄んだ。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_104.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_104.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2029.ogg"

「あ、あぁぁぁっ……かんじる、かんじるぅっ……！　ちくびすごいっ……ぜんしん、びりびりって、かみなりに、うたれたみたい……はぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こうするとどうかな？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は摘んだ乳首を、痛くない程度に引っ張り上げた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_106.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_106.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2030.ogg"

「んあっぁっ……ちくびぃ、そんなにひっぱるとぉ、とれちゃうぅ……ふぁんっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……可愛いな、食べてしまいたい……はむっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は遂に乳首を口に含み、わざとレロレロと音を立てて舐め上げた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_105.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_105.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2031.ogg"

「んぁぁぁっ！　あぁぁっ！　え、えっちな音させて、先生が、しゃぶってるぅっ……！　わたしのおっぱい、ちくびぃっ……ぺろぺろしてるぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2032.ogg"

「あぁっっ、や、やらしいよぉ……やらしい舐め方ぁ……んうっ！　ぐちゅぐちゅ、よだれいっぱいつけて、わたしのおっぱい、よだれまみれぇ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは全身に汗をびっしょりとかき、目を閉じて、全て私の思うままになっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

身体はグッタリとして、まるで力が入っていない。感じすぎてしまったのか、声もうわ言のように弱々しかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ちゅっ！　ちゅばっ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は強く乳首を吸い上げながら、同時に深くピストンした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんっ！！

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_064.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_064.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2033.ogg"

「あぁぁあぁ～～～っっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くぅっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

亀頭の先端が子宮底にめり込み、腰裏からつま先までジ～ンと快感が伝う。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_072.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_072.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2034.ogg"

「だ、だめぇ……ちくびも、おまんこもなんてぇっ……きもちよすぎなのぉっ……だめぇっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも今の一撃で相当感じてしまったのか、愛液がぴゅっぴゅっと股間でしぶいていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ダメと言われても、もう止まらない……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

完全に発情してしまっているキリエを、こんなに近くで見せつけられては、私の男根も抑えが効かなくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤黒く、これ以上は無理というレベルまで勃起しきったチンポを、これも真っ赤に充血しきった肉壷に、グチュグチュと押し込んでいく。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_068.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_068.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2035.ogg"

「あぁぁぁーーーーーっっ、ああぁぁあぁーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

肉槍で刺し貫きながら、膨らんだ乳首を甘噛みすると、キリエは甘く切ない声で泣いた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_067.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_067.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2036.ogg"

「あぁァっ、キリエも、もう、っ、むりっ……んくぅぅっ！！　いっひゃうっ、いっひゃうぅうぅぅうっっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの襞肉が一斉に蠢き、私の精液を搾り取ろうと活動を始める。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぁぁっ、私もイク……イクぞ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

柔らかな襞のはずなのに、手の平でギュッと握られたように男根が圧迫され、私は最後の悲鳴を上げた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_068.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_068.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2037.ogg"

「いってぇぇぇっ、イッてイッてイッて！！　キリエの中でいってっ！！　おまんこでイッてっ……！！　いっぱい中出ししてぇぇぇっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n14\_1\_082.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_082.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュグッ！！　ドビュルルルルルーーッッ……！！　ビュクビュクビュクッ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2038.ogg"

「あぁぁぁあぁぁぁあっぁっっ……！！　あぁぁーーーーっ……！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、大量の精液を中出しされ、私の腕の中で小鳥のように震えながら、自らもオーガズムを迎えた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_081.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_081.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2039.ogg"

「あぁぁぁっ……はぁ、はぁ、はぁっ……！　おまんこ、じゃーめん、たぷたぷっ……はぁっ、はぁっ……あぁぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、射精されたことに気づいているくせに、まだ未練がましく下から腰を突き上げてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……まだ、か？」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_079.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_079.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2040.ogg"

「んっ……何回でも、つきあって、くれるんでしょう……はぁっ、あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそう言って、萎え気味の逸物を膣肉で扱き立てる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエのいじらしい努力によって、私の肉棒は力を取り戻していく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の肉と粘液によって、揉まれ、愛撫されたペニスは、いつしか彼女の肉を引っ掻き、深く貫いていた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_085.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_085.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2041.ogg"

「あふっ……！　おおきく、なってるぅっ……おちんぽっ、あぁっ、また奥までっ……きもちいいとこ、届いて、るぅっ……はぁっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_088.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_088.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2042.ogg"

「やぁっ……チンポの傘でぇっ、ひっかかれるの、いいっ……ふぁぁっ！　ひだひだがぁっ、チンポ好きって、よろこんでるぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……襞が絡みついて、ペニスを離してくれないよ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_079.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_079.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2043.ogg"

「うぅんっ……！　はなさないっ……オマンコ肉がぁ、ぶっといちんぽ、絶対離さないってぇっ……あふっ、しがみついてるのぉっ……！　んぁぁっ！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_080.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_080.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2044.ogg"

「おちんぽぉ……離さなくていいんでしょう？　ずっと、キリエのマンコに、挿れてて、いいんでしょう？　んはぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……いいよ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_079.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_079.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2045.ogg"

「あぁんっ……！　うれしいっ、ちんぽっ、きもちいいからぁっ……ひぁんっ！　ず～っと、おまんこ、きもちよくしてねっ……はぁぁんっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_080.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_080.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2046.ogg"

「先生の、素敵なチンポでぇっ……ずっとずっと……キリエのオマンコ、きもちよくしてぇっ……あぁぁぁっ……あぁっっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちいいかね？　キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の首筋に舌を這わせ、乳首を指で弄ぶ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

薔薇の香りと、野性的なフェロモンが私の鼻をくすぐる。汗の浮いた肌を一舐めすると、少し塩辛い彼女の味が、口腔内に拡がった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_084.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_084.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2047.ogg"

「うん……！　すっごく、きもち、いいっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

胸や首筋を愛撫すると、彼女は素晴らしい反応を見せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

膣襞が男根を締め付けるように、キリエは私に抱きつき、脚を絡ませ、首に腕を回し、甘えるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_079.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_079.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2048.ogg"

「う、うれしいっ……先生のぼっきちんぽ、また、私を、きもちよくしてくれるっ……はぁっ、うれしいっ……あぁぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2049.ogg"

「先生のおちんちん、おまんこに入ってるの、うれしいっ……おちんぽ大きくして、わたしに、こうふんしてくれるの、うれしいのっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2050.ogg"

「わたしのなかで、きもちよくなって……！　そうしたら、わたしも、もっともっと……きもちよくなれるからぁっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……何故そんなに、優しいことを言ってくれるのだ……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は自分の耳を疑う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あの、キリエが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私を、下等生物と見下し、汚らわしいと蔑み、食料だと断言していたキリエが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私と性交することが嬉しいと……私に気持ちよくなってほしいと……。そんなことを口にするなど……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

天地がひっくり返っても、あり得ないことだったはずなのに……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何故なんだ、キリエ……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まさか空耳ではあるまいか、と……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、むきになってキリエに問いかけた。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_080.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_080.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2051.ogg"

「な、何故って……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは一瞬戸惑った顔をした後……。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_079.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_079.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2052.ogg"

「私……先生のちんぽが、すき、だから……！　せんせいと、エッチするの、すき……だから……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の目を真っ直ぐに見つめて、そう答えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2053.ogg"

「せんせいのちんぽ、すきっ……！　わたしを、きもちよくしてくれるからぁ、だいすきっ……！　だいすきなのぉっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

胸を、温かい槍で貫かれたような衝撃があった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが、好きだと言ってくれた……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私とセックスするのが、大好きだと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

じわじわと身体中に幸せが広がる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

幸福感が薄いシャボン玉のように私を包み、そのままフワフワと空へ浮かべそうな心地だった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_080.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_080.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2054.ogg"

「先生っ……もっと強く、抱きしめてっ……！　私を、ぎゅっとしてっ……！　ぎゅっとされるのも、好きなのぉっ……きもち、いいのっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「こうかね……！？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は両腕で、きつく彼女を抱き寄せた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

胸と胸がくっつき、私たちの距離がなくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心の距離まで……なくなったように思えた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……キリエ……私も君が好きだ……大好きだ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

叫ぶように、キリエに告げる。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_077.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_077.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2055.ogg"

「うれしいっ……せんせいっ……私、先生に好きになってもらえるの、うれしいのっ……！　うれしくて、よけい、感じる……はぁぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも、喜んでくれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に、脚を開き、心も開いてくれているのだ……！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、好きだ……キリエ！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒03,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

知らず知らず、腰の動きが速くなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

このまま、この幸せな気持ちのまま、イッてしまいたい……！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスも、情欲も、恋心も、何もかもキリエの中に溶け込んだまま……。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_089.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_089.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2056.ogg"

「ふぁぁっっ　しゅ、しゅご、いっ！　こんなに、はげしく、されたらっ……あぁっ　も、もうっ……イ、イクゥッ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_086.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_086.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2057.ogg"

「またイッちゃうっ　先生チンポでっ　またっ……！　大好きな先生のおちんぽでっ、いっちゃうぅうぅっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私も、大好きな君のオマンコで、イクよ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勃起の先端へと突き抜けるような射精感が、耐えがたくなる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの蜜壺も、私が今まで感じた中でも、一番のざわめきと気持よさで、絶頂へと導いてくれるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_082.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_082.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2058.ogg"

「イッて、せんせいっ……！　キリエのオマンコの中で、いっぱいきもちよくなってぇっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2059.ogg"

「せんせいの、おちんちんっ……オマンコに射精してくれたらっ、キリエ、うれしいっ……！　きもちよくなってくれたら、うれしいのっ……！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_086.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_086.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2060.ogg"

「だからいっぱいオマンコに出してっ……！　子種汁っ　せんせいの、赤ちゃんのもとっ　ほしいのっ……おまんこにほしいのっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2061.ogg"

「ちょうらいっ　せんせいのおちんぽじるっ　キリエにぜんぶっ　キリエだけにちょうらいっ　おまんこに、ちょうらい～～～っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n14\_1\_092.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_092.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

どびゅるるるるーーーーっっ！！　ぶびゅるるるるるーーーっっ！！　びゅくびゅくびゅくびゅくっ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_095.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_095.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2062.ogg"

「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁああぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーっっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頭が真っ白になった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの身体を抱いて、精を放ち……私は……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

もう何もいらないと思った。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_093.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_093.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2063.ogg"

「はぁぁ、はぁぁ……また、もらっちゃったぁ……　せんせいの、こだね……　はぁ、はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_091.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_091.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2064.ogg"

「はぁ、はぁ……すごく、きもちよかった……せんせい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私を見て微笑む。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

なんというあどけない笑顔だろう……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これがほんの一分前まで、あれほど淫らだったキリエなのか……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2065.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエ……君は私の悪魔……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の天使……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のニンフェット……運命の少女……ファム・ファタール……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どんなに言葉を尽くしても、まだ足りない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

君は私のすべて。

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_116.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_116.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/n14\_1\_117.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_117.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2066.ogg"

「ふふ……そんなに見ないで、何だか、照れくさいわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だが……君が美しいから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2067.ogg"

「くす……」

\

lsph 30,":c;image/n14\_1\_116.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n14\_1\_116.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2068.ogg"

「……ありがとう、先生……」

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私にはもう……君しか見えない……。

\

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

lsph 30,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/傾僀僉儍僢僠.b.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

l\_v:lsph2 13,":c;image/1\_16錕錘.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 12,":c;image/1\_16錕錘.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 11,":c;image/1\_16錕錘.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 7,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph2 6,":a;image/僉儕僄\_戝\_僪儗僗02\_愒栚旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

eyecatch

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして私は……。

\

print 10,50

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_05僸儘僀儞壠奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

いつしか学園にも行かなくなり、終日キリエの家で過ごすようになっていた。

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm11.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2069.ogg"

「んっ！　ちゅううっ！　くちゅうううっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n01\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n01\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2070.ogg"

「気持ちがいい？　先生……ちゅううううっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……気持ちがいいよ、キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2071.ogg"

「よかった……　ちゅううううっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は目を閉じる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

仕事を休んだ罪悪感などなく、私の代わりに授業をしているのは誰だろう、等とぼんやり考える程度だった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエに会う前に、お気に入りだった女生徒の顔や名前も、もう思い出せない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

宝物だったアルバムも、美少女たちの写真も、何もかも、もういらない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの唇の感触、少しひんやりとした肌、なめらかな彼女の肉体……欲しいのはそれだけだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_06僸儘僀儞壠儕價儞僌拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふぅ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が血を吸い終わったあと……私は長椅子に横たわる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

貧血のせいだろうか……最近疲れやすい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

学園に出勤しないのは、どうしても行く気力が出ない、というせいもあった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここのところ私は……キリエと交わる以外は、ほとんど運動をしていない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少し歩くだけでも眩暈がする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だからこうして、多くの時間を長椅子に横たわって過ごす。

\

csp2 4

lsp2 7,":a;image/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,240,100,100,0,255

vh:lsp 2,":a;face/僝儞價幏帠\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",-20,325,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僞僉僔乕僪\_捠忢.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0015.ogg"

「あ゛～……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、悪いな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事が、どこかから手に入れてきた増血剤を持ってきてくれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は数錠取って、水と共に飲み下した。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ありがとう、もういいよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【ゾンビ執事】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_zomb0016.ogg"

「あ゛～……」

\

csp2 7

vh:csp 2:csp 1:print 1

お盆に空のコップと造血剤のビンを載せ、大人しく去っていくゾンビ執事だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こうして、血を増やそうと努力はしているのだが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

需要と供給が、そろそろ追いつかなくなってきていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は眼を閉じて眠ろうとする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

死は別に怖くない……だが。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

死んだらもうキリエに会えないのだと思うと……寂しかった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠揹榖実懷拝怣庢傝.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……はい」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

dwavestop 1

vh:csp 2:csp 1:print 1

携帯にかかってきた電話は、理事長からの呼び出しだった。

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_01妛墍奜娤拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【理事長】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_riji0001.ogg"

「連日の無断欠勤、一体どうなっているんですか！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【理事長】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_riji0002.ogg"

「君のクラスの生徒のことは、ちゃんと考えているんですか？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【理事長】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_riji0003.ogg"

「責任ある社会人として、それでいいと思っているのですか！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【理事長】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_riji0004.ogg"

「……真面目な先生だと思って、君には期待していたのですが……残念です」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_03妛墍楲壓拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_03妛墍楲壓拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、クビを宣告された。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

天職……とまで思い込んでいた、教師という仕事だったが、失ってみても、特に何も感じなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

帰り際、廊下ですれ違った女生徒達が、私を見てヒソヒソと噂話をしたり、不審げな眼差しを向けたりしていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

十把一絡げの少女たちなど、どうでもいい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何とでも言えばいいのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

早く帰って、キリエに会いたい……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私が考えることは、それだけだった。

\

lsph 30,":c;image/1\_11斏壺奨栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11斏壺奨栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧嶨摜01.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ……久しぶりの外出は、疲れるな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少し歩くだけでも息切れがするのに、車すらないときている。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……あれ？　駅はどっちだったか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はふらふらとさ迷いながら駅を探す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

自動車通勤をしていたせいで、最寄り駅の場所がうろ覚えだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……目眩が……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不意に、足のつま先が何かに引っ掛かり、前のめりになった瞬間。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

bgm "music/.ogg"

dwavestop 2

ndou17\_3\_01

\*ndou17\_3\_01\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou17\_3\_01/00000097.jpg",400,220,100,100,0,255

lsph 30,":c;image/0\_white.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の目の前に、乗用車が突っ込んできた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仯ICU怱揹恾.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_12昦幒栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12昦幒栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

あれ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここは、どこだ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ＩＣＵ……救急救命センター……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

白いベッドに寝かされている私が見える……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は少し離れた場所から、全身を包帯でぐるぐる巻きにされ、呼吸器などの様々な機械やチューブに繋がれた自分の姿を見下ろしていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は死んだ……？　もしくは、死のうとしている……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の肉体は死のうとしていて、魂だけが、こうして彷徨っている……？

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

これはいわゆる、臨死体験というものだろうか……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

フラフラと歩いていた私は、交通事故に遭い、救急救命センターに運ばれた、ということだろう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

実体のない私は、実体である私の肉体を眺める。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

包帯の下がどうなっているのか分からないが、おそらく内臓をやられているのだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

顔の損傷も激しい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

密かに自慢に思っていた美貌も、これで台無しだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心電図のモニターを見ると、どうにか心臓は動いているようだが……その波はとても弱々しい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ベッドの上に寝ている男は、どう見ても生き返るようには見えなかった。

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2072.ogg"

「なんて無様な最期かしら」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが立っていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_僪儗僗02\_愒栚搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キ、キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2073.ogg"

「貴方、死にそうになっているわよ、分かっているの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはベッドに寝ている方ではなく、実体のない私を方を見て、話している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエには私が見えるのだろうか。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2074.ogg"

「まぁ……人間なんて、脆いから……どうせ死ぬのだけどね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は如何とも判別しがたい無表情で、今度はベッドの私を見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「何故、ここへ……？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚捠忢01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2075.ogg"

「貴方が帰ってこないから、今日学園に行ったの。そうしたら、事故にあったと聞いたのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「では……私が事故にあったのは、昨日か……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2076.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……いや、しかし、いいところで会った……君に会いたいと思っていたんだ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2077.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君に会って、言いたいことがあったんだ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2078.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私はもうすぐ死ぬだろう……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2079.ogg"

「……」

\

bgm "music/nbgm06.ogg"

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だから、私の血液を、君に全てあげたい」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚嬃偒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2080.ogg"

「！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「最後の一滴まで、君に飲み干して欲しいんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2081.ogg"

「……あ、貴方……助かりたくはないの……！？」

\

dwavestop 2

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはなぜか怒ったように言う。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……いや、私はもう、充分楽しい時間を過ごしたから」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、そう言いながら、自らの人生を振り返っていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……最期だから、少し私の話をしてもいいかな？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚暁偟栚05.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2082.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは答えなかったが、了承の印と受け止め、私は話し始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は裕福な家に生まれてね……祖父は有名な私鉄の会長……父も関連会社の重役だった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だが……私が幼い頃、父も母も飛行機事故で亡くなった……私は祖父に引き取られた」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「祖父の家では、私はいつも独りだった……祖父の取り巻きの大人と、使用人しかいない家だった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「両親の愛情を得られなかった私は、人付き合いが極端に苦手な人間になっていた」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私は常に不安だった……他人と、特に成熟した大人と、どう接していいのか分からなかった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だから、いつもブランド品に身を固めていた……人から侮られないように……持ち物が一流なら、私自身も一流に見られるのではないかと思った」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「両親の遺産があったので、金だけは持っていたからね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私の興味は、大人ではなく、純粋な少女たちに向かった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「少女たちを相手にしている時は、大人と話す時のように緊張せず、幾分自然に話せた」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……彼女たちを陵辱する気はなかった。純粋なものを汚したくなかったし、そんな勇気もなかった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そして私は、君と出会った……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2083.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「初めての恋だった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2084.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君と会った瞬間、君と関わりたいと思った。君と、何かしら、関係を築きたいと思った」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だが私には、その方法が分からなかった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2085.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今でも分からない。……だから、君をあのように傷つけた」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「済まないと思っている……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚暁偟栚04.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2086.ogg"

「……もう、いいのよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは静かに言った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……私は、君と恋人同士になりたかった。君に愛して欲しかった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「だが何よりも……私が君を、愛したかった……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗02\_愒栚崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2087.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「短い時間だったが……私は存分に、君を愛することができた」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「不器用な、間違ったやり方だったと思う……しかし、私なりに、精一杯愛することができた」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚斶偟傒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2088.ogg"

「……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「幸せだった……君に会う前の私は、多分本当には生きていなかった」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君に会って……恋というものを知って、私は初めて、本当に生きていたんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚斶偟傒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2089.ogg"

「……っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛しているよ、キリエ……私の恋人よ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚崲傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2090.ogg"

「先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「さあ、私の最後のプレゼントを受け取っておくれ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の愚かしくも哀れな独白は終わった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あとは、キリエの手で、送ってもらうだけだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚斶偟傒01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2091.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2092.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚姶偠01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2093.ogg"

「……うぅっ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚姶偠02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2094.ogg"

「……ばか、せんせいの、ばか……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが突然、嗚咽にむせび始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ど、どうしたキリエ？　何故泣くんだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2095.ogg"

「貴方は、勝手すぎる……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2096.ogg"

「いきなり現れて、私の心の中に土足で入り込んできて……今度は勝手に死ぬというの！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟嫨傃01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2097.ogg"

「許さない、そんなの、絶対に許さない……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚姶偠01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は驚いていた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの剣幕に。キリエの涙に。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、キリエの言葉に……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2098.ogg"

「貴方は絶対に死なせない！　私が絶対に死なせない！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし……もう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は背後の、死にそうな自分を振り返る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心電図の波も、どんどん水平に近づいているようだ。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2099.ogg"

「先生……私が何をしにきたと思っているの……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2101.ogg"

「貴方が私にくれるのではないのよ、先生……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚悓偄徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2102.ogg"

「私が貴方に、血をあげるの……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはそう言うと……。

\

bgm "music/.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_僪儗僗01\_愒栚徠傟峫偊傞02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2100.ogg"

「（カリッ！）」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

唇を、自らの牙で噛み切った。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの唇から、どくどくと血が溢れ出す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

美しい鮮血、ワインのような濃厚な血液……それは、呪われし者の証である血だった。

\

lsph 30,":c;image/n18\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n18\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2103.ogg"

「ちゅっ……」

\

bgm "music/nbgm07.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

殆ど死体と化していた私の唇に、キリエの唇が押し当てられる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

初めて触れた彼女の唇は……柔らかく、ほんの少しひんやりとして……薔薇の香りがした。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2104.ogg"

「ちゅっ……飲んで、先生……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2105.ogg"

「貴方を、私の、一族に加えるわ……ちゅくっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2106.ogg"

「貴方を、私の、伴侶とします……ちゅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2107.ogg"

「だから、生き返って……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

声が出た。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

話しているのは、実体である方の私……ベッドに寝ている方の私だった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2108.ogg"

「先生……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは涙でうるんだ瞳で、ホッとしたように私を見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2109.ogg"

「貴方が好き……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2110.ogg"

「……悔しいけれど、私、貴方が好きなの……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2111.ogg"

「貴方には、私の忘却の術が通じなかった……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2112.ogg"

「それはきっと……貴方が、私のことを忘れたくないと……心の底から思ってくれたから……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2113.ogg"

「貴方ほど、私のことを想ってくれた人はいないわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2114.ogg"

「３００年の間……誰も、貴方のようには愛してくれなかった……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そうだ……私はキリエを心から愛している……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

想いの深さなら、誰にも負けない自信があった……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2115.ogg"

「好き……ちゅぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私も好きだ、キリエ……ちゅくっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの舌を感じた。熱い吐息を、口の中に流れ込む唾液を……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして、蕩けるような血の味を……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヴァンパイアになるには、ヴァンパイアの血を飲まなくてはならない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、キリエの血を飲んだ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの血液は、喉を通ってすぐさま全身に行き渡り、私にヴァンパイアの力を与えてくれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、ありがとう……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私がお礼を言うと、キリエは首を振る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2116.ogg"

「お礼なんかいいの……でも」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2117.ogg"

「貴方は私のものよ……永遠に」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どんどん力が漲ってゆく両腕で、固くキリエを抱きしめた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

奇跡を目の当たりにした狂信者のような気持ちで、何度も何度もキリエにくちづける。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2118.ogg"

「好きよ……私を離さないで」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……絶対に離すものか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はこれから、気が遠くなるほどの長い時間を、キリエと過ごすだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

老いも病もない、永遠の時間をキリエと過ごす。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一体、これ以上の幸せがあるだろうか……？

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2119.ogg"

「ちゅっ……れるぅっ……ぷちゅぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2120.ogg"

「……好きよ……滋比古……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はそんなことを考えながら、初めての愛の味を、飽きることなく味わうのだった。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

bgm "music/nbgm01.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_01椃娰晹壆拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_01椃娰晹壆拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……はっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目を開けると同時に、僕は反射的に身体を起こした。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「え……？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

周囲をキョロキョロと見回す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ここは……『人形の間』。僕が予約した旅館の部屋だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

全く記憶にないのだが、いつの間にか敷かれていた蒲団の中で、眠っていたような形跡があった……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「僕は……夢を見ていたのか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

携帯電話で時間を確認すると、朝の７時だった。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「朝の７時……？　夕食を食べた覚えもないのに……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昨日の自分の行動を振り返ってみるが、この旅館についてからのことが、全く思い出せなかった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どことなく変わった少女、蓮華に万華鏡を渡されて……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それを覗いた……というところまでは覚えているのだが……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「何だか、不思議なものを見たような……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

はっきりとは覚えていないが……淫靡で、恐ろしくて……それでいて美しい物語を見たような気がする……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「そうだ……蓮華はどうしたのだろう」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

部屋の中には、物言わぬ人形がいるばかりで、蓮華の姿はどこにも見当たらなかった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仠僲僢僋壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

コンコン

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

部屋のドアがノックされる。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「はい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は立って、ドアを開けに行った。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 6,":a;image/拠嫃\_拞\_椃娰惂暈\_旝徫03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0001.ogg"

「おはようございます。よく眠れましたか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

昨日僕を案内してくれた仲居さんが、朝食の準備をしに来てくれたようだった。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「おはようございます……あの、昨日のことなんですが……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0002.ogg"

「随分お疲れだったんですねぇ。私がお茶をお持ちしたら、もうぐっすり眠り込んでおられて……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0003.ogg"

「はい。お夕食も召し上がらないで、ぐっすり。お蒲団を敷いて差し上げたら、その時だけ少し起き上がって、蒲団に入られましたが……」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

心当たりのない話だったが、仲居さんが嘘を言うはずもないので、本当のことなのだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐっすり眠ってしまった……それが真相なのか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は取材をすることもなく、何の怪異にも遭わず、眠りこけていたというのか……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……そういえば、蓮華さんはもう起きておられますか？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、何の収穫もないまま、おめおめと帰るわけにはいかない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

せめて蓮華に、もう一度話を聞きたいと思ったのだが……。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0004.ogg"

「はぁ……れんげ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

仲居さんは要領を得ない顔をしているばかりだった。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「あの……この旅館のお嬢さんですよ。蓮華さんという……着物姿の女の子ですが……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【仲居】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_naka0005.ogg"

「……いいえぇ……この旅館には、女の子なんて、おりません」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「え……」

\

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僙儈01傾僽儔僛儈.ogg"

lsph 30,":c;image/1\_19栘楻傟擔.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_19栘楻傟擔.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕は、仲居さんや女将さんから、少しだけ怪談話を聞きだして、旅館を後にした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人形については、そういう噂はあるにはあるが、実際に怪奇現象に出くわした者は、一人もいないという。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何も起こりはしないけれど、僕のようなオカルトマニアが来てくれるから助かる、と女将さんは笑っていた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ただ……着物姿の女の子を見たという人は、少数だがいたらしい。

\

「今時着物なんて、一体どこの子かしらねぇって、仲居さんたちとも話したんですけど……分からなくって」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

と女将さんは首を傾げていた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「蓮華……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あの少女は一体、何者だったのか……。

\

dwavestop 2

lsph 30,":c;image/0\_03椃娰擖傝岥拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_03椃娰擖傝岥拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0001.ogg"

「人の名前を情念をこめて呟かないで。気味が悪いわ」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「あっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕の行く先に、昨日みたいにひっそりと、蓮華が立っていた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「き、君っ……昨日はっ……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_拞\_拝暔02\_捠忢01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0002.ogg"

「夢を見たのでしょう」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「えっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0003.ogg"

「……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

聞きたいことは沢山あったのに、蓮華の冷たく整った顔を見ていると、何も言葉が出てこないのだった。

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_敿\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,247,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0004.ogg"

「……よかったわね」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「え、な、何が……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_敿\_拝暔01\_旝徫01.jpg",400,247,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0005.ogg"

「戻ってこられて……あちらへ連れて行かれてしまう人もいるのに……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

無表情な口元が少し緩み、笑ったように見えた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「連れて行かれる……？」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_敿\_拝暔01\_暁偟栚02.jpg",400,247,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0006.ogg"

「……貴方には、『視る力』があるのかもしれない……」

\

lsp2 5,":a;image/楡壺\_敿\_拝暔01\_捠忢01.jpg",400,247,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0007.ogg"

「私と、同じように……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仯晽梩嶤傟.ogg"

csp2 5

lsph 30,":c;image/1\_19栘楻傟擔.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_19栘楻傟擔.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

ザザザザザッ……

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

急に吹いてきた一陣の風に巻かれて、目を閉じる。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……っ、蓮華！？」

\

lsph 30,":c;image/0\_03椃娰擖傝岥拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_03椃娰擖傝岥拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

目を開けると、蓮華の姿は掻き消えていた。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「蓮華、どこだ！？　待ってくれ、もう少し話を聞かせてくれ！」

\

csp2 5

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0008.ogg"

「……また、時が巡れば……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鈴の音のような声だけが、頭に響いてくる。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「時が巡れば、また会えるのかい？」

\

csp2 5

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0009.ogg"

「貴方は、それを望むの？」

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「あぁ、もう一度君に会いたい、蓮華！」

\

csp2 5

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【蓮華】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_renk0010.ogg"

「……私に会いたいなんて、おかしな男ね……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

くすり、と耳元で、蓮華が笑ったような気がした。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「蓮華っ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

風が通り抜けた後……。

\

csp 2

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【深見】",130,333:print 10,150

「……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

僕はただ一人、道端に立ち尽くしていた。

\

lsph 30,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11惵嬻\_悈怓.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

耳朶に、ほんのりとくすぐるような、蓮華の吐息の余韻だけが残っていた。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/.ogg"

ndou99\_1\_01

mov %g\_clear\_flg, 1

textoff:goto \*L\_title

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

sw

\*L\_kk\_omake\_01

sw

;\*L\_Main

sw

sw

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧僇僢僐僂.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_10怷拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私とキリエは手をつないで、昼でも暗く涼しい森の中を散歩していた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

bgm "music/nbgm15.ogg"

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2121.ogg"

「滋比古はヴァンパイアになったばかりだから、いきなり太陽の下に出ないで、最初はこういう薄暗い所で体を慣らすのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

今日は私がヴァンパイアになってから、初めてのお散歩だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あの日……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが自分の血を分け与えてくれて、ヴァンパイアになったあの日……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は包帯でぐるぐる巻きの状態のまま、キリエと共に密かに病院を抜けだした……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事がどこからか用意してきた黒塗りのベンツに乗り、屋敷まであまり陽に当たらないようにして帰宅した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

それからというもの、私はキリエの屋敷で暮らしている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヴァンパイアになりたての私を、キリエは意外にも、甲斐甲斐しく世話してくれた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ゾンビ執事がどこからともなく持ってきた輸血パックなどを、いそいそと私に与えてくれた。

\

lsph 30,":c;image/1\_10怷拫.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_10怷拫.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして今日は……あれから一週間ぶりの外出だった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

それにしても、キリエと手をつないで外出できる日が来るとは……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

あんなに憧れて、手が届かず、好きで好きでたまらなかったキリエと……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「うぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しまった……感動でまた泣きそうだ……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚怱攝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2122.ogg"

「どうしたの？　滋比古」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

目をこする私を心配そうに眺めるキリエ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、いや……目にゴミが……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2123.ogg"

「いきなり太陽を直視したりしてはダメよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁ……分かってる」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚徠傟崲傝徫偄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2124.ogg"

「大丈夫、滋比古。疲れたのではない？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私の腕にぶら下がるようにして、上目遣いで私を気遣う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その優しさが胸にしみる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、全く心配はない。肌が焼ける気配もないし、疲れてもいないよ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚徠傟徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2125.ogg"

「そう、よかった」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはニッコリと笑う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……（ジーン……）」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

以前は無表情が顔に張り付いていたキリエだったが、最近は、私に微笑みかけてくれることが多くなった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そういう時私は、キリエと相思相愛の間柄になったことを実感するのだった……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2126.ogg"

「では、変身の練習でも少しやってみる？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「変身？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2127.ogg"

「ええ……ヴァンパイアは動物や霧に姿を変えられるのよ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そういえばそうだったな……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は蝙蝠に変身した時のキリエを思い出していた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

確かに変身の技を使えれば、いろいろ便利そうではあるが……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「初めてだから少々不安だな……すまないが、お手本を見せてくれないか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2128.ogg"

「お手本？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……どうすればいいのか分からないので、君のやり方を見たいんだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2129.ogg"

「そうね……私、変身は蝙蝠が一番得意なのだけれど……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「蝙蝠は見たことがあるから、出来れば他のものが見てみたいな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚捠忢02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2130.ogg"

「そうね……動物だったら、猫とか、狼とか……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「猫なんて、可愛らしいじゃないか。それがいいな」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚怱攝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2131.ogg"

「そう？　……私実は猫には一度しかなったことがないのよね……蝙蝠のほうが、何かと便利だし……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは少々自信がなさそうだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「まぁいいじゃないか、見せてくれたまえ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚崲傝徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2132.ogg"

「うーん……分かったわ、では……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚偦偭偗側偄02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは目を閉じて、精神を統一する。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩\_愒栚壐傗偐側徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2133.ogg"

「変身の仕方は簡単よ。こうして目を閉じて……なりたいものをイメージするだけ……」

\

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おぉっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

その瞬間キリエは姿を消した……と思ったら。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚榖偟偐偗傞01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2134.ogg"

「あら？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

人間の体はそのままに、コスプレイヤーのような猫耳しっぽ付きの姿に、華麗なる変身を遂げていた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟嬃偒01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_,傇傞偭.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2135.ogg"

「えっ？　ええっ！？　まさか、私が失敗……！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おおキリエ！！　素晴らしい！！　なんとファンタスティックな！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの愛らしさに私は興奮を隠せなかった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚姶偠02.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2136.ogg"

「ちょ、ちょっと待って、これは失敗なのよ、もう一度試して……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いいや、もう試す必要などない、これで完璧だ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、恥ずかしがって慌てるキリエを抱きすくめた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚姶偠03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2137.ogg"

「あっ……滋比古……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に抱きしめられ、キリエは腕の中で大人しくなる。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんなところも、猫が甘えているみたいで、実に可愛らしい……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「とても可愛いよ、キリエ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟崲傝徫偄01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2138.ogg"

「か、かわいいか、にゃぁ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

喋り方まで中途半端に変化しているようだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「この姿の君と、愛し合いたい……いいだろう？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2139.ogg"

「（ぽっ……）」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟椧偟偘徫婄01.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_,桴偒.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2140.ogg"

「……（コクン）」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恥じらいながら……しかし嬉しそうに、小さく頷いてくれたのだった。

\

bgm "music/.ogg"

dwavestop 2

csp 2:l\_c:print 10,150

csp2 4

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

\*L\_Replayomake\_02

mov %Replayomake\_02, 1

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n15\_1\_07.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_07.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

bgm "music/nbgm09.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは私のペニスを素直に咥えると、舌を使って丁寧に愛撫してきた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そう、まさに……猫がミルクを舐めるように、ピチャピチャと音を立てて……。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2141.ogg"

「んんっ……ちゅぷるっ、れりゅれりゅっ、くちゅっ……んちゅうぅっ……はぁっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだ……しっかりと舐めるんだぞ、野良猫」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2142.ogg"

「！　わらしは、のらねこなんかじゃないわよっ！　ちゅう、くちゅっ……侮辱すると、噛み付くわよ……！　れるれるれるっ、あぁむっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは上目遣いで私を睨み、竿に軽く歯を立ててくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

尖ったヴァンパイアの牙が、薄紅色の唇から、キラリとこぼれた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ぶ、侮辱などっ……可愛い子猫ちゃんと言いたかったんだ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は慌てて首を振って否定する。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2143.ogg"

「子猫ちゃん……？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだよキリエ……君は私のプッシーキャットだ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2144.ogg"

「ふん……それならいいけど……貴方、もっとボキャブラリーを身につけなさい……ちゅぅ、んちゅっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは疑わしそうに私を見ていたが、やがてどうでもよくなったらしく、口腔奉仕へと戻っていった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

やれやれ……幾ら私とキリエが相思相愛になったからといっても、まだまだ油断は禁物だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし……キリエのそういう強気な面も、私は気に入っているのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2145.ogg"

「ちゅくるっ……！　んむっ、それにしてもぉ……ちゅっ！　中途半端とは言え、猫になっているから、普段より、鼻が利くのね……れりゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2146.ogg"

「滋比古の……ちんぽの匂い……んっ　いつもよりも、濃厚で……はぁっ　ちゅくちゅくっ　フェロモン臭が、すご、い……ちゅるっ」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2147.ogg"

「ん、くちゅっ、ちゅるるっ　はぁっ、この匂い、いいにおい……　嗅いでたらぁ……はぁ、頭が、ぽーっとなってきちゃうぅ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「じゃあ、たっぷり味わってくれよ、キリエ」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2148.ogg"

「うん……　たっぷり、なめなめする　おちんちん、いっぱいチュウチュウするから、いっぱい、フェロモンだしてね　ちゅぅぅっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが肉棒を深く頬張り、唾液と共に吸い上げると、腰が浮きそうな快感が訪れる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぬめぬめとした唇の感触が、甘美でたまらない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが頭を振る度に、私のペニスがじゅぼじゅぼとヨダレまみれになっていく……そんな有様を見ているだけで、興奮が高まってしまう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気持ちがいいぞ、キリエ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は感謝の気持ちを表そうと、キリエの頭を優しく撫でる。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2149.ogg"

「んちゅっ　頭なでなで、うれしい……　ちゅっ、ちゅくるっ……ぴちゃぴちゃっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頭を撫でられて、嬉しそうに目を細めるキリエは、本当に猫みたいで可愛らしかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「頭を撫でられると、嬉しいのか？　では、ここはどうだ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は悪戯心を起こし、顎の下をこちょこちょとくすぐった。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2150.ogg"

「くふっ……うふふっ　く、くすぐったいけどぉ、きもちいいかも……ちゅ！　ちゅぷるっ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ふむ……猫は喉を撫でられるのを喜ぶからな……では、こっちはどうだ？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は調子にのって、首や耳、背中などを撫でていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2151.ogg"

「んんっ　くしゅぐったいけどぉ……　ちゅるっ、き、きもち、いいかもぉ……　ちゅじゅぅっ、じゅるるるっ……ちゅくっ！」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2152.ogg"

「あぁっ　か、からだじゅう、くすぐられてっ……へんなきぶん、ふぁぁっ　え、えっちなきぶんになっちゃうぅっ……んくぅっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

猫になったキリエの、普段とは違う反応に、私は夢中になる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の身体中に指を這わせ、悶えさせる。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2153.ogg"

「あっ、あんっ　ちゅくるっ！　そ、そんなにぃ……くすぐってばっかりいるとぉ……ちゅぅっ　な、なめられなくなっちゃうぅ……ちゅっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女が甘い声を上げれば上げるほど私は満足し、陰茎も更に内側からぐんと膨張するようだった。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2154.ogg"

「あむっ　おちんぽぉ……またおおきくっ……！　んんっ、これ以上大きくなると、もう、くちに、はいりきらなくなるぅ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエの感じている顔を見ると、私も余計興奮してしまうのだ」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2155.ogg"

「もうっ、先生って、ほんとにえっち……　はむっ　くちゅぅうぅっ……れちゅっ」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_08.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_08.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは満更でもなさそうな、照れくさそうな笑顔で、私を見上げていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……では、もっとエッチなところを触らせてもらおうか……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、フェラチオに夢中になっているために完全に無防備な、二つの果実へと手を伸ばした。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2156.ogg"

「きゃふっ　やっ、お、おっぱいは、だめぇっ　あぁぁ～～っ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いいじゃないか、気持ちがいいのだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2157.ogg"

「うっ、ぅうんんっ　き、きもち、いいけどっ　おっぱいはっ、ちくびはぁっ……かんじすぎっ……あうぅっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

恥じらいと快感で揉みくちゃになった表情で、身を捩るキリエがあまりにも可愛らしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……そんなに、気持ちがいいのか、キリエ……？」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2158.ogg"

「う、うんっ　きもちが、よくてぇっ……おちんちんも、おいしくてぇっ……わたしっ、しあわせ、すぎるぅっ……ちゅううううううっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

快感を必死で堪えながら、尚私に奉仕するキリエ……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんなキリエの態度がいじらしく、嬉しくて……私の肉棒はいつしか爆発寸前になっていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……君が可愛くて……もう、イキそうだ、キリエ……！」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2159.ogg"

「んっ　イッて！　イッていいわよっ　お口にいっぱいおちんぽ汁ドピュドピュしてぇっ……　えっちな子種汁、のませてぇっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「イクッ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n15\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

ビュグッ！！　ビュグビュグビュグ～～～ッッッ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あ、あぁっ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

どく、どく、と勢い良く精液が排出される。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まるでコスプレイヤーのようなキリエの猫姿が、予想以上の効果を上げ、かなり興奮してしまった……。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2160.ogg"

「んぶっ……！！　んっ、ちゅううっ　ちゅぅうぅうぅぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは、口中にこってりと溢れた精液を、ゴクゴクと音を立てて飲み込んでいった。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2161.ogg"

「はふぅ……　おいしいわ、濃厚で、熱くて……ちゅうっ　あぁ……お口の中が、とろけそうになっちゃうぅ……はぁ、はぁ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「もっと飲むかね？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの胸を嬲りながら、余裕を持って尋ねる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヴァンパイアの身体になってからというもの、以前のようにすぐに疲れたりすることはなくなった。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鋼の肉体……とまでは言わないが（実際、日中のだるさは人間以上だ）、一回射精したぐらいでは、びくともしなくなっていた。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2162.ogg"

「飲ませて……　あなたのチンポミルク……　キリエのおくちマンコで、もっともっと味わわせて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「分かった、では、思う存分舐めたまえ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2163.ogg"

「ちゅうっ　れりゅれりゅれりゅっ、くちゅっ　はぁむっ……ちゅぷちゅぷちゅぷっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは嬉しそうに舌を踊らせ、雄々しく反り返ったままの肉棒を、上から下まで舐め回す。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2164.ogg"

「ちゅっ、くちゅっ、んちゅぅうぅっ　ちゅるるっ、ちゃぷっ、んっ　ちゅうぅうっ　れちゅぅぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

はしたないくらいベチャベチャと音を立て……裏筋や鈴口を責められると、私のポーカーフェイスもあっという間に崩れてしまう。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁっ……すごいぞ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

お返しとばかりに柔らかな発達途上の胸を揉み、乳首の先端を引っ掻いてやると、キリエは尻尾をふりふりして、甘えて見せるのだった。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2165.ogg"

「んーっ　ちゅっ！　はぁ、逞しいチンポ……　ちゅくちゅくっ　こんな素敵なオチンチン、舐めてるだけで、感じてきちゃう……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2166.ogg"

「はぁむっ　咥えるのも、しゅきっ　んむんむっ……お口の中に、ちんぽのえねるぎぃ、かんじるにゃぁっ……んじゅっ、じゅぶじゅぶっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはぱくっと肉棒を飲み込むと、頭を上下に動かし、唇でにゅるにゅると扱く。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

……そうこうしているうちに、キリエの目がトロンと潤み、形の良い鼻孔から、くぐもった息が漏れてくるのが分かった。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2167.ogg"

「んふっ　じゅるるるっ　はぁっ、おちんぽっ……　大きいちんぽ　おくちのなかで、ビクビク、してるぅ……じゅるるるっ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2168.ogg"

「あぁ、しゅごい……　きとうも、こんなにちからづよく、ぷっくりふくらんで……　はぁ、ちゅうっ……　かわいい……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2169.ogg"

「精液の匂い、まだ、してるぅ　はぁ、男らしい匂い……　せんせいの、におい……　はぁ、はぁ……　ちゅくるるっ、ちゅうっ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2170.ogg"

「んぁぁ……　頭が、ぼーっとしてきちゃう……　おちんぽ……こんなにかたくてふとくて、でっかいちんぽぉ、なめなめしてるとぉ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2171.ogg"

「へんに、なるぅ……　おまんこも、むずむずしてぇ……　いやらしく、なるぅ……えっちに、なっちゃうぅ……はぁ、ちゅぷるっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエはいつもエッチじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2172.ogg"

「う、うそよぉっ……　そんな、わたしは……そんなに、えっちじゃ、ない……ちゅうぅぅっ……れるれるっ……ちゅぴっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

指摘されると恥ずかしいのか、最後は自信なさ気に小さな声になりながらも、否定するキリエだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「いや、君はエッチだよ、キリエ……淫乱猫娘だ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は少々意地悪がしたくなり、キリエのぴんと尖った乳首を、再び強くつまみ上げた。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2173.ogg"

「きゃふぅぅうぅうっっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

びくんびくんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

勃起した乳首を捻り上げられ、キリエは甲高い悲鳴を上げた。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2174.ogg"

「ふぁぁっ……　ち、ちくびっ　しょんにゃにつよく、つまんじゃぁ……はぁっ、はぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2175.ogg"

「あぁっ、ちくびっ……びんかんちくびっ　指でコリコリしないれぇっ　かんじ、ちゃぅぅっ……　あんんっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぴくぴくっ

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

猫になると感度まで上がるのか……まるで絶頂を迎えたかのような、見事な感じっぷりだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほらご覧、ほんの少し乳首を摘まれただけでこれだ。君はいやらしい少女だな」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_09.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_09.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2176.ogg"

「うぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君はエロエロなんだよ、キリエ……自分で認めたらどうだね？」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2177.ogg"

「そ、そんなこと、認めるわけ……はうぅっっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが逆らおうとしたので、私は一層強く乳首をひねり上げた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ、言いなさい……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_11.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_11.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2178.ogg"

「う、ううううっ……わ、わかった、わよっ……くぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは真っ赤な顔をして、涙を溜めて言う。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2179.ogg"

「わ、わたし、は……えろえろ、です……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「大きな声で言いたまえ、聞こえないぞ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私がきつく引っ張ると、かわいそうな乳首が千切れそうににゅうっ！と伸びた。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_13.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_13.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2180.ogg"

「あぁぁぁぁっっ　わ、わたしは、えろえろですぅっ　淫乱、ですぅっ　おちんぽ大好きでたまらない、エッチなめすねこ、ですぅっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは絶叫した。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

屈辱のためか、羞恥のためか、頬を紅潮させ、声を震わせて、キリエは自ら淫乱だと告白していた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……よく言えたな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はキリエの髪をくしゃくしゃと撫で回す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

素直に私に従うキリエが、可愛くてたまらなかった……。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_10.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_10.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2181.ogg"

「くふんっ　……ねえ、ちゃんと言ったのだから……ご褒美、ちょうだい……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女は期待のこもった瞳で、私を見つめていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……では、私の子種汁をやろう……味わって飲むのだぞ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2182.ogg"

「んんっ　ちゅぶっ、ちゃぷるっ！　のむぅ　おいしい先生のおちんぽ汁っ　赤ちゃんの素ぉ……いっぱい、のませてぇっ」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_14.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_14.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2183.ogg"

「牡のフェロモン汁ぅ　喉につまるぐらいいっぱい　むせかえるぐらいいっぱい　キリエのお口まんこに、ちょうらいぃぃぃっ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2184.ogg"

「ちゅじゅーーーーーーーーーっっっ……ちゅぅぅうぅぅぅぅぅうっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは顎が外そうなまでに口を大きく開け、男根を喉の奥まで挿入する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頬を窄め、ジュボジュボと音を立て、バキュームのように吸引されると、睾丸が縮み上がり、精液が今にも飛び出そうとする。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……イク……！！」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2185.ogg"

「イッへぇっ……！！　キリエのおくちまんこれぇっ、イッちゃっへぇ……！！　じゅるるるるるるるーーーーーーっっ……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒03.ogg"

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n15\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:csp 2:csp 1:print 1

ドクドクドクドクッッ！！　ドビュルルルルルーーーッッ……！！　ビュクビュクッ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2186.ogg"

「んぐっんぐっんぐっ……　ちゅううううっっ……　ちゅるるるるっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

男根の脈動と共に吐き出される精液を、温かい口内で受け止めるキリエ。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2187.ogg"

「ちゅるるるるっ、じゅうぅうぅぅうっっ　ちゅくるっ、ちゅううっ　はぁっ……れるれるっ　れちゅぅぅっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何度も何度も舐め上げ、舌を使って隅から隅まできれいにしてくれる。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2188.ogg"

「んっ　ぺろっ……おいしいっ　滋比古のエキスがたっぷり濃縮されてる……　はぁむっ　れるれるっ、ちゅっ！」

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_18.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_18.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2189.ogg"

「あぁ……すごい……満たされていくの、分かる……　貴方の精液、ヴァンパイアになってから、ますますおいしくなってるわ……　ちゅっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

頭が下がる程丁寧に肉棒全体に舌を這わせ、一滴残らず舐めとった後、キリエはニッコリと微笑んだ。

\

lsph 30,":c;image/n15\_1\_17.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_1\_17.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2190.ogg"

「ふふ……さすが私の伴侶だわ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そう言ってもらえると嬉しいね」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2191.ogg"

「ねえ、旦那様……　今度はこっちにも……」

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエが艶めかしい声で私を誘う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ、分かっているよ……私の花嫁……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の妻となったキリエの望みなら……何でもお見通しなのだった。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭憓擖壒01.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/n15\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

amsp2 4,400,245,100,100,0,255

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずぶぅっ！

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2192.ogg"

「あっ、あぁぁぁぁ～～～～～～っっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のペニスが膣内に収まると、キリエは尻尾を左右に振って悦んでいた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しっぽを振って喜ぶのは、犬だと思っていたが……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_03.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_03.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2193.ogg"

「ふぁっっ　ね、ねこだって、嬉しくて振るときもあるのよっ……あぁぁっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうだな……確かにおまんこをびしょ濡れにして、嬉しがっているようだな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

赤く充血しきったキリエのオマンコは、じっと見つめれば見つめるほど、じわじわと蜜が溢れてくる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの清楚な小さい肉壷が、私の肉棒をずっぽりと咥え込み、限界まで拡げられている様は、実に生々しく、エロティックな眺めだった。

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2194.ogg"

「あ、あんっ……そんなに、おまんこばっかり、見ないでよぉっ……は、はずかしい……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「おや？　君にも羞恥心などというものが、あったのかね？」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_05.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_05.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2195.ogg"

「あ、あるに決まっているでしょう！　ばかねっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは顔を真赤にして怒っている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いかに大胆不敵なキリエとは言え、さすがに女の子。オマンコばかりをじいっと凝視されるのは恥ずかしいようだ。

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2196.ogg"

「も、もうっ……はやく、おちんちんを、動かしてよっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは強引に腰を振って、恥ずかしさをセックスで紛らわそうとする。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

しかし、私はそれを許さない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

両手にぐっと力を入れて、キリエの脚を左右に大きく開かせ、結合部をじっくりと観察する。

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_06.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_06.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2197.ogg"

「や、やめてよぉ……いやぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「やめてなどと……本当は嬉しいのだろう？」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2198.ogg"

「そ、そんなことっ……くふっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「しかし、オマンコからはどんどん愛液が湧き出しているぞ……もう尻の穴まで垂れてきている」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_02.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_02.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2199.ogg"

「くっ……そんなぁ……っ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「触ってもいないのに、クリトリスが膨れてきたぞ……弾けそうなくらい、真っ赤になっている」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_01.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_01.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2200.ogg"

「う、うそぉっ……んんっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は恥ずかしいのが好きなんだろう、キリエ？　クリトリスと同じように、乳首までビンビンにおっ勃てているじゃないか」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_04.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_04.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2201.ogg"

「んんっ……い、いわないでよぉ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは恥ずかしそうに両手で顔を覆ってしまった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「顔を隠してどうする？　恥ずかしいところは丸見えなのに」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はねっとりと腰を動かし始める。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

ねちゃっ、ねちゃっ、というゆっくりとした肉擦れ音が、ゆっくりだからこそ尚更淫靡に、静かな森に響き渡る。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ほら、聞こえるだろう？　いやらしい音が……君が感じている証拠だ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「君は恥ずかしいところを、いっぱい見られたいのだろう？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2202.ogg"

「あぁっっ、うぅうっっ　み、みられたいのぉ……は、はずかしいけど、あなたに、見られてると思うと、かんじ、ちゃう……んくぅうっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは蚊の鳴くような小さな声で、しかしはっきりと認めていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2203.ogg"

「は、はずかしいけどっ……　すきっ、すきなのっ……　おまんこ、見られながら、ずぼずぼされるのっ……よけい、かんじるのっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「フフ……なんと淫蕩な花嫁だろう」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2204.ogg"

「貴方みたいな変態の、つま、なんだからっ……あ、あたりまえよっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

変な威張り方をしているキリエが可愛かった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2205.ogg"

「もうっ、そんなことはいいからぁっ、は、はやくっ……もっと深くまできてよぉっ……もっと奥まで、かんじさせてっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

焦れったそうに、身体をくねらせるキリエ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

不安定な体勢で、もじもじと下から腰を突き上げて来るキリエは、私とのより深い一体感を求めていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……こうかね！？」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

ずん、ずん、ずんっ！！

\

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou15\_2\_01\_s3

\*ndou15\_2\_01\_s3\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou15\_2\_01\_s3/00000016.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2206.ogg"

「あぁぁっっ　あぁぁっ　あんんっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はリズミカルにピストン運動を行う。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女のツボを狙って、深く、浅く、緩急をつけながら突き続けた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2207.ogg"

「あぁっ　すごいっ、やっぱり、おちんぽ、さいこうっ　おまんこに、挿れられるの、さいこうっ　ふぁぁっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2208.ogg"

「もっと、カチカチチンポでっ、もっとおくまでっ　マン奥までっ、えぐってっ　子宮まんこを、亀頭チンポで、コツコツしてぇっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2209.ogg"

「でっかく膨らんだきとうっ　子宮にあたるのいいっ　まんこかんじるっ　マンコ肉、もっとほじほじしてぇっ　ふぁぁっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2210.ogg"

「あなたのデカちんぽでぇっ、もっとキリエのオマンコをいじめてぇっ　マン奥まであなたをかんじさせてえっ……あぁぁぁーーっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

マングリ返しの体勢で、私はキリエのオマンコを責め続ける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

性器がいつもより近くにあるので、彼女の雌のフェロモン臭をより強烈に感じる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ペニスを使いながら、クリトリスをくすぐると、キリエは一層大きな声で啼き、身体をわななかせ始めた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2211.ogg"

「あぁぁぁっ、やぁぁっ　く、クリちゃんまでぇっ　らめっ、そんなにされたら、もうっ……ふぁぁぁーーーっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2212.ogg"

「イ、イクッ……またいっちゃうっ　あなたのビンビンチンポ、オマンコにハメられたまま、いくぅうぅぅぅっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「一緒にイこう、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私はラストスパートの連打を叩き込む。

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの秘肉は、熱くて熟れている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少女の膣ではあるが、私との性交に慣れきった襞肉は、男根に絡みつき、成熟した反応を見せる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

猫の尻尾までもが、私の尻に絡みついてくるのが可愛らしかった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……私もイク……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

柔らかいけれども弾力のある肉に、先端から根元まで締め上げられ、私は呆気無く達しようとしていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2213.ogg"

「イッてイッてイッて　おちんちんイッて　オマンコでイッて　オマンコにチンポ汁ぶちまけてぇぇぇーーっっ」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n15\_2\_12.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_12.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

びゅぐるるるるるっ！！　ぶびゅるるるるっ！！　どびゅびゅびゅびゅびゅびゅびゅーーっ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2214.ogg"

「あぁぁぁっ　ぁぁぁぁぁぁぁっ　ああぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーーっっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

陰茎が跳ね上がり、精液を吐き出す度に、キリエは艶めかしい声を上げ、膣肉を食い締めてきた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「はぁ、はぁ……！　相変わらず、凄い締め付けだな……！」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2215.ogg"

「んふぅ……　貴方こそ、すごく濃いぃ精液だわ……　おまんこに、染み渡るわ……はぁ、はぁ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2216.ogg"

「貴方のおちんぽ汁は、極上よ……　素敵な子種汁……　この赤ちゃんの素で、私を孕ませて……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の言葉で、私は興奮する。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この美しい少女を……呪われし姫君を……私の胤で孕ませる……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……孕ませたい、君を……！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

ndou15\_2\_01\_s2

\*ndou15\_2\_01\_s2\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou15\_2\_01\_s2/00000096.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

まだ全ての精液が出尽くしていないうちから、私は再び腰を振り立てる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の慎ましい狭い膣内に、無理やり種をつけるような勢いで、子宮に突き立てていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ぐちゅんぐちゅんぐちゅんっ！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2217.ogg"

「あぁぁっ　あぁぁーーーっっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

彼女の汗が飛び散る。長い髪が舞い踊る。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私のピストンに、キリエは同調し、腰をくねらせ、奥へ奥へと誘う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2218.ogg"

「あぁぁっっ　ほ、ほんとにっ、孕ませてくれるっ！？　ザーメンミルク、いっぱいオマンコに注ぎ込んで、にんしん、させてくれるっ！？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「幾らでも妊娠するがいい、キリエ……！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2219.ogg"

「嬉しいっ　おまんこにっ、あかちゃん汁ぅっ　ふぁぁっっ　しきゅうマンコのっ、奥まで注ぎこんでぇっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「くぅっ……！　締まる……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも自分の言葉に興奮しているのか、女膣の締まりが一段と増す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

ヴァンパイアである彼女が、本当に妊娠できるのかどうか、それは分からないが……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一時の夢を見るのも悪くない……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

儚い希望が、欲情を煽りたて、興奮を掻き立てる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

痛い程に締め付けてくる肉襞を掻き分けるように貫いていくと、言葉に出来ない快感が、ペニス全体に趨るのだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……好きだ、キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

感情が昂ぶり、彼女をもっと気持ちよくしてあげたくなって、クリトリスやアナルを撫で回す。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2220.ogg"

「あふっ　わ、私も、すきっ　あんっ……アナル、指チンポでこちょこちょされるの、きもち、いいっ　クリちゃんこねこねもっ、すきぃっ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の指の動きに合わせて、キリエは可愛い喘ぎ声を漏らした。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まんぐり返しの体勢では、ペニスを咥え込むことが出来ず、アナルがひくひくと寂しそうに蠢く様も丸見えだ。

\

dwavestop 2:dwave 2,"sound/仭憓擖壒02.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は空いているアナルに、中指をずぶぅっと差し挿れた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2221.ogg"

「あぁぁぁーーーーーっっっ　は、はいったぁっ　ゆびちんぽっ　おけつまんこにズボってぇっ　ふぁぁーーーっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2222.ogg"

「おまんことけつまんこっ　両方かんじるぅっ……っ　あぁぁっ　きもちいいっ　あんっ、あぁぁぁっっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は指でアナルの壁を、肉竿でヴァギナの壁を刺激し、粘膜の皺を愉しむように、ずり、ずり、と擦りつけていった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2223.ogg"

「あぁぁっっ……　すきぃ……きもちいいの、だいしゅきぃっ……だいしゅきにゃぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「本当に私が好きか？　キリエ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2224.ogg"

「ええ、好きよっ……　だいすきっ……　貴方は私の伴侶……ごしゅじん、さま……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2225.ogg"

「すき、すきよ……だいすきっ……　身も心も、あなたにっ、ささげたのっ……　私はあなたのものっ……わたしには、貴方だけなのっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

言葉に出来ない満足感に包まれる。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエには私だけ、私にはキリエだけ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

世界にたった二人の、永遠に生きるものなのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2226.ogg"

「すき……だから、キス……して……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……ちゅっ、くちゅるっ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2227.ogg"

「んんっ……　ちゅうっ！　れちゅっ、れりゅっ、くちゅぅっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

唇を合わせ、舌を絡ませあい、唾液を啜って、上も下もとろけるようにぬめぬめと混ざり合う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2228.ogg"

「あぁ……きもちいい……きす……　あなたの、唾液、おいしい……　もっと、して　べろ、からませてぇ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

一旦キスを許してくれると、キリエはキスがとても気に入ったらしく、交わるときには必ず求めてくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2229.ogg"

「はぁむっ　ちゅくっ　んっ……きもち、いいっ……　はぁ……きすしながら、おまんこ……きもち、よしゅぎ……　ちゅるっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2230.ogg"

「ちゅぷっ　あぁ……つながってる　あなたと、くちびるも、おまんこもっ……　ぜんぶ……ちゅっ、れるぅっ」

\

ndou15\_2\_01\_s1

\*ndou15\_2\_01\_s1\_end

cspd:lsp2 99,":c;ndou15\_2\_01\_s1/00000016.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2231.ogg"

「はなさないれねっ……ちゅぅっ　つよく、だきしめて、きす、してっ……　ちゅくっ……ん、ちゅぅっ……れちゅっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2232.ogg"

「あぁ　くちびるも、おまんこも、きもち、よしゅぎて、もう……　イキそう……　イッちゃいそう……　ちゅくっ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キスをしながらだとイキやすくなるということも、新たに見つけたキリエの特徴の一つだった。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……私もイクから、一緒に……」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭僋僠儏壒01,1.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

幸せすぎて……無理に強く擦りつけなくても絶頂できるくらい高ぶっている。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

こんな風にキリエに愛してもらえるなんて、最初は想像もしなかったこと……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

だが今は、それが現実なのだ。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2233.ogg"

「すきっ、すきなのっ　一緒にイキたいっ　だいすきなあなたと、一緒にぃっ……　んあぁぁっ」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2234.ogg"

「んくっ　すきぃっ　あなたのミルクちょうらいっ　赤ちゃんのおしるっ　私に出してっ　にんしん、させてほしいにゃぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2235.ogg"

「大好きなあなたの濃厚ざーめんで、孕みたいのぉっ……　いっぱいだしてねっ　子宮マンコの奥に、いっぱい出してぇぇぇぇっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「出る……！！」

\

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph2 0,":c;image/0\_white.jpg",400,220,100,100,0,255

vsp2 0,1:print 10,50

vsp2 0,0:print 10,50

vsp2 0,1:print 10,50

csp2 0:print 10,50

lsph 30,":c;image/n15\_2\_15.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_15.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どくどくどくっ！！　びゅるるるるっ！！　どびゅるるるっ！！　ぶびゅるるるっ！！　どぷどぷっ……！！

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2236.ogg"

「あぁぁぁぁあぁぁぁぁぁああぁぁぁ～～～～～～っっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁっ……！！」

\

dwavestop 1:dwave 1,"sound/仭幩惛壒01.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

どくんどくんっ！！

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

鼓動と同じリズムで、精液が吐き出される。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2237.ogg"

「あ、あぁぁっっ　あぁぁぁぁーー……っ　ふぁぁっ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

同時にオーガズムを迎えたキリエも、射精の脈動と同じくして、ぴく、ぴくと全身を震わせていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……好きだ……」

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_16.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_16.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2238.ogg"

「はぁ、はぁ……私も、好き……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達は再び唇を合わせる。

\

lsph 30,":c;image/n15\_2\_20.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/n15\_2\_20.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2239.ogg"

「あい、してる……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛している……」

\

bgm "music/.ogg"

vh:csp 2:csp 1:print 1

口づけ……それは永遠の契り……。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私たちの誓いが破られることは……永遠に、ない。

\

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

mov %bx1, 400:mov %br1, 100

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

dwavestop 2:dwaveloop 2,"sound/仧嶨摜01.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/1\_11斏壺奨栭.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_11斏壺奨栭.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

bgm "music/nbgm02.ogg"

print 10,50

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達は、性交の熱い余韻を残したまま、夜の街へとやってきた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

夜は私たちの活動時間だから、何の心配もなく出歩くことができた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚姶偠01.jpg",400,260,100,100,0,255

csp2 4

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2240.ogg"

「ちょっと……やっぱり恥ずかしいのだけれど……」

\

dwavestop 2

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟崲傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「気にするな」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

猫耳姿がすっかり気に入ってしまった私は、今日一日はこのままでいてくれと、キリエに頼み込んでいたのだった。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2241.ogg"

「おい……こんな格好で出歩く私の身にもなれ！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエはかつてのように眉を吊り上げて凄む。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_拞\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,260,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「私が可愛いと言っているのだから、いいではないか」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は尻込みせずに、グッとキリエの肩を抱き寄せた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟榖偟偐偗傞01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2242.ogg"

「ふぁっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「今日だけいいだろう？　お願いだ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟暁偟栚03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2243.ogg"

「うぅっ……わ、分かった……仕方がにゃいにゃ……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは頬を染め、渋々ながら頷いてくれた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

そんなキリエを、通りすがる通行人がチラチラと振り返っていく。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

単なる美少女コスプレイヤーだと思っているのだろう。中にはこっそり携帯で写真を撮っていく馬鹿な男もいた。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

生憎、キリエはカメラには写らないのだがね。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚旝徫02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2244.ogg"

「ねえ、どこかで食事でもしていく？」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……食事とは……」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まさか、吸血のことだろうか。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚旝徫01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

私に今日、吸血を実践してみろ、ということなのか。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

先刻も変身の練習をする予定だったのだし（結局しなかったが）、今のキリエは私を指導する立場であるのは間違いない。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

吸血はさすがにハードルが高い気がするが……キリエがやれというのなら、仕方が無いだろう。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何しろ私は、正真正銘の吸血鬼なのだから……。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……」

\

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は周辺を見回す。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

誰か……吸血に都合のいい人間はいるだろうか。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「……あの子なんかどうだろう……中々可愛い子だが？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は、ほんの１００メートルばかり先を歩く、一人の少女に目をつける。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

まぁ、私のキリエほどではないが……まぁまぁのルックスをした女の子だ。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

いくら食事だと言っても、やはりむさい男などには食いつきたくはないからな……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2245.ogg"

「ちょっと！！　貴方、何色目を使っているのよ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「えっ！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟曫傟01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2246.ogg"

「私以外の女の子に、目移りなんて、信じられない！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

何故かキリエは、頬を真っ赤に染めて怒り出す。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「な、何を怒っている？　食事だと言ったのは君だろう！？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2247.ogg"

「食事っていうのは、カフェとかレストランに入るかってことよ！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「ええっ？　ほ、本当に食べる方の食事か？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟嫨傃02.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2248.ogg"

「今はデート中なんだから、当たり前でしょう！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「そうか、今はデート中か……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝01.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエの口からデートなどという言葉が出ると、どこかくすぐったく、恥ずかしい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そしてそれ以上に嬉しくて、私は我知らずニヤついてしまうのだった……。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2249.ogg"

「あぁっ！！　何を鼻の下伸ばしているのっ！？　いやらしいっ！　あの子に何をする気なのよっ！！」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「い、いや……私は食事とは吸血のことかと勘違いしただけで……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟嬃偒02.jpg",400,245,100,100,0,255

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_,傇傞偭.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2250.ogg"

「吸血っ！！？　女の子を！！？　ダメダメッ、禁止よっ！！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_敿\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟搟傝03.jpg",400,245,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2251.ogg"

「貴方が吸血なんて、百年早いわっ！！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私の浮気心を疑っているのか……嫉妬心丸出しの態度が、とても可愛らしい。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「キリエ……！」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

私は人々が往来する道のどまんなかで、キリエをひしと抱きしめた。

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟偆傠偨偊傞03.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2252.ogg"

「きゃっ　し、しげひこっ……」

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛しているよ、キリエ……私の心は、君のものだ……！」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚姶偠01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2253.ogg"

「……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟壐傗偐側徫婄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2254.ogg"

「そ、そうよ……当然、よね……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟旝徫02.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2255.ogg"

「私のような美しい妻がいるのに、浮気なんて、あり得ないわね」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエは納得してくれたらしく、満足そうに頷いていた。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「その通りだ」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2256.ogg"

「……私も……好きよ」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

キリエも私の背中に腕を回してくる。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「愛してると言ってくれないのか？」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟崲傝徫偄01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【キリエ】",130,333:print 10,150

dwavestop 0:dwave 0,"voice/1\_kiri2257.ogg"

「もう……愛しているわよ……これでいいの？」

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

少し照れくさそうに、拗ねたように言う。

\

vh:sw:lsp 1,":s/23,23,2;#FFFFFF【滋比古】",130,333:print 10,150

「あぁ……」

\

lsp2 4,":a;image/僉儕僄\_戝\_儅儞僩僱僐儈儈\_愒栚徠傟旝徫01.jpg",400,220,100,100,0,255

vh:csp 2:csp 1:print 1

すれ違う人々が、顔を赤くして私達に注目している。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

見たければ見るがいい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

そして美しいキリエと私の姿を、目に焼き付けるがいい。

\

vh:csp 2:csp 1:print 1

この人間だらけの街の中で、たった二人の同族である私とキリエ……。

\

lsph 30,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/1\_12栭嬻\_柧傞偄.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

csp2 4

vh:csp 2:csp 1:print 1

私達はお互いの愛情を確かめながら、しばらくそうやって抱き合っていたのだった。

\

bgm "music/.ogg"

csp 2:l\_c:print 10,150

lsph 30,":c;image/0\_black.jpg",0,0,100

cspa:l\_v:csp2 98:lsp2 99,":c;image/0\_black.jpg",400,220,100,100,0,255:print 10,150

print 10,50

sw

if %scene == 1 mov %scene, 0:goto \*replay

\*L\_Top

sw